

**尚美学園大学**  
**教育改革アクション・プラン 2025**

**令和7年2月**

# 目次

## 序章 教育改革アクション・プランについて

(参考1) 「令和6年度 自己点検評価委員会 提言」(令和6年6月了承)の記載項目の進捗状況

(参考2) 「令和6年度 自己点検評価委員会 提言」(令和6年6月了承)と「教育改革アクション・プラン2025」との比較

(参考3) 「尚美学園大学 自己点検評価委員会 提言」

## 第I章 令和7年度における課題及び改善策(令和7年度行動計画)

## 第II章 各種アンケートの分析結果

- 1 アンケートの回答状況
- 2 学生の満足度の状況
- 3 卒業時における推奨度の状況
- 4 在学生における推奨度の状況
- 5 授業外学修時間の状況
- 6 学修成果の達成度及び入学時からの成長度の状況
- 7 希望した就職の実現・キャリア意識の状況
- 8 アクティブ・ラーニングの状況
- 9 学生の主体的学修態度の状況
- 10 卒業生が就職した企業が求める新卒者の持つべき能力・資質
- 11 卒業後の状況(参考値)

(参考) 2024年度「学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート」に係る「CS分析」「因子分析」の分析結果について

## 第III章 学修成果の評価

- 1 アセスメント・ポリシー及びアセスメント・プラン
- 2 学修成果に係る各種データ
  - (1) 学位授与の状況
  - (2) 退学者の状況
  - (3) 留年者の状況
  - (4) 就職状況
  - (5) 成績評価の状況

- 付属資料
- 1 尚美学園大学教育改革推進プロジェクトWG 設置要項
  - 2 尚美学園大学教育改革推進プロジェクトWG 構成員
  - 3 尚美学園大学教育改革推進プロジェクトWG 開催状況
  - 4 令和5年度卒業時アンケート 集計結果
  - 5 令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート 集計結果
  - 6 令和6年度実施 就職先企業等アンケート 集計結果
  - 7 令和6年度実施 卒業後アンケート 集計結果

## 序章 教育改革アクション・プランについて

### 1. 教育改革アクション・プランの位置づけ

令和6年6月の「自己点検評価委員会 提言」において、教学面に特化した毎年度の行動計画を記したアクション・プランの策定の必要性が言及されており、これに基づき、本教育改革アクション・プランは策定されたものである。本教育改革アクション・プランでは、令和6年6月の「自己点検評価委員会 提言」に本学が取り組むべき事項の進捗状況を確認し、その上で実施済みの項目は削除し、実施中の項目については引き続き記載している。それだけにとどまらず、学位取得状況、退学の状況、就職状況等のIR情報及び令和5年度及び6年度に実施した各種アンケート結果の分析に基づき、本学が今後取り組むべき事柄について「自己点検評価委員会 提言」には記載のなかった事項を新規に記載している。

### 2. 教育改革アクション・プランを策定する理由

単年度の事業計画書と5か年分の事業計画である中期計画はいずれも、教学・管理運営面の両方の内容を含むが、教育改革アクション・プランは教学面に特化した単年度の事業計画書である。したがって、中期計画、事業計画書及び教育改革アクション・プランは矛盾するものではない。むしろ、教育改革アクション・プランの内容は事業計画書及び中期計画における教育部分に該当し、それらについて、エビデンス等のデータとともにより詳細に記述したものである。なお、事業計画書や中期計画においてカバーされる内容であるにもかかわらず、教学面に特化した教育改革アクション・プランを策定する理由は、本学にとって、今、教育の質保証に取り組むことが最も優先されるべき事項であるからである。



### 3. 教育改革アクション・プランを起点としたPDCAサイクルの運用

本アクション・プランに基づき、令和7年度において課題に対しどのような取組を行ったか又は、その進捗については、本学自己点検・評価委員会において確認され、その進捗状況に基づき、次の年度である令和8年度のアクション・プランの内容に反映する。

### 4. 教育改革アクション・プランの構成

本アクション・プランでは、令和7年度に重点的に取り組むべき事項について、第I章において、令和7年度の行動計画を「令和7年度における課題及び改善策」としてまとめている。第II章では、令和5年度及び6年度に実施したアンケート結果の分析を掲載し、第III章では、学位取得状況、退学の状況、

就職状況等の IR 情報を「学修成果に係る各種データ」として掲載している。第Ⅱ章及び第Ⅲ章に掲載のエビデンスに基づき第Ⅰ章の「令和 7 年度における課題及び改善策（令和7年度行動計画）」が導かれており、必要に応じてご参照いただきたい。

## ■『令和6年度自己点検・評価委員会 提言』（令和6年6月了承）の記載項目の進捗状況

『自己点検・評価委員会 提言』での記載項目	実施状況 (R6年度末時点)	具体的な取組状況
1. 内部質保証体制の整備及びアセスメントプランの策定等	実施済み	PLAN、DO、CHECK、ACTIONそれぞれの役割をどこの部署又は会議体が担うのかといった体制面を明確に示した「尚美学園大学 内部質保証体制の運用について（学長裁定）」を制定した。また、学生成果の評価例を示した「尚美学園大学 アセスメントプラン（学長裁定）」も制定した。
2. 学修ポートフォリオシステムの導入	実施中	大学戦略・IR室、情報課、教務課、教務委員会、情報委員会において学修ポートフォリオの業者の特色等について把握した。また、現在のシステムとの整合性を鑑み、現状の各種学生データがどのように管理されているかを把握した。
3. ディプロマ・ポリシー等の明確化	実施済み	3ポリシーの改定案を大学全体及び各学部ごとに策定し、令和7年2月までに各学部教授会、教育研究評議会、大学経営会議において審議し、了承を得た。なお、ディプロマ・ポリシーは各授業科目との関連付けができるように、明確で簡潔な形で策定した。
4. カリキュラム・マップの作成	未実施	—
5. シラバスの整備	実施中	以下の項目についてシラバスに追加した。 ①各授業科目がアクティブ・ラーニングに該当するか、明示する項目を設定 ② 各授業科目の担当教員が実務家教員に該当するか、どのような実務経験を持つ教員がいかなる授業を行うのか、明示する項目を設定 ③ 授業時間外の学修について、学修内容や学修時間を明示する項目を設定 ④ 到達目標と対応した形で成績評価基準を明示する項目を設定 また、シラバス作成マニュアル（文書）及びシラバス作成ガイド（動画）を教務課において整備した。
6. アンケートの拡充・新設	実施中	令和6年度は、各種学生アンケートについて以下のとおり拡充・新設を実施した。 ・既存の授業アンケートの拡充 ・既存の卒業後アンケートの拡充 ・既存の（卒業生の）就職先アンケートの拡充 ・既存の卒業時アンケートの拡充 ・学修時間・学修行動、学修成果に関するアンケートの新設

■ 『令和6年度自己点検・評価委員会 提言』（令和6年6月了承）と『アクション・プラン2025』の比較

『自己点検・評価委員会 提言』での 記載項目	令和6年度末 時点での 実施状況
1. 内部質保証体制の整備及びアセスメントプランの策定等	実施済み
2. 学修ポートフォリオシステムの導入	実施中
3. ディプロマ・ポリシー等の明確化	実施済み
4. カリキュラム・マップの作成	未実施
5. シラバスの整備	実施中
6. アンケートの拡充・新設	実施中



『アクション・プラン2025』での 記載項目
<del>1. 内部質保証体制の整備及びアセスメントプランの策定等【削除】</del>
1. 学修ポートフォリオシステムの導入【継続】
<del>3. ディプロマ・ポリシー等の明確化【削除】</del>
2. カリキュラム・マップの作成【継続】
3. シラバスの整備【継続】
4. 新しいDPの下での各授業科目の達成目標の設定【新規】
5. アンケートの拡充・新設【継続】
6. 新しい3ポリシーの下における「教育の質保証」に関する積極的な情報発信【新規】
7. アクティブ・ラーニングの推進【新規】
8. 課題解決型学習（PBL）の推進【新規】
9. 就職率向上に向けた就職支援の強化及びキャリア教育の充実【新規】

## 尚美学園大学 自己点検・評価委員会 提言

※◎…取りまとめ部署

**1. 内部質保証体制の整備及びアセスメントプランの策定等【令和 6 年度に実施】****【担当：大学戦略・IR 室 (◎)】**

教学マネジメントの観点から、内部質保証に向けた PDCA サイクルを運用する必要があるが、まず、PLAN、DO、CHECK、ACTION それぞれの役割をどこの部署又は会議体が担うのかといった体制面を明確に示す必要がある。次に、どのようなデータを用いて、いかなる事項の点検・評価を行うのかを明示した アセスメントプランの策定を行う必要がある。また、内部質保証体制の整備及びアセスメントプランを策定するだけでなく、内部質保証のさらなる充実の観点から、令和 6 年度より「尚美学園大学アクション・プラン」を毎年度策定し、本学独自の PDCA サイクルを運用することが望まれる。

**2. 学修ポートフォリオシステムの導入【令和 6 年度に検討を開始】****【担当：教務課 (◎)、教務委員会、情報課、情報委員会、大学戦略・IR 室】**

学修ポートフォリオシステムについては、学修成果の可視化の方法のひとつとして、文部科学省の中央教育審議会答申で言及されている。学修成果の可視化とは、ディプロマ・ポリシーに基づく教育が行われ、その結果、学生がディプロマ・ポリシーに定められた学修目標をどの程度達成できたかを明らかにすることを指す。この学修成果の可視化について、文部科学省の中央教育審議会答申において各大学で実施するよう繰り返し言及されていること、それを受けて各認証評価機関において学修成果の可視化を重点事項として捉えていることから、次期認証評価受審年度（令和 11 年度）に向けて、本学においても何らかの方法で学修成果の可視化を具体化する必要がある。

学修ポートフォリオシステムは、各学生一人ひとりの学修成果の可視化のみにとどまらず、学部単位、大学単位の学修成果の可視化をシステムティックに実施することが可能となる。

そこで学修ポートフォリオシステムの導入の要否及び可否について、令和 6 年度より検討を開始することとする。

<学修ポートフォリオシステム導入に向けて検討が必要な主な事項>

① 本学で学修ポートフォリオを導入することの要否及び可否の検討

② 具体的なシステム導入の方法（業者の選定）

- ・ 既存のシステム (LMS 等) を拡張し、学修ポートフォリオシステムとしての機能を持たせるか。
- ・ もしくは、新規のシステムを導入するか。
- ・ 上記の状況やシステムに搭載する機能、予算等を十分に検討したうえで 業者を選定する。

③ 具体的なシステム機能の検討

- ・ 学修ポートフォリオシステムに どのような機能を持たせるか。

(成績評価等に基づく学修成果の可視化、学生自身による自己目標の設定及び教員からのフィードバック、卒業見込時のディプロマ・サプリメント発行等)

④ 学修ポートフォリオシステムの運用・データ管理の体制 等

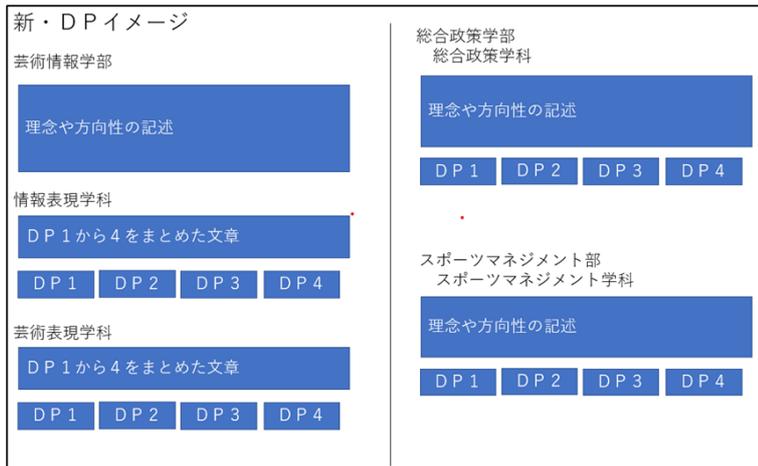
## 参考 3

### 3. ディプロマ・ポリシー等の明確化（改定）【令和6年度に検討を開始、令和8年度に適用】

【担当：大学戦略・IR室（◎）、各学部】

そもそも、各大学に実施が求められている教学マネジメントは、①3ポリシーによる学修目標の具体化→②目標達成のためのカリキュラム編成・実施→③学修成果の可視化と教育成果の把握→④目標やカリキュラムの見直しといったサイクルを回していくことである。この際、学修成果が可視化できなければ、改善のための次のサイクルへとつなげることはできない。よって、教学マネジメントの軸は、学修成果の可視化ということになる。

各大学は、学修目標として、ディプロマ・ポリシーを設定しているが、これが具体的で明確なものがないと、学修成果の可視化は形式的なものにとどまってしまう。反対に、ディプロマ・ポリシーが明瞭なものであれば、その項目を各授業科目と連動させることで、成績評価を通じて、学修目標としてのディプロマ・ポリシーがどの程度達成できているか、すなわち、学生の学修成果を可視化できる。なお、この際、各授業科目における到達目標がディプロマ・ポリシーの各項目と連動したものでなければ、成績評価を通じた学修成果の可視化は不可能である。



現状、本学のディプロマ・ポリシーは学部単位で設定されているが、内容は抽象度の高いものに止まっている。他方、他大学のディプロマ・ポリシーを調べると、抽象度の比較的高い文章の後に、「DP 1 専門的知識・技能の修得、DP 2 主体性・積極性、DP 3 課題発見解決能力・・・」というように項目が立てられた形式で設定されている。そして、それらは各授業科目の到達目標と連動しており、シラバスに対応関係が明示されている。翻って、本学では、項目としてディプロマ・ポリシーが設定されていないので、ディプロマ・ポリシーと授業科目との連動が難しい状況となっている。このため、令和8年度芸術情報学部新学科の開設に伴い、全学部学科のディプロマ・ポリシーの再設定を行う必要がある。そして、後述するように、シラバスも整備し、シラバス上で授業科目の到達目標とディプロマ・ポリシーの項目との対応関係を示す必要がある。そのようにしてはじめて、学修成果の可視化が可能となる。なお、より明確なディプロマ・ポリシー作成のためには、卒業生が実際に就職した企業等からの意見を踏まえることが望ましい（卒業生に最低限備わっているべき資質・能力とは何か、等）。

また、各学科のディプロマ・ポリシーの改定に合わせ、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー及びアセスメント・ポリシーの見直しも適宜行う必要がある。

見直しの時期については、芸術情報学部における新学科の開設年度に合わせて令和6年度より検討を

### 参考 3

開始し、令和7年度はじめに学内で決定・公表し、令和8年度入学生より新しい3ポリシーを適用できるようにすることが望ましい。

なお、今後、学修ポートフォリオを導入する場合にも、ディプロマ・ポリシーの見直しは必要となってくる。なぜなら、学修ポートフォリオシステムでは学生一人ひとりの学修成果をレーダーチャート等で可視化が可能であるが、このレーダーチャートの各項目にはディプロマ・ポリシーに定められた学修目標が設定されるのが通常であるからである（図1）。

〈図1 京都芸術大学 学修ポートフォリオシステム抜粋〉



#### 4. カリキュラム・マップの作成【令和7年度に実施、令和8年度に適用】

【担当：大学戦略・IR室（◎）、各学部、教務委員会】

上記のとおり、学修成果の可視化のためには、前提として、各授業科目がディプロマ・ポリシーの各項目とどのような対応関係にあるのかについて、整理しておく必要がある。このため、各授業科目とディプロマ・ポリシーの各項目との対応関係を示す各学科のカリキュラム・マップの作成が必要である

（図2）。カリキュラム・マップを作成しておけば、シラバス作成の際に、ディプロマ・ポリシーの各項目と各授業科目との対応関係を容易かつ明瞭に示すことが可能となる。

作成時期としては、令和8年度入学者適用の3ポリシーを令和6年度に改訂することとの兼ね合いから、令和8年度カリキュラムに係るカリキュラム・マップを、令和7年度中に検討・作成することとする。

なお、履修系統図及び科目ナンバリングについては、引き続き、毎年度のカリキュラムに合わせた更新をしていく必要がある。

# 参考 3

〈図2 上智大学法学部 カリキュラム・マップ〉

科目名	単位数	備考	DP1	DP2	DP3
民法総則Ⅰ(自然人、物、法律行為)	2		○		
民法総則Ⅱ(代理、法人、期間、時効)	2		○		
法学入門	1			○	○
導入演習	1		○		○
憲法(基本的人権)	4		○		
憲法(統治機構)	2		○		
債権法各論Ⅰ(契約)	2		○		
債権法各論Ⅱ(事務管理、不当利得、不法行為)	2		○		
刑法総論	4		○		
必修演習A	2		○		
必修演習B	2		○		
選択演習A	2		○		
選択演習B	2		○		
基礎演習A	2		○		
基礎演習B(民法)	2		○		
基礎演習B(商法)	2		○		
法解釈演習	2			○	
応用演習	2				○
憲法訴訟	2		○		
債権法総論Ⅰ	2		○		
債権法総論Ⅱ	2		○		
行政法総論	4		○		
担保物権法	2		○		
物権法	2		○		
親族法	2		○		
相続法	2		○		
会社法Ⅰ	4		○		
会社法Ⅱ	4		○		
民事訴訟法Ⅰ	4		○		
刑法各論	4		○		
刑事訴訟法	4		○		
労働法Ⅰ	2			○	
労働法Ⅱ	2			○	
法哲学	4			○	
行政救済法	2		○		
民事訴訟法Ⅱ	2		○		
社会保障法Ⅰ	2			○	

## 5. シラバスの整備【令和6年度に実施、令和7年度に適用】

【担当：大学戦略・IR室(◎)、教務課、教務委員会】

令和5年度においてシラバスに「ナンバリング」の項目を追加したところであるが、令和6年度においては、ディプロマ・ポリシーの明確化やカリキュラム・マップ等に対応していくため、以下のとおりシラバスを更に拡充していく必要がある。

＜シラバス拡充の内容＞

- ① 各授業科目と「ディプロマ・ポリシーの各項目との関連性」について明示する項目を設定  
(カリキュラム・マップと対応するため、項目追加は令和7年度から実施)
- ② 各授業科目がアクティブ・ラーニングに該当するか、明示する項目を設定
- ③ 各授業科目の担当教員が実務家教員に該当するか、どのような実務経験を持つ教員がいかなる授業を行うのか、明示する項目を設定
- ④ 授業時間外の学修について、学修内容や学修時間を明示する項目を設定
- ⑤ 到達目標と対応した形で成績評価基準を明示する項目を設定

また、以上のようなシラバスの整備を実施するにあたり、シラバスを実際に作成する各教員（専任・非常勤）に無用な混乱が生じないように、シラバス作成要領（文書）及びシラバス作成ガイド（動画）を教務課において整備する必要がある。なお、各授業科目と「ディプロマ・ポリシーの各項目との関連性」については、新しいディプロマ・ポリシーの学内決定時期との兼ね合いから、令和7年度を追加時期とする。

## 参考 3

### **6. アンケートの拡充・新設【令和6年度から順次検討、実施】**

**【担当：大学戦略・IR室(◎)、教務課、学生課、キャリア・就職課】**

IR情報収集の拡充等を目的として、令和6年度より、各種学生アンケートについて以下のとおり拡充・新設を実施する。

<各種学生アンケートの拡充・新設>

- ・既存の授業アンケートの拡充
- ・既存の卒業後アンケートの拡充
- ・既存の(卒業生の)就職先アンケートの拡充
- ・既存の卒業時アンケートの拡充
- ・新入生意識調査の新設
- (・学生生活実態アンケートの新設) …他のアンケートと統合する可能性あり
- ・学修時間・学修行動、学修成果に関するアンケートの新設

また、上記の各種学生アンケートから得られた情報を IR情報として利用し、教学改善につなげることとする。具体的には、アンケート集計結果を大学戦略・IR室に集約し分析した上で、現状の課題を抽出し、次年度における改善策を検討する。検討結果を次年度に向けた教学改善策としてとりまとめ、「1.」で言及した本学における内部質保証体制の下でそれらの実施を決定し、全学的に実施していく必要がある。このように、教育の質保証に向けた取組として、各種学生アンケートを有効活用し、本学独自の内部質保証体制におけるPDCAサイクルを構築・実施することは本学の教育内容の充実のために非常に有意義な取組であると考えられる。

### **7. その他**

上記の1.～6.までは令和6年度より本学において各担当部署が検討を開始する事項であるが、今後、教育改革推進プロジェクトWGにて引き続き検討し、適宜提言をしていく上記以外の課題として、以下の事項等を想定している。

#### **(1) アクティブ・ラーニングの推進**

教育の質の向上において重要な要素であるアクティブ・ラーニングについては、特別補助の題目ともなっているSociety5.0に向けた人材の育成においても、引き続き重要視されている。

こうした社会の要請等を踏まえ、「4. シラバスの整備」に伴って各学科におけるアクティブ・ラーニング型授業の実施状況について把握を進めるとともに、把握した実施状況に基づき、必要に応じてアクティブ・ラーニングの質的・量的拡充を図る必要があると考えられる。

アクティブ・ラーニング型授業については、学生の協調性やコミュニケーション能力等様々な資質・能力の育成に役立つとされ、本学においてもより浸透していくことが望ましいため、今後、本WGにて検討し、各学部到他大学の例等に基づき方策を提案していくこととする。

また、FD研修において、アクティブ・ラーニングの教授法等のワークショップを実施していくことも有益であると考えられる。

## 参考 3

※アクティブ・ラーニング…教員による一方的な講義形式ではなく、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授法のこと。例えば、グループ・ディスカッション、グループワーク、課題解決型授業等が該当する。

### (2) 課題解決型学習 (PBL) の推進

現在本学では、情報表現学科の一部の授業科目において PBL 授業が実施されている。これは、例えば、企業等から提示された課題に対し、学生がグループワークにより解決策を探していくという授業となっている。

社会に貢献できる実践力に富んだ人材の育成という面から、他学部他学科においてもこのような授業科目を充実することが望ましい。今後、本 WG にて、グループワークによる課題解決型学習の推進について検討を行い、各学部学科に対し、他大学の事例等に基づき方策を提案していくこととする。

### (3) 就職率向上に向けたインターンシップ科目の推進等

就職率向上は本学の大きな課題であり、就職率が学生募集において大きな訴求材料となることも踏まえると、その改善に取り組んでいく必要性が高い。

就職率向上のためには、授業としてのキャリア教育科目の見直し・充実化だけでなく、授業外の就職支援の充実化も不可欠である。これらの事項については、令和 5 年度卒業時アンケート結果の分析等を踏まえて本 WG にて検討し、各学部の方策を提案していくこととする。

### (4) 自己点検・評価における外部評価機能の実質化

本学が毎年度実施している自己点検・評価において、地域の企業による外部評価を実施しているところであるが、必ずしも十分とはいえないため、実質的な外部評価を実施するための改善策について本 WG において検討する。

また、自己点検・評価の過程において学生から意見を聴取する機会を設けるなど、学生が大学等の意思決定に参画する機会についても本 WG において検討する。

### (5) 地域連携・地域貢献の推進の検討

上記 PBL やインターンシップを充実させていくには、前提として、地域自治体や地域企業等との連携が不可欠である。また、地域における本学のイメージアップのためにも、地域連携や地域貢献を推進していく必要がある。今後、本 WG では、地域連携・地域貢献の具体的な方策等について検討していく。

### (6) 「少子化時代を支える経営改革支援事業」への申請についての検討

令和 6 年度文部科学省が私立大学等を対象に公募している「少子化時代を支える経営改革支援事業」への申請の可否及び要否について検討する。また、申請する場合には、申請書である事業計画書案や申請に付随する取組についても検討を行う。

以上

# 第1章 令和7年度における課題及び改善策（令和7年度行動計画）

※◎…取りまとめ部署

無印…情報共有する部署・全学委員会

## 1. 学修ポートフォリオシステムの導入【継続】

【担当：大学戦略・IR室（◎）、教務課、教務委員会、情報課、情報委員会】

学修ポートフォリオシステムは、学修成果の可視化の方法のひとつとして、文部科学省の中央教育審議会答申で言及されている。学修成果の可視化とは、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育が行われ、その結果、学生がディプロマ・ポリシーに定められた学修目標をどの程度達成できたかを明らかにすることを指す。この学修成果の可視化について、文部科学省の中央教育審議会答申において各大学で実施するよう繰り返し言及されていること、それを受けて各認証評価機関において学修成果の可視化を重点事項として捉えていることから、次期認証評価受審年度（令和11年度）に向けて、本学においても何らかの方法で学修成果の可視化を具体化する必要がある。

学修ポートフォリオシステムは、各学生一人ひとりの学修成果の可視化のみにとどまらず、学部単位、大学単位の学修成果の可視化をシステムティックに実施することが可能となる。

令和7年度においては、以下のとおり検討を実施する。

### <令和7年度における検討事項>

令和7年度においては、担当部署のメンバーが参画するプロジェクトチームを設置し、以下について検討を実施する。

#### ① システムの活用に係る検討

- ・学修ポートフォリオシステムに持たせる機能について検討を行う。

（成績評価等に基づく学修成果の可視化、学生自身による自己目標の設定及び教員からのフィードバック、卒業見込時のディプロマ・サプリメント発行等）

- ・例えば、学修ポートフォリオシステムの利用についてカリキュラムの中に取り入れていくなど、学生や教員が十分にシステムを活用することができる体制の整備等について検討を行う。

#### ② 業者の選定に係る検討

- ・上記の活用に係る検討内容等を踏まえ、導入までのサポートも含め、本学のニーズを実現することができる業者について検討を行い、業者を選定する。

### <（参考）令和7年度以降の想定>

令和7年度 学修ポートフォリオシステムの業者を選定

令和8年度 選定した業者によるシステムの構築

令和9年度 学修ポートフォリオシステムの試行的導入

令和10年度 学修ポートフォリオシステムの本格的導入

令和11年度 大学機関別認証評価 受審

## 2. カリキュラム・マップの作成【令和7年度に実施、令和8年度に適用】【継続】

【担当：大学戦略・IR室（◎）、各学部（◎）、教務委員会】

学修成果の可視化のためには、前提として、各授業科目がディプロマ・ポリシーの各項目とどのような対応関係にあるのかについて、整理しておく必要がある。このため、各授業科目とディプロマ・ポリシーの各項目との対応関係を示す各学科のカリキュラム・マップの作成が必要である。カリキュラム・マップを作成しておくことで、シラバス作成の際に、ディプロマ・ポリシーの各項目と各授業科目との対応関係を容易かつ明瞭に示すことが可能となる。

令和8年度以降入学者適用の新しい3ポリシーを令和6年度末に改訂する見込みであり、改定後の新しい3ポリシーの下、令和8年度カリキュラムに係るカリキュラム・マップを、令和7年度中に検討・作成する。なお、履修系統図及び科目ナンバリングについては、引き続き、毎年度のカリキュラムに合わせた更新をしていく。カリキュラム・マップ、履修系統図及び科目ナンバリングの策定については、大学戦略・IR室と各学部とが連携し、作業を行うこととする。

## 3. シラバスの整備【令和7年度に実施、令和8年度に適用】【一部実施済・継続】

【担当：教務課（◎）、教務委員会】

令和6年度においてシラバスに「アクティブ・ラーニング該当性」や「実務家教員の該当性」等の項目を追加したところであるが、令和7年度においては、各授業科目と「ディプロマ・ポリシーとの関連性」について明示する項目を設定し、令和7年度中に策定予定の各学部ごとの「カリキュラム・マップ」に基づいて記載する。これに伴う「WEBシラバス作成マニュアル」の改訂及びWEBシラバス上の項目の追加は教務課において実施する。

（図 WEBシラバス画面上のイメージ）

DPとの関連性		DPとの関連性 ▼		
	学科固有の能力 (0～20文字)	知識・技能 (0～20文字)	汎用的能力	態度・姿勢 (0～20文字)
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
カリキュラムマップURL (0～500文字)		<input type="text"/>		

## 4. 新しいディプロマ・ポリシーと整合性のある各授業科目の達成目標の設定【新規】

【担当：大学戦略・IR室（◎）、各学部、教務委員会、教務課】

令和8年度以降入学者適用の新しいディプロマ・ポリシーと整合性のある各授業科目の達成目標を設定する必要がある。各授業科目の担当教員（専任・兼任教員を問わず）が令和8年度カリキュラムにおける各授業科目の達成目標を円滑に設定できるように、大学戦略・IR室において『新ディプロマ・ポリシーと達成目標の設定方法』に係るガイドラインを策定する。

## **5. アンケートの拡充・新設【継続】**

**【担当：大学戦略・IR室（◎）、教務課、教務委員会、キャリア・就職課、キャリア・インターンシップ委員会、入試・広報課、学生募集・入試委員会】**

IR情報収集の拡充等を目的として、令和6年度においては「授業アンケート」、「就職先企業アンケート」、「卒業後アンケート」を拡充するとともに、「卒業時アンケート」、「学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート」を新設し実施した。令和7年度においては、より分析結果に資するように各種アンケートの設問を見直し引き続き実施していくとともに、「新入生意識調査」を新設し、大学戦略・IR室が入試・広報課の協力を得ながら企画・実施する。その他の各種アンケートについては、従来通り、大学戦略・IR室が企画・実施するが、実施の際には教務課及びキャリア・就職課が協力し、関係する全学委員会において情報共有を行うこととする。

## 6. 新しい3ポリシーの下における「教育の質保証」に関する積極的な情報発信【新規】

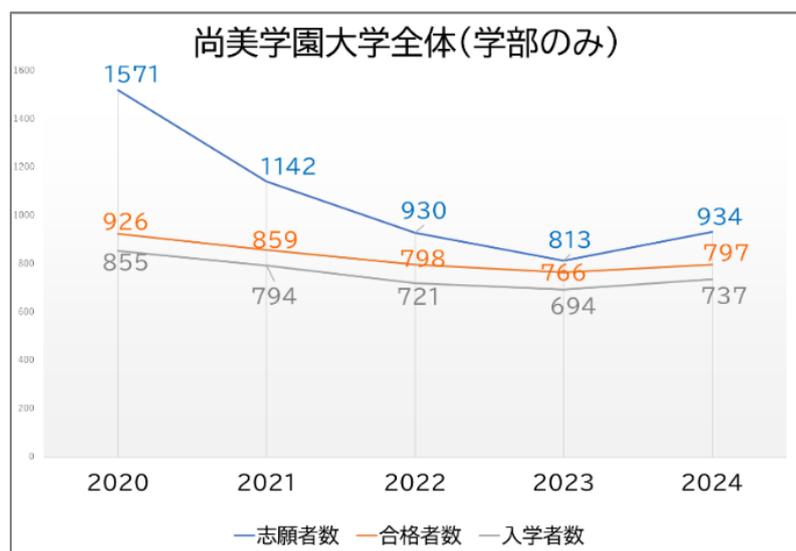
【担当：学生募集・入試委員会（◎）、入試・広報課、大学戦略・IR室（◎）】

入学定員充足率及び収容定員充足率はいずれも、2020年度からそれほど変化は見られないが、志願者ベースで経年変化を見ると、2020年度の3分の2弱となっております減少している。今後、全国的な18歳人口の減少も鑑みて、この傾向は一層強くなることが予想される。

また、2024年度「学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート」（以下「学修成果アンケート」）の結果によれば、本学への入学を後輩等に推奨したいと強く思うと回答した学生がその推奨理由として多く回答した項目は「施設・設備の充実度」（31.6%）「教育内容の充実度や教育の質の高さ」（21.4%）等となっているが、一方で、本学の推奨度が低い学生がその理由として多く回答した項目も同様に「教育内容の充実度や教育の質の高さ」（52.1%）「施設・設備の充実度」（20.8%）となっている。このことから、在学生の推奨度を上げるためにキーポイントとなるのは、「教育内容の充実度や教育の質の高さ」「施設・設備の充実度」であると考えられる。特に、推奨できない理由として最も回答が多かった「教育内容の充実度や教育の質の高さ」について、今後、重点的に取り組む必要がある。

令和7年度において、まずは、新しい3ポリシーの下での教育の質の向上に向けた取組を全学的に実施するとともに、本学に入学し学修することの価値を高めることとなる教育内容に係る取組等を対外的に情報発信していく方法等について、学生モニターでのヒアリング状況、「新入生意識調査」の結果、埼玉県・東京都の高校における本学への出願状況の経年変化に関する調査結果等を踏まえて検討する。同時に、この検討主体についても、学生募集・入試委員会のあり方を見直す中で検討を進めることとする。

（グラフ 志願者数・合格者数・入学者数の推移）



(本学を推奨する学生における推奨の理由)

主な推奨の理由	
大学全体	施設・設備の充実度 教育内容の充実度や教育の質の高さ 教職員の学修支援体制の充実度や面倒見の良さ
情報表現学科	施設・設備の充実度
音楽表現学科	教職員の学修支援体制の充実度や面倒見の良さ
音楽応用学科	教育内容の充実度や教育の質の高さ
舞台表現学科	教育内容の充実度や教育の質の高さ
総合政策学科	教育内容の充実度や教育の質の高さ
スポーツマネジメント学科	施設・設備の充実度

(本学について非推奨である学生における非推奨の理由)

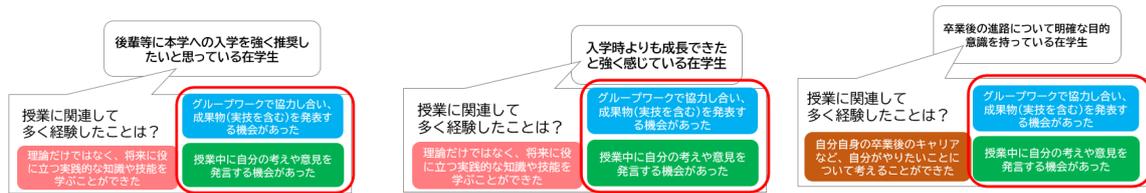
主な非推奨の理由	
大学全体	教育内容や教育の質 施設・設備
情報表現学科	教育内容や教育の質
音楽表現学科	教育内容や教育の質
音楽応用学科	教育内容や教育の質
舞台表現学科	教育内容や教育の質
総合政策学科	教育内容や教育の質
スポーツマネジメント学科	教育内容や教育の質 施設・設備

## 7. アクティブ・ラーニングの推進【新規】

### 【担当：大学戦略・IR室（◎）、各学部、教務委員会】

学修成果アンケートの結果によれば、本学への入学を後輩等に推奨したいと強く思うと回答した学生が、授業に関して多く経験した事柄のうち回答が多かったものに「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」及び「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」であった。同様に、卒業後の進路について明確な目的意識を持っている学生、成長実感を有する学生が授業に関して多く経験した回答でも「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」及び「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」が上位に挙がっている。このため、アクティブ・ラーニングの要素を持つ授業の経験と、学

生の推奨度、キャリア意識、成長実感との間には何らかの関連性があることを示していると考えられる。



アクティブ・ラーニングに肯定的な学生の成長実感は、そうでない学生よりも高く、本学に対する推奨度、GPA の平均値も同様に高い傾向にある。また、アクティブ・ラーニングに肯定的な学生が7割を超えるスポーツマネジメント学科の就職率の高さからわかるように、アクティブ・ラーニングは就職状況に対しても何らかの影響を与えていると考えられる。

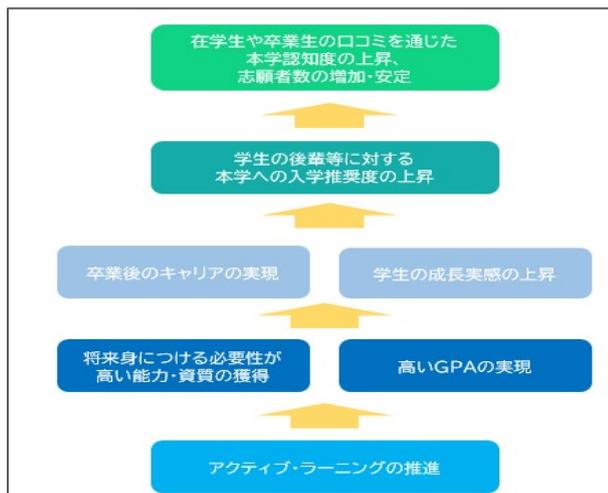
就職先企業アンケートの結果によれば、企業が本学卒業生にもっと身につけてほしいと思う能力・資質として多く回答があったのは、「物事に進んで取り組む力（主体性）」（36.3%）「自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）」（31.8%）「他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）」（24.2%）であった。また、学生が「身につけられていない」が「身につける必要性が高い」と考えている能力・資質は、「自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）」であった。このような能力を正課内で育成するために、グループ・ディスカッションや学生個人のプレゼンテーションの実施等のアクティブ・ラーニングの推進は必須である。

学生が身につけられていないと感じている能力	企業が本学卒業生にもっと身につけてほしいと思う能力		
働きかけ力	主体性		
ストレスコントロール力	発信力		
発信力	働きかけ力		
学生が身につける必要性が高いと感じている能力	企業が新卒に求める能力	学生が身につけられたと感じている能力	
実行力	規律性	規律性	規律性
計画力	発信力	傾聴力	傾聴力
			状況把握力

さらに、学修成果アンケートに係るCS分析の結果からも（第II章 各種アンケートの分析結果 P. 43～45）、学生の成長実感とアクティブ・ラーニングが密接に関係していることがうかがえる。

こうしたアクティブ・ラーニングに係る状況を踏まえ、令和7年度においては、「4. シラバスの整備」に伴って各学科におけるアクティブ・ラーニングの実施状況について把握するとともに、全学的なアクティブ・ラーニングの質的・量的拡充を実施する。

(イメージ図 アクティブ・ラーニングの推進による効果 (推論))



加えて、令和7年度FD研修においては、アクティブ・ラーニングの教授法等に関する講演会やワークショップを実施し、アクティブ・ラーニングのスムーズな実施を促すとともに、令和7年度秋学期に専任教員を対象にアクティブ・ラーニングに関するアンケートを実施し、実施の有無、判明した課題、成功事例等を冊子や動画にまとめ、次年度に向けた授業計画を策定する際の参考資料として専任教員に共有するなど、全学的なアクティブ・ラーニング推進に向けた取組を実施する。

※アクティブ・ラーニング…教員による一方的な講義形式ではなく、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授法のこと。例えば、グループ・ディスカッション、グループワーク、課題解決型授業等が該当する。

## 8. 課題解決型学習 (PBL) の推進【新規】

【担当：大学戦略・IR室(◎)、総務課地域連携室、入試・広報課、各学部】

7. で述べたように「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」及び「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」といったアクティブ・ラーニングの要素を持つ授業の経験と、学生の推奨度、キャリア意識、成長実感との間には何らかの関連性があると考えられるが、課題解決型学習(PBL)はグループワークや自分の考えを述べる機会を含む学習手法である。また、PBLは大学の外に出て社会との関わり合いの中で学ぶ機会も含むため、学生のキャリア意識の醸成にも資する。このため、全学的なPBL実施の検討を行うべきであると考えている。

令和7年度においては、総合政策学部においても学内の課題をテーマとしたPBLを実施し、また、スポーツマネジメント学部においては地域連携を活用したPBLを実施する。芸術情報学部においては、多様な卒業後の進路を想定している芸術表現学科における1年次の基礎演習等でのPBLの実施を検討する。加えて、令和7年度のPBL実施内容については、小冊子にその内容をまとめ、学生募集・広報活動に活用し、教育内容を対外的に発信する。その際、入試・広報課の協力を得て実施することとする。また、地域連携を活用したPBLに関しては、令和7年度以降、新しく設置される総務課地域連携室において対外的な連絡調整を行うこととする。

## 9. 就職率向上に向けた就職支援の強化及びキャリア教育の充実【新規】

【担当：キャリア・就職課（◎）、キャリア・インターンシップ委員会、教務委員会、大学戦略・IR室（◎）】

学修成果アンケートの結果によれば、本学の学生は総じて卒業後のキャリアについて明確な目的意識を持つ時期が遅く、最も回答が多かったのは「3年次秋学期」となっている。他大学においては2年次のインターンシップの実施、3年次春学期からの就職活動開始の事例もみられ、本学もこれに追いついていく必要がある。

卒業後の進路について明確な目的意識を持つ学生は成長実感を得やすく、また、大学の推奨度や教育内容に対する満足度が高く、授業外学修時間も長い傾向にあり、早期のキャリア意識の形成は学生の就職状況の改善だけでなく、大学生活の全般の充実度にもつながると考えられる。

また、卒業後の進路について明確な目的意識を有する学生が授業に関連して多く経験した事柄として多くの回答があったのが「自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた」「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」であった。このことから、卒業後のキャリア等について考える機会を与えるだけでなく、グループワークや学生が発言する機会を設けるなど、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れたキャリア科目を実施する。

（イメージ図 授業に関連して多く経験した事柄とキャリア意識の醸成）



在学生在早期のキャリア意識を醸成できるように、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れたキャリア科目に係る具体的な授業内容の例が、下記の「本学が求めるキャリア教育の授業内容」である。

### ■本学が求めるキャリア教育の授業内容（例）

- ① 自己分析の方法（自分のやりたいことを探し、将来の自分像を考えることも含む）を教授した上で実際に学生自身が自己分析を行い、将来の自分像を明らかにさせる演習型授業
- ② 将来の自分像が見つかった後、大学在学中にどんな能力を伸ばす必要があるか、そのためにどんな大学生活を送ればよいか（例：どんな授業を履修すべきか、課外活動は何をすべきか、どんな本を読んでおけばよいか、どんな人と交流すべきか等）について、マンダラチャート等を活用し検討する演習型授業
- ③ 「振り返り」ノート等を活用して、入学時以降の自分を振り返り、何ができるようになり、何ができるようになっていないか等を可視化することで、学生一人ひとりが自らPDCAサイクルを回すトレーニングを行う演習型授業
- ④ 実際に社会人になった後にOJTで学んでいく作業について（例：前提知識のない複雑な文章を読解し、要約してわかりやすい資料を作成し、それに基づき説明する等）体験する演習型授業
- ⑤ 就職を希望する業界研究の一環として、その業界でビジネス上よく発生する問題や課題を発見し、それを解決するというPBL型学習を実施する演習型授業（地域企業との連携を活用）

令和7年度においては、上記のような授業内容について、教養科目の中のキャリア科目（キャリアデザインA/B）、総合政策学部の専門科目の一部のキャリア科目（就職活動実践講座A/B）において実施するとともに、スポーツマネジメント学部の1年次の必修科目である基礎演習の中で実施する。芸術情報学部では、多様な卒業後の進路を想定している芸術表現学科において、学科専門科目のキャリア科目（3年次配当のキャリアデザインⅢ/Ⅳ等）での上記の授業内容の実施を検討する。

令和5年度卒業見込生のうち、希望度どおりのキャリアを実現できなかったと回答した学生が、何をしていたら希望通りのキャリアを実現できたと思うかについて、多くの回答があったのが「インターンシップへの参加」「授業科目内でのキャリア教育の充実」「業界研究の機会」であった。このため、キャリア・就職課においては、大学独自型インターンシップに学生の参加を促す仕組みを構築するとともに、より幅広く企業等の業務説明会を開催することで、学生に業界研究の機会を与える。

令和7年度においては、こうしたキャリア教育の充実化と就職支援の推進により、学生の早期のキャリア意識醸成を促進する。キャリア教育の充実化については、各学部、全学教務委員会、大学戦略IR室が協力して取り組むとともに、就職支援の推進はキャリア・就職課及びキャリア・インターンシップ委員会が取り組むこととする。

以上

## 第Ⅱ章 各種アンケートの分析結果

(分析の対象としたアンケート)

- ・ 令和5年度卒業時アンケート
- ・ 令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート
- ・ 令和6年度実施 就職先企業等アンケート
- ・ 令和6年度実施 卒業後アンケート

### 1. アンケートの回答状況

#### 令和5年度卒業時アンケート

- ・ 対象者：令和5年度卒業見込の学部4年次生全員（778名）
- ・ 実施期間：令和6年1月23日～3月31日
- ・ 目的：教育活動に対する満足度や在学中の学びを通じた知識・能力の修得状況等について把握し、その結果を教育の改善や質向上に役立てるため
- ・ 回答者数 469名（回答率 60.3%）
- ・ 学科別回答者数：情報表現学科 140名（学科の 52.6%）、音楽表現学科 55名（学科の 58.5%）、音楽応用学科 47名（学科の 54.7%）、舞台表現学科 18名（学科の 28.1%）  
総合政策学科 60名（学科の 45.1%）、スポーツマネジメント学科 147名（学科の 65.0%）

#### 令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート

- ・ 対象者：令和6年度の在学生全員（令和6年7月時点：2,958名）
- ・ 実施期間：令和6年7月9日～8月30日
- ・ 目的：学生の学修成果、学修時間・学修行動等について把握し、その結果を教育の改善や質向上に役立てるため
- ・ 回答者数：1,311名（回答率 44.3%）
- ・ 学科別回答者数：情報表現学科 452名（学科の 43.1%）、音楽表現学科 102名（学科の 37.2%）、音楽応用学科 121名（学科の 36.0%）、舞台表現学科 46名（学科の 30.7%）  
総合政策学科 178名（学科の 47.0%）、スポーツマネジメント学科 412名（学科の 53.6%）

#### 令和6年度実施 就職先企業等アンケート

- ・ 対象者：令和4年3月～令和6年3月卒業の卒業生が就職している企業（497社）  
（アルバイト、公務員・教員を除く）
- ・ 実施期間：令和6年6月7日～7月31日
- ・ 目的：本学学生が教育活動や在学中の学びを通じて得た知識・能力が実社会で発揮できているか等について就職先企業からの客観的な意見を聴取するため
- ・ 回答者数：166社（回答率 33.4%）

#### 令和6年度実施 卒業後アンケート

- ・対象者：令和元年度～令和3年度における卒業生・修了生
- ・実施期間：令和6年6月1日～同年7月31日
- ・目的：本学の学びを経て身につけた知識・能力が実社会においてどのように役立っているのか把握し、本学の教育改善や質向上につなげることを目的とする。
- ・回答者数 12名

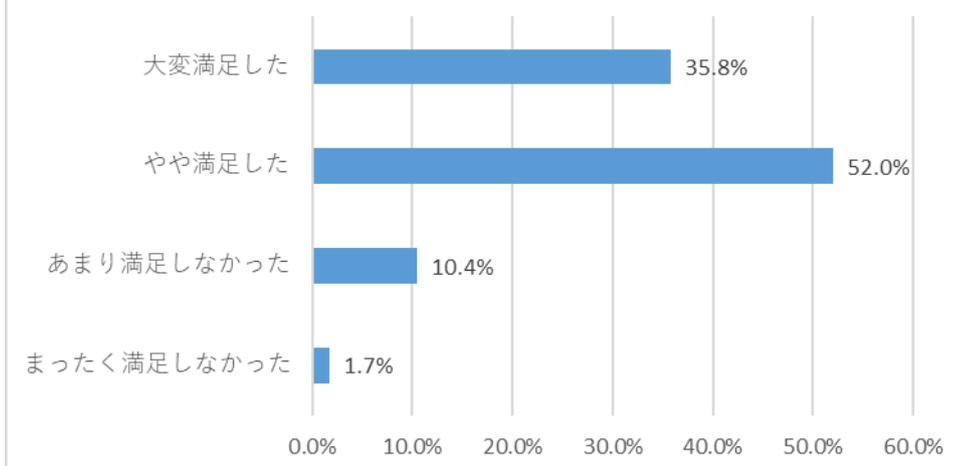
## 2. 学生の満足度の状況

<令和5年度卒業時アンケートの集計結果に基づく>

### 【概略】

- ・ 本学の教育内容に関し、満足している学生の割合は全体で 87.8%であった。
- ・ 本学の教育内容に関する満足度について、授業を適切に受講している、授業の課題等をきちんとやっている学生でも、満足度には差がある。満足度が低い学生がアルバイトに注力している傾向がある一方で、満足度が高い学生は興味を持ったことについて自主的に調べるなど主体的学修態度を有しており、学業に対する主体性の重要度がうかがえる。
- ・ 本学の大学生活全般についての満足度について、満足度が高かった項目は「教員のアドバイスや指導」(88.1%)、「授業内容とその水準」(85.9%)、「職員の対応」(84.4%)であった。
- ・ 満足度が低い項目は「サークル活動」(26.9%)、「食堂や売店」(22.0%)、「グラウンドや体育館等のスポーツ施設」(19.8%)であった。

### Q3-1. 大学の教育内容に満足しましたか。



#### (1) 満足度の高い学生の特徴

- ・ Q3-1「大学の教育内容に満足しましたか。」において、「やや満足した」「大変満足した」と回答した学生は 412名 (87.8%) となっている。
- ・ 学科別に見ると、情報表現学科が119名(学科の85.0%)、音楽表現学科が46名(学科の83.6%)、音楽応用学科が39名(学科の83.0%)、舞台表現学科が15名(学科の83.3%)、総合政策学科が56名(学科の93.3%)、スポーツマネジメント学科が136名(学科の92.5%)となっている。
- ・ 「やや満足した」「大変満足した」と回答した学生のうち、Q2「現在(卒業直前)のあなたの学修状況についておうかがいします。」において、「当てはまる」「とても当てはまる」と回答した学生の割合が高かった項目は、「授業をまじめに受講していた」が365名(88.6%)、「授業の課題等はきちんとやった」が355名(86.2%)、「興味を持ったことについて自主的に調べた」343名(83.3%)となっている。

## (2) 満足度の低い学生の特徴

・ Q3-1「大学の教育内容に満足しましたか。」において、「あまり満足しなかった」「まったく満足しなかった」と回答した学生は57名(12.2%)となっている。

・ 学科別に見ると、情報表現学科が21名(学科の15.0%)、音楽表現学科が9名(学科の16.4%)、音楽応用学科が8名(学科の17.0%)、舞台表現学科が3名(学科の16.7%)、総合政策学科が4名(学科の6.7%)、スポーツマネジメント学科が11名(学科の7.5%)となっている。

・ 「あまり満足しなかった」「まったく満足しなかった」と回答した学生のうち、Q2「現在(卒業直前)のあなたの学修状況についておうかがいします。」において、「当てはまる」「とても当てはまる」と回答した学生の割合が高かった項目は、「アルバイトを頑張った」が48名(84.2%)、「授業をまじめに受講していた」が46名(80.7%)、「授業の課題等はきちんとやった」が44名(77.2%)となっている。

## (3) 項目別の満足度

・ Q6「大学生生活全般についておうかがいします。以下の項目における満足度について、それぞれ1～5で回答してください。」において、「概ね満足している」「とても満足している」と回答した学生の割合が高かった項目は、「教員のアドバイスや指導」が413名(88.1%)、「授業内容とその水準」が403名(85.9%)、「職員の対応」が396名(84.4%)となっている。

・ 学科別に見ると、「概ね満足している」「とても満足している」との回答数が最も多かった項目は、情報表現学科、音楽表現学科、音楽応用学科が「教員のアドバイスや指導」、舞台表現学科・総合政策学科が「授業内容とその水準」、スポーツマネジメント学科が「あなた自身の学修成果・成長度」「教員のアドバイスや指導」「友人関係」「職員の対応」となっている。

・ 一方で「あまり満足していない」「まったく満足していない」と回答した学生の割合が高かった項目は、「サークル活動」が126名(26.9%)、「食堂や売店」が103名(22.0%)、「グラウンドや体育館等のスポーツ施設」が93名(19.8%)となっている。

・ 学科別に見ると、「あまり満足していない」「まったく満足していない」との回答数が最も多かった項目は、情報表現学科、音楽応用学科が「サークル活動」、音楽表現学科が「あなた自身の学修成果・成長度」、舞台表現学科、スポーツマネジメント学科が「食堂や売店」、総合政策学科が「サークル活動」「グラウンドや体育館等のスポーツ施設」となっている。

(満足度に関する項目)

満足度の高い主な項目	
大学全体	教員のアドバイスや指導 授業内容とその水準 職員の対応
情報表現学科	教員のアドバイスや指導
音楽表現学科	教員のアドバイスや指導
音楽応用学科	教員のアドバイスや指導
舞台表現学科	授業内容とその水準
総合政策学科	授業内容とその水準
スポーツマネジメント学科	あなた自身の学修成果・成長度 教員のアドバイスや指導 友人関係 職員の対応

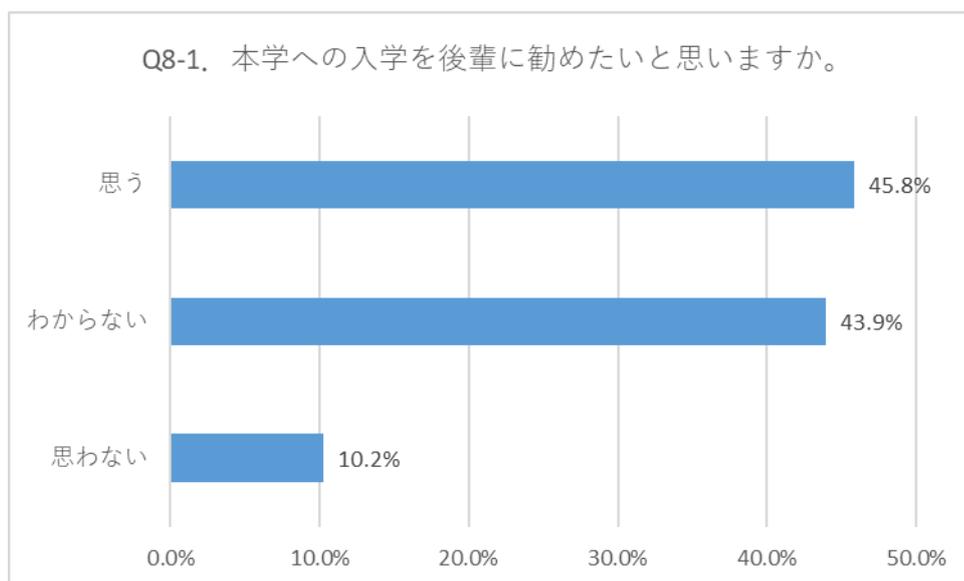
満足度の低い主な項目	
大学全体	サークル活動 食堂や売店 グラウンドや体育館等のスポーツ施設
情報表現学科	サークル活動
音楽表現学科	あなた自身の学修成果・成長度
音楽応用学科	サークル活動
舞台表現学科	食堂や売店
総合政策学科	サークル活動 グラウンドや体育館等のスポーツ施設
スポーツマネジメント学科	食堂や売店

### 3. 卒業時における推奨度の状況

<令和5年度卒業時アンケートの集計結果に基づく>

#### 【概略】

- ・ 令和5年度卒業見込生のうち、本学への入学を後輩等に推奨したいと思うと回答した学生は全体の45.8%、思わないと回答した学生は10.2%であった。学科別に見ると、総合政策学科及びスポーツマネジメント学科においては推奨したいと思うと回答した学生が半数以上となっており、他学部よりも高い。
- ・ 推奨したいと思う理由として多かった項目は「施設・設備の充実度」(31.6%)「教育内容の充実度や教育の質の高さ」(21.4%)「教職員の学修支援体制の充実度や面倒見の良さ」(21.4%)であった一方、推奨できない理由について多かった回答は「教育内容の充実度や教育の質の高さ」(52.1%)「施設・設備の充実度」(20.8%)であった。このため、推奨度をあげるキーポイントは、「教育内容の充実度や教育の質の高さ」「施設・設備の充実度」であると思われる。
- ・ 授業を適切に受講している、授業の課題等をきちんとやっている学生でも、大学に対する推奨度には差があり、教育内容や施設・設備についてもその捉え方に差がある。推奨度が高い学生は、教職員の学修支援体制の充実度や面倒見の良さに肯定的に捉えており、興味を持ったことについて自主的に調べるなど主体的学修態度を有しており、学業に対する主体性の重要度がうかがえる。



#### (1) 推奨度の高い学生は何に満足しているのか

- ・ Q10「現時点で、本学への入学を後輩や知人等に勧めたいと思いますか。」において、「思う」と回答した学生は215名(45.8%)となっている。
- ・ 学科別に見ると、情報表現学科が63名(学科の45.0%)、音楽表現学科が25名(学科の45.5%)、音楽応用学科が16名(学科の34.0%)、舞台表現学科が5名(学科の27.8%)、総合政策学科が30名(学科の50.0%)、スポーツマネジメント学科が76名(学科の51.7%)となっている。
- ・ 「思う」と回答した学生のうち、Q8-2「Q8-1で「思う」と回答した方におうかがいします。その理由として最も当てはまるものを選んでください。」において、回答した学生の割合が高かった項目は、「施設

「施設・設備の充実度」が68名(31.6%)、「教育内容の充実度や教育の質の高さ」「教職員の学修支援体制の充実度や面倒見の良さ」がそれぞれ46名(21.4%)となっている。

・学科別に推奨の理由を見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科が「施設・設備の充実度」、音楽表現学科が「教職員の学修支援体制の充実度や面倒見の良さ」、音楽応用学科、舞台表現学科、総合政策学科が「教育内容の充実度や教育の質の高さ」、スポーツマネジメント学科が「施設・設備の充実度」となっている。

(本学を推奨する学生における推奨の理由)

主な推奨の理由	
大学全体	施設・設備の充実度 教育内容の充実度や教育の質の高さ 教職員の学修支援体制の充実度や面倒見の良さ
情報表現学科	施設・設備の充実度
音楽表現学科	教職員の学修支援体制の充実度や面倒見の良さ
音楽応用学科	教育内容の充実度や教育の質の高さ
舞台表現学科	教育内容の充実度や教育の質の高さ
総合政策学科	教育内容の充実度や教育の質の高さ
スポーツマネジメント学科	施設・設備の充実度

### (2) 推奨度の高い学生の特徴

・Q8-1「本学への入学を後輩に勧めたいと思いますか。」において「思う」と回答した学生のうち、Q2「現在(卒業直前)のあなたの学修状況についておうかがいします。」において、「当てはまる」「とても当てはまる」と回答した学生の割合が高かった項目は、「授業をまじめに受講していた」が198名(92.1%)、「興味を持ったことについて自主的に調べた」が194名(90.2%)、「授業の課題等はきちんとやった」が184名(85.6%)となっている。

### (3) 推奨度の低い学生は何を不満に感じているのか。

・Q8-1「本学への入学を後輩に勧めたいと思いますか。」において、「思わない」と回答した学生は48名(10.2%)となっている。

・学科別の結果を見ると、情報表現学科が10名(学科の7.1%)、音楽表現学科が8名(学科の4.1%)、音楽応用学科が7名(学科の14.9%)、舞台表現学科が4名(学科の22.2%)、総合政策学科が7名(学科の11.7%)、スポーツマネジメント学科が11名(学科の7.5%)となっている。

・「思わない」と回答した学生のうち、Q8-3「Q8-1で「思わない」と回答した方におうかがいします。その理由として最も当てはまるものを選んでください。」において回答した学生の割合が高かった項目は、「教育内容や教育の質」が25名(52.1%)、「施設・設備」が10名(20.8%)となっている。

・学科別に非推奨の理由を見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科、音楽表現学科、音楽応用学科、舞台表現学科、総合政策学科が「教育内容や教育の質」、スポーツマネジメント学科が「教育内容や教育の質」「施設・設備」となっている。

(本学について非推奨である学生における非推奨の理由)

主な非推奨の理由	
大学全体	教育内容や教育の質 施設・設備
情報表現学科	教育内容や教育の質
音楽表現学科	教育内容や教育の質
音楽応用学科	教育内容や教育の質
舞台表現学科	教育内容や教育の質
総合政策学科	教育内容や教育の質
スポーツマネジメント学科	教育内容や教育の質 施設・設備

#### (4) 推奨度の低い学生の特徴

・Q8-1「本学への入学を後輩に勧めたいと思いますか。」において「思わない」と回答した学生のうち、Q2「現在（卒業直前）のあなたの学修状況についておうかがいします。」において、「当てはまる」「とても当てはまる」と回答した学生の割合が高かった項目は、「授業の課題等はきちんとやった」が39名(81.3%)、「授業をまじめに受講していた」が36名(75.0%)、「アルバイトを頑張った」が36名(75.0%)となっている。

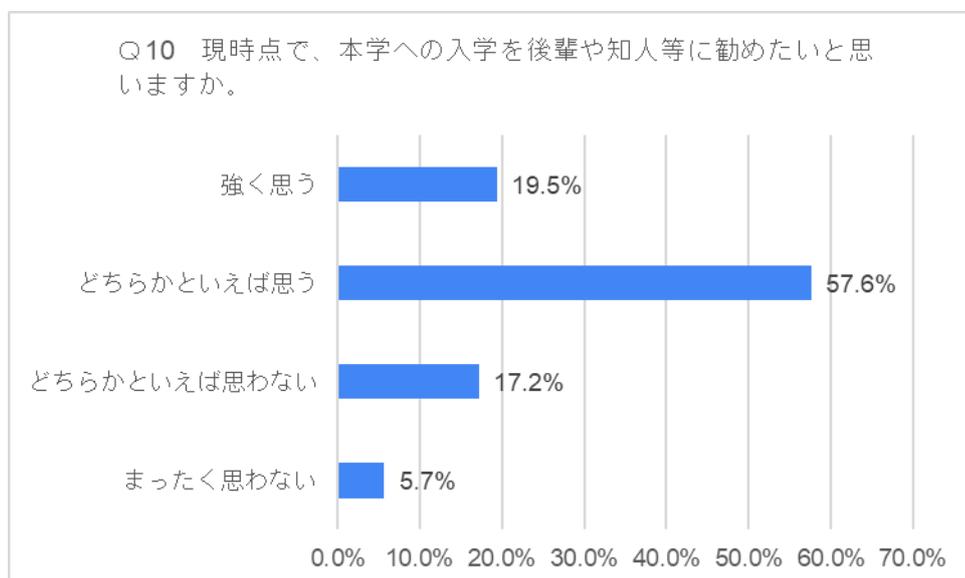
#### 4. 在学生における推奨度の状況

＜令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケートの集計結果に基づく＞

##### 【概略】

・令和6年度における1～4年次在学生のうち、本学への入学を後輩等に推奨したいと「強く思う」と回答した学生は全体の19.5%であった。

・「強く思う」と回答した学生（255名）のうち、「入学してから現在まで、授業中の学修に関連して、あなたが多く経験したことがある項目を選んでください。」において、経験した割合が高かった項目は、「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」（59.2%）、「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」（52.2%）、「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」（50.2%）となっており、授業に関連した項目の中でこれらが推奨度をあげるためのキーポイントであると思われる。



##### （1）推奨度の高い学生の特徴

・Q10「現時点で、本学への入学を後輩や知人等に勧めたいと思いますか。」において、「強く思う」と回答した学生は255名（19.5%）となっている。

・学科別に見ると、情報表現学科が69名（学科の15.3%）、音楽表現学科が23名（学科の22.5%）、音楽応用学科が25名（学科の20.7%）、舞台表現学科が12名（学科の26.1%）、総合政策学科が47名（学科の26.4%）、スポーツマネジメント学科が79名（学科の19.2%）となっている。

・「強く思う」と回答した学生のうち、Q3「現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。」において、「どちらかといえばあてはまる」「とてもあてはまる」と回答した学生の割合が高かった項目は、「授業の課題等はきちんとやった」が237名（92.9%）、「興味を持ったことについて自主的に調べた」が236名（92.5%）、「授業を毎回出席し教員の話をきちんと聴いていた」が235名（92.2%）となっている。

・また、そのうち、「入学してから現在まで、授業中の学修に関連して、あなたが多く経験したことがある項目を選んでください。」において、回答した学生の割合が高かった項目は「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」が151名（59.2%）、「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）」

を発表する機会があった」が133名(52.2%)、「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」が128名(50.2%)となっている。

・学科別に見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科、音楽応用学科が「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」、音楽表現学科、舞台表現学科、スポーツマネジメント学科が「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」、総合政策学科が「自らの適性にあった指導を教員から受けることができた」「授業に関連する事項について、教員に気軽に質問できた」「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」となっている。

(本学の推奨度が高い学生が経験した主な事項)

本学の推奨度が高い学生が経験した主な事項	
大学全体	授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった 理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
情報表現学科	理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
音楽表現学科	グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった
音楽応用学科	理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
舞台表現学科	グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった
総合政策学科	自らの適性にあった指導を教員から受けることができた 授業に関連する事項について、教員に気軽に質問できた 理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
スポーツマネジメント学科	グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった

## 5. 授業外学修時間の状況

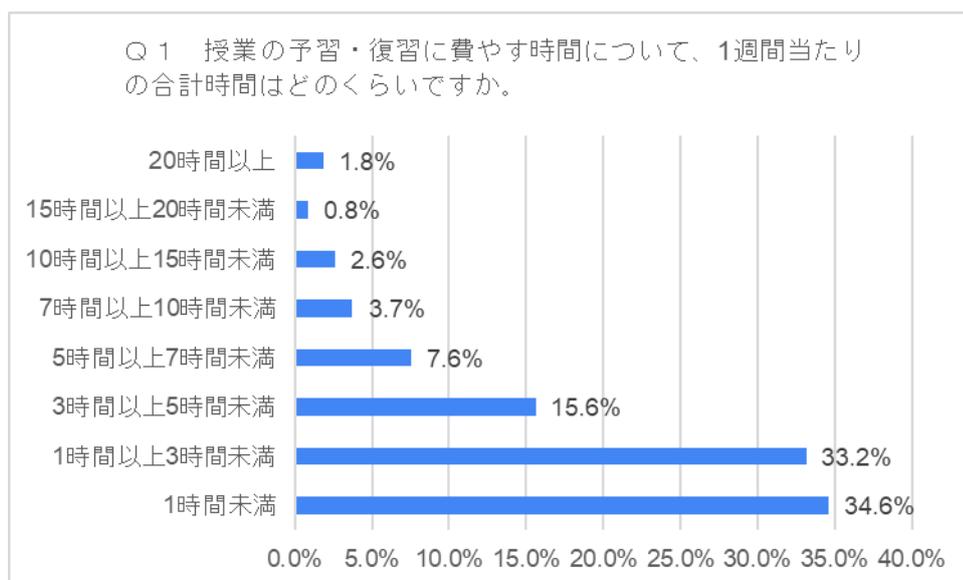
＜令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケートの集計結果に基づく＞

### 【概略】

- ・授業の予復習に費やす時間について、1週間当たり1時間未満の学生は34.6%であり、1週間当たり15時間以上の学生は全体で2.6%であった。
- ・授業に関連しない自主的学修について、1週間当たり1時間未満の学生は40%であり、1週間当たり15時間以上の学生は全体で6.4%であった。
- ・授業の予復習、授業に関連しない自主的学修について、それぞれ1週間当たり15時間以上の学生が授業に関連して多く経験している項目で多かった回答のうち、どちらにも共通する事項は、「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」「課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された」「理論だけではなく将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」であり、これらが学生の授業外学修時間の伸長に関連していると思われる。
- ・授業の予復習に費やす時間が長い学生はそうでない学生よりも、本学の推奨度が高く、成長実感を感じている傾向にある。反対に、自主的学修についてこの傾向はみられない。
- ・授業と関連しない自主的な学修時間が長い学生は、わからないことを放置することなく、すぐに教員に質問するなどの対応をする、興味を持ったことについて自主的に調べるなど、主体的学修態度を有する傾向がある。
- ・学科別にみると、スポーツマネジメント学科においては、授業の予復習に費やす時間が1週間あたり1時間未満の学生の割合は49.8%、授業と関連しない自主的学修時間が1週間あたり1時間未満の学生は58.3%となっており、他学部よりも高い。

### (1) 授業外学修時間の長い学生の特徴

#### 【授業の予習・復習について】



・Q1「授業の予習・復習に費やす時間について、1週間当たりの合計時間はどのくらいですか。」において、1週間当たりの合計時間が15時間以上の学生は全体で35名（2.6%）となっている。

・学科別の結果を見ると、情報表現学科が4名(学科の0.9%)、音楽表現学科が9名(学科の8.8%)、音楽応用学科が2名(学科の1.6%)、舞台表現学科が3名(学科の6.5%)、総合政策学科が8名(学科の4.5%)、スポーツマネジメント学科が9名(学科の2.2%)となっている。

・1週間当たりの学修時間が15時間以上の学生のうち、Q4「入学してから現在まで、授業や授業中の学修に関連して、あなたが多く経験したことがある項目を選んでください。(複数回答可)」において、回答した学生の割合が高かった項目は、「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」が22名(62.9%)、「課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された」が20名(57.1%)、「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」が20名(57.1%)、「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」が18名(51.4%)となっている。

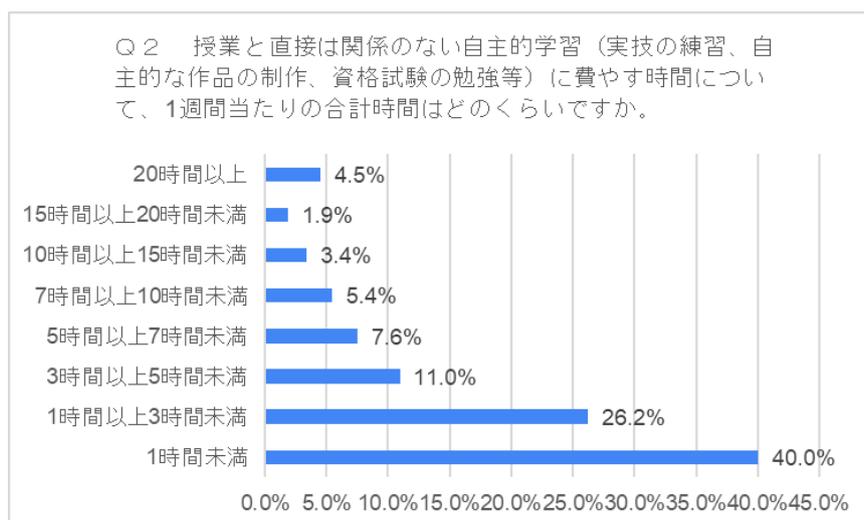
・学科別に見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科が「一人でプレゼンテーション(実技を含む)をする機会があった」「課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された」「自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた」、「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」、音楽表現学科が「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」「一人でプレゼンテーション(実技を含む)をする機会があった」「自らの適性にあった指導を教員から受けることができた」「自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた」「実社会に関わる内容を学ぶことができた」「授業に関連する事項について、教員に気軽に質問できた」「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」、音楽応用学科が「自らの適性にあった指導を教員から受けることができた」「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」、舞台表現学科が「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」、総合政策学科が「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」「一人でプレゼンテーション(実技を含む)をする機会があった」「課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された」「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」、スポーツマネジメント学科が「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」となっている。

(授業外学修時間が長い学生が経験した主な事項)

授業外学修時間が長い学生が経験した主な事項	
大学全体	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった 課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された 授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった 理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
情報表現学科	一人でプレゼンテーション（実技を含む）をする機会があった 課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された 自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた 授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった 理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
音楽表現学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった 一人でプレゼンテーション（実技を含む）をする機会があった 自らの適性にあった指導を教員から受けることができた 自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた 実社会に関わる内容を学ぶことができた 授業に関連する事項について、教員に気軽に質問できた 授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった 理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
音楽応用学科	自らの適性にあった指導を教員から受けることができた 理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
舞台表現学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった
総合政策学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった 一人でプレゼンテーション（実技を含む）をする機会があった 課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された 授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった
スポーツマネジメント学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった

・また、1週間当たりの学修時間が15時間以上の学生のうち、Q10「現時点で、本学への入学を後輩や知人等に勧めたいと思いますか。」において「強く思う」と回答した学生は19名（54.3%）、Q8「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。」において「強く思う」と回答した学生は25名（71.4%）となっている。

## 【授業と直接は関係のない自主的学習について】



・Q2「授業と直接は関係のない自主的学習（実技の練習、自主的な作品の制作、資格試験の勉強等）に費やす時間について、1週間当たりの合計時間はどのくらいですか。」において、1週間当たりの合計時間が15時間以上の学生は全体で84名（6.4%）となっている。

・学科別に見ると、情報表現学科が25名（学科の5.5%）、音楽表現学科が21名（学科の20.6%）、音楽応用学科が7名（学科の5.8%）、舞台表現学科が8名（学科の17.4%）、総合政策学科が11名（学科の6.2%）、スポーツマネジメント学科が12名（学科の2.9%）となっている。

・1週間当たりの自主的学習時間が15時間以上の学生のうち、Q4「入学してから現在まで、授業や授業中の学修に関連して、あなたが多く経験したことがある項目を選んでください。（複数回答可）」において、回答した学生の割合が高かった項目は、「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」が47名（56.0%）、「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」が46名（54.8%）、「課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された」が46名（54.8%）、「自らの適性にあった指導を教員から受けることができた」が45名（53.6%）となっている。

・学科別に見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科が「課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された」、音楽表現学科が「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」「一人でプレゼンテーション（実技を含む）をする機会があった」「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」、音楽応用学科が「自らの適性にあった指導を教員から受けることができた」「授業に関連する事項について、教員に気軽に質問できた」「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」、舞台表現学科が「自らの適性にあった指導を教員から受けることができた」「自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた」、総合政策学科が「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」、スポーツマネジメント学科が「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」となっている。

(授業と直接は関係のない自主的学習時間が長い学生が経験した主な事項)

授業と直接は関係のない自主的学習時間が長い学生が経験した主な事項	
大学全体	理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった 課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された 自らの適性にあった指導を教員から受けることができた
情報表現学科	課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された
音楽表現学科	自らの適性にあった指導を教員から受けることができた 授業に関連する事項について、教員に気軽に質問できた 理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
音楽応用学科	自らの適性にあった指導を教員から受けることができた 授業に関連する事項について、教員に気軽に質問できた 理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
舞台表現学科	自らの適性にあった指導を教員から受けることができた 自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた
総合政策学科	授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった
スポーツマネジメント学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった

・また、1週間当たりの自主的学習時間が15時間以上の学生のうち、Q10「現時点で、本学への入学を後輩や知人等に勧めたいと思いますか。」において、「強く思う」と回答した学生は29名（34.5%）、Q8「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。」において「強く思う」と回答した学生は52名（61.9%）となっている。

(2) 授業外学修時間が短い学生の特徴

【授業の予習・復習について】

- ・Q1「授業の予習・復習に費やす時間について、1週間当たりの合計時間はどのくらいですか。」において、1週間当たりの合計時間が1時間未満の学生は全体で454名（34.6%）となっている。
- ・学科別に見ると、情報表現学科が134名（学科の29.6%）、音楽表現学科が18名（学科の17.6%）、音楽応用学科が29名（学科の24.0%）、舞台表現学科が16名（学科の34.8%）、総合政策学科が52名（学科の29.2%）、スポーツマネジメント学科が205名（学科の49.8%）となっている。
- ・また、1週間当たりの学修時間が1時間未満の学生のうち、Q10「現時点で、本学への入学を後輩や知人等に勧めたいと思いますか。」において、「強く思う」と回答した学生は85名（18.7%）、Q8「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。」において「強く思う」と回答した学生は139名（30.6%）となっている。

【授業と直接は関係のない自主的学習について】

- ・Q2「授業と直接は関係のない自主的学習（実技の練習、自主的な作品の制作、資格試験の勉強等）に費やす時間について、1週間当たりの合計時間はどのくらいですか。」において、1週間当たりの合計時間が1時間未満の学生は525名（40.0%）となっている。
- ・学科別に見ると、情報表現学科が155名（学科の34.3%）、音楽表現学科が12名（学科の11.8%）、音楽応用学科が36名（学科の29.8%）、舞台表現学科が9名（学科の19.6%）、総合政策学科が73名

(学科の 41.6%)、スポーツマネジメント学科が 240 名 (学科の 58.3%) となっている。

・また、1 週間当たりの自主的学習時間が 1 時間未満の学生のうち、Q10「現時点で、本学への入学を後輩や知人等に勧めたいと思いますか。」において、「強く思う」と回答した学生は 29 名 (34.5%)、Q8「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。」において「強く思う」と回答した学生は 150 名 (28.6%) となっている。

## 6. 学修成果の達成度及び入学時からの成長度の状況

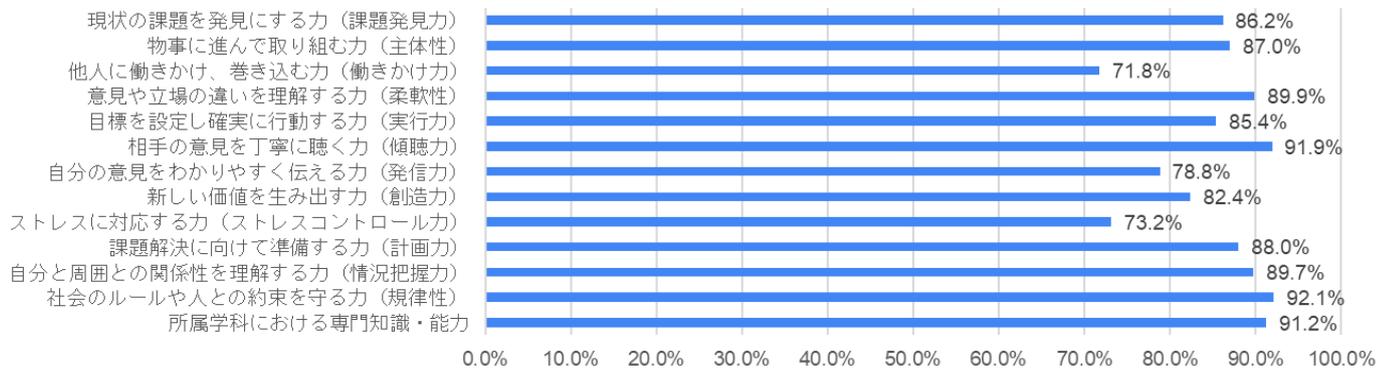
＜令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケートの集計結果に基づく＞

### 【概略】

- ・ 学生が身に付けることができたと感じていると回答した能力のうち多かったのは「規律性」(92.1%)と「傾聴力」(91.9%)。  
 ▶後述の企業等アンケートにおいて企業等が新卒者に求めている能力と合致し、この点について本学の教育成果は社会からのニーズを満たしているといえる。
- ・ 学生が身に付けることができていないと回答した能力のうち多かったのは「働きかけ力」(28.2%)、「ストレスコントロール力」(26.8%)、「発信力」(21.2%)。
- ・ 学生が身につける必要性が高いと回答した能力は、「実行力」(97.3%)、「計画力」(96.9%)、「社会のルールや人との約束を守る力(規律性)」(96.6%)、「発信力」(96.6%)。
- ・ 学生が身につけられていないが、身につける必要性が高いと感じている能力は「発信力」。
- ・ 入学時と比べて自分自身が成長したと思うと回答した学生は1,170名(89.2%)。
- ・ 成長実感のある学生が授業に関連して多く経験した項目は、「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」が572名(48.9%)、「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」が519名(44.4%)、「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」が517名(44.2%)であり、これらと学生の成長実感に関連があると思われる。

### (1) 学生が「身につけることができた」と考えている能力・資質

「Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか」における肯定的な回答の割合



・ Q5「現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。」において、「どちらかといえば身につけている」「とてもよく身につけている」と回答した学生の割合が高かった項目は、「社会のルールや人との約束を守る力(規律性)」が1,208名(92.1%)、「相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)」が1,205名(91.9%)、「所属学科における専門知識・能力」が1,196名(91.2%)となっている。

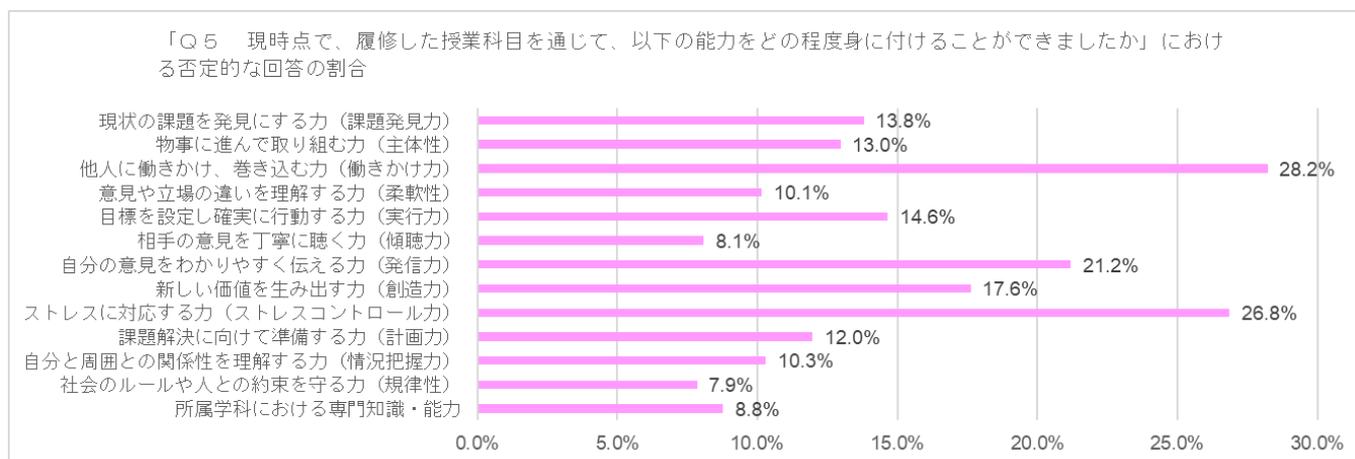
・ 学科別に見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科、音楽応用学科が「相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)」、音楽表現学科が「所属学科における専門知識・能力」、舞台表現学科が「社会のルールや人との約束を守る力(規律性)」「相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)」「意見や立場の違いを理

解する力（柔軟性）」、総合政策学科、スポーツマネジメント学科が「社会のルールや人との約束を守る力（規律性）」となっている。

（学生が身につけられたと感じている主な能力）

学生が身につけられたと感じている主な能力	
大学全体	社会のルールや人との約束を守る力（規律性） 相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力） 所属学科における専門知識・能力
情報表現学科	相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）
音楽表現学科	所属学科における専門知識・能力
音楽応用学科	相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）
舞台表現学科	社会のルールや人との約束を守る力（規律性） 相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力） 意見や立場の違いを理解する力（柔軟性）
総合政策学科	社会のルールや人との約束を守る力（規律性）
スポーツマネジメント学科	社会のルールや人との約束を守る力（規律性）

（2）学生が「身につけられていない」と感じている能力・資質



・Q5「現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。」において、「どちらかと言えば身につけていない」「まったく身につけていない」と回答した学生の割合が高かった項目は、「他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）」が370名（28.2%）、「ストレスに対応する力（ストレスコントロール力）」が352名（26.8%）、「自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）」が278名（21.2%）となっている。

・学科別に見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科、音楽応用学科、スポーツマネジメント学科が「他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）」、音楽表現学科、舞台表現学科が「ストレスに対応する力（ストレスコントロール力）」、総合政策学科が「他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）」、「ストレスに対応する力（ストレスコントロール力）」となっている。

(学生が身につけられていないと感じている主な能力)

学生が身につけられていないと感じている主な能力	
大学全体	他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力） ストレスに対応する力（ストレスコントロール力） 自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）
情報表現学科	他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）
音楽表現学科	ストレスに対応する力（ストレスコントロール力）
音楽応用学科	他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）
舞台表現学科	ストレスに対応する力（ストレスコントロール力）
総合政策学科	他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力） ストレスに対応する力（ストレスコントロール力）
スポーツマネジメント学科	他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）

(3) 学生が「身につける必要がある」と考えている能力・資質

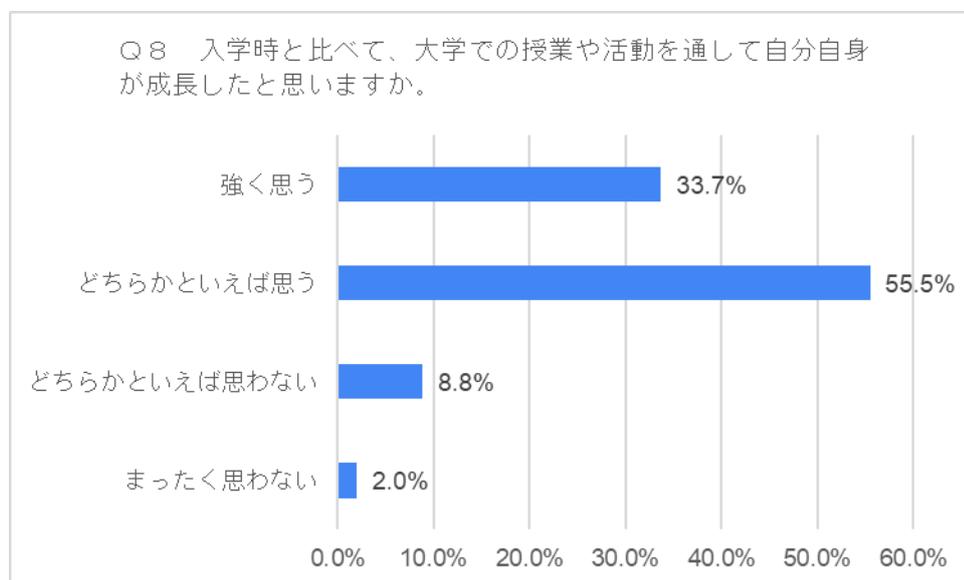
・Q6「あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。」において、「どちらかといえば必要である」「とても必要である」と回答した学生の割合が高かった項目は、「目標を設定し確実に行動する力（実行力）」が1,276名（97.3%）、「課題解決に向けて準備する力（計画力）」が1,271名（96.9%）、「社会のルールや人との約束を守る力（規律性）」、「自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）」がそれぞれ1,266名（96.6%）となっている。

・学科別に見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科が「課題解決に向けて準備する力（計画力）」、音楽表現学科が「課題解決に向けて準備する力（計画力）」「目標を設定し確実に行動する力（実行力）」「物事に進んで取り組む力（主体性）」音楽応用学科が「新しい価値を生み出す力（創造力）」、舞台表現学科が「所属学科における専門知識・能力」、「自分と周囲との関係性を理解する力（状況把握力）」「新しい価値を生み出す力（創造力）」「物事に進んで取り組む力（主体性）」、総合政策学科が「意見や立場の違いを理解する力（柔軟性）」、スポーツマネジメント学科が「所属学科における専門知識・能力」「自分と周囲との関係性を理解する力（状況把握力）」となっている。

(学生が身につける必要があると感じている主な能力)

学生が身につける必要があると感じている主な能力	
大学全体	目標を設定し確実に行動する力(実行力) 課題解決に向けて準備する力(計画力) 社会のルールや人との約束を守る力(規律性) 自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)
情報表現学科	課題解決に向けて準備する力(計画力)
音楽表現学科	課題解決に向けて準備する力(計画力) 目標を設定し確実に行動する力(実行力) 物事に進んで取り組む力(主体性)
音楽応用学科	新しい価値を生み出す力(創造力)
舞台表現学科	所属学科における専門知識・能力 自分と周囲との関係性を理解する力(状況把握力) 新しい価値を生み出す力(創造力) 物事に進んで取り組む力(主体性)
総合政策学科	意見や立場の違いを理解する力(柔軟性)
スポーツマネジメント学科	所属学科における専門知識・能力 自分と周囲との関係性を理解する力(状況把握力)

#### (4) 成長実感が高い学生の特徴



- ・ Q8「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。」において、「どちらかといえば思う」「強く思う」と回答した学生は、1,170名(89.2%)となっている。
- ・ 学科別に見ると、情報表現学科が399名(学科の88.3%)、音楽表現学科が90名(学科の88.2%)、音楽応用学科が107名(学科の88.4%)、舞台表現学科が45名(学科の97.8%)、総合政策学科が151名(学科の84.8%)、スポーツマネジメント学科が378名(学科の91.7%)となっている。

・「どちらかといえば思う」「強く思う」と回答した学生のうち、Q2「現在（卒業直前）のあなたの学修状況についておうかがいします。」において、「当てはまる」「とても当てはまる」と回答した学生の割合が高かった項目は、「授業の課題等はきちんとやった」が1,100名（94.0%）、「興味を持ったことについて自主的に調べた」が1,047名（89.5%）、「授業を毎回出席し教員の話をきちんと聴いていた」が990名（84.6%）となっている。

・また、そのうち、Q4「入学してから現在まで、授業や授業中の学修に関連して、あなたが多く経験したことがある項目を選んでください。（複数回答可）」において、回答した学生の割合が高かった項目は、「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」が572名（48.9%）、「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」が519名（44.4%）、「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」が517名（44.2%）となっている。

・学科別に見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科、音楽応用学科が「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」、音楽表現学科、舞台表現学科、スポーツマネジメント学科が「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」、総合政策学科が「課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された」となっている。

#### （成長実感が高い学生が経験した主な事項）

成長実感が高い学生が経験した主な事項	
大学全体	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった 理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた 授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった
情報表現学科	理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
音楽表現学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった
音楽応用学科	理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
舞台表現学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった
総合政策学科	課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された
スポーツマネジメント学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった

## 7. 希望した就職の実現・キャリア意識の状況

<令和5年度卒業時アンケート・令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケートの集計結果に基づく>

### 【概要】

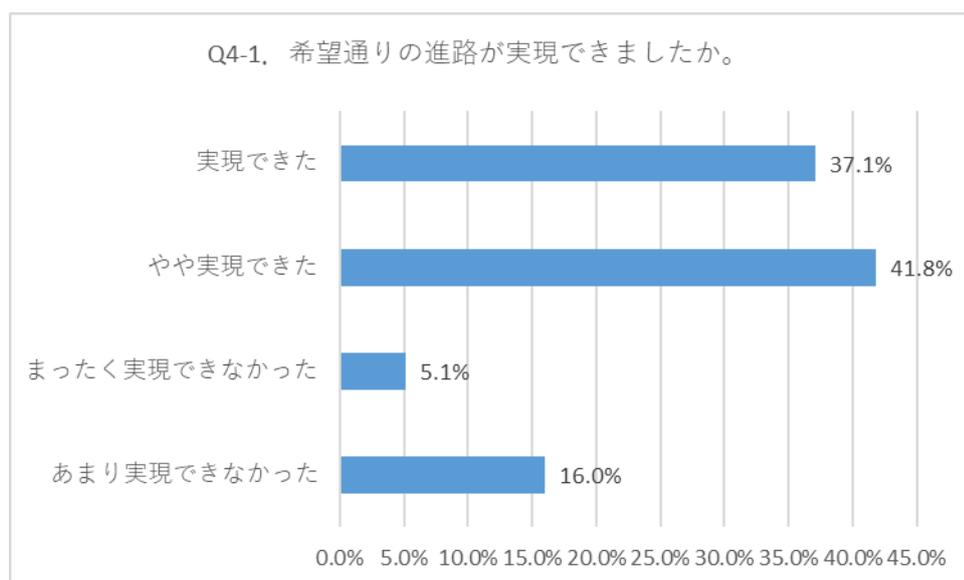
(卒業時)

- ・希望通りの進路が実現できたと回答をした学生は全体で 78.9%であった。学科別に見ると、音楽応用学科が23名(学科の48.9%)で他学科と比べ低く、反対にスポーツマネジメント学科が137名(学科の93.2%)で他学科よりも高い。
- ・卒業後の進路を具体的に考え始めた時期について、最も回答が多かったのは「3年次秋学期」(24.7%)、その次が「4年次秋学期」(22.8%)となっている。

(在学生)

- ・令和6年度在学生について、卒業後の進路について明確な目的意識を持っていると回答した学生は全体で 27.5%であった。学科別の結果を見ると、情報表現学科が83名(学科の18.4%)となっており、他学科より低い。
- ・卒業後の進路について明確な目的意識を持っていると回答した学生の9割以上が入学時よりも自分自身が成長したと実感し、また8割弱が本学を後輩等に推奨したいと思っている。
- ・卒業後の進路について明確な目的意識を持っていると回答した学生のうち、授業に関連して多く経験した項目で回答が多かったのは、「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」(51.1%)、「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」(50.8%)、「自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた」(46.9%)、であり、これらの経験とキャリア意識の醸成との間に関連性があると思われる。

### (1) 希望した就職先に就職できた学生



- ・Q4-1「希望通りの進路が実現できましたか。」において、「やや実現できた」「実現できた」と回答をし

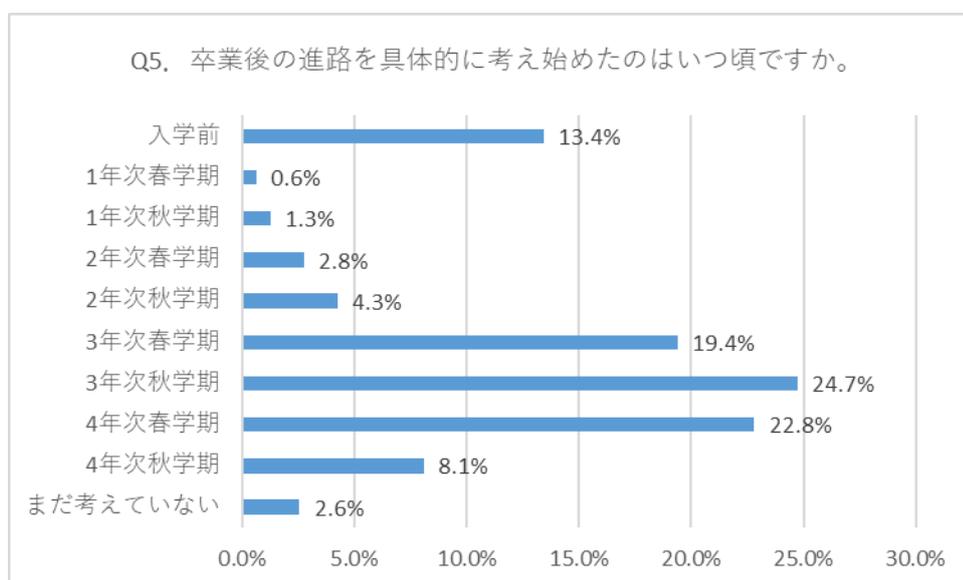
た学生は 370 名 (78.9%) となっている。

・学科別に見ると、情報表現学科が 102 名 (学科の 72.9%)、音楽表現学科が 43 名 (学科の 78.2%)、音楽応用学科が 23 名 (学科の 48.9%)、舞台表現学科が 15 名 (学科の 83.3%)、総合政策学科が 49 名 (学科の 81.7%)、スポーツマネジメント学科が 137 名 (学科の 93.2%) となっている。

・「やや実現できた」「実現できた」と回答をした学生のうち、Q5「卒業後の進路を具体的に考え始めたのはいつ頃ですか。」において、最も回答が多かった時期は「4 年次春学期」の 90 名 (24.3%)、その次に多かった時期は「3 年次秋学期」の 85 名 (23.0%) となっている。

・また、そのうち、Q2「現在 (卒業直前) のあなたの学修状況についておうかがいします。」において、「当てはまる」「とても当てはまる」と回答した学生の割合が高かった項目は、「授業の課題等はきちんとやった」が 316 名 (85.4%)、「興味を持ったことについて自主的に調べた」が 309 名 (83.5%)、「アルバイトを頑張った」が 305 名 (82.4%) となっている。

## (2) キャリア意識の時期が早い学生の特徴



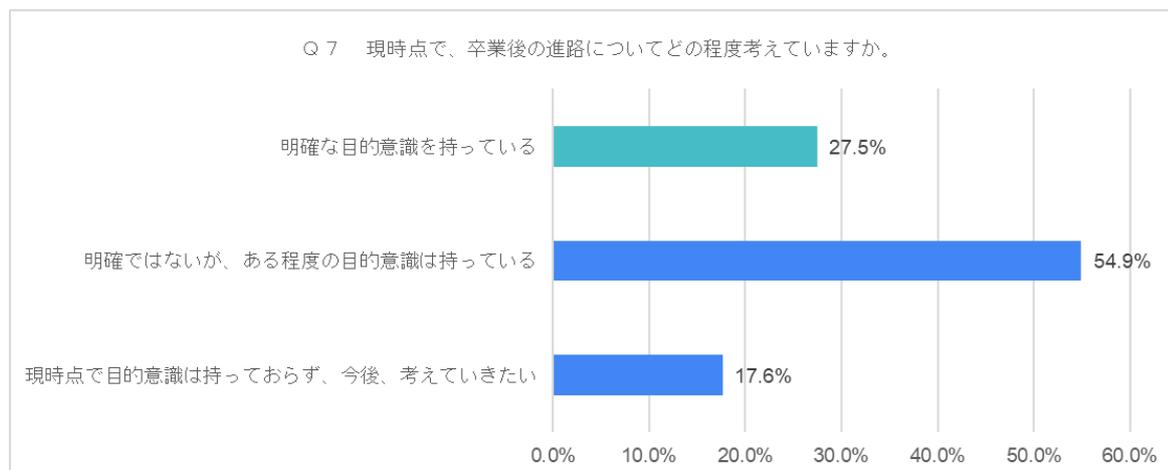
・Q5「卒業後の進路を具体的に考え始めたのはいつ頃ですか。」において、2 年次秋学期以前と回答した学生は 105 名 (22.4%) となっている。

・学科別に見ると、情報表現学科が 24 名 (学科の 17.1%)、音楽表現学科が 13 名 (学科の 23.6%)、音楽応用学科が 11 名 (学科の 23.4%)、舞台表現学科が 5 名 (学科の 27.8%)、総合政策学科が 16 名 (学科の 26.7%)、スポーツマネジメント学科が 34 名 (学科の 23.1%) となっている。

・2 年次秋学期以前と回答した学生のうち、Q3-1「大学の教育内容に満足しましたか。」において、「やや満足した」「大変満足した」と回答した学生は 90 名 (85.7%)、Q4-1「希望通りの進路が実現できましたか。」において、「やや実現できた」「実現できた」と回答をした学生は 84 名 (80.0%) となっている。

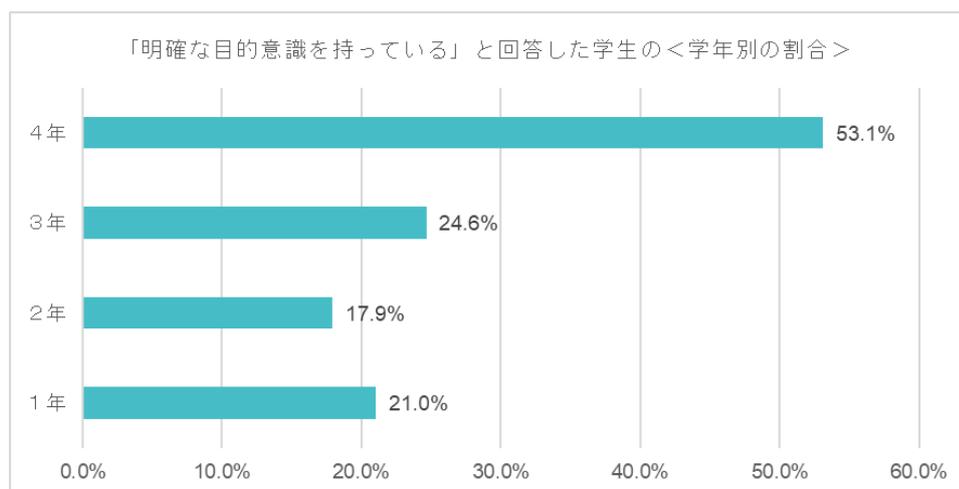
### (3) 在学生のキャリア意識の現状

＜令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケートの集計結果に基づく＞

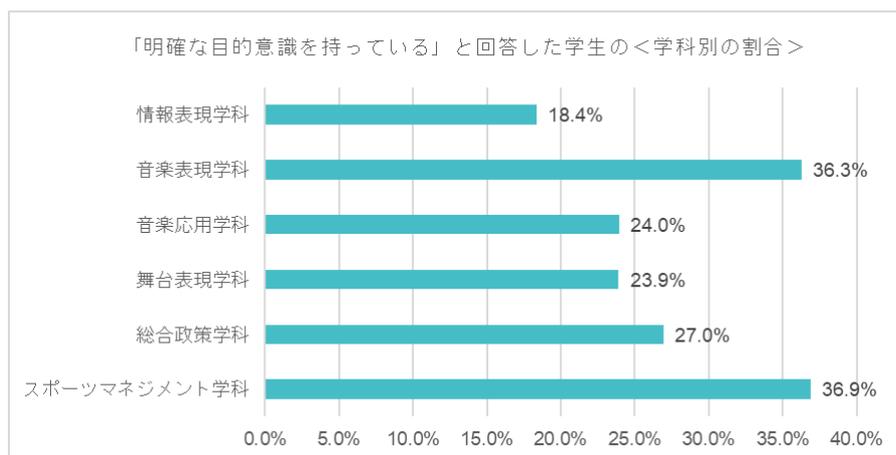


・Q7「現時点で、卒業後の進路についてどの程度考えていますか。」において、「明確な目的意識を持っている」と回答した学生は全体で360名（27.5%）となっている。

・学年別に見ると、1年次生が107名（学年の21.0%）、2年次生が47名（学年の17.9%）、3年次生が70名（学年の24.6%）、4年次生が136名（学年の53.1%）となっている。



・学科別に見ると、情報表現学科が83名（学科の18.4%）、音楽表現学科が37名（学科の36.3%）、音楽応用学科が29名（学科の24.0%）、舞台表現学科が11名（学科の23.9%）、総合政策学科が48名（学科の27.0%）、スポーツマネジメント学科が152名（学科の36.9%）となっている。



・「明確な目的意識を持っている」と回答した学生うち、Q8「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思えますか。」において、「どちらかといえば思う」「強く思う」と回答した学生は 337 名 (93.6%)、Q10「現時点で、本学への入学を後輩や知人等に勧めたいと思えますか。」において「思う」と回答した学生は 286 名 (79.4%) となっている。

・また、そのうち、Q4「入学してから現在まで、授業や授業中の学修に関連して、あなたが多く経験したことがある項目を選んでください。(複数回答可)」において、回答した学生の割合が高かった項目は、「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」が 183 名 (50.8%)、「自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた」が 169 名 (46.9%)、「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」が 184 名 (51.1%) となっている。

・学科別に見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科、音楽応用学科が「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」、音楽表現学科、スポーツマネジメント学科が「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」、舞台表現学科が「グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった」「一人でプレゼンテーション(実技を含む)をする機会があった」「自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた」、総合政策学科が「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」となっている。

(卒業後の進路について明確な目的意識を持っている学生が経験した主な事項)

卒業後の進路について明確な目的意識を持っている学生が経験した主な事項	
大学全体	グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった 自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた 授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった
情報表現学科	理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
音楽表現学科	グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった
音楽応用学科	理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
舞台表現学科	グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった 一人でプレゼンテーション(実技を含む)をする機会があった 自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた
総合政策学科	授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった
スポーツマネジメント学科	グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった

## 8. アクティブ・ラーニングの状況

<令和5年度卒業時アンケート・令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケートの集計結果に基づく>

### 【概略】

(卒業時の学生について)

- ・アクティブ・ラーニングについて肯定的な学生は全体で 50.5%、否定的な学生は全体で 9.0%であった。学科別でみると、肯定的な学生の割合が高いのはスポーツマネジメント学科で 104 名 (学科の 70.7%)、総合政策学科が 37 名 (学科の 61.7%)であった。反対に、肯定的な学生の割合が低いのは、音楽応用学科が 12 名 (学科の 25.5%)であった。
- ・大学教育に対する満足度、希望通りの進路の実現の度合い、GPA のいずれにおいても、アクティブ・ラーニングに肯定的な学生の方がより高い結果を示している。特に、希望通りの進路の実現の度合いについてはアクティブ・ラーニングに肯定的な学生の方が明確に高く、アクティブ・ラーニングは学生のキャリア教育においても一定の意味を有することがうかがえる。

(在学生について)

- ・アクティブ・ラーニングについて肯定的な学生は全体で 56.5%、否定的な学生は 25.9%であった。学科別でみると、肯定的な学生の割合が高いのはスポーツマネジメント学科で 304 名 (学科の 73.8%)、舞台表現学科が 32 名 (学科の 69.6%)であった。反対に、肯定的な学生の割合が低いのは、情報表現学科が 195 名 (学科の 43.1%)であった。
- ・入学してからの成長実感については、アクティブ・ラーニングに肯定的な学生の方が明確に高い。

### (1) アクティブ・ラーニングに肯定的な学生の特徴 (卒業時)

<令和5年度卒業時アンケート>

・Q2「現在 (卒業直前) のあなたの学修状況についておうかがいします。」において、「グループワークやディスカッションに積極的に参加した」「発表やプレゼンテーションを積極的に行った」の双方に「当てはまる」「とても当てはまる」と回答した学生は 237 名 (50.5%) となっている (「アクティブ・ラーニングに肯定的な学生」(卒業時))。

・学科別に見ると、情報表現学科が 55 名 (学科の 39.3%)、音楽表現学科が 23 名 (学科の 41.8%)、音楽応用学科が 12 名 (学科の 25.5%)、舞台表現学科が 5 名 (学科の 27.8%)、総合政策学科が 37 名 (学科の 61.7%)、スポーツマネジメント学科が 104 名 (学科の 70.7%) となっている。

・アクティブ・ラーニングに肯定的な学生 (卒業時) のうち、Q3-1「大学の教育内容に満足しましたか。」において、「やや満足した」「大変満足した」と回答した学生は 212 名 (89.5%) であり、Q4-1「希望通りの進路が実現できましたか。」において、「やや実現できた」「実現できた」と回答した学生は 210 名 (88.6%) となっている。

・アクティブ・ラーニングに肯定的な学生 (卒業時) の GPA (令和5年度単年度) の平均は 2.71 となっている。

(2) アクティブ・ラーニングに肯定的な学生の特徴（在学時）

<学修時間・学修行動に関するアンケートの集計結果に基づく>

・Q3「現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。」において、「グループワークやディスカッションに積極的に参加した」「発表やプレゼンテーションを積極的に行った」の双方に「当てはまる」「とても当てはまる」と回答した学生は741名（56.5%）となっている（「アクティブ・ラーニングに肯定的な学生」（在学学生））。

・学科別に見ると、情報表現学科が195名（学科の43.1%）、音楽表現学科が66名（64.7%）、音楽応用学科が59名（学科の48.8%）、舞台表現学科が32名（学科の69.6%）、総合政策学科が85名（学科の47.8%）、スポーツマネジメント学科が304名（学科の73.8%）となっている。

・アクティブ・ラーニングに肯定的な学生（在学学生）について、Q4「入学してから現在まで、授業や授業中の学修に関連して、あなたが多く経験したことがある項目を選んでください。（複数回答可）」において、回答した学生の割合が高かった項目は、「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」が447名（60.3%）、「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」が391名（52.8%）、「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」が337名（45.5%）となっている。

・学科別に見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科、音楽表現学科、舞台表現学科、スポーツマネジメント学科が「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」、音楽応用学科、総合政策学科が「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」となっている。

・アクティブ・ラーニングに肯定的な学生（在学時）のうち、Q8「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。」において、「どちらかといえば思う」「強く思う」と回答した学生は703名（53.6%）となっている。

・アクティブ・ラーニングに肯定的な学生（在学時）のGPA（令和6年度春学期）の平均は2.60となっている。

(アクティブ・ラーニングに肯定的な学生が経験した主な事項)

アクティブ・ラーニングに肯定的な学生が経験した主な事項	
大学全体	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった 授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった 理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
情報表現学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった
音楽表現学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった
音楽応用学科	授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった
舞台表現学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった
総合政策学科	授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった
スポーツマネジメント学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった

### (3) アクティブ・ラーニングに否定的な学生の特徴（卒業時）

＜令和5年度卒業時アンケート＞

・Q2「現在（卒業直前）のあなたの学修状況についておうかがいします。」において、「グループワークやディスカッションに積極的に参加した」「発表やプレゼンテーションを積極的に行った」の双方に「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と回答した学生は 42名（9.0%） となっている（「アクティブ・ラーニングに否定的な学生」（卒業時））。

・学科別の結果を見ると、情報表現学科が18名（学科の12.9%）、音楽表現学科が5名（学科の9.1%）、音楽応用学科が10名（学科の21.3%）、総合政策学科が3名（学科の5.0%）、スポーツマネジメント学科が6名（学科の4.1%）となっている。舞台表現学科にはアクティブ・ラーニングに否定的な回答をした学生はいなかった。

・アクティブ・ラーニングに否定的な学生（卒業時）のうち、Q3-1「大学の教育内容に満足しましたか。」において、「やや満足した」「大変満足した」と回答した学生は 35名（83.3%） であり、Q4-1「希望通りの進路が実現できましたか。」において、「やや実現できた」「実現できた」と回答した学生は 18名（42.9%） となっている。

・アクティブ・ラーニングに否定的な学生（卒業時）の GPA（令和5年度単年度）の平均は2.37 となっている。

### (4) アクティブ・ラーニングに否定的な学生の特徴（在学時）

・Q3「現在のあなたの学修状況についておうかがいいたします。」において、「グループワークやディスカッションに積極的に参加した」「発表やプレゼンテーションを積極的に行った」の双方に「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と回答した学生は 339名（25.9%） となっている（「アクティブ・ラーニングに否定的な学生」（在学時））。

・学科別に見ると、情報表現学科が154名（学科の34.1%）、音楽表現学科が21名（20.6%）、音楽応用学科が43名（学科の35.5%）、舞台表現学科が46名（学科の19.6%）、総合政策学科が55名（学科の30.9%）、スポーツマネジメント学科が57名（学科の13.8%）となっている。

・アクティブ・ラーニングに否定的な学生（在学時）のうち、Q8「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。」において、「どちらかといえば思う」「強く思う」と回答した学生は 259名（19.8%） となっている。

・アクティブ・ラーニングに否定的な学生（在学時）の GPA（令和6年度春学期）の平均は2.40 となっている。

## 9. 学生の主体的学修態度の状況

<令和5年度卒業時アンケート・令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケートの集計結果に基づく>

### 【概略】

(卒業時の学生について)

- ・主体的学修態度を有する学生の割合は全体で 64.4%、有さない学生の割合は 2.1%であった。学科別にみると、主体的学修態度を有する学生の割合が高いのはスポーツマネジメント学科 105名 (学科の71.4%)、反対に、低いのは舞台表現学科 5名 (学科の27.8%)であった。
- ・大学教育に対する満足度、希望通りの進路の実現の度合い、GPAのいずれにおいても、主体的学修態度を有する学生の方がより高い結果を示している。特に、希望通りの進路の実現の度合いについては主体的学修態度を有する学生の方が明確に高く、学生のキャリア教育においても学業に対する主体性の重要度がうかがえる。

(在学学生について)

- ・主体的学修態度を有する学生の割合は全体で 65.5%、有さない学生の割合は 9.3%であった。
- ・入学時からの成長実感、GPAのいずれにおいても、主体的学修態度を有する学生の方がより高い結果を示している。

### (1) 主体的学修態度を有する学生の特徴 (卒業時)

<令和5年度卒業時アンケート>

・Q2「現在 (卒業直前) のあなたの学修状況についておうかがいします。」において、「わからないことを放置することなく、すぐに教員に質問するなどの対応をした」「興味を持ったことについて自主的に調べた」の双方に「当てはまる」「とても当てはまる」と回答した学生は 302名 (64.4%) となっている (「主体的学修態度を有する学生」(卒業時))。

・学科別に見ると、情報表現学科が 91名 (学科の65.0%)、音楽表現学科が 35名 (63.6%)、音楽応用学科が 26名 (55.3%)、舞台表現学科が 5名 (学科の27.8%)、総合政策学科が 39名 (学科の65.0%)、スポーツマネジメント学科が 105名 (学科の71.4%) となっている。

・主体的学修態度を有する学生 (卒業時) のうち、Q3-1「大学の教育内容に満足しましたか。」において、「やや満足した」「大変満足した」と回答した学生は 274名 (90.7%) であり、Q4-1「希望通りの進路が実現できましたか。」において、「やや実現できた」「実現できた」と回答した学生は 253名 (83.8%) となっている。

・主体的学修態度を有する学生 (卒業時) の GPA (令和5年度単年度) の平均は2.69 となっている。

### (2) 主体的学修態度を有する学生の特徴 (在学時)

<令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケートの集計結果に基づく>

・Q2「現在のあなたの学修状況についておうかがいいたします。」において、「わからないことを放置することなく、すぐに教員に質問するなどの対応をした」「興味を持ったことについて自主的に調べた」の双方に「当てはまる」「とても当てはまる」と回答した学生は 859名 (65.5%) となっている (「主体的学修態度を有する学生」(在学時))。

・学科別に見ると、情報表現学科が292名（学科の64.6%）、音楽表現学科が72名（70.6%）、音楽応用学科が88名（学科の72.7%）、舞台表現学科が25名（学科の54.3%）、総合政策学科が114名（学科の64.0%）、スポーツマネジメント学科が268名（学科の65.0%）となっている。

・主体的学修態度を有する学生（卒業時）のうち、Q4「入学してから現在まで、授業や授業中の学修に関連して、あなたが多く経験したことがある項目を選んでください。（複数回答可）」において、回答した学生の割合が高かった項目は「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」（48.7%）、「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」（48.4%）、「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」（47.0%）」となっている。

・学科別に見ると、最も回答数が多かった項目は、情報表現学科、音楽応用学科が「理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた」、音楽表現学科、舞台表現学科、スポーツマネジメント学科が「グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった」、総合政策学科が「課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された」「授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった」となっている。

・主体的な学修態度を有する学生（在学時）のうち、Q8「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。」において、「どちらかといえば思う」「強く思う」と回答した学生は808名（94.1%）となっている。

・主体的な学修態度を有する学生（在学時）のGPA（令和6年度春学期）の平均は2.63となっている。

（主体的学修態度を有する学生が経験した主な事項）

主体的学修態度を有する学生が経験した主な事項	
大学全体	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった 授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった 理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
情報表現学科	理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
音楽表現学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった
音楽応用学科	理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた
舞台表現学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった
総合政策学科	課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された 授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった
スポーツマネジメント学科	グループワークで協力し合い、成果物（実技を含む）を発表する機会があった

（3）主体的学修態度を有さない学生の特徴（卒業時）

＜令和5年度卒業時アンケート＞

・Q2「現在（卒業直前）のあなたの学修状況についておうかがいします。」において、「わからないことを放置することなく、すぐに教員に質問するなどの対応をした」「興味を持ったことについて自主的に調べた」の双方に「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と回答した学生は10名（2.1%）となっている（「主体的学修態度を有さない学生」（卒業時））。

・学科別に見ると、情報表現学科が2名（学科の1.4%）、音楽応用学科が3名（学科の6.4%）、総合政策学科が1名（学科の1.7%）、スポーツマネジメント学科が4名（学科の2.7%）となっている。音

楽表現学科・舞台表現学科には主体的学修態度について否定的な回答をした学生はいなかった。

・主体的学修態度を有さない学生（卒業時）の GPA（令和5年度単年度）の平均は2.24 となっている。

#### （4）主体的学修態度を有さない学生の特徴（在学時）

＜令和6年度学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケートの集計結果に基づく＞

・Q2「現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。」において、「わからないことを放置することなく、すぐに教員に質問するなどの対応をした」「興味を持ったことについて自主的に調べた」の双方に「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と回答した学生は122名（9.3%）となっている（「主体的学修態度を有さない学生」（在学時））。

・学科別に見ると、情報表現学科が35名（学科の7.7%）、音楽表現学科が9名（8.8%）、音楽応用学科が6名（学科の5.0%）、舞台表現学科が3名（学科の6.5%）、総合政策学科が19名（学科の10.7%）、スポーツマネジメント学科が50名（学科の12.1%）となっている。

・主体的な学修態度を有する学生（在学時）のうち、Q8「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。」において、「どちらかといえば思う」「強く思う」と回答した学生は86名（70.5%）となっている。

・主体的な学修態度を有さない学生（在学時）の GPA（令和6年度春学期）の平均は2.24 となっている。

## 10. 卒業生が就職した企業が求める新卒者の持つべき能力・資質

<令和6年度実施 就職先企業等アンケートに基づく>

### 【概略】

- ・企業等の卒業生に対する満足度は非常に高く、企業等が重視している能力として多くの回答があったのは「規律性」が103社（65.6%）、「傾聴力」が84社（53.4%）、「状況把握力」が83社（52.9%）。
  - ・企業等が本学学生にもっと身につけてほしい能力は、「主体性」が57社（36.3%）、「発信力」が50社（31.8%）、「働きかけ力」が38社（24.2%）。
- ➡社会からのニーズという観点から、学生の主体性の重要度がうかがえる。

### （1）卒業生に対する企業からの評価

- ・Q3「本学の卒業生は、貴社（団体）のニーズにえていますか」において、「どちらかといえば答えている」「十分応えている」と回答した企業等は156社（99.4%）となっている。

### （2）企業が重視している能力

- ・Q4「貴社（団体）が採用時に特に重視している能力を選んでください」において、回答した企業等の割合が高かった項目は、「社会のルールや人との約束を守る力（規律性）」が103社（65.6%）、「相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）」が84社（53.4%）、「自分と周囲との関係性を理解する力（状況把握力）」が83社（52.9%）となっている。

### （3）卒業生にもっと身につけてほしい能力・資質

- ・Q5「貴社（団体）が本学の卒業生にもっと身につけてほしい（伸ばしてほしい）と感じる能力を選んでください」において、回答した企業等の割合が高かった項目は、「物事に進んで取り組む力（主体性）」が57社36.3%、「自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）」が50社（31.8%）、「他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）」が38社（24.2%）となっている。

## 11. 卒業後の状況 ※参考値として記載

<令和6年度実施 卒業後アンケートに基づく>

### （1）卒業生の現在の業種（在学時の所属学科ごと）

- ・情報表現学科：情報・通信（1名）
- ・音楽表現学科：楽器・音楽教室（1名）、公務員・団体・教育機関（2名）、金融（1名）、その他（2名）
- ・音楽応用学科：音楽・芸能（1名）、公務員・団体・教育機関（2名）
- ・舞台表現学科：レジャー・ホテル（1名）、その他（1名）
- ・ライフマネジメント学科：スポーツ（1名）

(2) 卒業生が在学中に身につけた能力

・Q4「次の能力について、在学中にどの程度、身につけることができた（伸ばすことができた）と思いますか」において、「とても身についた」と回答した卒業生の割合が高かった項目は、「意見や立場の違いを理解する力（柔軟性）」が9名、「所属学科における専門知識・能力」が8名、「自分と周囲との関係性を理解する力（状況把握力）」「目標を設定し確実に行動する力（実行力）」がそれぞれ7名となっている。

(3) 卒業生が必要だと考えている能力・資質

・Q5「社会人になったあなたにとって、次の能力は必要だと思いますか」において、「とても必要だと思う」と回答した卒業生の割合が高かった項目は、「社会のルールや人との約束を守る力（規律性）」「自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）」「相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）」がそれぞれ12名、「課題解決に向けて準備する力（計画力）」「意見や立場の違いを理解する力（柔軟性）」「物事に進んで取り組む力（主体性）」がそれぞれ10名となった。

・Q6「在学中に取得（勉強）しておけばよかったと感じる資格等があれば、選んでください」において卒業生が回答した資格は下記のとおりとなっている。

ビジネス能力検定、知的財産管理技能士、MOS、日商簿記、TOEIC、ファイナンシャルプランナー秘書検定、ビジネス実務法務検定、ITパスポート試験、秘書検定、小学校教員免許、法学検定

以上

(参考)

2024年度「学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート」に係る

「CS分析」「因子分析」の分析結果について

大学戦略・IR室

(分析の概要)

「第Ⅱ章 各種アンケートの分析結果」においては各種アンケートについて主にクロス集計を用いた分析を実施しているが、本項では、2024年度「学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート」について別途より統計的に分析を実施した結果を記載する。

分析の前提として、アンケートの設問であるQ1～Q11（別紙1）について、データ間の関連性（相関関係）の強さを示す指標である相関係数を算出したところ、全体として著しく強い相関性をもったデータはない（別紙2）。しかしながら、学生の回答にはある一定の傾向があり、今後本学が取り組むべき事項に係る検討の材料とすべく、「CS分析」「因子分析」を実施した結果、以下の結論を得た。

- ・学生の「成長実感」を伸長するためには、学生の学修行動において「能動的・主体的な行動」を促す仕組みについて取り組むべきであり、例えばアクティブ・ラーニング等を推進していくことなどがより有効的な取組ではないか。
- ・「課題発見・解決力」の伸長は重視すべき事項であり、例えばPBL（課題解決型学習）等を推進していくことなどがより有効的な取組ではないか。

分析の詳細については以下のとおりとなっている。

#### 分析① CS分析について

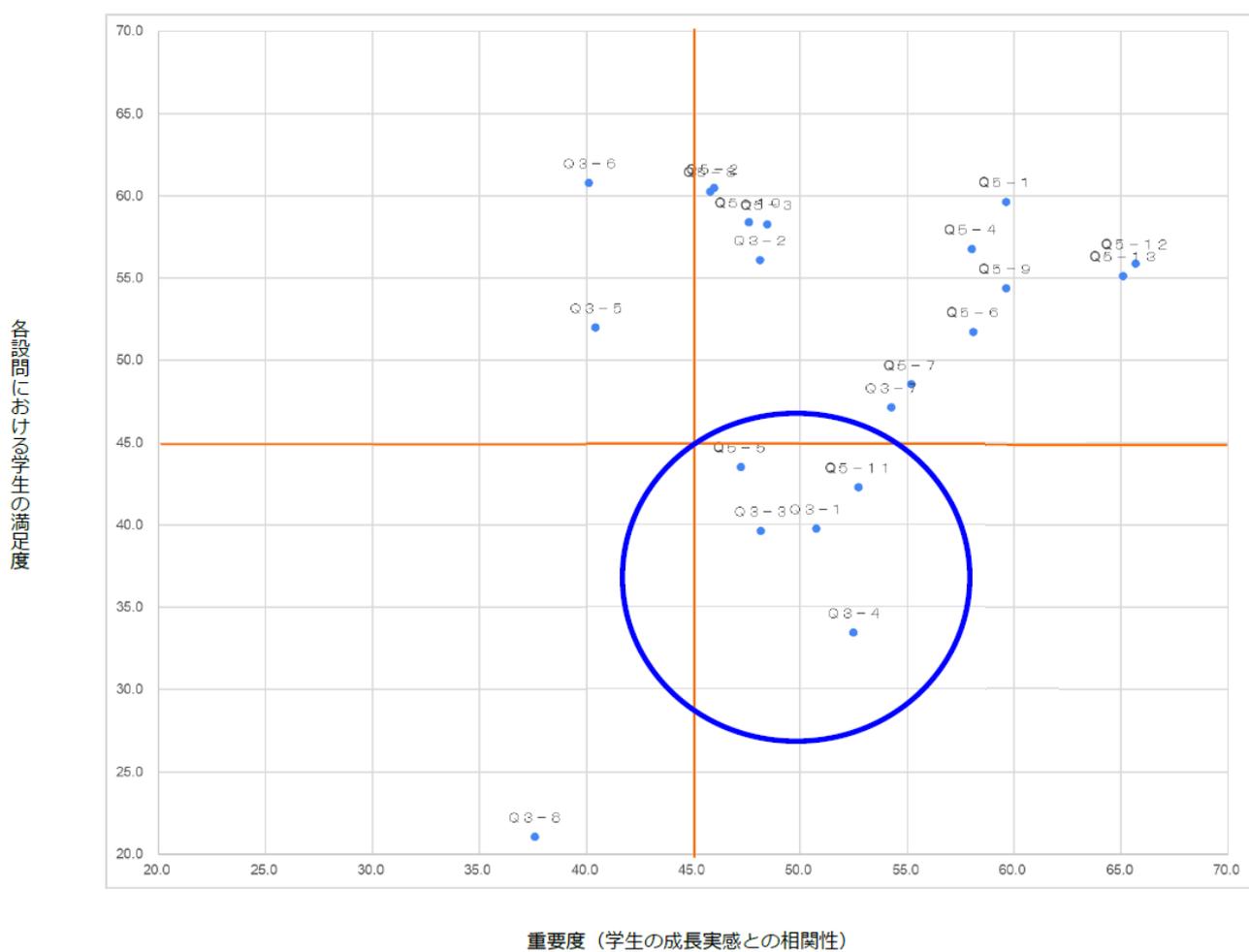
分析にあたって、学生自身の「成長実感」が分析のキーとなる設問のひとつであると考え。そこで学生自身の「成長実感」に係る設問であるQ8「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。」をキーとして、CS分析（Customer Satisfaction分析。顧客のSatisfactionを向上させるためにどのような改善要素があるかを図る分析）を行い、縦軸を「満足度」、横軸を「Q8との相関性」として、Q3およびQ5の分布について「CSグラフ」として表した（図1、別紙3）。

具体的には、Q3「現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。」（学修行動に係る設問）およびQ5「現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。」（学修成果に係る設問）に対する回答と、Q8に対する回答の相関性等を分析し、学生の「成長実感」を向上させるために優先すべき要素について検討を行う。まず、Q3およびQ5の各設問における肯定的な回答の割合（「3」および「4」）を算出し（これを学生の「満足度」とする）、この

「満足度」について、Q 3およびQ 5の各設問における偏差値を算出した。さらに、Q 3およびQ 5の各設問とQ 8の相関係数（Q 3およびQ 5の各設問に対する回答と、Q 8に対する回答の間に、どの程度の相関関係があるか）を算出し、この相関係数について、Q 3およびQ 5の各設問における偏差値を算出した（別紙4）。

このCSグラフにおいては、縦軸において座標が上にあるほど当該の設問に対する満足度が高く、横軸において座標が右にあるほどQ 8との相関性が高い（「成長実感」との関係性が深い）こととなる。つまり、CSグラフ上で、縦軸の座標が下にあり且つ横軸の座標が右にある事項は、学生の「成長実感」と相関性が高いにも関わらず学生の「満足度」が低い、ということとなり、学生の「成長実感」を伸長するために優先的に取り組むべき事項ということとなる。

(図1 学生の成長実感に係るCSグラフ)



<学生の「成長実感」を伸長するために優先的に取組が求められる設問>

- Q 3-1 「わからないことを放置することなく、すぐに教員に質問するなどの対応をした」
- Q 3-3 「グループワークやディスカッションに積極的に参加した」
- Q 3-4 「発表やプレゼンテーションを積極的に行った」
- Q 5-5 「ストレスに対応する力（ストレスコントロール力）」
- Q 5-11 「他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）」

上記結果を踏まえると、特に学修行動を表すQ 3について、学生の能動的・主体的な行動が重要となっていることがわかる。よって、学生の「成長実感」を伸長するためには、学生の学修行動において「能動的・主体的な行動」を促す仕組みについて取り組むべきであり、例えばアクティブ・ラーニング等を推進していくことなどがより有効的な取組ではないか。

## 分析② 因子分析について

Q 1～Q 11について相関係数を算出したところ（別紙2）、Q 5「現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。」（学修成果に係る設問）の設問間およびQ 6「あなたが卒業するまでに、以下の能力を身に付ける必要性について、どのように考えますか。」の設問間においては、ある程度の相関性があることがわかる（相関係数が0.4以上は青字にて表記）。

そこでQ 5の設問間およびQ 6の設問間において、因子分析（データ群に存在している共通の要因（因子）を発見するための分析）を行った（因子の個数を5つとした場合。別紙5）。分析の結果、Q 5・Q 6において最も関連性が強いのは以下の設問同士となった。

<Q 5において最も関連性が強い設問>

- Q 5-12 「物事に進んで取り組む力（主体性）」
- Q 5-13 「現状の課題を発見にする力（課題発見力）」
- Q 5-4 「課題解決に向けて準備する力（計画力）」
- Q 5-9 「目標を設定し確実に行動する力（実行力）」
- Q 5-1 「所属学科における専門知識・能力」

<Q 6において最も関連性が強い設問>

- Q 6-11 「他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）」
- Q 6-13 「現状の課題を発見にする力（課題発見力）」
- Q 6-12 「物事に進んで取り組む力（主体性）」
- Q 6-9 「目標を設定し確実に行動する力（実行力）」
- Q 6-7 「自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）」

上記の結果を踏まえると、Q5・Q6において共通する設問は「主体性」「課題発見力」「実行力」についてであり、Q5・Q6ともに、課題発見・解決力に係る設問における関連性が強いといえる（課題発見・解決力因子）。

このことから、学生が身に付けたと感じている能力、これから身に付ける必要があると感じている能力、どちらの側面からしても「課題発見・解決力」に関する能力は関連性を持った重要な因子であることがわかる。よって「課題発見・解決力」の伸長は、次年度のカリキュラム等においても重視すべき事項であり、例えばPBL（課題解決型学習）等を推進していくことなどがより有効的な取組ではないか。

以上

【別紙1】2024年度「学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート」設問

Q 1	授業の予習・復習に費やす時間について、1週間当たりの合計時間はどのくらいですか。
Q 2	授業と直接は関係のない自主的学習（実技の練習、自主的な作品の制作、資格試験の勉強等）に費やす時間について、1週間当たりの合計時間はどのくらいですか。
Q 3-1	現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[わからないことを放置することなく、すぐに教員に質問するなどの対応をした]
Q 3-2	現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[興味を持ったことについて自主的に調べた]
Q 3-3	現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[グループワークやディスカッションに積極的に参加した]
Q 3-4	現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[発表やプレゼンテーションを積極的に行った]
Q 3-5	現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[授業を毎回出席し教員の話をきちんと聴いていた]
Q 3-6	現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[授業の課題等はきちんとやった]
Q 3-7	現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[期末試験等の前は計画的に準備をした]
Q 3-8	現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[サークル活動に積極的に参加した]
Q 3-9	現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[アルバイトを頑張った]
Q 4	入学してから現在まで、授業や授業中の学修に関連して、あなたが多く経験したことがある項目を選んでください。（複数回答可） 授業中に自分の考えや意見を発言する機会があった／グループワークで協力し合い、成果物(実技を含む)を発表する機会があった／一人でプレゼンテーション(実技を含む)をする機会があった／課題や提出物に教員からのコメントが付されて返却された／自らの適性にあった指導を教員から受けることができた／授業に関連する事項について、教員に気軽に質問できた／自分自身の卒業後のキャリアなど、自分がやりたいことについて考えることができた／実社会に関わる内容を学ぶことができた／理論だけではなく、将来に役に立つ実践的な知識や技能を学ぶことができた 資格取得に役立つ情報や具体的な方法等について学ぶことができた
Q 5-1	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[所属学科における専門知識・能力]
Q 5-2	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[社会のルールや人との約束を守る力（規律性）]
Q 5-3	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[自分と周囲との関係性を理解する力（状況把握力）]
Q 5-4	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[課題解決に向けて準備する力（計画力）]
Q 5-5	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[ストレスに対応する力（ストレスコントロール力）]
Q 5-6	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[新しい価値を生み出す力（創造力）]
Q 5-7	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）]
Q 5-8	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）]
Q 5-9	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[目標を設定し確実に行動する力（実行力）]
Q 5-10	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[意見や立場の違いを理解する力（柔軟性）]
Q 5-11	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）]
Q 5-12	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[物事に進んで取り組む力（主体性）]
Q 5-13	現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[現状の課題を発見にする力（課題発見力）]
Q 6-1	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身に付ける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[所属学科における専門知識・能力]
Q 6-2	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身に付ける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[社会のルールや人との約束を守る力（規律性）]
Q 6-3	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身に付ける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[自分と周囲との関係性を理解する力（状況把握力）]
Q 6-4	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身に付ける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[課題解決に向けて準備する力（計画力）]
Q 6-5	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身に付ける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[ストレスに対応する力（ストレスコントロール力）]
Q 6-6	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身に付ける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[新しい価値を生み出す力（創造力）]
Q 6-7	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身に付ける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）]
Q 6-8	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身に付ける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）]
Q 6-9	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身に付ける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[目標を設定し確実に行動する力（実行力）]

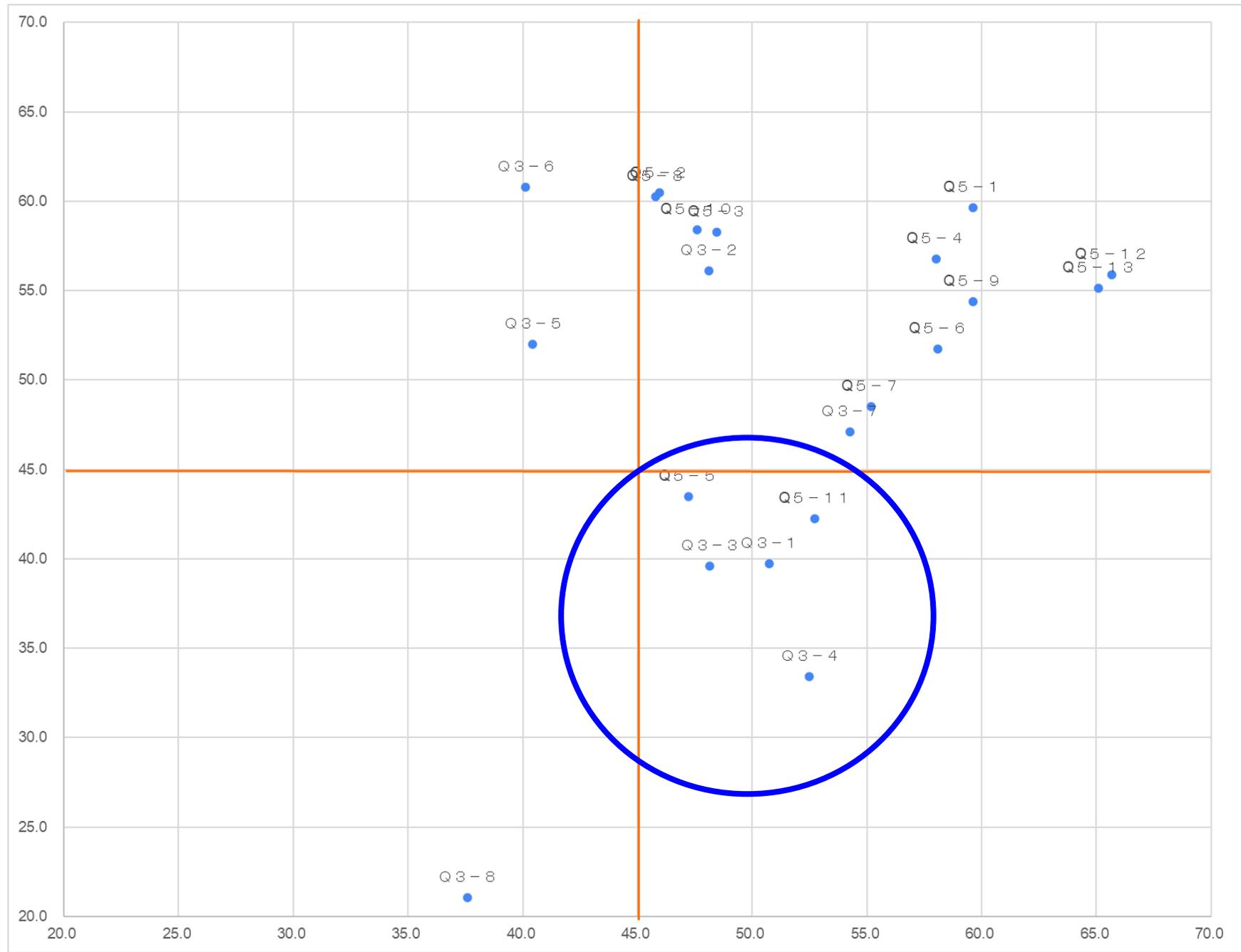
Q 6-10	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[意見や立場の違いを理解する力（柔軟性）]
Q 6-11	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）]
Q 6-12	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[物事に進んで取り組む力（主体性）]
Q 6-13	あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。各項目について1～4のいずれかで回答してください。[現状の課題を発見にする力（課題発見力）]
Q 7	現時点で、卒業後の進路についてどの程度考えていますか。
Q 8	入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。
Q 9	大学受験の際、本学は第一志望でしたか。
Q 10	現時点で、本学への入学を後輩や知人等に勧めたいと思いますか。
Q 11	所属学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解していますか。

【別紙2】相関係数表

	Q 1	Q 2	Q 3-1	Q 3-2	Q 3-3	Q 3-4	Q 3-5	Q 3-6	Q 3-7	Q 3-8	Q 3-9	Q 5-1	Q 5-2	Q 5-3	Q 5-4	Q 5-5	Q 5-6	Q 5-7	Q 5-8	Q 5-9	Q 5-10	Q 5-11	Q 5-12	Q 5-13	Q 6-1	Q 6-2	Q 6-3	Q 6-4	Q 6-5	Q 6-6	Q 6-7	Q 6-8	Q 6-9	Q 6-10	Q 6-11	Q 6-12	Q 6-13	Q 7	Q 8	Q 9	Q 10	Q 11								
Q1	1.00																																																	
Q2	0.56	1.00																																																
Q3-1	0.22	0.17	1.00																																															
Q3-2	0.28	0.25	0.50	1.00																																														
Q3-3	0.07	0.07	0.36	0.32	1.00																																													
Q3-4	0.16	0.10	0.38	0.37	0.71	1.00																																												
Q3-5	0.10	0.05	0.38	0.33	0.33	0.31	1.00																																											
Q3-6	0.07	0.01	0.31	0.28	0.26	0.24	0.54	1.00																																										
Q3-7	0.19	0.13	0.45	0.40	0.34	0.37	0.47	0.48	1.00																																									
Q3-8	0.01	0.03	0.17	0.09	0.33	0.29	0.15	0.07	0.18	1.00																																								
Q3-9	-0.12	-0.13	0.05	0.01	0.21	0.17	0.01	0.07	0.11	0.19	1.00																																							
Q5-1	0.13	0.17	0.37	0.36	0.31	0.30	0.35	0.30	0.35	0.14	0.09	1.00																																						
Q5-2	0.10	0.03	0.26	0.23	0.32	0.30	0.30	0.31	0.36	0.12	0.16	0.40	1.00																																					
Q5-3	0.11	0.08	0.30	0.29	0.41	0.35	0.28	0.27	0.34	0.20	0.16	0.48	0.61	1.00																																				
Q5-4	0.15	0.11	0.36	0.31	0.37	0.34	0.35	0.36	0.45	0.17	0.12	0.49	0.52	0.56	1.00																																			
Q5-5	0.05	0.04	0.28	0.19	0.30	0.31	0.18	0.15	0.25	0.18	0.19	0.31	0.43	0.41	0.41	1.00																																		
Q5-6	0.15	0.14	0.39	0.37	0.33	0.34	0.31	0.27	0.34	0.18	0.11	0.49	0.44	0.46	0.53	0.42	1.00																																	
Q5-7	0.13	0.11	0.36	0.31	0.46	0.46	0.27	0.21	0.32	0.24	0.20	0.41	0.44	0.49	0.53	0.44	0.60	1.00																																
Q5-8	0.09	0.10	0.31	0.30	0.34	0.30	0.28	0.26	0.31	0.14	0.14	0.46	0.55	0.55	0.49	0.42	0.47	0.52	1.00																															
Q5-9	0.13	0.13	0.38	0.34	0.40	0.39	0.33	0.34	0.41	0.23	0.15	0.49	0.49	0.53	0.59	0.43	0.56	0.56	0.52	1.00																														
Q5-10	0.09	0.12	0.33	0.29	0.35	0.32	0.26	0.23	0.32	0.18	0.13	0.46	0.50	0.56	0.51	0.39	0.49	0.50	0.62	0.54	1.00																													
Q5-11	0.10	0.08	0.32	0.20	0.47	0.41	0.24	0.16	0.28	0.32	0.21	0.36	0.39	0.48	0.42	0.45	0.50	0.56	0.44	0.55	0.46	1.00																												
Q5-12	0.15	0.12	0.42	0.40	0.45	0.42	0.33	0.31	0.39	0.22	0.13	0.53	0.49	0.52	0.59	0.41	0.57	0.53	0.51	0.64	0.53	0.55	1.00																											
Q5-13	0.14	0.12	0.41	0.40	0.39	0.39	0.30	0.26	0.35	0.21	0.13	0.52	0.45	0.52	0.59	0.43	0.55	0.55	0.49	0.61	0.54	0.53	0.67	1.00																										
Q6-1	0.06	0.07	0.17	0.28	0.22	0.18	0.24	0.28	0.20	0.05	0.03	0.36	0.27	0.29	0.31	0.11	0.31	0.26	0.33	0.28	0.31	0.18	0.33	0.31	1.00																									
Q6-2	0.02	-0.01	0.15	0.25	0.20	0.15	0.26	0.27	0.20	0.03	0.08	0.31	0.34	0.32	0.29	0.16	0.24	0.20	0.33	0.27	0.29	0.17	0.29	0.29	0.55	1.00																								
Q6-3	0.06	0.05	0.16	0.25	0.25	0.20	0.24	0.24	0.20	0.06	0.10	0.30	0.35	0.36	0.28	0.18	0.24	0.24	0.31	0.25	0.32	0.21	0.32	0.30	0.49	0.70	1.00																							
Q6-4	0.06	0.03	0.20	0.30	0.23	0.20	0.28	0.27	0.24	0.02	0.06	0.33	0.30	0.32	0.32	0.16	0.28	0.24	0.34	0.28	0.32	0.18	0.33	0.34	0.55	0.65	0.67	1.00																						
Q6-5	0.02	0.03	0.15	0.20	0.18	0.10	0.20	0.20	0.17	0.04	0.07	0.25	0.31	0.26	0.25	0.19	0.23	0.19	0.31	0.24	0.27	0.17	0.28	0.24	0.44	0.53	0.58	0.55	1.00																					
Q6-6	0.05	0.07	0.18	0.29	0.21	0.16	0.23	0.23	0.20	0.05	0.04	0.33	0.26	0.31	0.29	0.16	0.34	0.26	0.33	0.27	0.34	0.23	0.33	0.32	0.56	0.53	0.55	0.64	0.49	1.00																				
Q6-7	0.04	0.05	0.20	0.27	0.22	0.19	0.28	0.29	0.21	0.01	0.08	0.32	0.32	0.31	0.31	0.17	0.28	0.24	0.34	0.29	0.33	0.21	0.33	0.32	0.51	0.62	0.62	0.69	0.57	0.61	1.00																			
Q6-8	0.04	0.02	0.19	0.27	0.24	0.18	0.24	0.25	0.22	0.02	0.09	0.33	0.30	0.32	0.31	0.16	0.27	0.26	0.36	0.28	0.32	0.21	0.32	0.32	0.51	0.67	0.63	0.69	0.57	0.59	0.71	1.00																		
Q6-9	0.06	0.06	0.19	0.29	0.25	0.19	0.27	0.28	0.21	0.03	0.07	0.32	0.32	0.33	0.32	0.17	0.29	0.27	0.35	0.28	0.33	0.21	0.33	0.32	0.56	0.59	0.62	0.72	0.52	0.64	0.71	0.65	1.00																	
Q6-10	0.05	0.05	0.19	0.26	0.24	0.17	0.26	0.25	0.25	0.02	0.11	0.31	0.32	0.33	0.34	0.16	0.28	0.25	0.37	0.29	0.34	0.20	0.31	0.32	0.51	0.64	0.65	0.68	0.58	0.58	0.66	0.73	0.66	1.00																
Q6-11	0.06	0.04	0.17	0.24	0.25	0.23	0.23	0.21	0.22	0.10	0.14	0.33	0.31	0.35	0.30	0.21	0.29	0.29	0.32	0.30	0.33	0.31	0.35	0.36	0.47	0.50	0.59	0.58	0.51	0.59	0.64	0.58	0.63	0.60	1.00															
Q6-12	0.04	0.04	0.18	0.26	0.24	0.16	0.27	0.30	0.22	0.04	0.10	0.34	0.30	0.33	0.31	0.16	0.27	0.26	0.35	0.30	0.34	0.19	0.35	0.35	0.55	0.60	0.64	0.73	0.55	0.63	0.70	0.72	0.69	0.72	0.66	1.00														
Q6-13	0.04	0.05	0.20	0.29	0.26	0.21	0.28	0.29	0.24	0.06	0.10	0.36	0.33	0.35	0.31	0.18	0.30	0.26	0.34	0.29	0.35	0.23	0.37	0.38	0.53	0.60	0.68	0.70	0.57	0.65	0.69	0.68	0.73	0.70	0.70	0.78	1.00													
Q7	0.10	0.14	0.22	0.16	0.14	0.20	0.07	0.08	0.18	0.12	0.15	0.14	0.13	0.11	0.16	0.18	0.16	0.20	0.09	0.19	0.12	0.16	0.15	0.17	0.03	0.02	0.05	0.05	0.01	0.04	0.02	0.02	0.06	0.05	0.07	0.03	0.07	1.00												
Q8	0.17	0.18	0.31	0.29	0.29	0.32	0.24	0.24	0.33	0.22	0.09	0.37	0.28	0.29	0.36	0.29	0.36	0.34	0.28	0.37	0.29	0.32	0.41	0.41	0.18	0.15	0.17	0.19	0.15	0.18	0.21	0.18	0.22	0.18	0.21	0.18	0.21	0.30	1.00											
Q9	0.02	-0.02	-0.04	-0.01	0.01	-0.02	0.05	0.07																																										

【別紙3】学生の成長実感に係るCSグラフ

各設問における学生の満足度



重要度 (学生の成長実感との相関性)

【別紙4】Q3（学修行動）およびQ5（学修成果）とQ8（成長実感）についての集計

	各設問に対する回答（※1）				合計	満足度 (回答比率)	満足度 偏差値	Q8との 相関 (※2)	Q8との相関 に係る偏差値
	1	2	3	4					
Q3-1	85	322	653	251	1311	69.0	39.7	0.31	50.7
Q3-2	43	124	651	493	1311	87.3	56.1	0.29	48.1
Q3-3	120	289	538	364	1311	68.8	39.6	0.29	48.1
Q3-4	164	336	487	324	1311	61.9	33.4	0.32	52.5
Q3-5	36	191	625	459	1311	82.7	52.0	0.24	40.4
Q3-6	12	86	531	682	1311	92.5	60.8	0.24	40.1
Q3-7	59	240	605	407	1311	77.2	47.1	0.33	54.3
Q3-8	528	153	254	376	1311	48.1	21.1	0.22	37.6
Q3-9	234	98	297	682	1311	74.7	44.9	0.09	19.1
Q5-1	16	99	761	435	1311	91.2	59.6	0.37	59.6
Q5-2	20	83	714	494	1311	92.1	60.5	0.28	46.0
Q5-3	18	117	717	459	1311	89.7	58.3	0.29	48.5
Q5-4	20	137	690	464	1311	88.0	56.8	0.36	58.0
Q5-5	92	260	607	352	1311	73.2	43.5	0.29	47.2
Q5-6	33	198	713	367	1311	82.4	51.7	0.36	58.1
Q5-7	39	239	700	333	1311	78.8	48.5	0.34	55.2
Q5-8	12	94	681	524	1311	91.9	60.3	0.28	45.8
Q5-9	24	168	727	392	1311	85.4	54.4	0.37	59.6
Q5-10	14	119	706	472	1311	89.9	58.4	0.29	47.6
Q5-11	78	292	630	311	1311	71.8	42.3	0.32	52.7
Q5-12	20	150	704	437	1311	87.0	55.9	0.41	65.7
Q5-13	27	154	715	415	1311	86.2	55.1	0.41	65.1
					平均	80.4		0.31	
					標準偏差	11.2		0.07	

(※1)

Q3の設問内容「現在のあなたの学修行動についておうかがいいたします。」

1＝「まったくあてはまらない」、2＝「どちらかといえばあてはまらない」、3＝「どちらかといえばあてはまる」、4＝「とてもよくあてはまる」

Q5の設問内容「現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身につけることができましたか。」

1＝「まったく身につけていない」、2＝「どちらかといえば身につけていない」、3＝「どちらかといえば身につけている」、4＝「とてもよく身につけている」

(※2)

Q8の設問内容「入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。」

1＝「まったく思わない」、2＝「どちらかといえば思わない」、3＝「どちらかといえば思う」、4＝「強く思う」

【別紙5】Q5およびQ6に係る因子分析

Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

		因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
課題発見・解決力因子	Q5-12 [物事に進んで取り組む力 (主体性)]	0.662	0.242	0.330	0.222	0.155
	Q5-13 [現状の課題を発見する力 (課題発見力)]	0.644	0.227	0.326	0.221	0.177
	Q5-4 [課題解決に向けて準備する力 (計画力)]	0.554	0.406	0.155	0.172	0.274
	Q5-9 [目標を設定し確実に行動する力 (実行力)]	0.539	0.297	0.337	0.226	0.251
	Q5-1 [所属学科における専門知識・能力]	0.523	0.232	0.113	0.292	0.164
社会適応力因子	Q5-2 [社会のルールや人との約束を守る力 (規律性)]	0.252	0.686	0.168	0.248	0.160
	Q5-3 [自分と周囲との関係性を理解する力 (情況把握力)]	0.349	0.558	0.250	0.321	0.110
社会連携力因子	Q5-11 [他人に働きかけ、巻き込む力 (働きかけ力)]	0.286	0.188	0.729	0.180	0.188
共感的理解力因子	Q5-8 [相手の意見を丁寧に聴く力 (傾聴力)]	0.269	0.369	0.198	0.598	0.226
	Q5-10 [意見や立場の違いを理解する力 (柔軟性)]	0.368	0.311	0.243	0.538	0.152
自己発信力因子	Q5-7 [自分の意見をわかりやすく伝える力 (発信力)]	0.323	0.223	0.388	0.256	0.524
レジリエンス因子	Q5-5 [ストレスに対応する力 (ストレスコントロール力)]	0.232	0.321	0.345	0.172	0.233
	Q5-6 [新しい価値を生み出す力 (創造力)]	0.467	0.209	0.276	0.214	0.448

因子	二乗和	寄与率	累積
課題発見・解決力因子	2.575078257	19.8%	19.8%
社会適応力因子	1.664620178	12.8%	32.6%
社会連携力因子	1.431241976	11.0%	43.6%
共感的理解力因子	1.248560838	9.6%	53.2%
自己発信力因子	0.896887636	6.9%	60.1%

Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

		因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
課題発見・解決力因子	Q6-11 [他人に働きかけ、巻き込む力 (働きかけ力)]	0.692	0.241	0.273	0.255	0.049
	Q6-13 [現状の課題を発見する力 (課題発見力)]	0.650	0.321	0.345	0.263	0.260
	Q6-12 [物事に進んで取り組む力 (主体性)]	0.562	0.442	0.284	0.294	0.265
	Q6-9 [目標を設定し確実に行動する力 (実行力)]	0.529	0.308	0.277	0.383	0.336
	Q6-7 [自分の意見をわかりやすく伝える力 (発信力)]	0.501	0.442	0.314	0.303	0.218
共感的理解力因子	Q6-8 [相手の意見を丁寧に聴く力 (傾聴力)]	0.369	0.679	0.319	0.272	0.157
	Q6-10 [意見や立場の違いを理解する力 (柔軟性)]	0.437	0.511	0.375	0.262	0.183
社会適応力因子	Q6-3 [自分と周囲との関係性を理解する力 (情況把握力)]	0.382	0.244	0.732	0.220	0.166
	Q6-2 [社会のルールや人との約束を守る力 (規律性)]	0.196	0.421	0.557	0.399	0.143
専門力因子	Q6-1 [所属学科における専門知識・能力]	0.279	0.211	0.240	0.630	0.112
レジリエンス因子	Q6-4 [課題解決に向けて準備する力 (計画力)]	0.389	0.386	0.362	0.366	0.454
	Q6-5 [ストレスに対応する力 (ストレスコントロール力)]	0.366	0.347	0.389	0.250	0.088
	Q6-6 [新しい価値を生み出す力 (創造力)]	0.492	0.266	0.214	0.453	0.204

因子	二乗和	寄与率	累積
課題発見・解決力因子	2.862388586	22.0%	22.0%
共感的理解力因子	1.989406947	15.3%	37.3%
社会適応力因子	1.923750568	14.8%	52.1%
専門力因子	1.607789964	12.4%	64.5%
レジリエンス因子	0.675094704	5.2%	69.7%

「Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。」について、因子分析の寄与率から「課題発見・解決力因子」に対する評価が特に重要であることがわかる（なお、累積寄与率から、5つの潜在変数により、11の評価要素の60.1%を説明していることがわかる）。

同様に、「Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。」について、因子分析の寄与率から「課題発見・解決力因子」に対する評価が特に重要であることがわかる（なお、累積寄与率から、5つの潜在変数により、13の評価要素の69.7%を説明していることがわかる）。

上記から、学生が身に付けたと感じている能力、これから身に付ける必要があると感じている能力、どちらの側面からしても「課題発見・解決力」に関する能力は重要であり、「課題発見・解決力」の伸長は、次年度のカリキュラム等においても重視すべき事項であるといえる。

## 第三章 学修成果の評価

### 1. アセスメント・ポリシー及びアセスメント・プラン

本学では、学生の学修成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的な実施方法について定めた「アセスメント・ポリシー」及び、より具体化した「アセスメント・プラン」を策定している。本ポリシーにより、学生の学修成果を評価し、自己点検・評価の検証に活用し、教育の質保証につなげることを目的としている。本ポリシーは、次のとおりである。

#### (1) 大学全体レベル（機関）

学生の卒業状況（学位取得率）、就職状況、卒業時アンケート及び学修成果等アンケート等から学修成果の達成状況を大学全体で検証する。

#### (2) 学部（学科）レベル（学位プログラム）

学部（学科）における卒業状況（学位取得率）、就職状況、卒業時アンケート及び学修成果等アンケート等から学位プログラム全体を通じた学修成果の達成状況を検証する。

#### (3) 科目レベル（授業）

シラバスに示した授業の達成目標に対する授業評価アンケート結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を検証する。

尚美学園大学 アセスメント・ポリシー

尚美学園大学は、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの3つのポリシーに基づき、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（学部・学科）、科目レベル（授業・科目）の3段階で学修成果等を検証する。

1. 機関レベル（大学全体）

学生の卒業率、就職率、アンケート等から、学生の学修成果の達成状況を検証する。

2. 教育課程レベル（学部・学科）

各学部・学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA等から、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を検証する。

3. 科目レベル（授業・科目）

シラバスで提示された学修目標に対する評価、授業アンケート等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を検証する。

尚美学園大学 アセスメント・プラン

	入学時	在学中	卒業時（卒業後）
関連ポリシー	アドミSSION・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー
機関（大学） レベル	入学者選抜結果 新入生意識調査	成績評価（GPA） 単位取得状況 退学率・休学率 学生生活実態調査 学修成果に関するアンケート 学修時間 学修行動に関するアンケート	学位授与率 就職率・進学率 卒業時アンケート 卒業後アンケート 就職先アンケート
学位 （学部・学科） レベル	入学者選抜結果 新入生意識調査	成績評価（GPA） 単位取得状況 退学率・休学率 授業評価アンケート 学修成果に関するアンケート 学修時間 学修行動に関するアンケート	卒業論文・卒業制作・卒業研究等 学位授与率 就職率・進学率 卒業時アンケート 卒業後アンケート 就職先アンケート
授業科目 レベル		成績評価（各授業科目） 授業評価アンケート	卒業論文・卒業制作・卒業研究等

## 2. 学修成果に係る各種データ

### (1) 学位授与の状況

令和3年度						令和4年度						令和5年度					
学部	学科	学位名称	H30入学者	学位取得者	学位取得状況	学部	学科	学位名称	H31入学者	学位取得者	学位取得状況	学部	学科	学位名称	R2入学者	学位取得者	学位取得状況
芸術情報学部	情報表現学科	学士(芸術情報)	208	142	68.3%	芸術情報学部	情報表現学科	学士(芸術情報)	254	209	82.3%	芸術情報学部	情報表現学科	学士(芸術情報)	249	207	83.1%
	音楽表現学科	学士(芸術情報)	84	59	70.2%		音楽表現学科	学士(芸術情報)	82	60	73.2%		音楽表現学科	学士(芸術情報)	84	60	71.4%
	音楽応用学科	学士(芸術情報)	78	52	66.7%		音楽応用学科	学士(芸術情報)	89	72	80.9%		音楽応用学科	学士(芸術情報)	90	66	73.3%
	舞台表現学科	学士(芸術情報)	76	50	65.8%		舞台表現学科	学士(芸術情報)	89	67	75.3%		舞台表現学科	学士(芸術情報)	70	50	71.4%
	芸術情報学部全体	学士(芸術情報)	446	303	67.9%		芸術情報学部全体	学士(芸術情報)	514	408	79.4%		芸術情報学部全体	学士(芸術情報)	493	383	77.7%
総合政策学部	総合政策学科	学士(総合政策)	114	73	64.0%	総合政策学部	総合政策学科	学士(総合政策)	161	114	70.8%	総合政策学部	総合政策学科	学士(総合政策)	113	87	77.0%
	ライフマネジメント学科	学士(総合政策)	135	105	77.8%		ライフマネジメント学科	学士(総合政策)	176	135	76.7%		スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	学士(スポーツマネジメント)	259	216
大学全体	—	—	695	481	69.2%	大学全体	—	—	851	657	77.2%	大学全体	—	—	865	686	79.3%

#### <所見>

日本私立学校振興・共済事業団（私学経営情報センター）のデータベースから、収容定員 2000～3000人の文系他複数学部設置私立大学における令和4年度の標準修業年限内学位授与率を算出したところ、60.6%であった（令和4年度卒業生数 14,732人/令和元年入学者数 24,299人）。

この同系統かつ同規模の全国平均値と比べると、本学の標準修業年限内学位授与率は高くなっている。

## (2) 退学者の状況

学部	学科	令和4年度			令和5年度		
		退学者数	退学率(※)	退学理由	退学者数	退学率(※)	退学理由
芸術情報学部	情報表現学科	30	2.8%	就学意欲の低下:13名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):3名 進路変更(就職):2名 経済的困窮:8名 精神疾患:2名 学力不足:0名 留学:0名 その他:2名	36	3.4%	就学意欲の低下:10名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):3名 進路変更(就職):2名 経済的困窮:13名 精神疾患:7名 学力不足:0名 留学:0名 その他:1名
	音楽表現学科	15	4.7%	就学意欲の低下:5名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):1名 進路変更(就職):1名 経済的困窮:3名 精神疾患:3名 学力不足:0名 留学:0名 その他:2名	14	4.4%	就学意欲の低下:2名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):2名 進路変更(就職):0名 経済的困窮:6名 精神疾患:2名 学力不足:0名 留学:0名 その他:2名
	音楽応用学科	13	3.7%	就学意欲の低下:7名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):1名 進路変更(就職):1名 経済的困窮:2名 精神疾患:2名 学力不足:0名 留学:0名 その他:0名	11	3.1%	就学意欲の低下:2名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):1名 進路変更(就職):0名 経済的困窮:3名 精神疾患:5名 学力不足:0名 留学:0名 その他:0名
	舞台表現学科	18	7.8%	就学意欲の低下:6名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):3名 進路変更(就職):2名 経済的困窮:2名 精神疾患:3名 学力不足:0名 留学:0名 その他:1名	14	6.1%	就学意欲の低下:4名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):0名 進路変更(就職):0名 経済的困窮:5名 精神疾患:2名 学力不足:0名 留学:0名 その他:3名
	芸術情報学部全体	76	3.9%	就学意欲の低下:31名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):8名 進路変更(就職):7名 経済的困窮:15名 精神疾患:10名 学力不足:0名 留学:0名 その他:5名	75	3.8%	就学意欲の低下:18名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):6名 進路変更(就職):2名 経済的困窮:27名 精神疾患:16名 学力不足:0名 留学:0名 その他:6名
総合政策学部	総合政策学科	29	4.4%	就学意欲の低下:13名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):0名 進路変更(就職):5名 経済的困窮:4名 精神疾患:4名 学力不足:0名 留学:0名 その他:3名	18	2.7%	就学意欲の低下:9名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):2名 進路変更(就職):0名 経済的困窮:4名 精神疾患:1名 学力不足:0名 留学:1名 その他:1名
スポーツ マネジメント学部	スポーツ マネジメント学科	15	2.3%	就学意欲の低下:5名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):4名 進路変更(就職):1名 経済的困窮:1名 精神疾患:3名 学力不足:0名 留学:0名 その他:1名	33	5.2%	就学意欲の低下:11名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):4名 進路変更(就職):3名 経済的困窮:6名 精神疾患:4名 学力不足:0名 留学:2名 その他:3名
大学全体		120	3.7%	就学意欲の低下:49名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):12名 進路変更(就職):13名 経済的困窮:20名 精神疾患:17名 学力不足:0名 留学:0名 その他:9名	126	3.9%	就学意欲の低下:38名 進路変更(他大学等教育機関への入学等):12名 進路変更(就職):5名 経済的困窮:37名 精神疾患:21名 学力不足:0名 留学:3名 その他:10名

退学率(※) = (各年度における退学者の合計) / (各年度5月1日時点の学生数)

↓私学事業団データベースより引用

[条件] (合算)		中途退学者数等一覧 (学校)					
法人種別	学校種別	都道府県		系統(人数)		学生生徒等数(現員)	学生生徒等数(定員)
	大学			文他複数学部		2,000~3,000	

☆学年別中途退学者数 (大学院は含まない) ※趨勢は平成30年度を100としたものである。±99.9%を超過した比率は「\*\*\*」で表す。年度括弧内の数字は条件に該当する学校数である。

区分	30年度 (35校)				令和元年度 (36校)				2年度 (34校)				3年度 (28校)				4年度 (25校)			
	現員 (人)	中途退学者 (人)		趨勢	現員 (人)	中途退学者 (人)		趨勢	現員 (人)	中途退学者 (人)		趨勢	現員 (人)	中途退学者 (人)		趨勢	現員 (人)	中途退学者 (人)		趨勢
1年	23,159	818	3.5	100.0	24,415	772	3.2	94.4	22,183	521	2.3	63.7	16,505	413	2.5	50.5	13,918	484	3.5	59.2
2年	22,039	918	4.2	100.0	22,912	907	4.0	98.8	22,027	769	3.5	83.8	17,986	636	3.5	69.3	14,674	589	4.0	64.2
3年	19,912	532	2.7	100.0	21,023	492	2.3	92.5	20,174	405	2.0	76.1	17,502	358	2.0	67.3	15,689	364	2.3	68.4
4年	20,506	715	3.5	100.0	20,848	679	3.3	95.0	20,483	571	2.8	79.9	18,017	527	2.9	73.7	17,014	474	2.8	66.3
5年	0	1	0.0	100.0	0	3	0.0	300.0	0	0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0
6年	0	1	0.0	100.0	0	0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0
計	85,616	2,985	3.5	100.0	89,198	2,853	3.2	95.6	84,787	2,266	2.7	75.9	70,010	1,934	2.8	64.8	61,295	1,911	3.1	64.0

※中途退学者数(1年の場合) = 当年度1年中途退学者数 / 当年度1年現員。ただし、当年度1年中途退学者数は翌年度の基礎調査で収集したデータである。

### <所見>

日本私立学校振興・共済事業団（私学経営情報センター）のデータベースによると、**全国の私立大学（文系他複数設置学部・収容定員 2000~3000 人規模）の中途退学率の平均値**は、平成 30 年度から令和 4 年度まで **3%前後で推移**している。この平均値と比べると、**本学は約 4%**であるため、若干平均値を上回っている。このため、引き続き、アドバイザーによる学生支援に取り組み、中途退学者の減少に努める必要がある。

### (3) 留年者の状況

学部	学科	留年者数(R6.5.1時点)								
		2年			4年			全学年		
		留年者数	現員数	留年率	留年者数	現員数	留年率	留年者数	現員数	留年率
芸術情報学部	情報表現学科	23	274	8.4%	15	266	5.6%	38	1057	3.6%
	音楽表現学科	2	61	3.3%	12	82	14.6%	14	274	5.1%
	音楽応用学科	11	76	14.5%	9	92	9.8%	20	337	5.9%
	舞台表現学科	2	29	6.9%	4	41	9.8%	6	151	4.0%
	芸術情報学部全体	38	440	8.6%	40	481	8.3%	78	1819	4.3%
総合政策学部	総合政策学科	13	80	16.3%	10	126	7.9%	23	382	6.0%
スポーツ マネジメント学部	スポーツ マネジメント学科	14	212	6.6%	8	198	4.0%	22	773	2.8%
大学全体		65	732	8.9%	58	805	7.2%	123	2974	4.1%

※1年次及び3年次には留年者は存在せず。

↓私学事業団データベースより引用

#### ☆学年別留年者（原級留置）数

区分	令和元年度(36校)			2年度(34校)			3年度(28校)			4年度(25校)			5年度(22校)		
	現員 (人)	留年者 (人)	対現員 (%)	現員 (人)	留年者 (人)	対現員 (%)	現員 (人)	留年者 (人)	対現員 (%)	現員 (人)	留年者 (人)	対現員 (%)	現員 (人)	留年者 (人)	対現員 (%)
1年	24,415	71	0.3	22,183	16	0.1	16,505	12	0.1	13,918	9	0.1	12,487	13	0.1
2年	22,912	529	2.3	22,028	439	2.0	17,986	401	2.2	14,674	352	2.4	12,188	268	2.2
3年	21,023	241	1.1	20,174	159	0.8	17,503	141	0.8	15,689	130	0.8	12,714	114	0.9
4年	20,859	1,614	7.7	20,404	1,420	7.0	18,018	1,364	7.6	17,016	1,363	8.0	15,076	1,291	8.6
5年	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
6年	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
計	89,209	2,455	2.8	84,789	2,034	2.4	70,012	1,918	2.7	61,297	1,854	3.0	52,465	1,686	3.2

#### <所見>

日本私立学校振興・共済事業団（私学経営情報センター）のデータベースによると、全国の私立大学（文系他複数設置学部・収容定員2000～3000人規模）の原級留置者の現員数に対する割合の平均値は、平成30年度から令和4年度までおおむね2年から3年への進級時では2%前後、4年から卒業時で7～8%で推移している。

この平均値と比べると、本学は2年から3年への進級時では9%（全学部平均）であり、4年から卒業時で7%であり、2年から3年への進級時では全国平均よりも高く、4年から卒業時で全国平均よりも若干低い傾向にある。

#### (4) 就職状況

学部	学科	令和3年度							令和4年度						
		卒業者数	就職希望者数	就職者数	大学院等進学者数	就職希望者の就職率(※1)	就職率(※2)	就職率(※2)の系統別全国平均	卒業者数	就職希望者数	就職者数	大学院等進学者数	就職希望者の就職率(※1)	就職率(※2)	就職率(※2)の系統別全国平均
芸術情報学部	情報表現学科	173	105	83	8	79%	50%	87%	240	188	140	14	74%	62%	85%
	音楽表現学科	69	37	27	5	73%	42%	87%	73	41	38	9	93%	59%	85%
	音楽応用学科	58	34	27	2	79%	48%	87%	81	61	55	2	90%	70%	85%
	舞台表現学科	53	31	24	3	77%	48%	87%	68	47	43	0	91%	63%	85%
	芸術情報学部全体	353	207	161	18	78%	48%	87%	462	337	276	25	82%	63%	85%
総合政策学部	総合政策学科	83	52	43	4	83%	54%	88%	134	79	69	18	87%	59%	86%
	ライフマネジメント学科	107	94	87	0	93%	81%	88%	137	115	108	2	94%	80%	86%
	総合政策学部全体	190	146	130	4	89%	70%	88%	271	194	177	20	91%	71%	86%
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大学全体		543	353	291	22	82%	56%	—	733	531	453	45	85%	66%	—

学部	学科	令和5年度						
		卒業者数	就職希望者数	就職者数	大学院等進学者数	就職希望者の就職率(※1)	就職率(※2)	就職率(※2)の系統別全国平均
芸術情報学部	情報表現学科	247	186	156	8	84%	65%	令和7年7月頃に判明
	音楽表現学科	78	43	35	7	81%	49%	
	音楽応用学科	75	58	48	4	83%	68%	
	舞台表現学科	55	31	29	0	94%	53%	
	芸術情報学部全体	455	318	268	19	84%	61%	
総合政策学部	総合政策学科	124	102	91	6	89%	77%	
	ライフマネジメント学科	6	3	2	2	67%	50%	
	総合政策学部全体	130	105	93	8	89%	76%	
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	217	184	180	3	98%	84%	
大学全体		802	607	541	30	89%	70%	

就職希望者の就職率(※1) = 就職者数 / 就職希望者数  
 就職率(※2) = 就職者数 / (卒業者数 - 大学院等進学者数)

#### <所見>

学校基本調査のデータから算出される私立大学の学科系統別の就職率の平均値(灰色)と比較すると、同様の計算方法で算出した就職率(※)(緑色)の値は多くの学科で平均値を下回っており、就職率の改善が求められる。

#### ■芸術情報学部

本学の芸術情報学部の就職率(※)(緑色)の値は、私立大学の学科系統別(その他)の就職率の平均値(灰色)よりも約20~40Pt程度低くなっており、芸術分野という特性を鑑みても芸術情報学部の就職率の改善が必要である。

#### ■総合政策学部総合政策学科

私立大学の学科系統別（社会科学）の就職率の平均値（灰色）は85～86%と高い値となっている。これと比較すると、総合政策学科の就職率（※）（緑色）の値は25～30Pt程度下回っている。しかし、令和5年度の就職率は改善している。

#### ■スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科

一般的に低い値が出るとされる卒業生数を母数とする就職率（※）（緑色）でも、スポーツマネジメント学部は84%と健闘しており、本学の中で一番就職率の良い学部である。

## (5) 成績評価の状況

### 学科・学年別 GPA 平均値

学部	学科	令和5年度			
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
芸術情報学部	情報表現学科	2.29	2.28	2.53	2.58
	音楽表現学科	1.94	2.12	2.04	2.24
	音楽応用学科	2.15	2.01	2.42	2.28
	舞台表現学科	2.18	1.75	2.16	2.29
総合政策学部	総合政策学科	1.80	1.83	2.27	2.45
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	2.12	2.00	2.42	2.67
全学部全体		2.08	2.00	2.31	2.42

### 学科目別成績評価の分布

科目群	科目数	履修者数 平均	秀		優		良		可		不可		失格		欠席		合計	
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
芸術情報学部専門科目	2121	10.3	5823	27.0	6654	30.8	3354	15.5	2001	9.3	1348	6.3	1742	8.1	719	3.4	21641	100
総合政策学部専門科目	298	18.8	1292	23.1	1398	25.0	1048	18.7	970	17.3	330	5.9	431	7.7	126	2.3	5595	100
スポーツマネジメント学部 専門科目	199	45.0	2260	25.3	2704	30.3	1826	20.5	1078	12.1	494	5.6	499	5.6	80	0.9	8941	100
教養科目	468	41.7	3606	18.5	3801	19.5	3256	16.7	2526	13.0	1594	8.2	3915	20.1	806	4.1	19504	100

### <所見>

GPA については毎学期集計され、入学時からの累積のデータとしても管理されており、学生の学修成果を表す重要な指標のひとつとして、今後更なる活用の必要があると考えられる。

成績評価の分布については、「成績評価に係るガイドライン」を定めており、適切な成績分布が成されるための体制が整えられている。

尚美学園大学 教育改革推進プロジェクトWG 設置要綱

令和6年7月2日  
学 長 裁 定

(目 的)

第1条 この要綱は、尚美学園大学（以下「本学」という。）における教育改革推進に関する事項を検討するため、教育改革推進プロジェクトWG（以下「本WG」という。）について必要な事項を定める。

(設 置)

第2条 本WGは、学長の下に設置する。

(所掌事項)

第3条 本WGの所掌事項は、以下のとおりとする。

- (1) 「三つの方針」に関する事項
- (2) 学修成果・教育成果の把握・可視化に関する事項
- (3) その他教育改革の推進等に必要な事項

(構 成)

第4条 本WGは、学長が指名する専任教職員をもって構成する。

(任 期)

第5条 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(会 議)

第6条 本WGの座長は、委員の互選により選出する。

- 2 本WGは、座長が招集し、その運営に当たる。
- 3 本WGは、委員の過半数の出席がなければ開くことが出来ない。
- 4 本WGの座長は、必要に応じ、委員以外の者に委員会への出席を要請し、意見を聴くことができる。

(議 決)

第7条 本WGの議事は、出席構成員の過半数の賛成によって決定する。

(報 告)

第8条 本WGの検討結果は、必要に応じて、教育研究評議会及び大学経営会議に報告し、又は、承認を求めるとともに、教授会、各種全学委員会等に報告するものとする。

(所 管)

第9条 所管は、大学戦略・IR室とする。

(改 廃)

第10条 この要綱の改廃は、教育研究評議会の議を経て大学経営会議の承認を得なければならない。

附 則

1 この要綱は、令和6年7月2日から施行する。

## 第Ⅱ期 教育改革推進プロジェクトWGメンバー

(◎=委員長)

### 【メンバー】

- 華山 宣胤 教授（芸術情報学部情報表現学科）
- 竹内 誠 教授（芸術情報学部音楽応用学科長）
- 上村 博昭 准教授（総合政策学部総合政策学科）
- ◎小野里 真弓 教授（スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科）
- 仁木 康浩 講師（スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科）
  
- 山崎 真里亜 大学戦略・IR 室長
- 石田 淳 教務課長
- 川上 裕 教務課課長補佐/大学戦略・IR 室員
- 茅野 泰敏 キャリア・就職課長

### 【オブザーバー】

- 恩田 憲一 教授（芸術情報学部長）
- 金原 由紀子 教授（総合政策学部長）
- 小泉 昌幸 教授（スポーツマネジメント学部長）
- 柴崎 義之 事務局長

尚美学園大学 教育改革推進プロジェクトWG 開催状況

第1回 令和6年7月10日（水）

経営改革支援事業計画書原案及び付属資料について（審議）

アセスメントプラン、内部質保証体制について（審議）

第2回 8月1日（木）

今後の本学における教育方針について（審議）

令和6年度教育の質に係る客観的指標について（報告）

第3回 10月16日（水）

教養科目のポリシーについて（審議）

各学科での新3ポリシーについて（審議）

新3ポリシーのスケジュール案（審議）

内部質保証の大学HPページについて（報告）

第4回 令和7年2月21日（金）

尚美学園大学教育改革アクション・プラン2025案について（審議）

令和6年9月30日  
尚美学園大学  
事務局教務課 大学戦略・IR室

## 令和5年度 卒業時アンケートの概要

対象者：令和5年度卒業見込の学部4年生全員

実施期間：令和6年1月23日～同年3月31日

目的：学生生活を振り返り、教育活動に対する満足度や在学中の学びを通じた知識・能力の修得状況等を聴取し、その結果を教育の改善や質向上に役立てるため

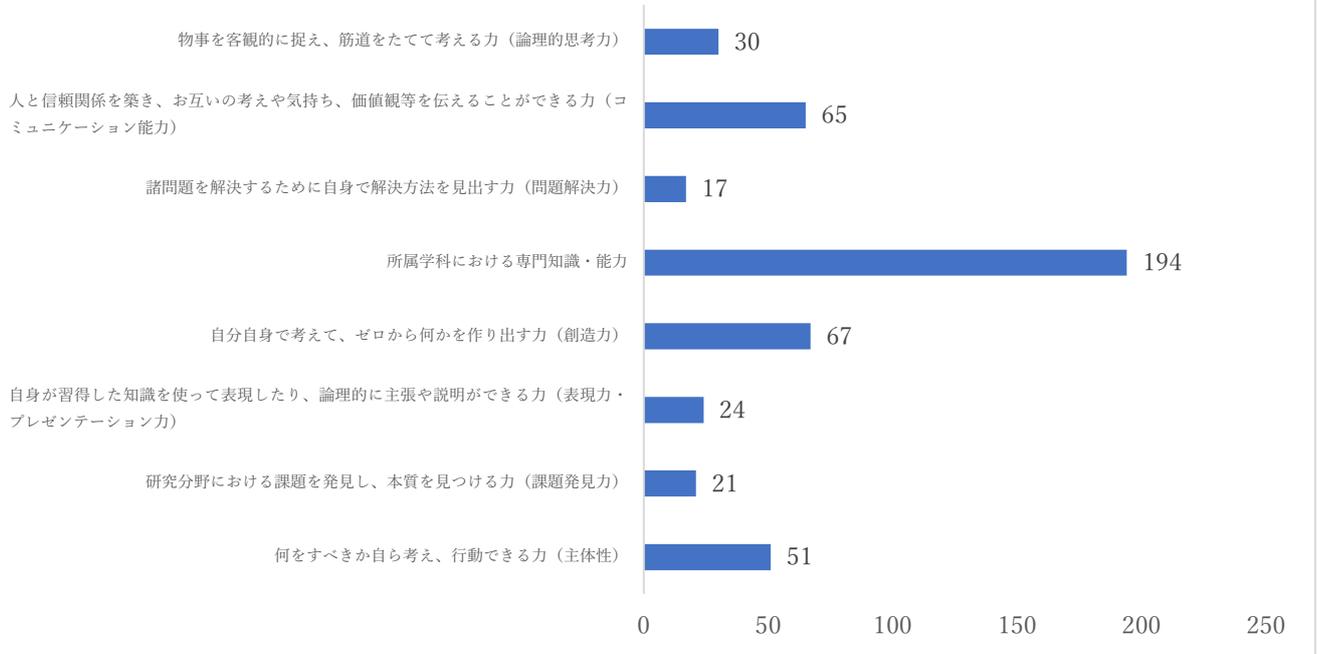
回答者数：469名/778名中

回答率：60.3%

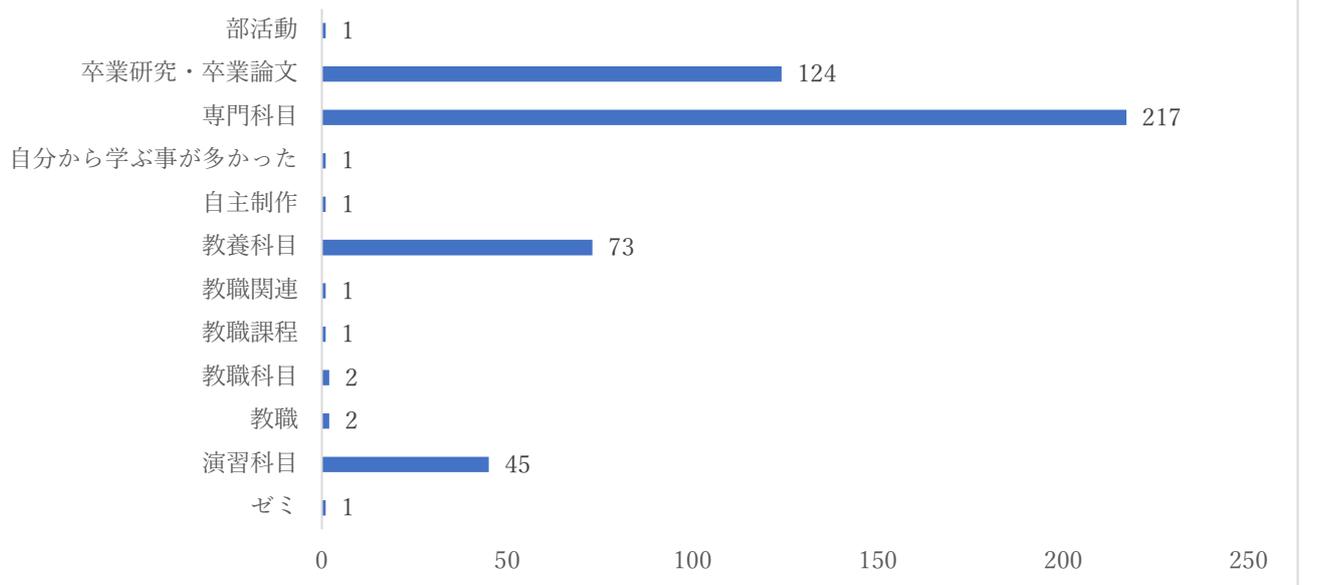
## 令和5年度 卒業時アンケート集計結果について

### 【学修成果の達成状況】

Q1-1. 在学中に履修した授業科目を通じて、最も身につけることができた（伸ばすことができた）能力を選んでください。



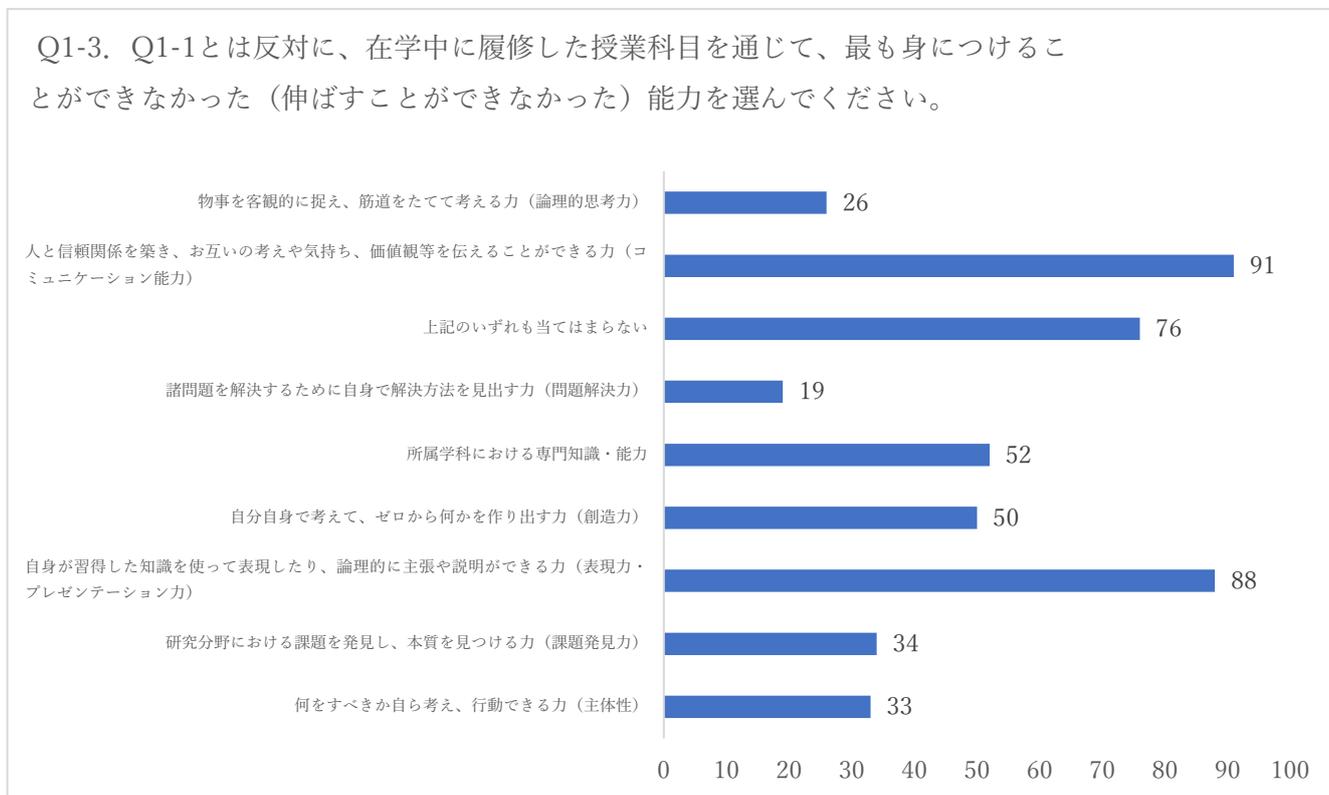
Q1-2. Q1-1で選んだ能力を身につけるうえで、最も役立つ項目を選んでください。



在学中に履修した授業科目を通じて、最も身につけることができた能力について、最も多かった回答は「所属学科における専門知識・能力」で41%であった。

他方、「問題解決力」(3.6%)、「課題発見力」(4.4%)、「表現力・プレゼンテーション力」(5.1%)と回答した者の割合は低かった。

次に、能力を身につけるにあたり役に立った事柄として、「専門科目」が46%と一番多く、次に「卒業研究・卒業論文」で26%であった。他方、「演習科目」(9.5%)「教養科目」(15.5%)と回答した者は少なかった。



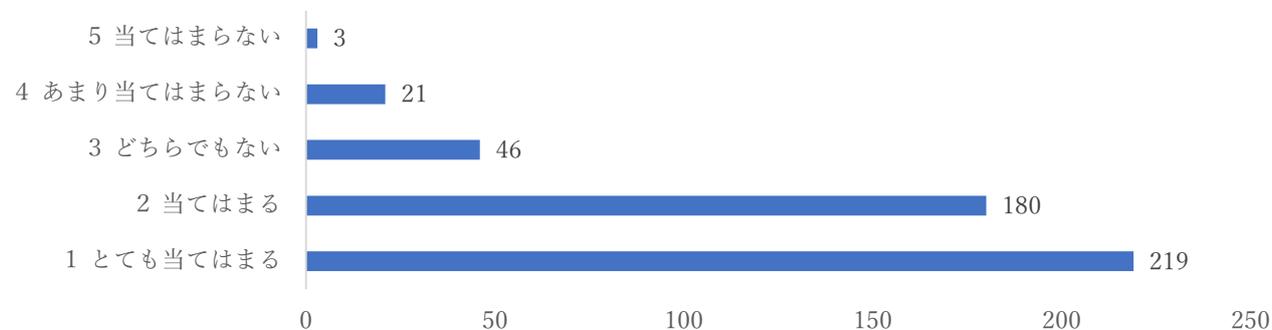
在学中に履修した授業科目を通じて、最も身につけることができなかった能力として、最も多かった回答は「コミュニケーション能力」で19.4%であった。次に多かった回答として「表現力・プレゼンテーション力」で18.7%であった。

以上から、「所属学科における専門知識・能力」については、在学中の授業科目を通じて身につけられた一方で、「コミュニケーション能力」や「表現力・プレゼンテーション力」といった他者との関係で何らかの働きかけを行うという社会人として必須の能力が身につけられていないと多くの学生が感じていることが判明した。

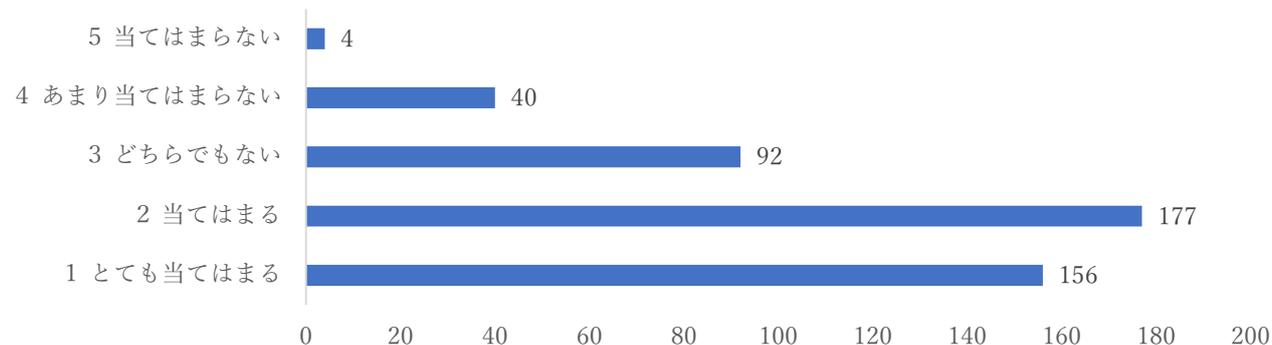
## 【学修状況や学生生活の状況】

Q2. 現在（卒業直前）のあなたの学修状況についておうかがいします。各項目について1～5で回答してください。

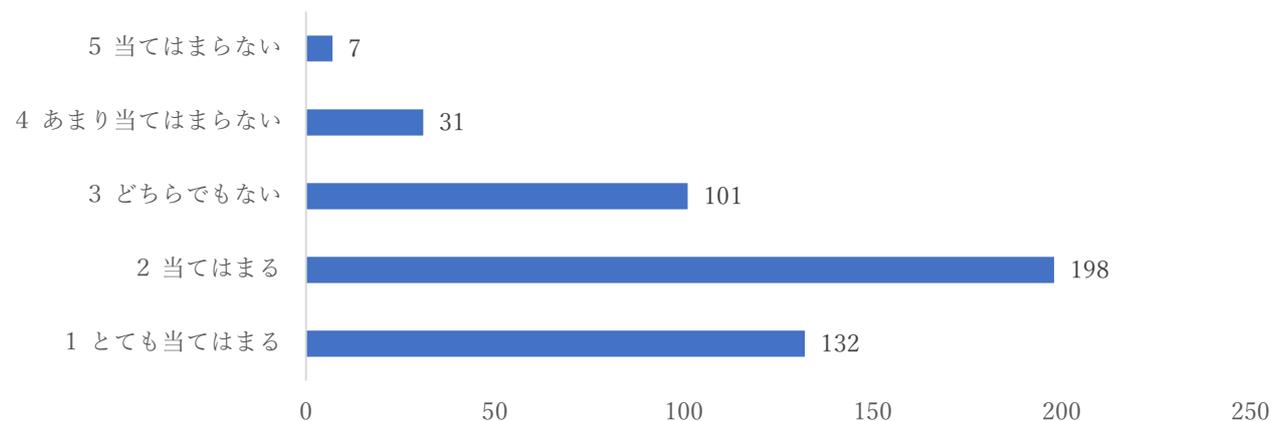
[授業の課題等はきちんとやった]



[期末試験等の前は計画的に準備をした]

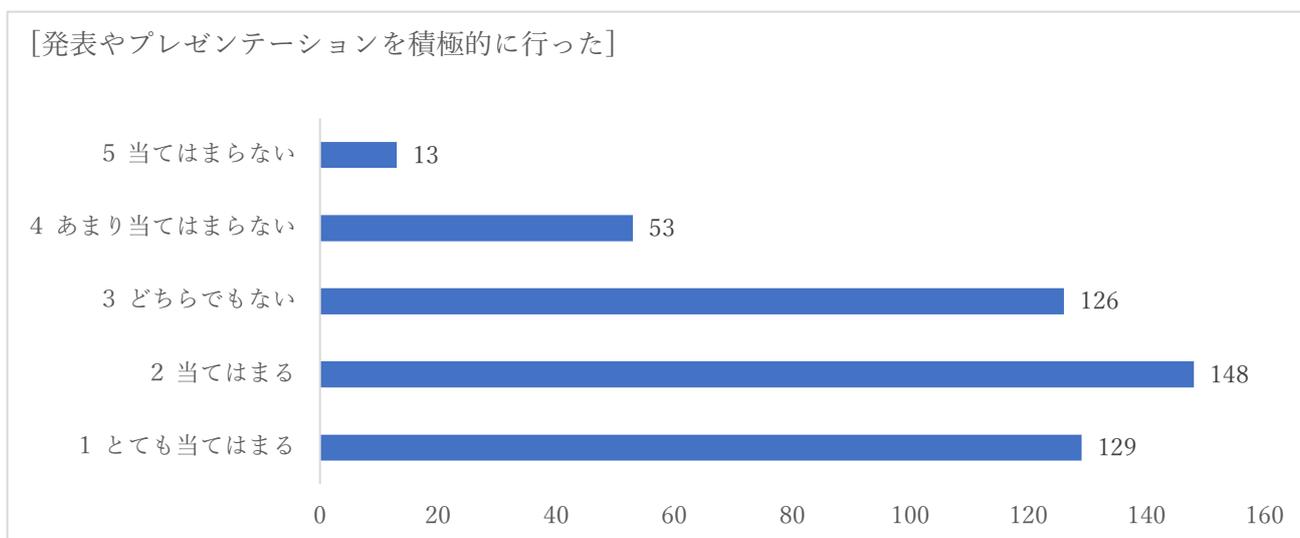
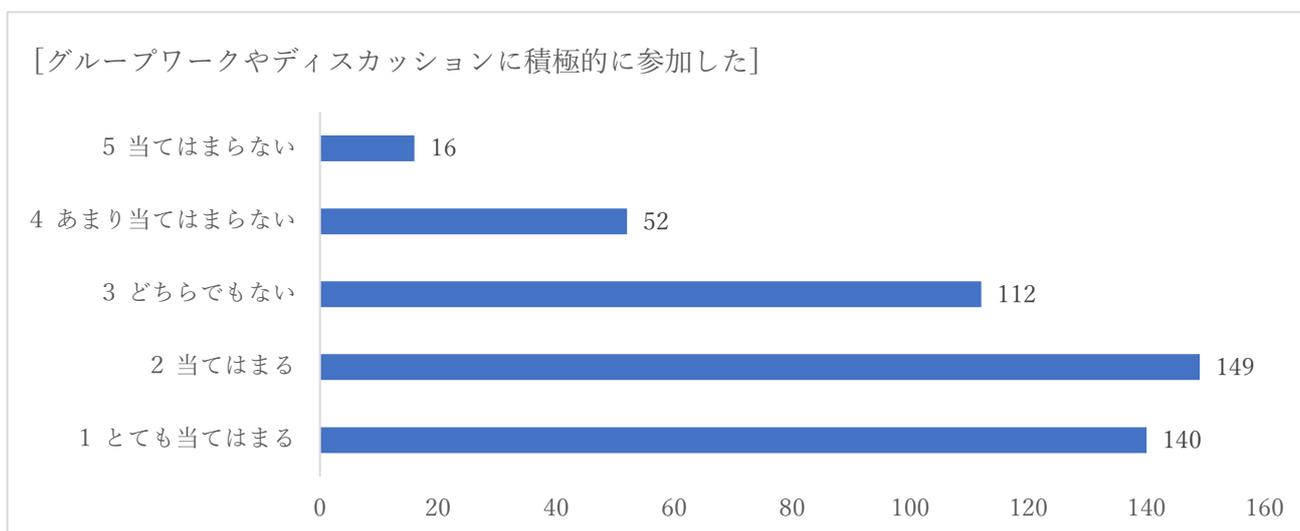
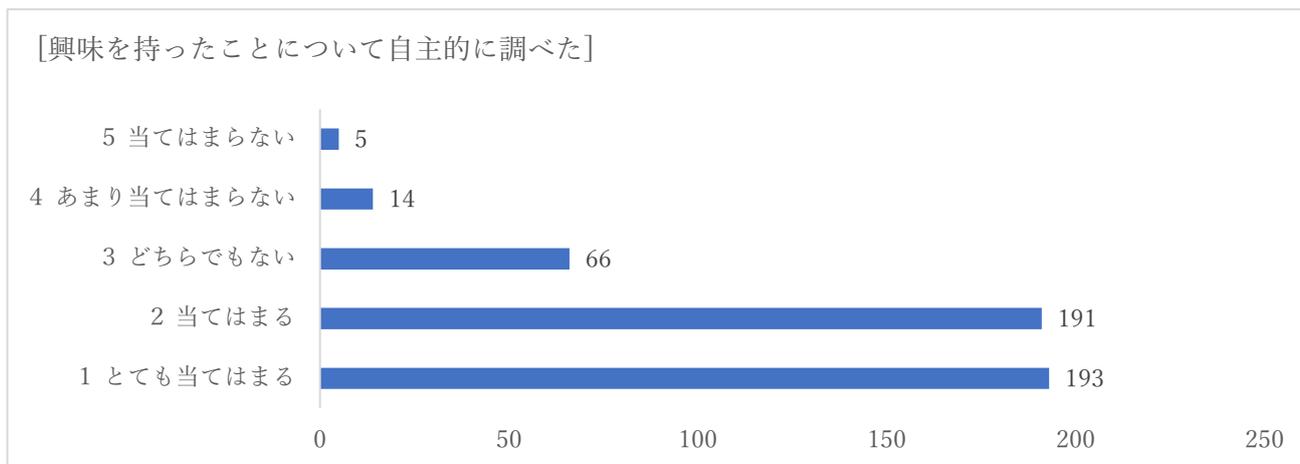


[わからないことを放置することなく、すぐに教員に質問するなどの対応をした]



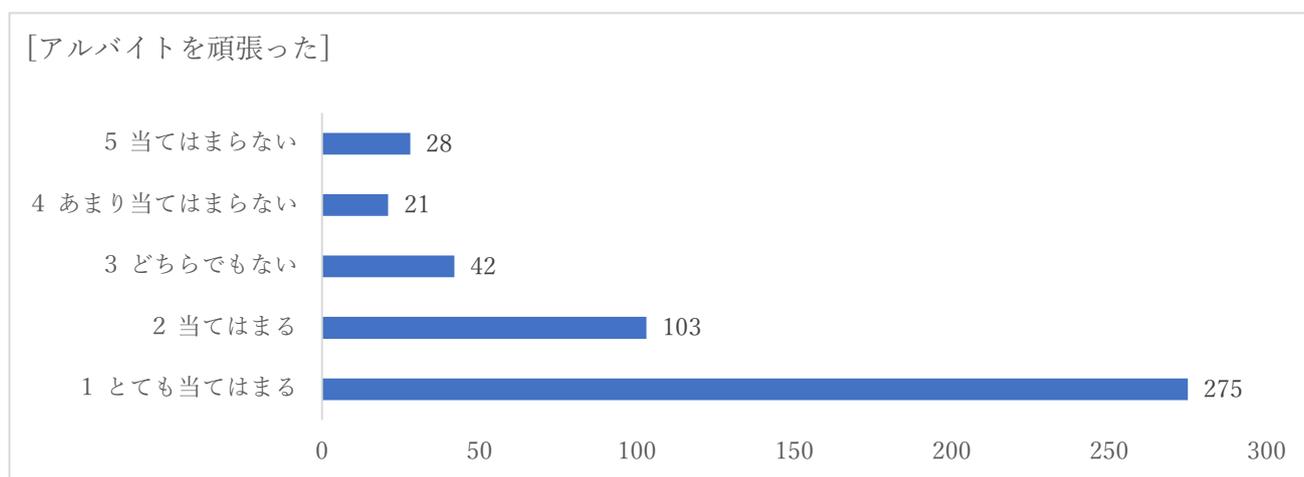
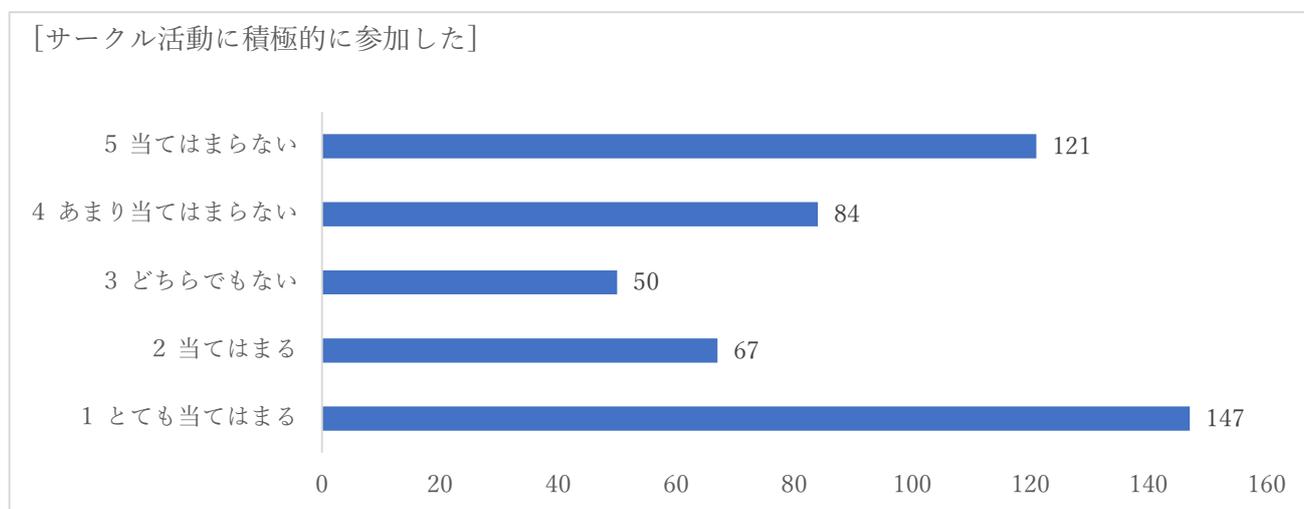
「授業の課題等をきちんとやった」について「とても当てはまる」又は「当てはまる」と回答した学生は85.1%であった。また「わからないことを放置することなくすぐに教員に質問する等の対応をした」について「とても当てはまる」又は「当てはまる」と回答した学生は70.4%であった。「期末試験等の前は計画的に準備をした」について「とても当てはまる」又は「当てはまる」と回答した学生は70.4%であった。

備した」について「とても当てはまる」又は「当てはまる」と回答した学生は71%であった。



「興味を持ったことについて自主的に調べた」について「とても当てはまる」又は「当てはまる」と回答し

た学生は81.9%であった。また「グループワークやディスカッションに積極的に参加した」について「とても当てはまる」又は「当てはまる」と回答した学生は61.6%であった。「発表やプレゼンテーションを積極的に行った」について「とても当てはまる」又は「当てはまる」と回答した学生は59%であった。

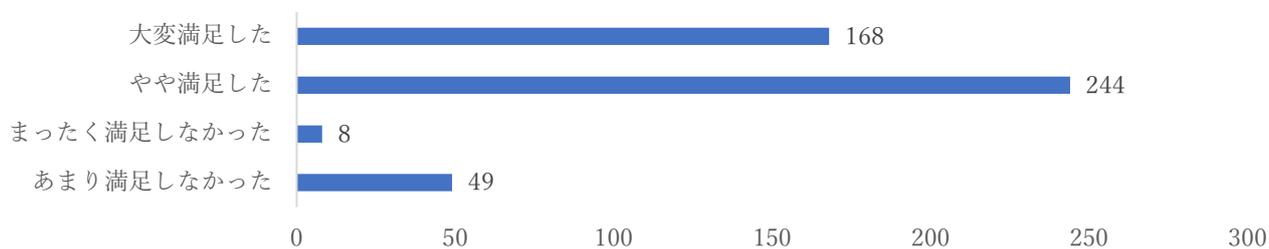


半数以上（58.6%）の学生が「アルバイトを頑張った」について「とても当てはまる」と回答している。サークル活動に積極的に参加した学生は「とても当てはまる」（31.3%）と「当てはまらない」（25.8%）で回答が二分した状況となった。

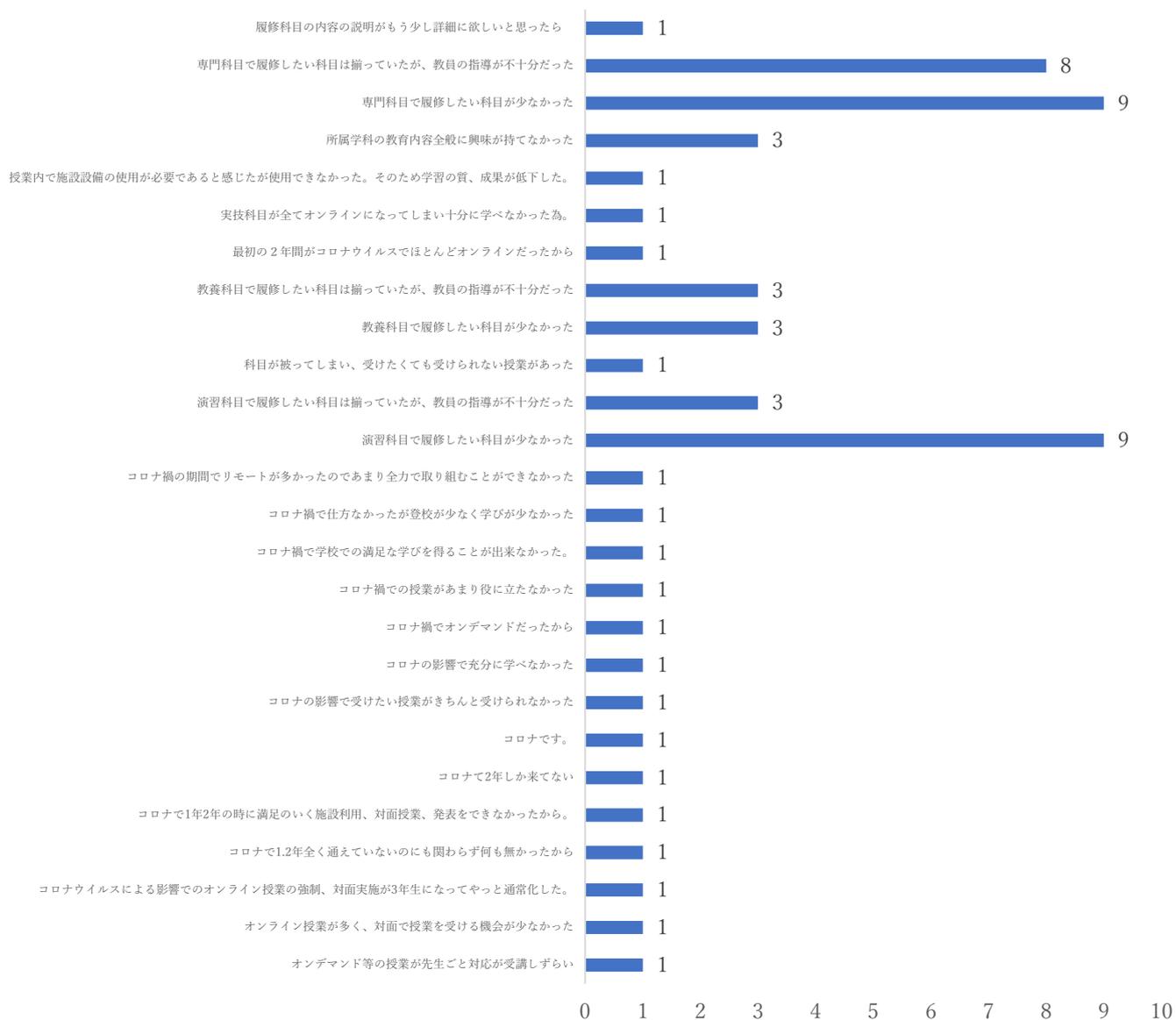
Q1で授業科目を通じて最も身につけられなかった能力の上位であった「コミュニケーション能力」や「表現力・プレゼンテーション力」であったが、卒業直前の状況として「グループワークやディスカッションに積極的に参加した」、「発表やプレゼンテーションを積極的に行った」について「とても当てはまる」または「当てはまる」と回答した学生がそれぞれ61.6%、59%であり、「コミュニケーション能力」や「表現力・プレゼンテーション力」の獲得につながると思われるグループワークやディスカッション、発表やプレゼンテーションに積極的に行っているにも関わらず、身につけられていないと感じている学生が多いことの要因の分析が必要と思われる。

## 【教育内容への満足度】

Q3-1. 大学の教育内容に満足しましたか。



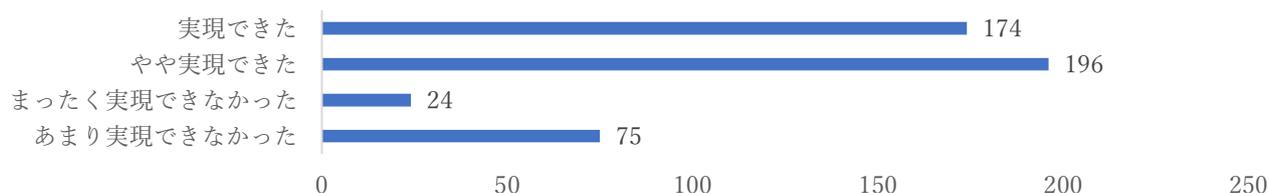
Q3-2. Q3-1で「あまり満足しなかった」「まったく満足しなかった」と回答した方におうかがいします。その理由として最も当てはまるものを選んでください。



本学の教育内容について「とても満足した」又は「満足した」と回答した者は87.8%であった。反対に「全く満足しなかった」又は「あまり満足しなかった」と回答した者は12.2%であった。否定的な回答した理由については、意見が割れているが、回答した内容が多い者として専門科目や演習科目で「履修したい科目がなかった」としたものであった。この点に関し、さらなる分析が必要であると思われる。

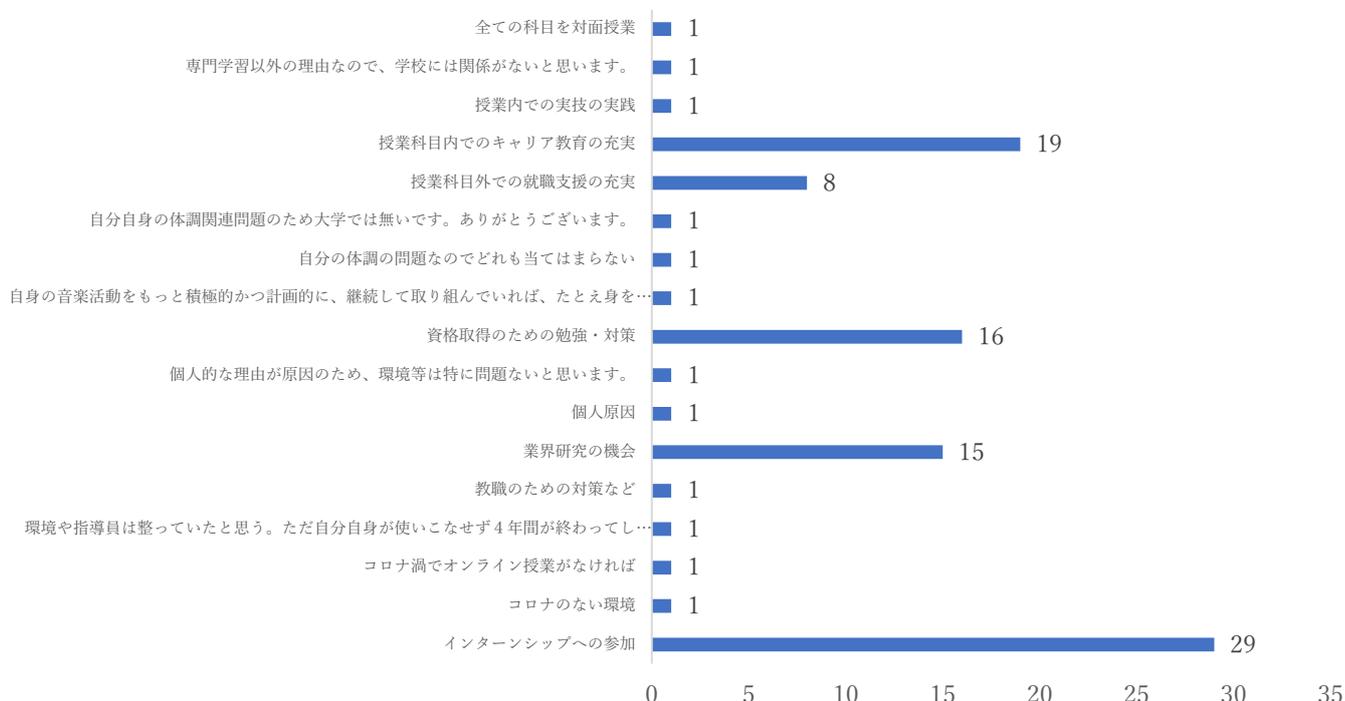
### 【就職等の状況】

Q4-1. 希望通りの進路が実現できましたか。



Q4-2. Q4-1で「あまり実現できなかった」「まったく実現できなかった」と回答した方におうかがいします。

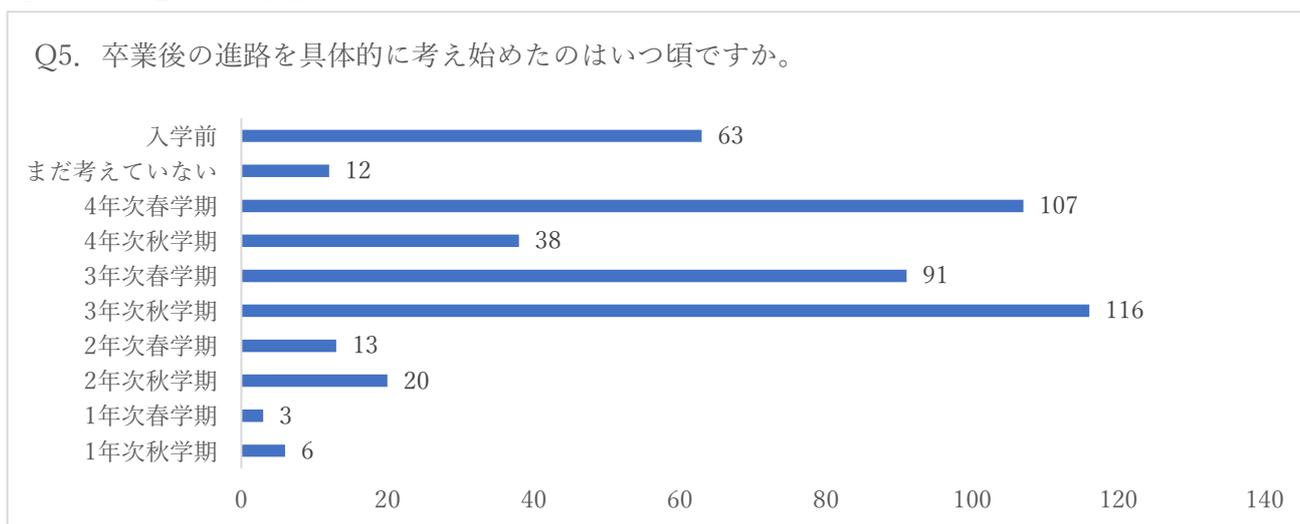
在学中にどのような環境があれば、またはどのようなことに取り組んでいれば、希望通りの進路を実現できたと思いますか。



卒業後の進路について、希望通りの進路が実現できたとしたものは「実現できた」、「やや実現できた」を合わせれば78.9%であり、令和5年度卒業見込生については、概ね希望通りの進路を実現できているといえる。

他方、希望通りの進路が「まったく実現できなかった」又は「あまり実現できなかった」と回答した99人の学生のうち、29人が「インターンシップへの参加」(29.3%)、19人が「授業科目内でのキャリア教育」(19.2%)に取り組んでいれば希望通りの進路を実現できたと回答している。このため、出口において学生が成果を出すためには「インターンシップへの参加」、「授業科目内でのキャリア教育」のさらなる充実がのぞまれると考えられる。

### 【キャリア意識の状況】



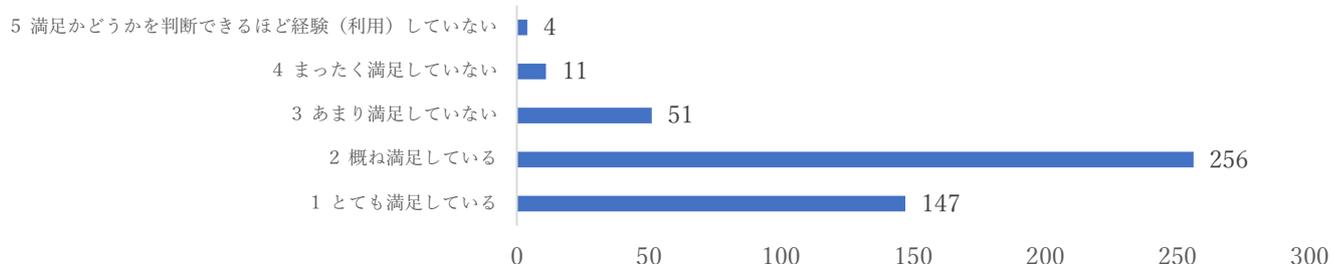
卒業後の進路を具体的に考え始めた時期とした最も多かったのが「3年次秋学期」(24.7%)、続いて「4年次春学期」(22.8%)であった。一般的な大学生の就職活動の開始時期を考えると、本学の学生のキャリア意識の形成開始時期が遅い傾向にあることが判明した。

なお、希望通りの進路を実現した学生のキャリア意識の形成時期がいつであったのかといったさらなる分析が必要である。

## 【大学全般に対する満足度】

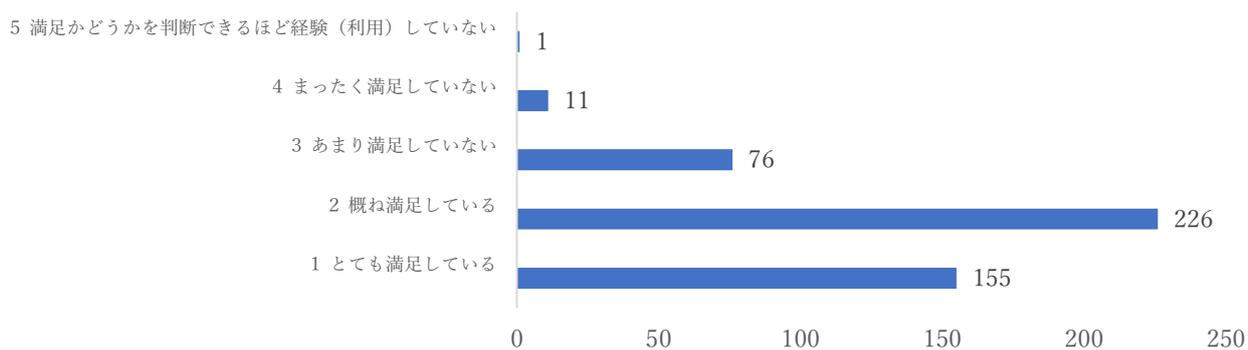
Q6. 大学生活全般についておうかがいします。以下の項目における満足度について、それぞれ1～5で回答してください。

### [授業内容とその水準]



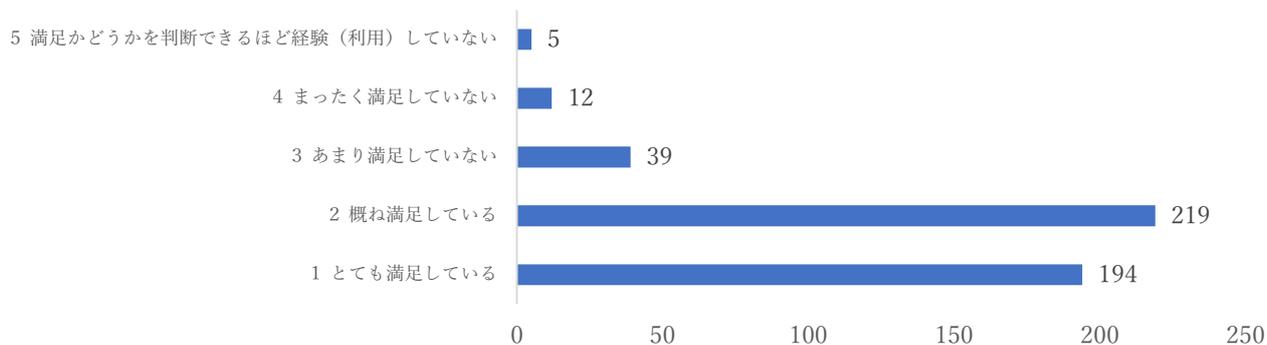
授業内容とその水準に対する満足度は85.9%の学生が肯定的な回答（「とても満足している」又は「概ね満足している」と回答）している。

### [あなた自身の学修成果・成長度]

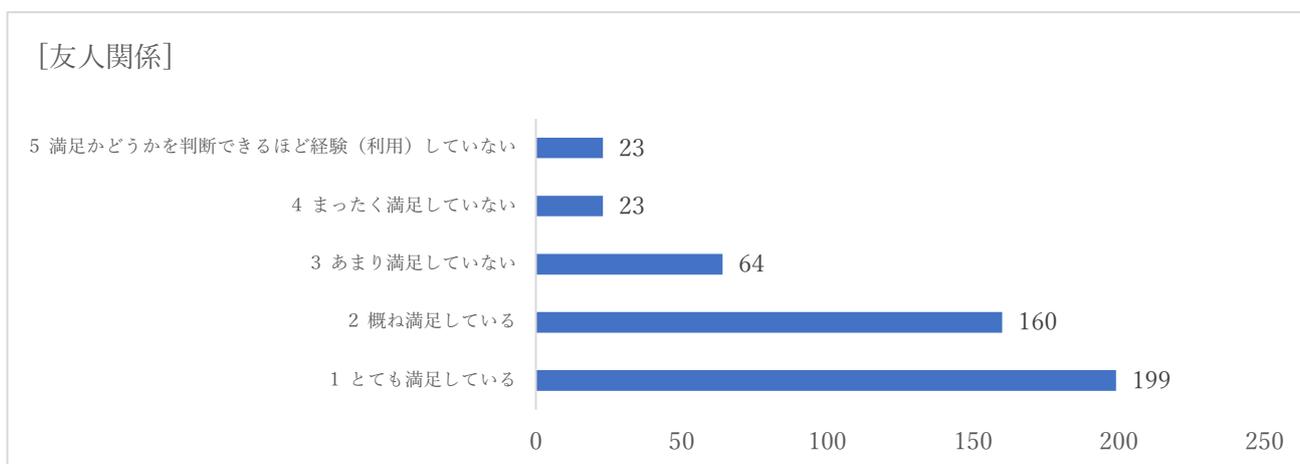


学生自身の学修成果・成長度への満足度は81.2%の学生が肯定的な回答（「とても満足している」又は「概ね満足している」と回答）している一方、否定的な回答（「まったく満足していない」又は「あまり満足していない」と回答）をした学生も18.6%と少なくない。

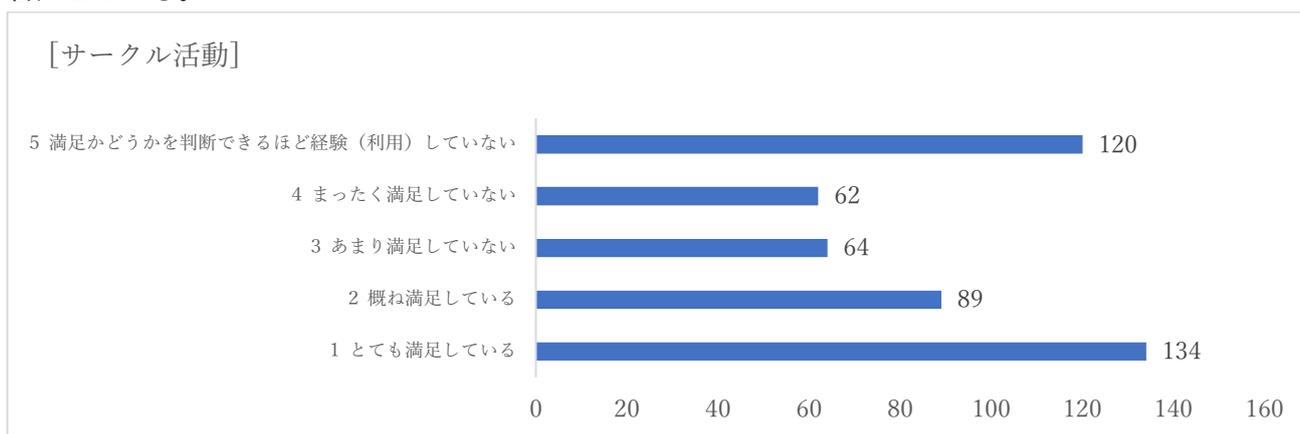
### [教員のアドバイスや指導]



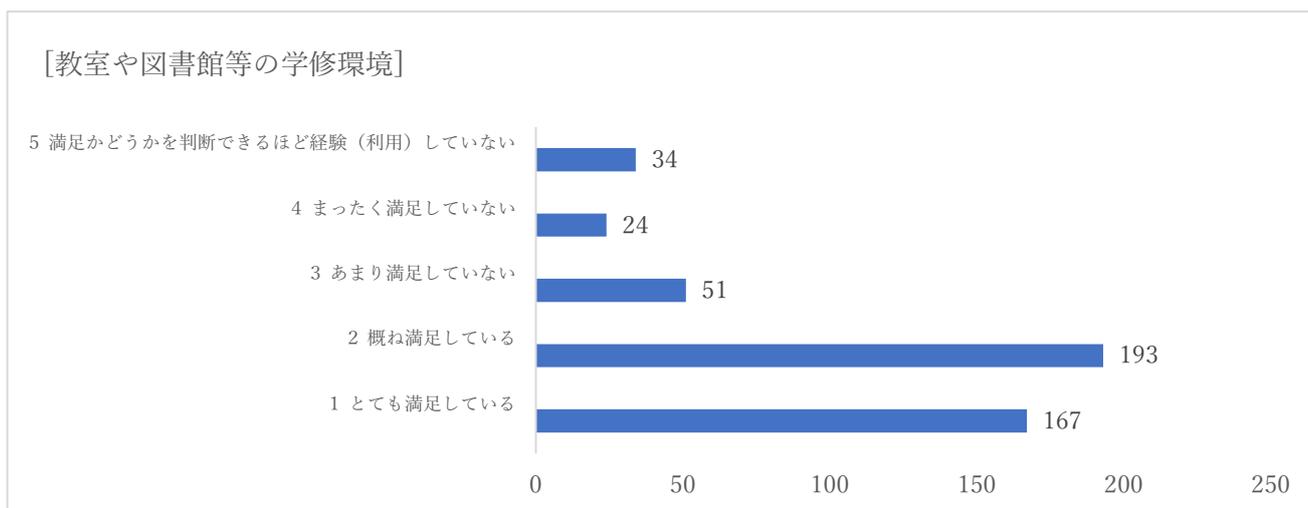
教員のアドバイスや指導への満足度は88.1%の学生が肯定的な回答（「とても満足している」又は「概ね満足している」と回答）している。



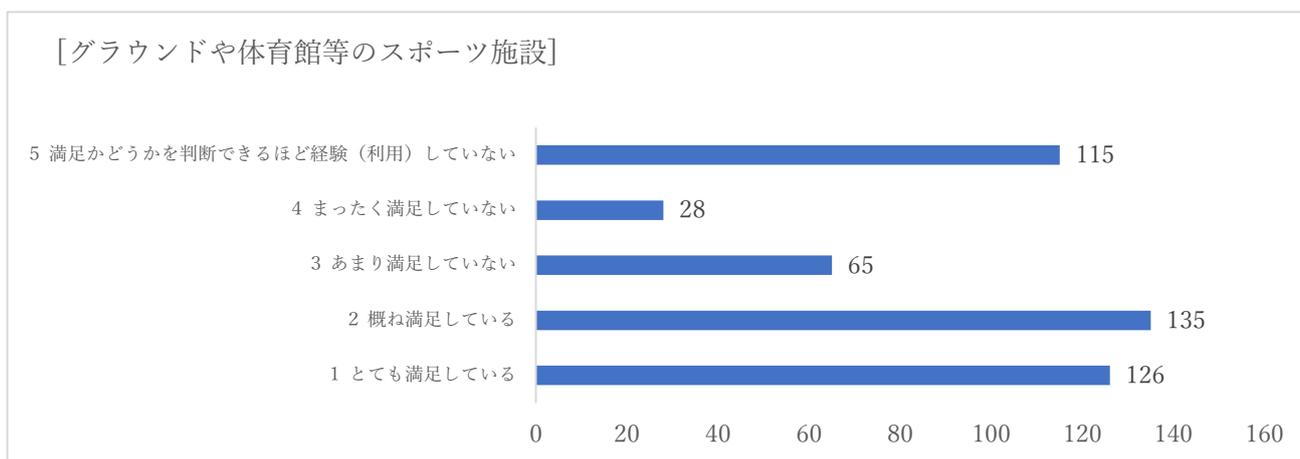
友人関係への満足度は76.5%の学生が肯定的な回答（「とても満足している」又は「概ね満足している」と回答）している。



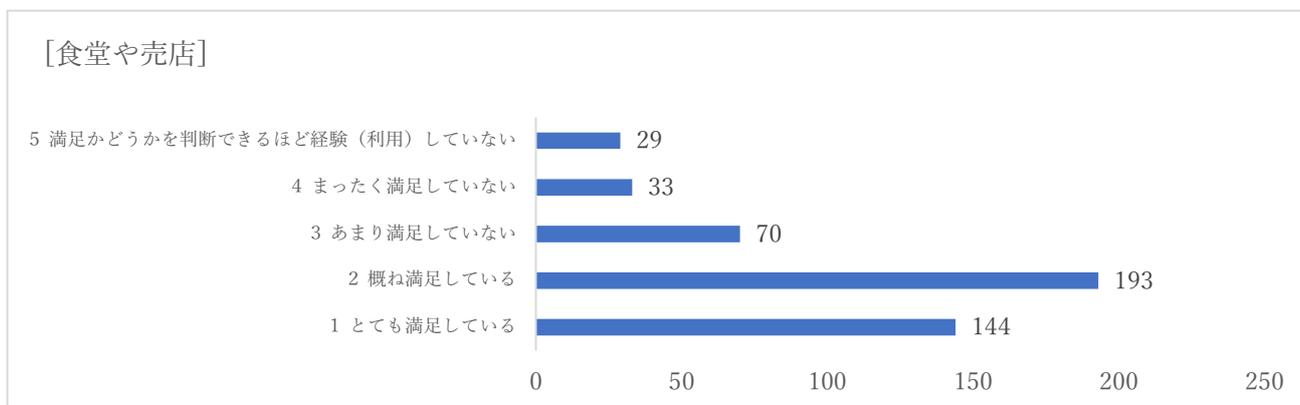
サークル活動の満足度は47.5%の学生が肯定的な回答（「とても満足している」又は「概ね満足している」と回答）している一方、利用していないと回答した学生も25.6%と少なくない。また、否定的な回答（「まったく満足していない」又は「あまり満足していない」と回答）を行っている学生の割合も26.9%少なくない。



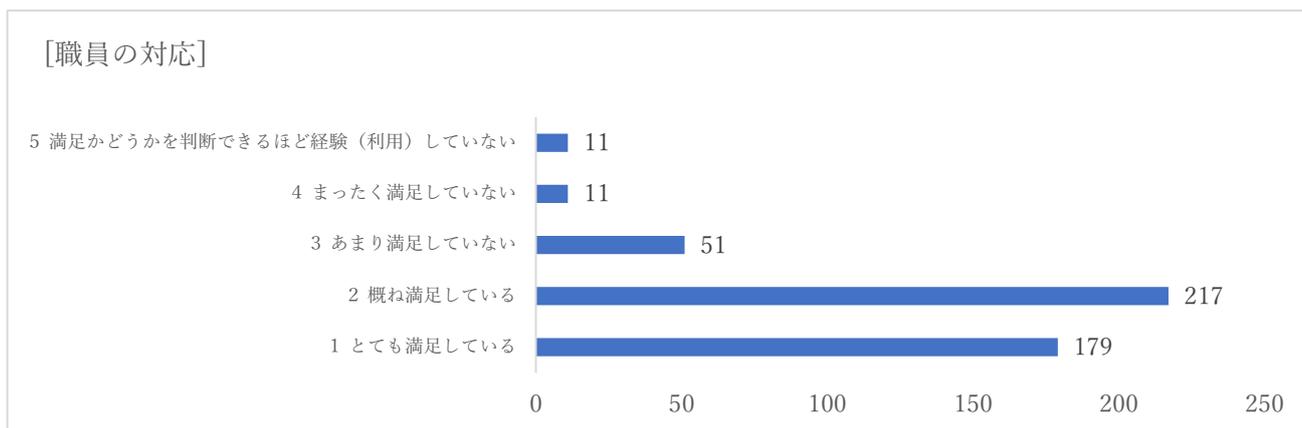
教室や図書館等への満足度は76.8%の学生が肯定的な回答（「とても満足している」又は「概ね満足している」と回答）している。



スポーツ施設の満足度は55.7%の学生が肯定的な回答（「とても満足している」又は「概ね満足している」と回答）している一方、利用していないと回答した学生も24.5%と少なくない。

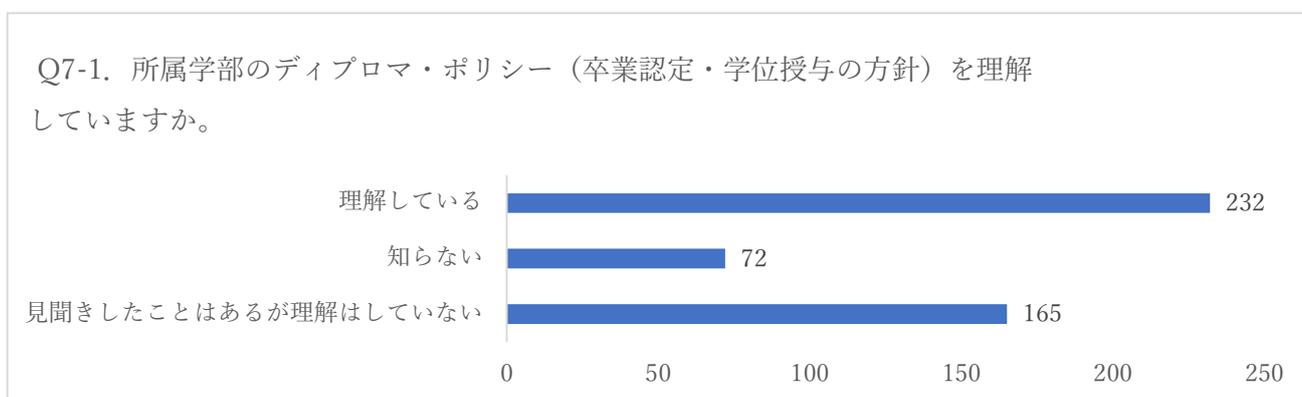


食堂や売店に対する肯定的な回答（「とても満足している」又は「概ね満足している」と回答）を行っている学生は71.9%であった。



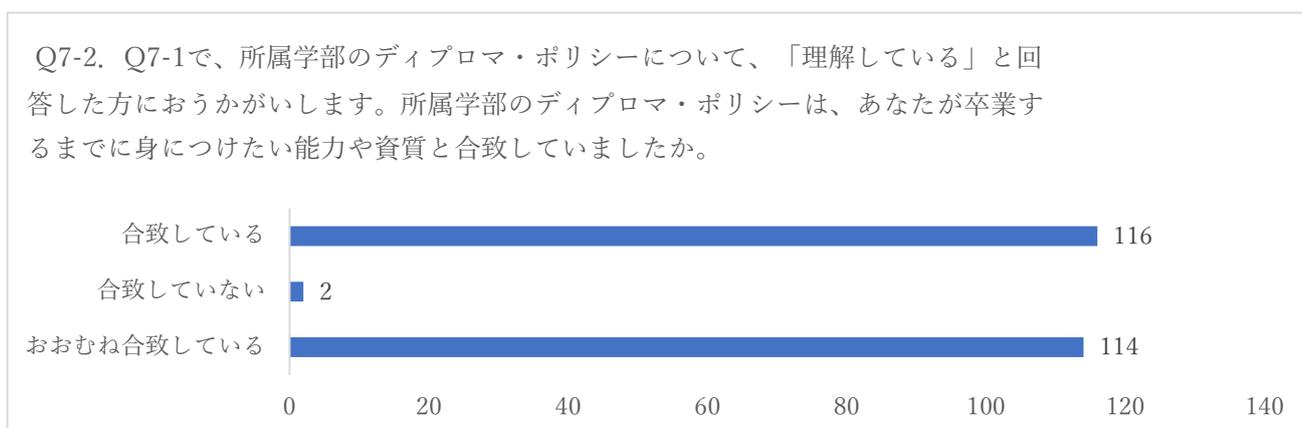
職員の対応については、84.4%の学生が肯定的な回答（「とても満足している」又は「概ね満足している」と回答）をしている。

#### 【ディプロマ・ポリシーに対する理解度等】

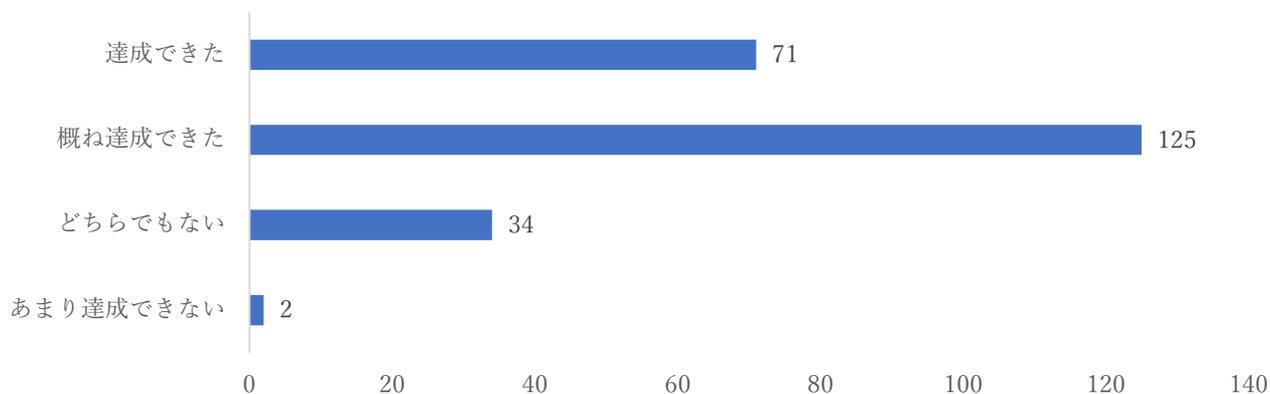


所属学部のディプロマ・ポリシーを理解していると回答している者（49.5%）と、そうでない者（50.5%）の割合は半々である。

ディプロマ・ポリシーは学生に周知してこそ意味があるものであることから、さらなる周知が望まれる。

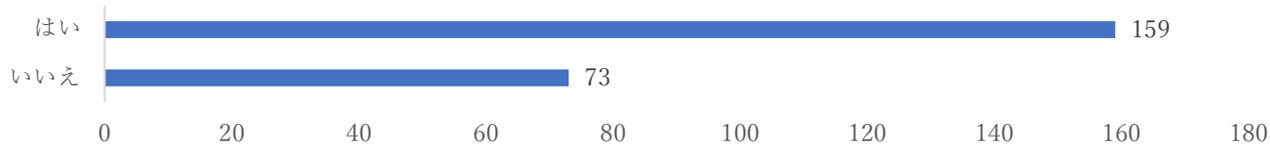


Q7-3. Q7-1で、所属学部のディプロマ・ポリシーについて、「理解している」と回答した方におうかがいします。あなた自身は所属学部のディプロマ・ポリシーを現時点でどれくらい達成できたと思いますか。



Q7-4. Q7-1で、所属学部のディプロマ・ポリシーについて、「理解している」と回答した方におうかがいします。

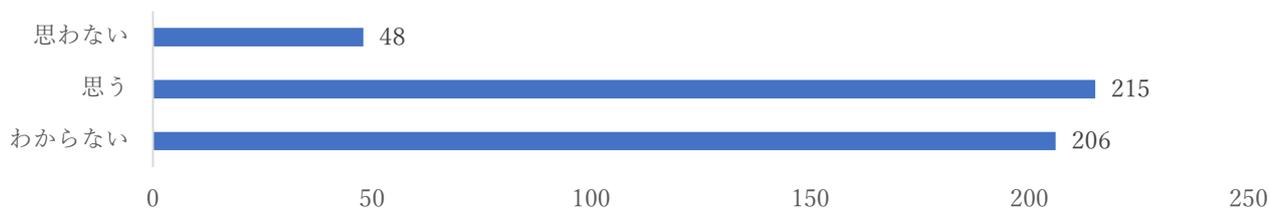
履修登録の際にディプロマ・ポリシーを参考にしていましたか。



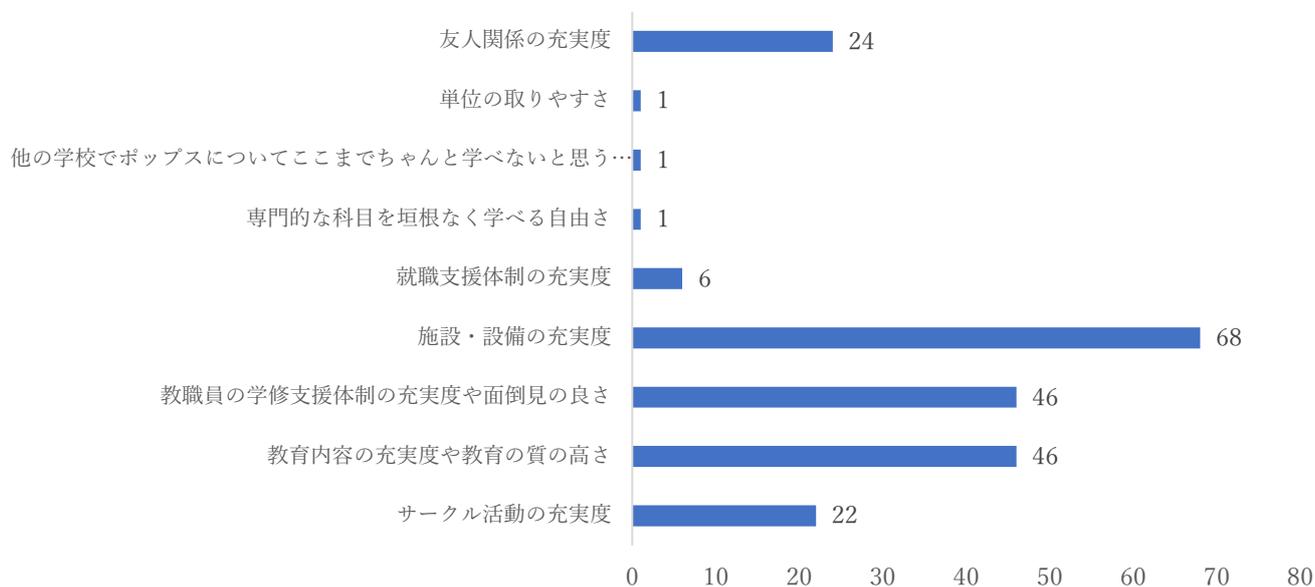
ディプロマ・ポリシーを理解している者のほとんどが、学生自身が身につけたい能力と合致していると回答している。また、ディプロマ・ポリシーを理解している者の多くがそれを「達成できた」又は「おおむね達成できた」と回答している。さらに、ディプロマ・ポリシーを理解している者のうち 68.5%が履修登録の際に参考にしていると回答している。

#### 【本学推奨度について】

Q8-1. 本学への入学を後輩に勧めたいと思いますか。



Q8-2. Q8-1で「思う」と回答した方におうかがいします。その理由として最も当てはまるものを選んでください。

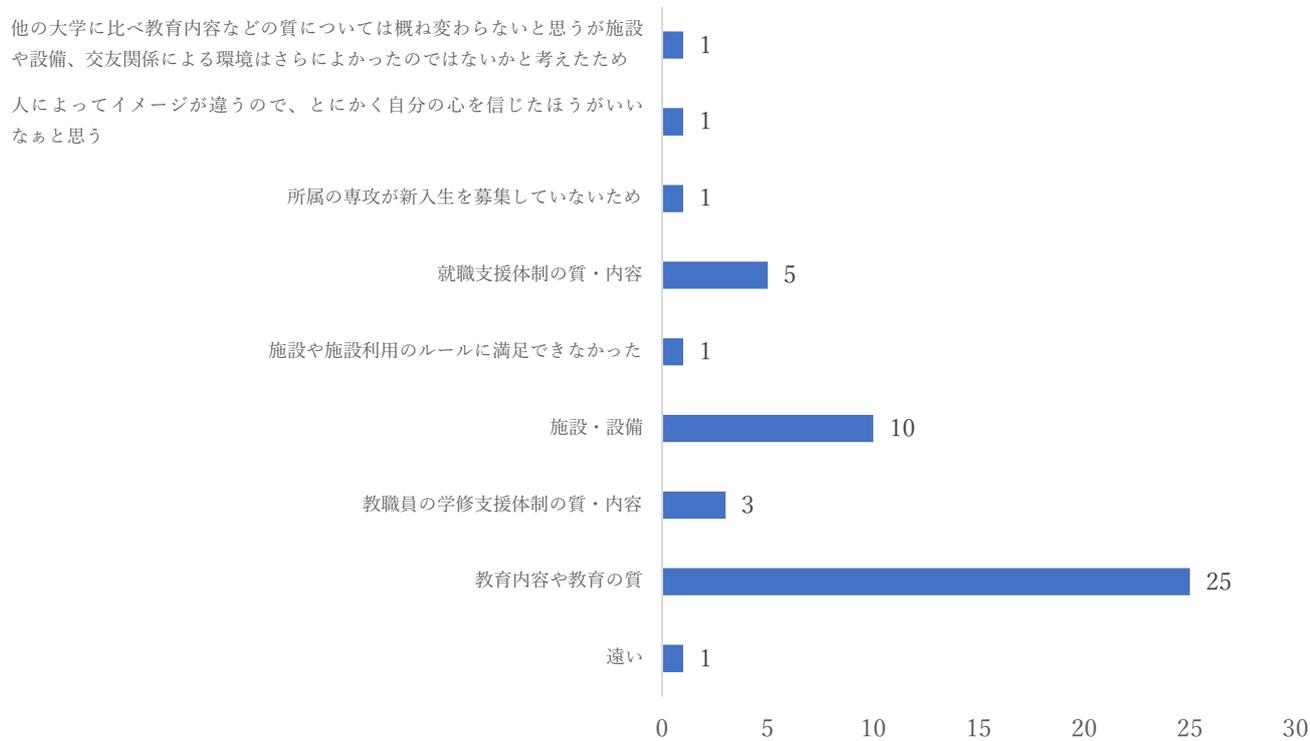


本学への入学を後輩等に推奨したいかについては、「思う」と回答した者の割合は45.8%であった。反対に「思わない」と回答した者の割合は10.2%であった。

推奨したい理由としては、「施設・設備の充実度」が一番多く、続いて「教職員の学修支援体制の充実度や面倒見の良さ」、「教育内容の充実度や教育の質の高さ」が多かった。

他方「就職支援体制の充実度」と回答した者の割合は低く、Q5の回答状況と合わせて、就職支援体制の充実が望まれる。

Q8-3. Q8-1で「思わない」と回答した方におうかがいします。その理由として最も当てはまるものを選んでください。



本学への入学を後輩等に推奨したいかについては、「思わない」と回答した理由として、もっとも多かったのは「教育内容や教育の質」であった。推奨したい理由として「教育内容の充実度や教育の質の高さ」が21.4%であった一方、推奨しない理由として「教育内容や教育の質」を挙げた者の割合は回答者のうち52.1%であるため、このような結果となった要因等について、さらなる分析が必要であると考えられる。

以上

尚美学園大学 2024年度

「学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート」  
集計結果について

尚美学園大学では、学生の学修成果、学修時間・学修行動について把握し、教育の改善や質向上に役立てることを目的として、「学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート」を実施しています。

## 2024年度「学修成果、学修時間・学修行動に関するアンケート」

【対象】全学生（学部生）

【回答期間】2024年7月9日（火）～8月30日（金）

【実施方法】Webアンケートフォームをポータルシステム及び授業を通じて学生に通知

【回答者数】1,311人（回答率44.3%）

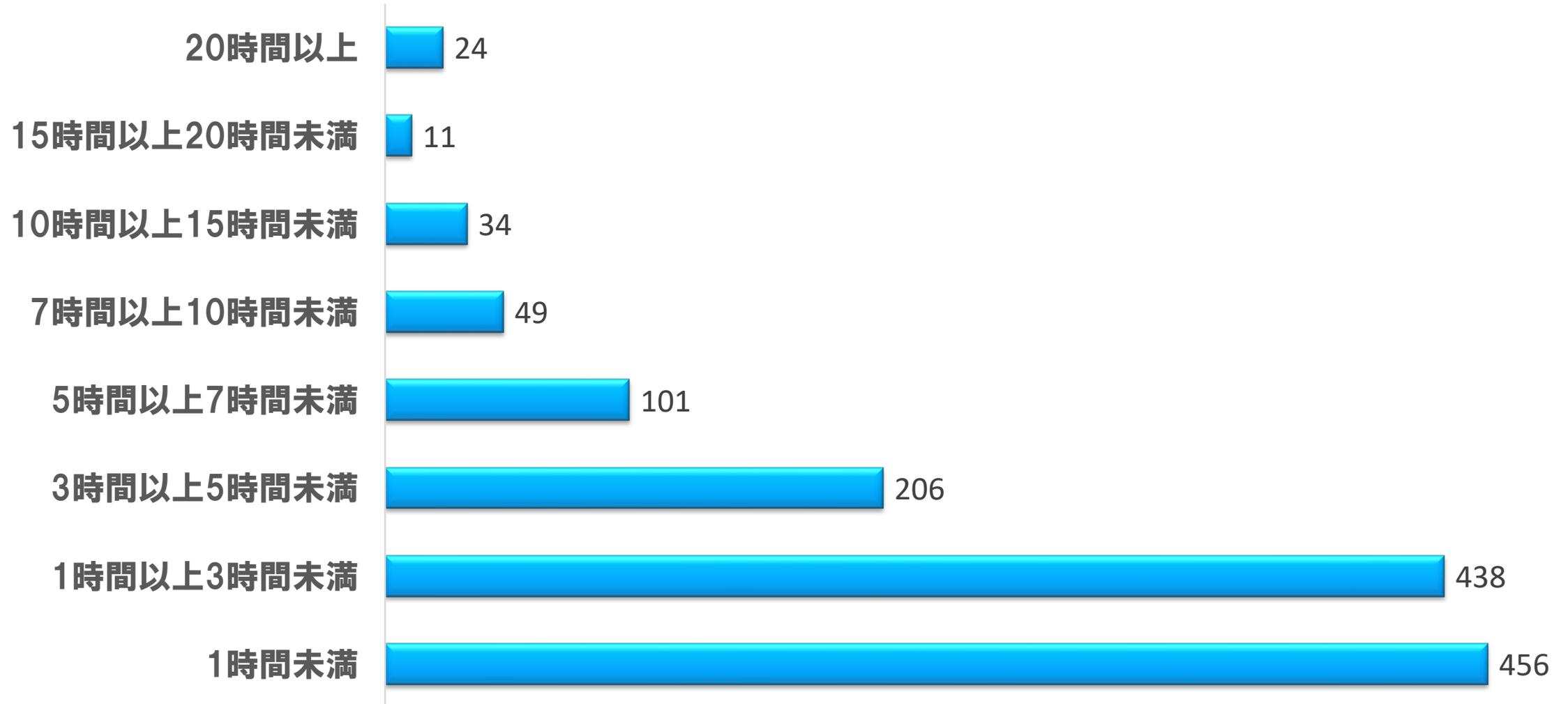
【担当部局】教務課／大学戦略・IR室

## 【アンケート設問】

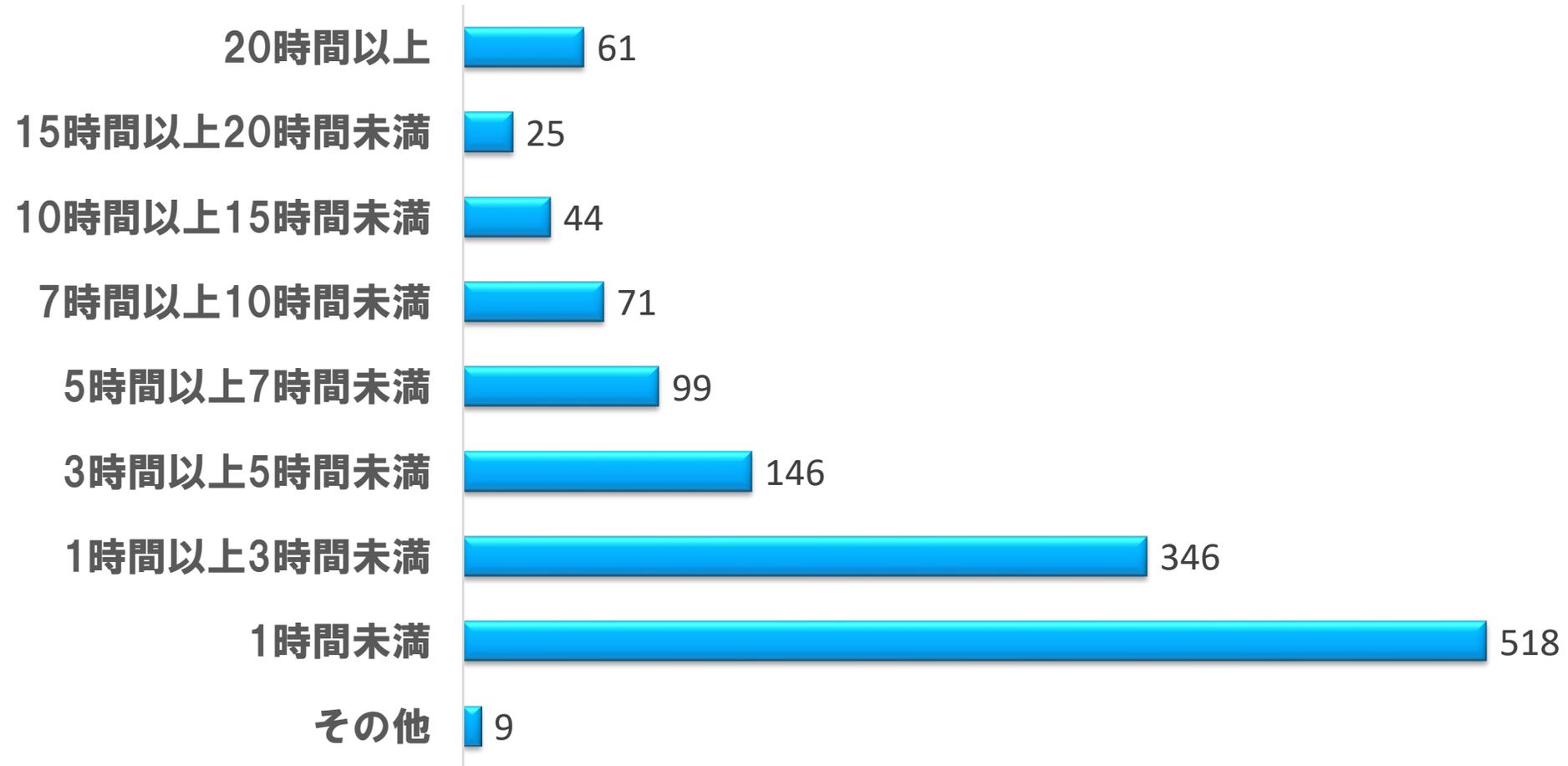
- Q1 授業の予習・復習に費やす時間について、1週間当たりの合計時間はどのくらいですか。
- Q2 授業と直接は関係のない自主的学習（実技の練習、自主的な作品の制作、資格試験の勉強等）に費やす時間について、1週間当たりの合計時間はどのくらいですか。
- Q3 現在のあなたの学修状況についておうかがいいたします。
- Q4 入学してから現在まで、授業や授業中の学修に関連して、あなたが多く経験したことがある項目を選んでください。
- Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。
- Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。
- Q7 現時点で、卒業後の進路についてどの程度考えていますか。
- Q8 入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。
- Q9 大学受験の際、本学は第一志望でしたか。
- Q10 現時点で、本学への入学を後輩や知人等に勧めたいと思いますか。
- Q11 所属学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解していますか。

⇒ アンケート結果は次頁以降となっております。（グラフの単位：人）

## Q 1 授業の予習・復習に費やす時間について、1週間当たりの合計時間はどのくらいですか。



**Q2 授業と直接は関係のない自主的学習（実技の練習、自主的な作品の制作、資格試験の勉強等）に費やす時間について、1週間当たりの合計時間はどのくらいですか。**

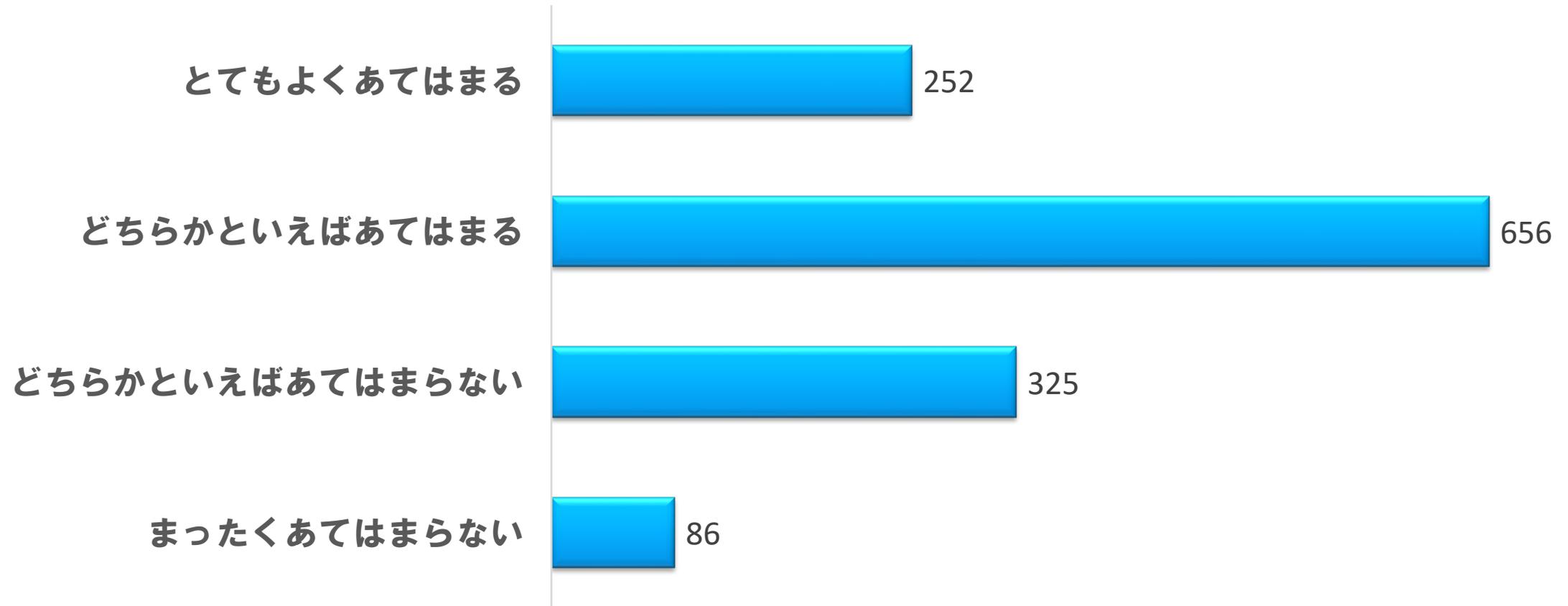


（「その他」の主な回答）

- ・制作をする期間とそうでない期間があり、制作をする期間は1日3～8時間程度している
- ・体調とその週の体力によって時間は変動する

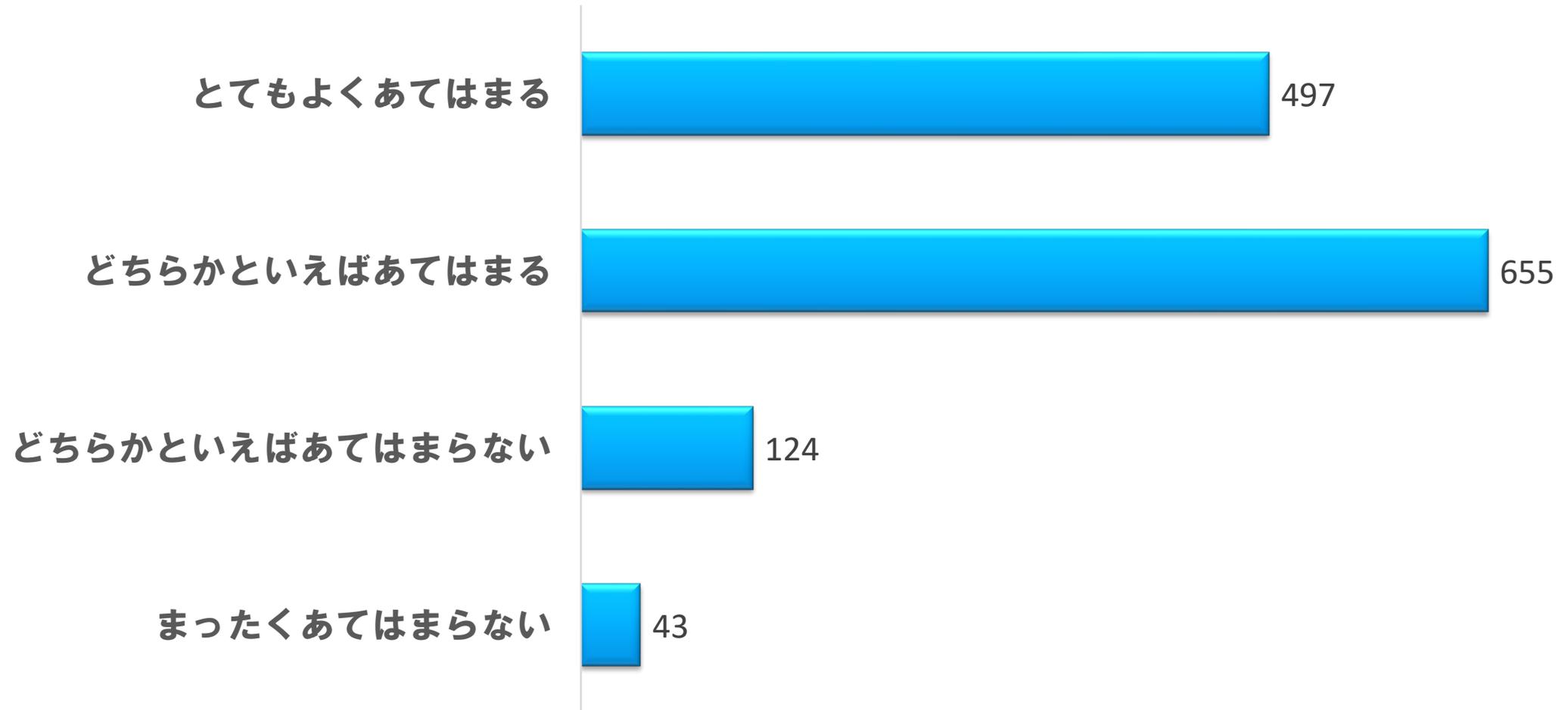
**Q 3 現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。**

**わからないことを放置することなく、  
すぐに教員に質問するなどの対応をした**



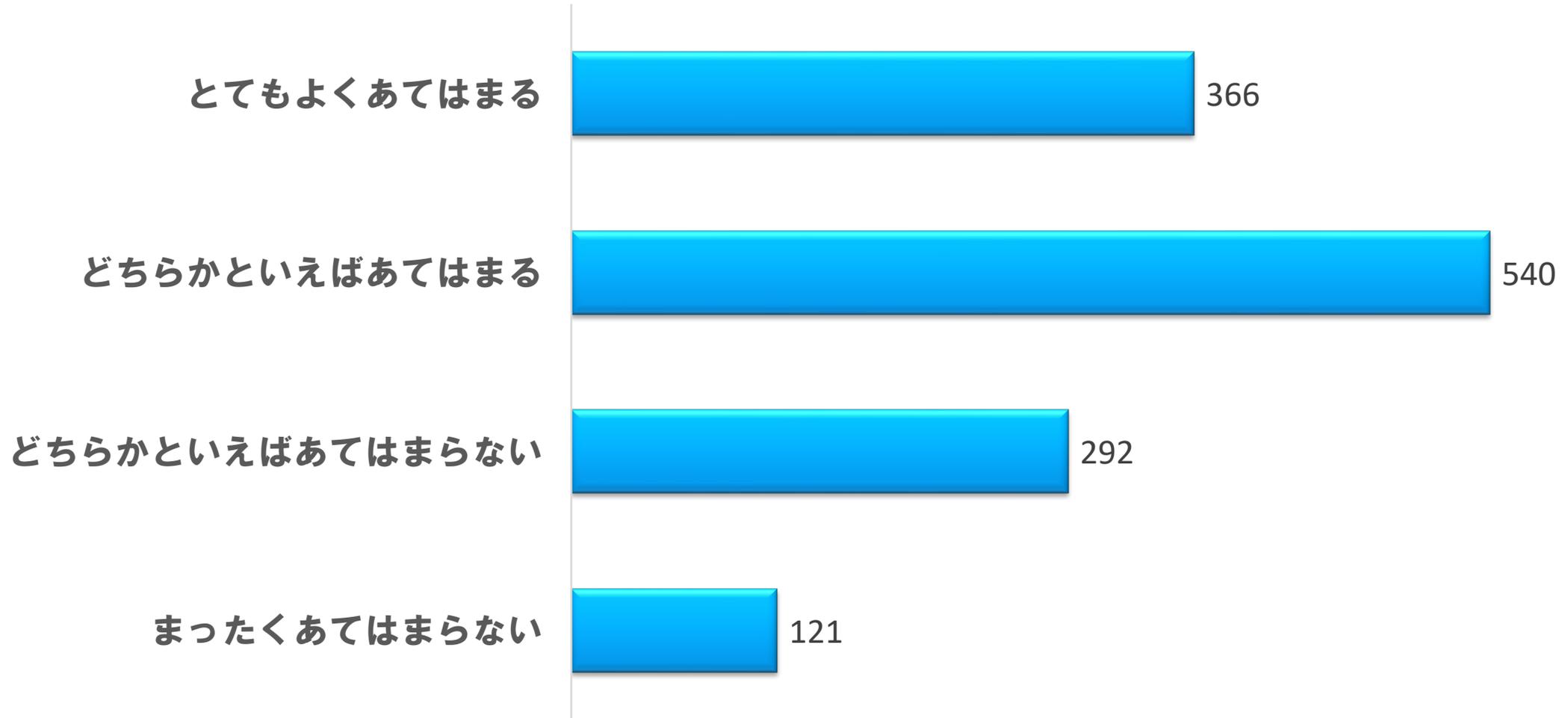
**Q3 現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。**

**興味を持ったことについて自主的に調べた**



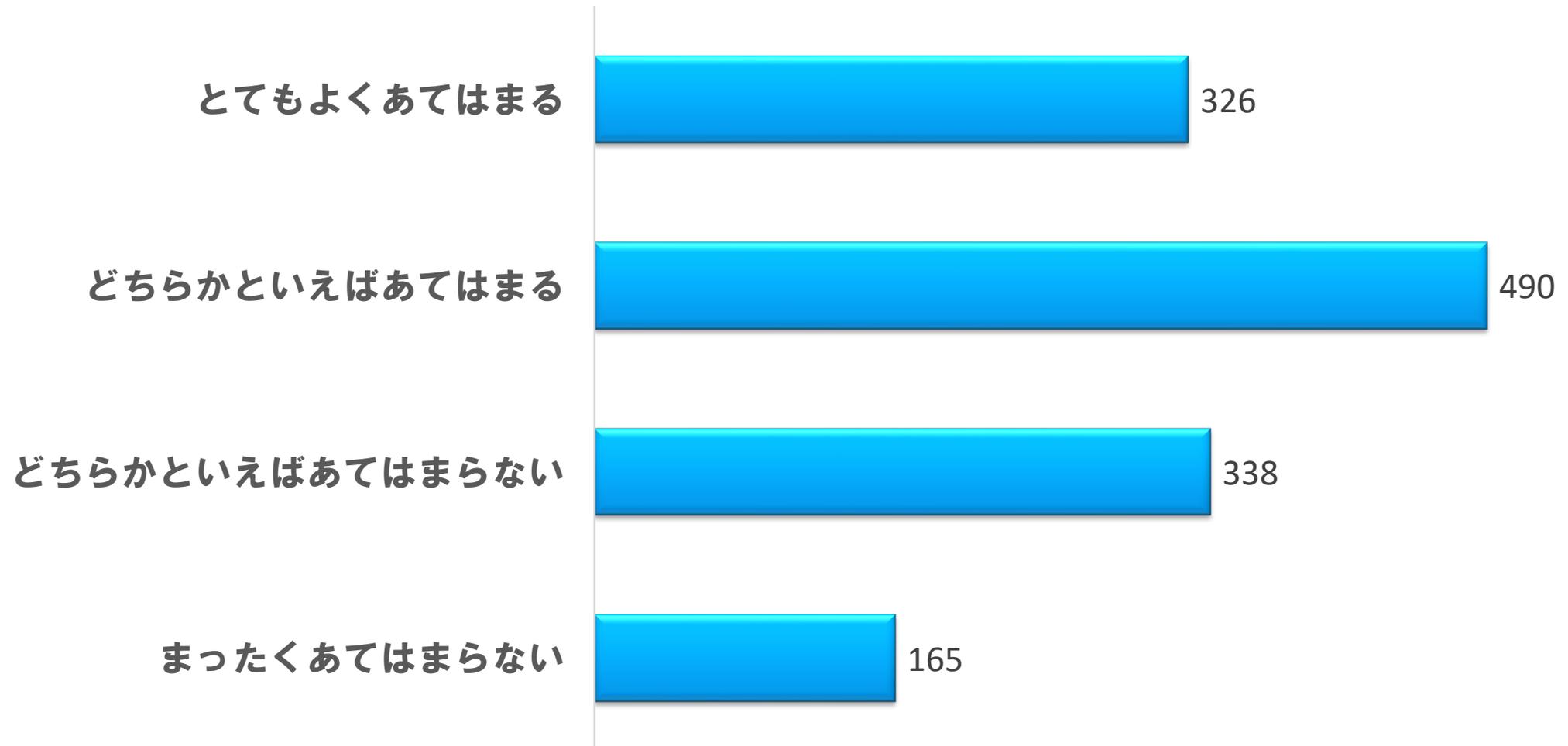
**Q3 現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。**

**グループワークやディスカッションに積極的に参加した**



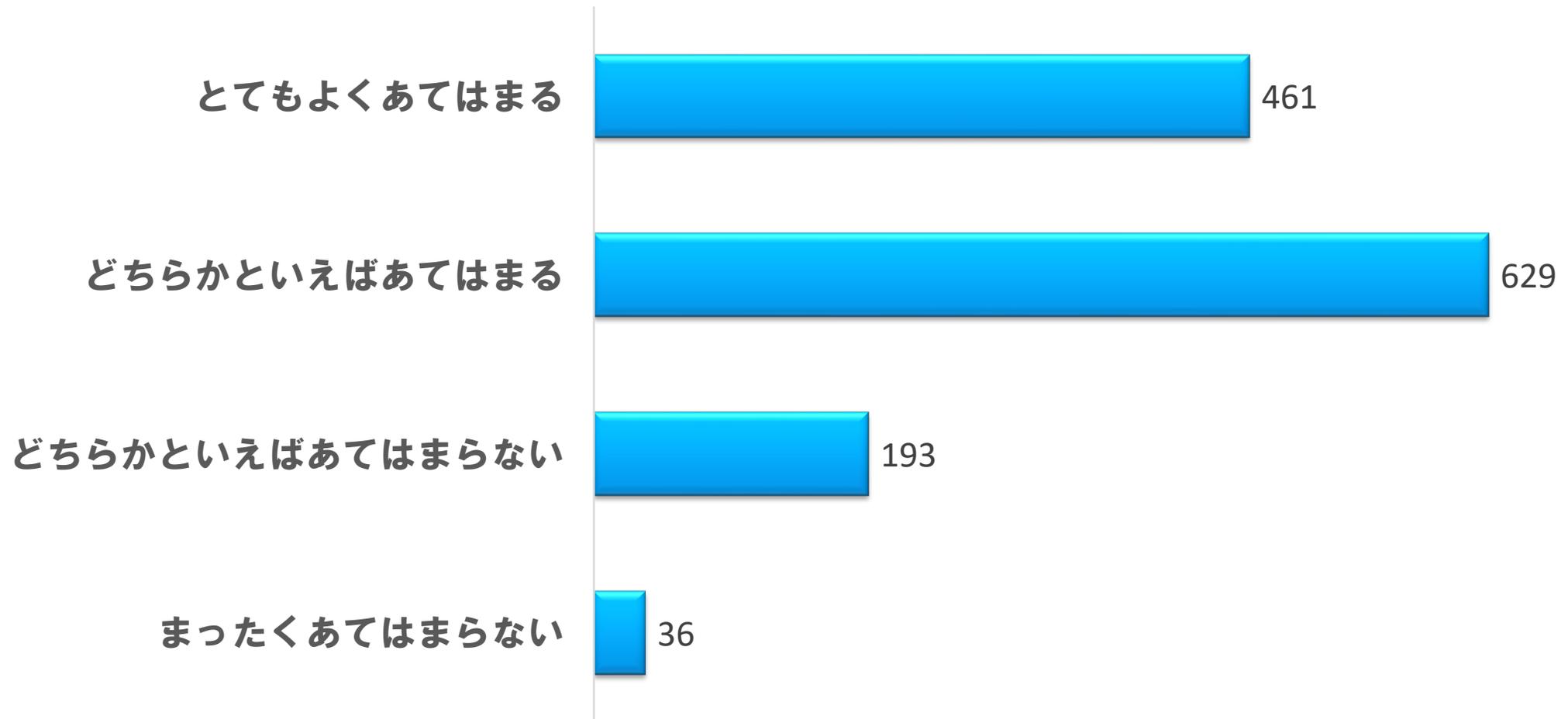
**Q3 現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。**

**発表やプレゼンテーションを積極的に行った**



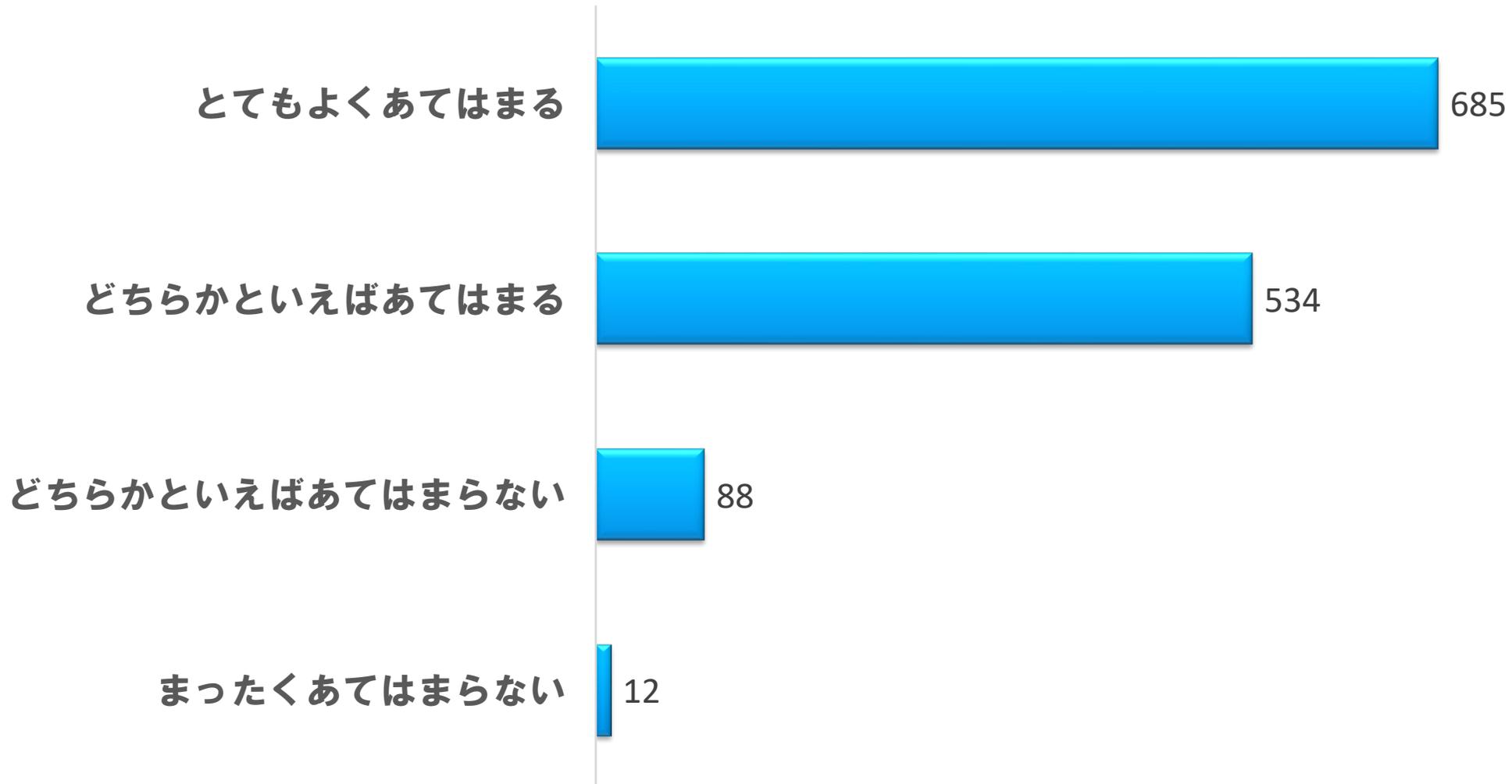
**Q3 現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。**

**授業に毎回出席し教員の話をしっかり聴いていた**



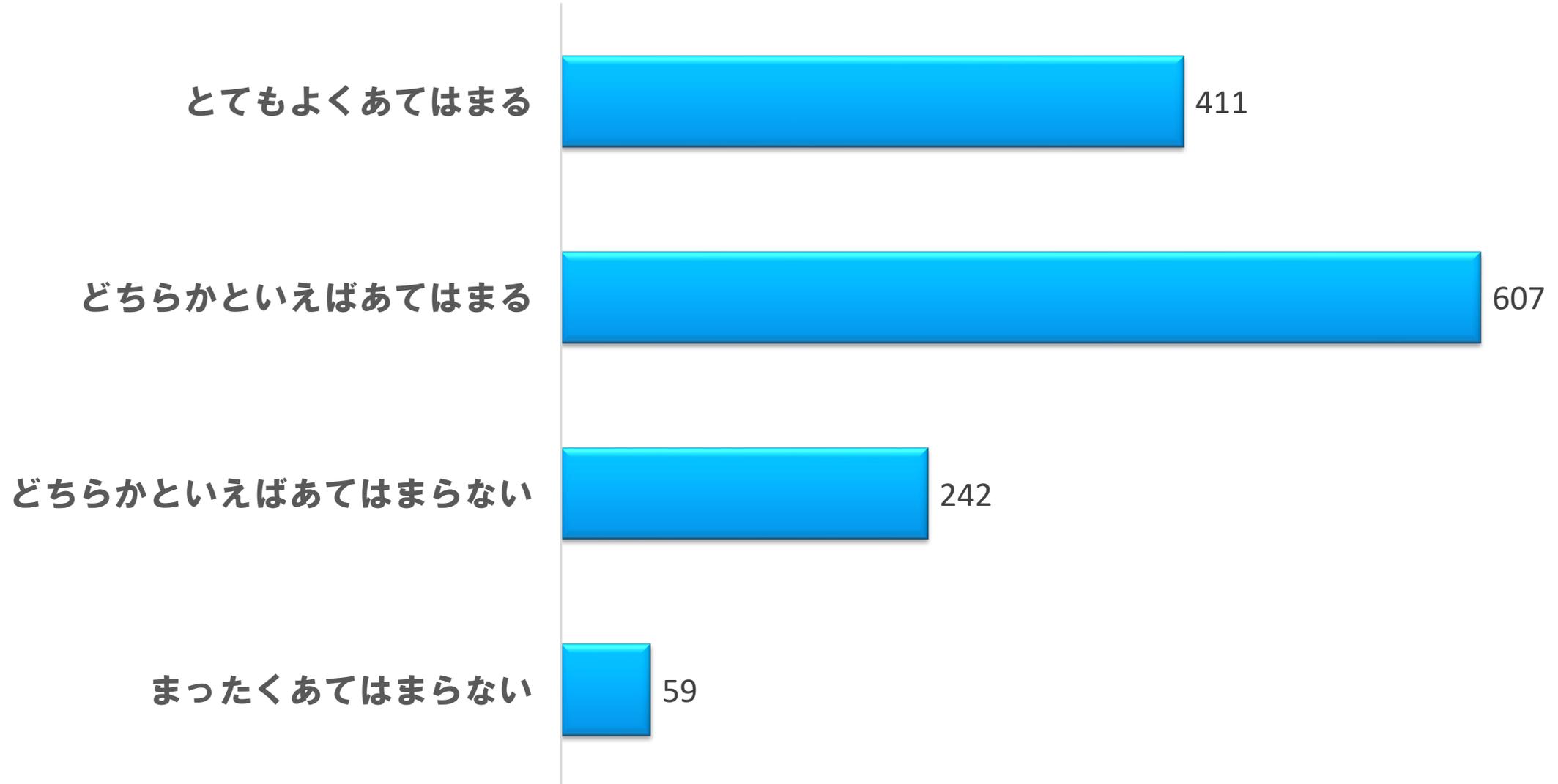
**Q3 現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。**

**授業の課題等はきちんとやった**



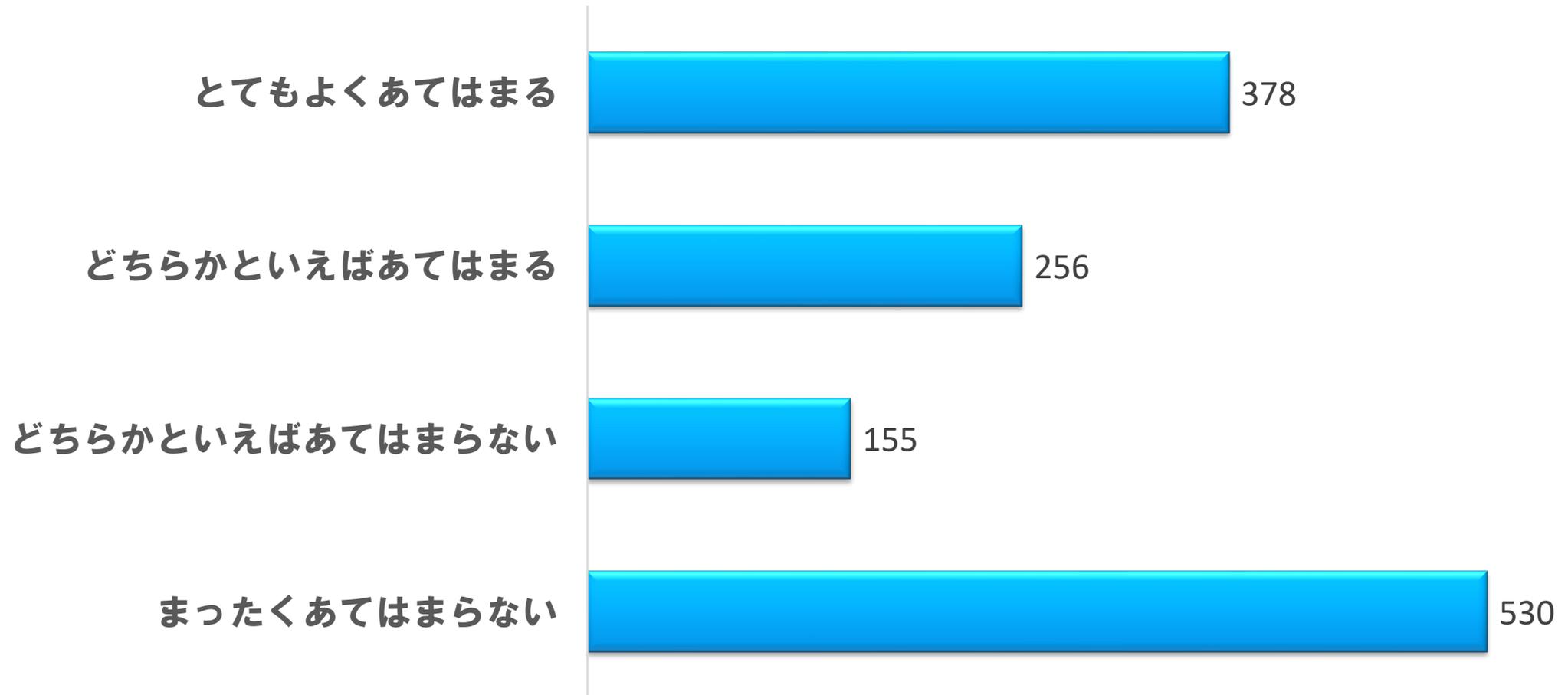
**Q3 現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。**

**期末試験等の前は計画的に準備をした**



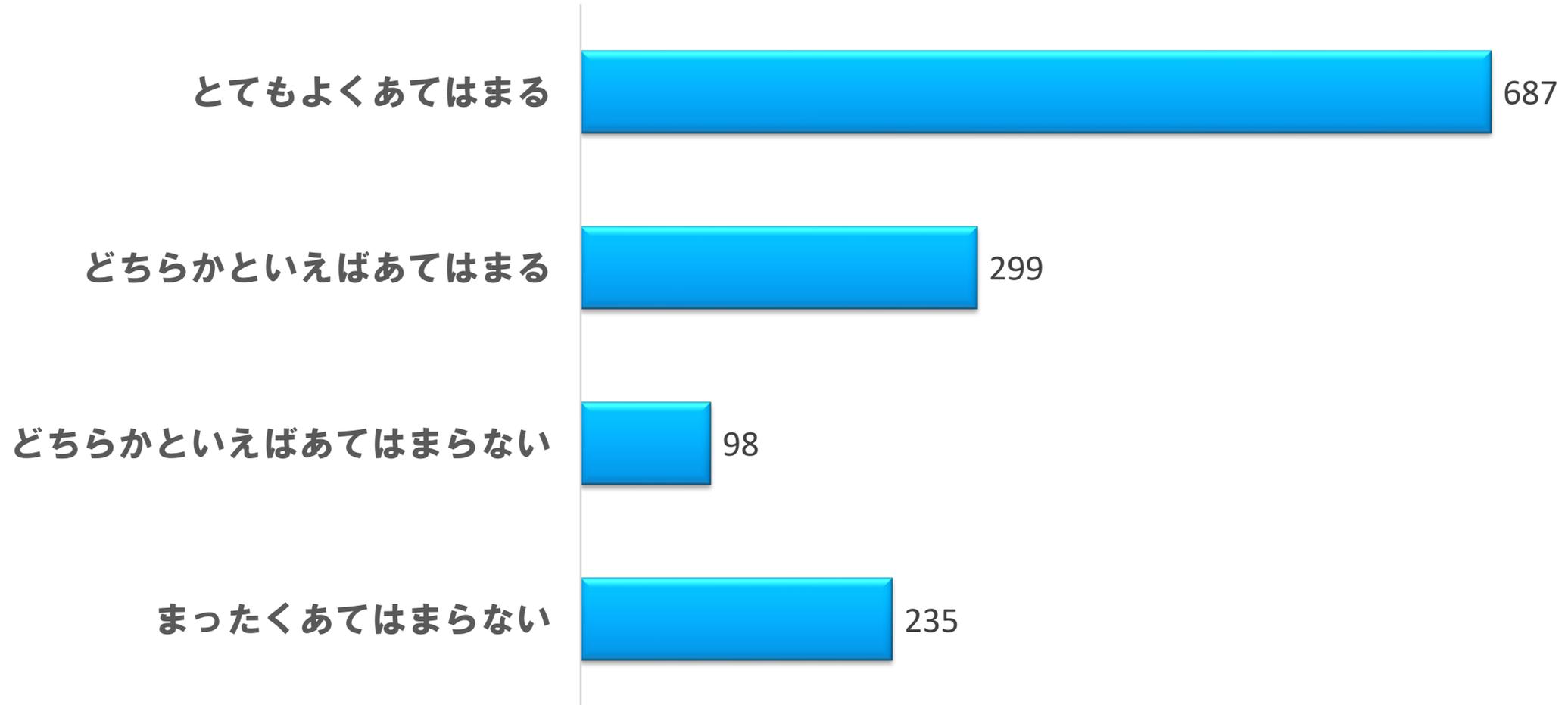
**Q3 現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。**

**サークル活動に積極的に参加した**

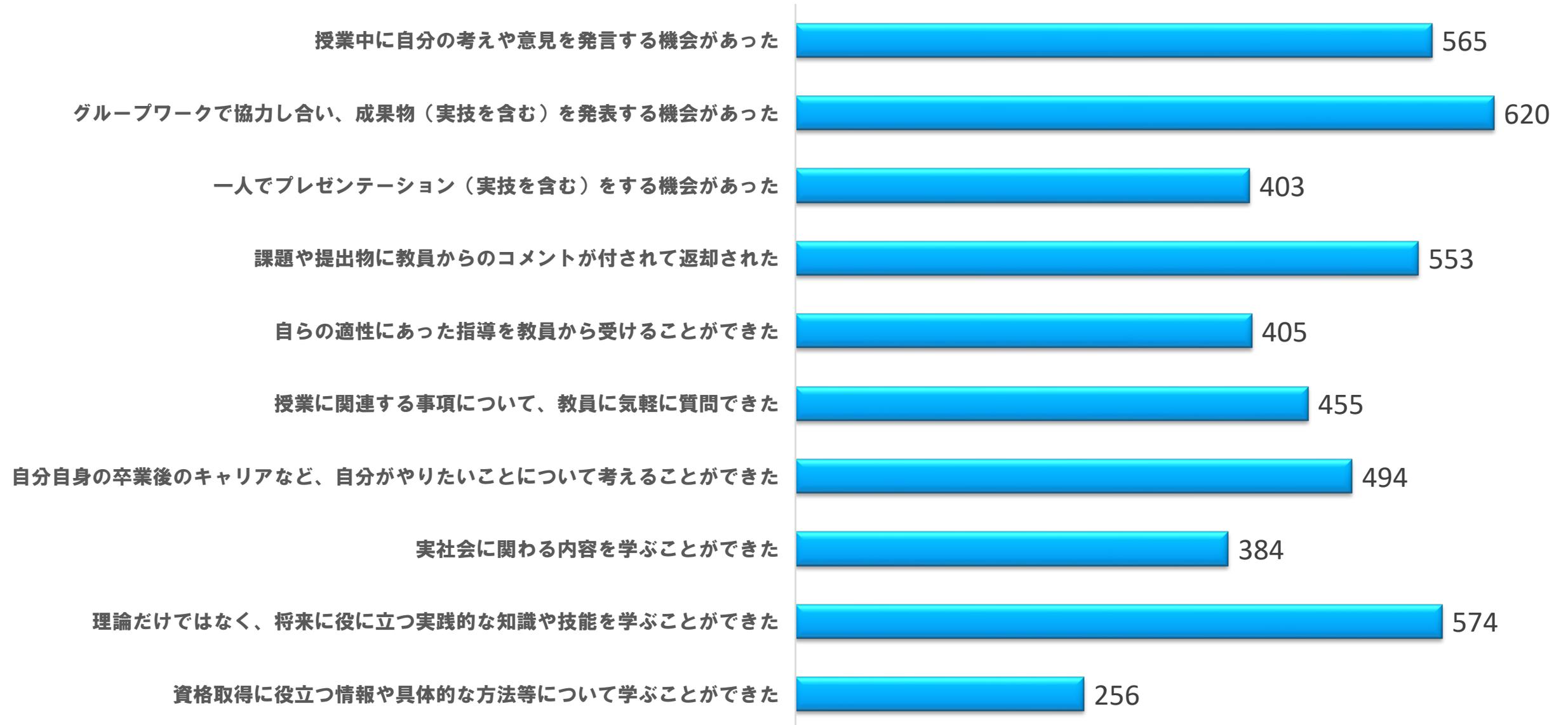


**Q3 現在のあなたの学修状況についておうかがいたします。**

**アルバイトを頑張った**

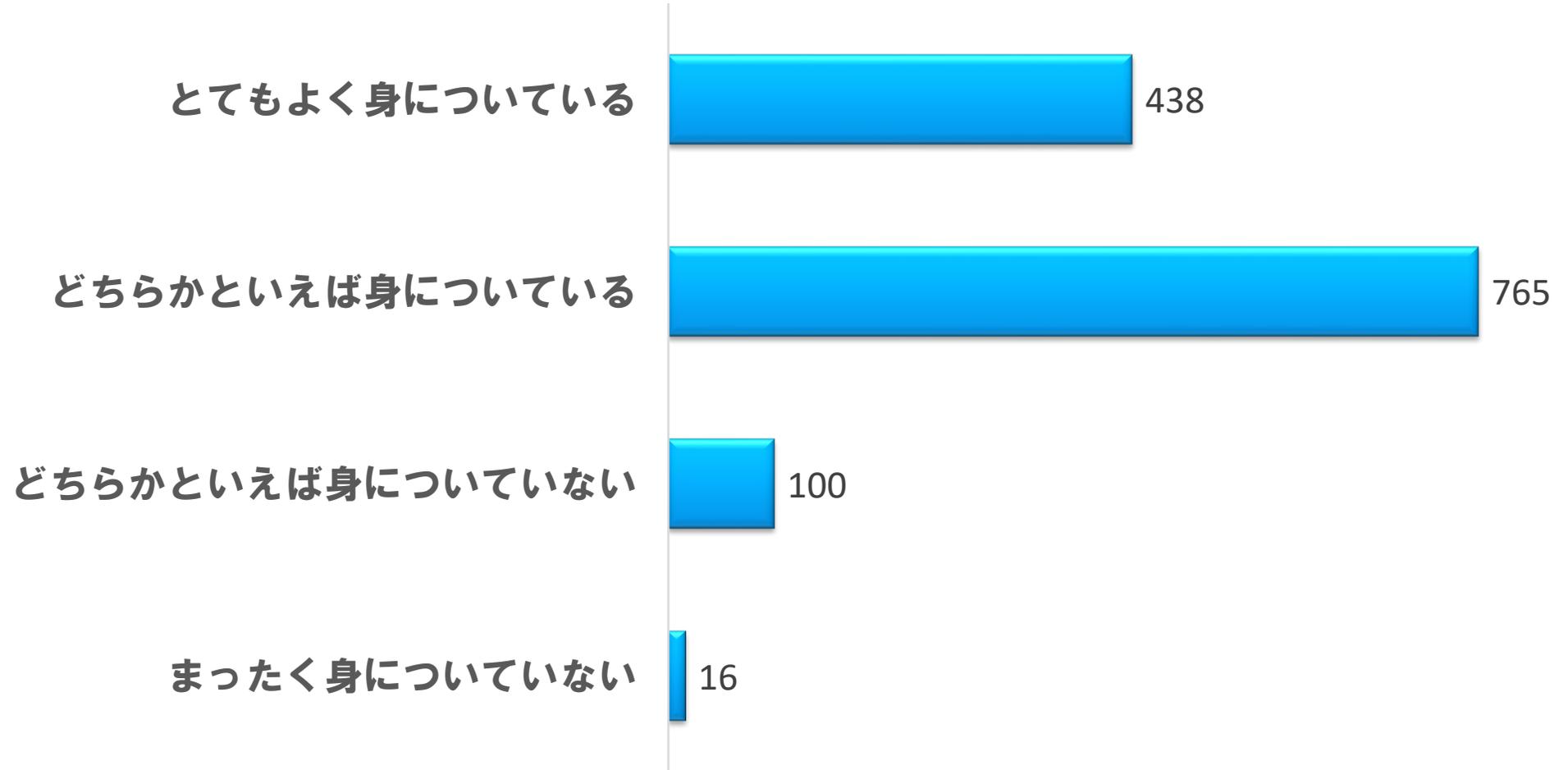


**Q4 入学してから現在まで、授業や授業中の学修に関連して、あなたが多く経験したことがある項目を選んでください。（複数回答可）**



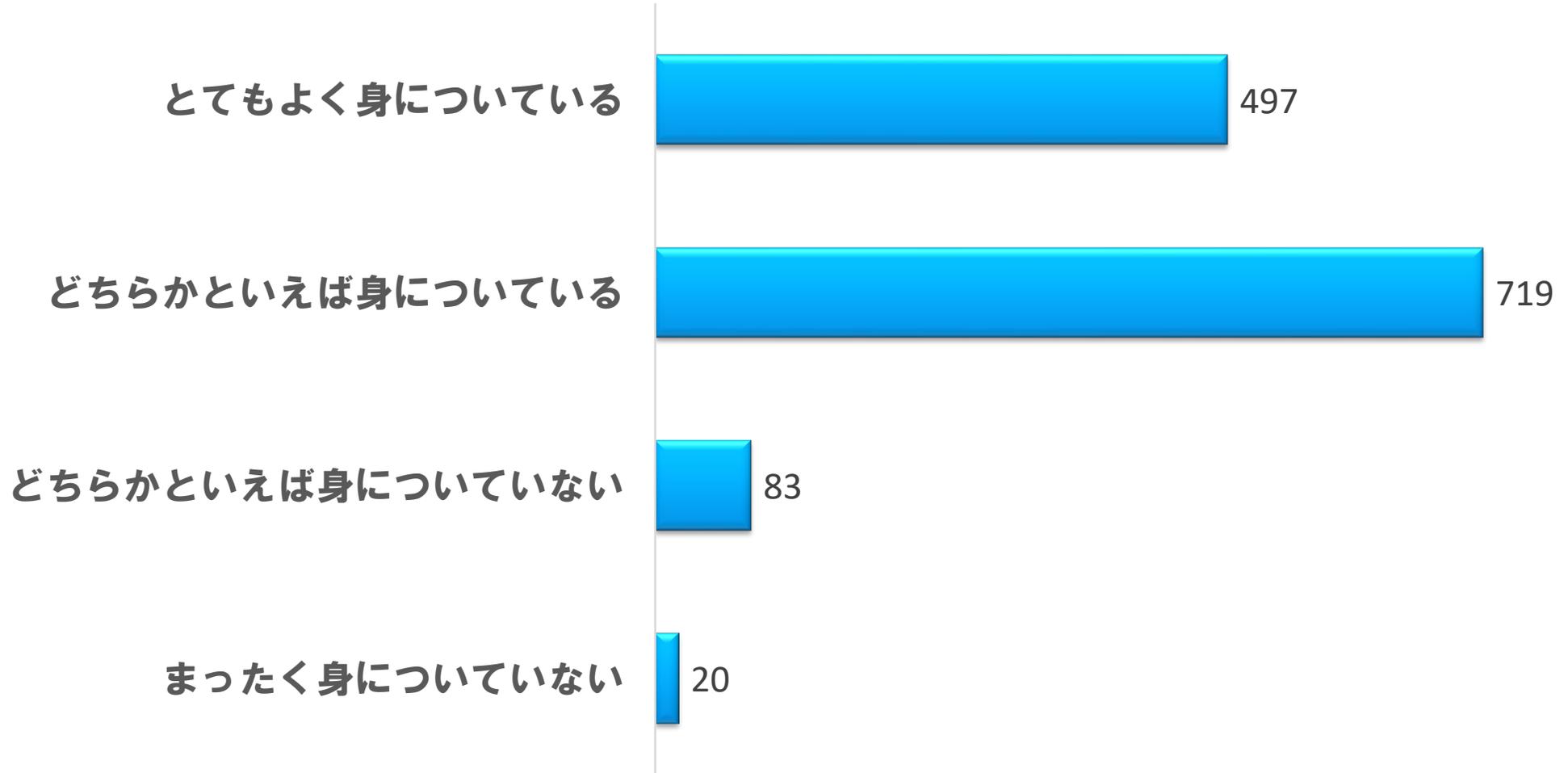
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

所属学科における専門知識・能力



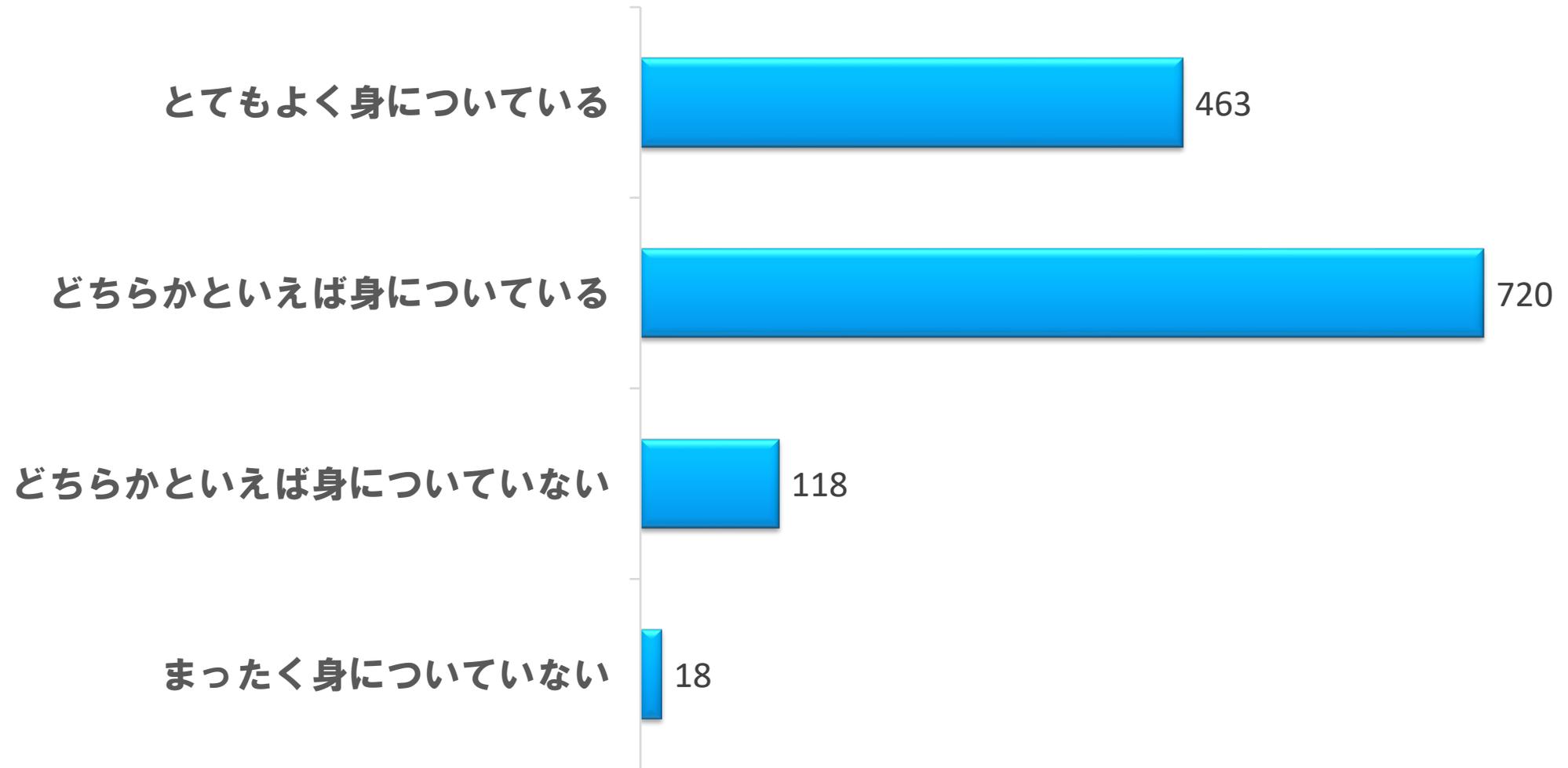
**Q 5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。**

**社会のルールや人との約束を守る力（規律性）**



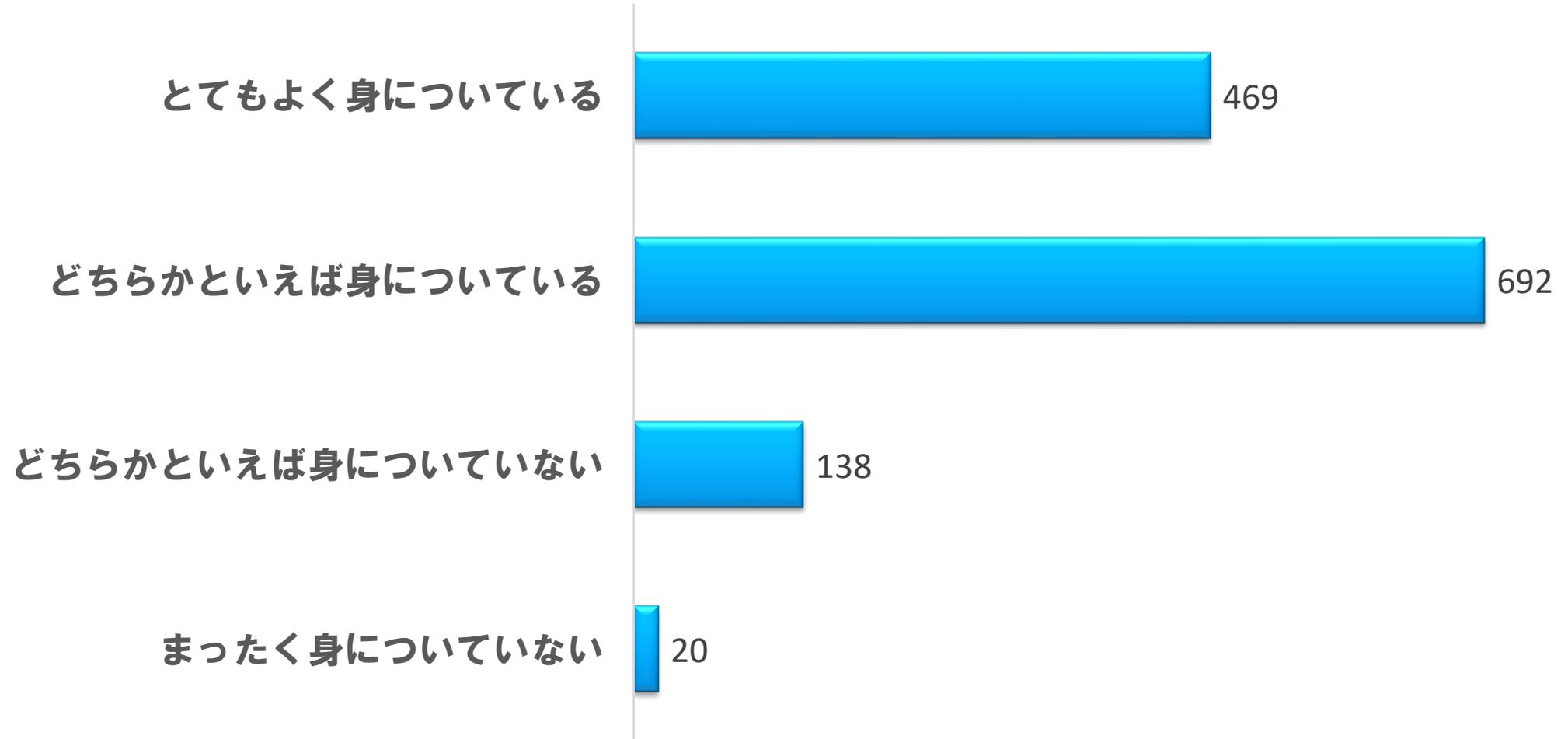
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

自分と周囲との関係性を理解する力（状況把握力）



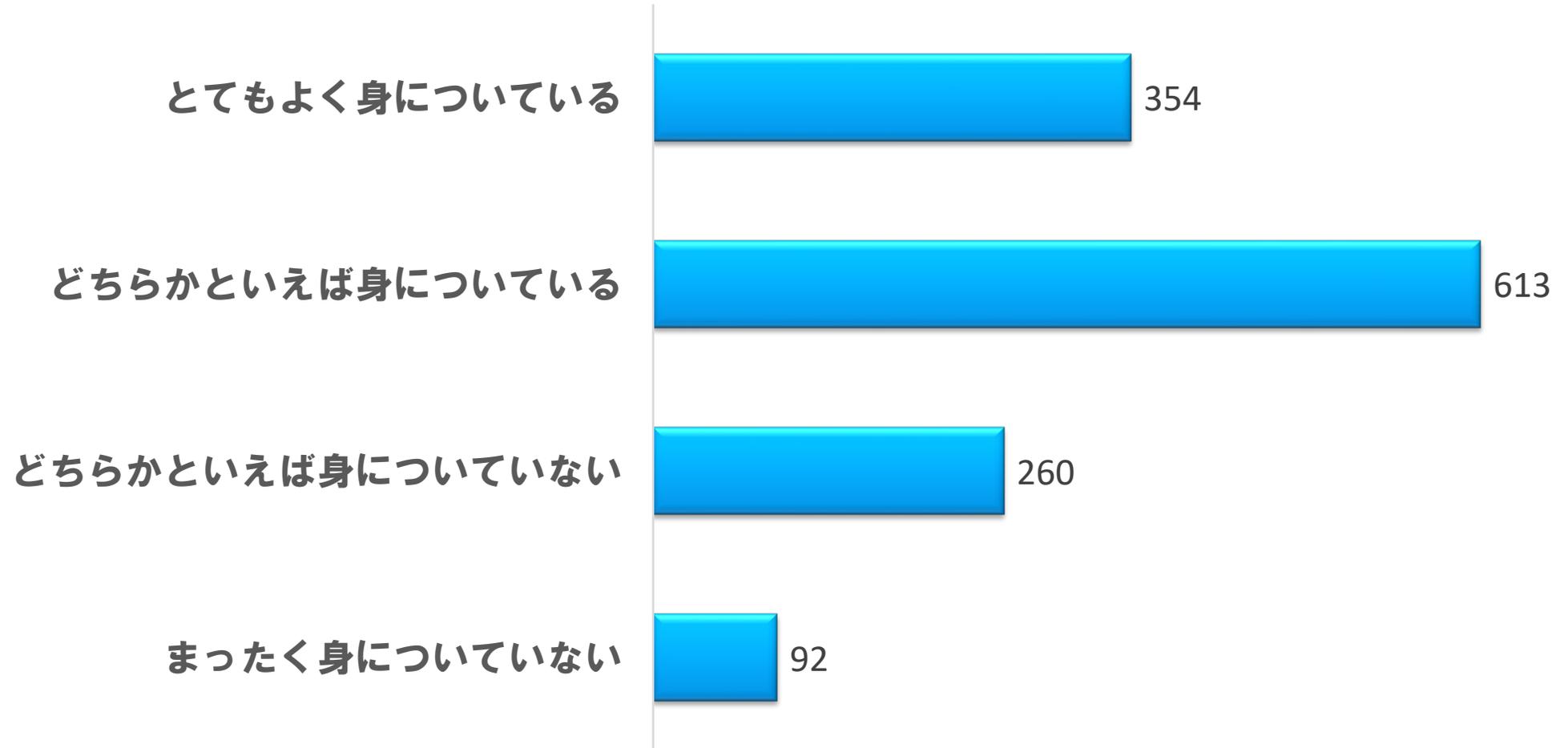
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

課題解決に向けて準備する力（計画力）



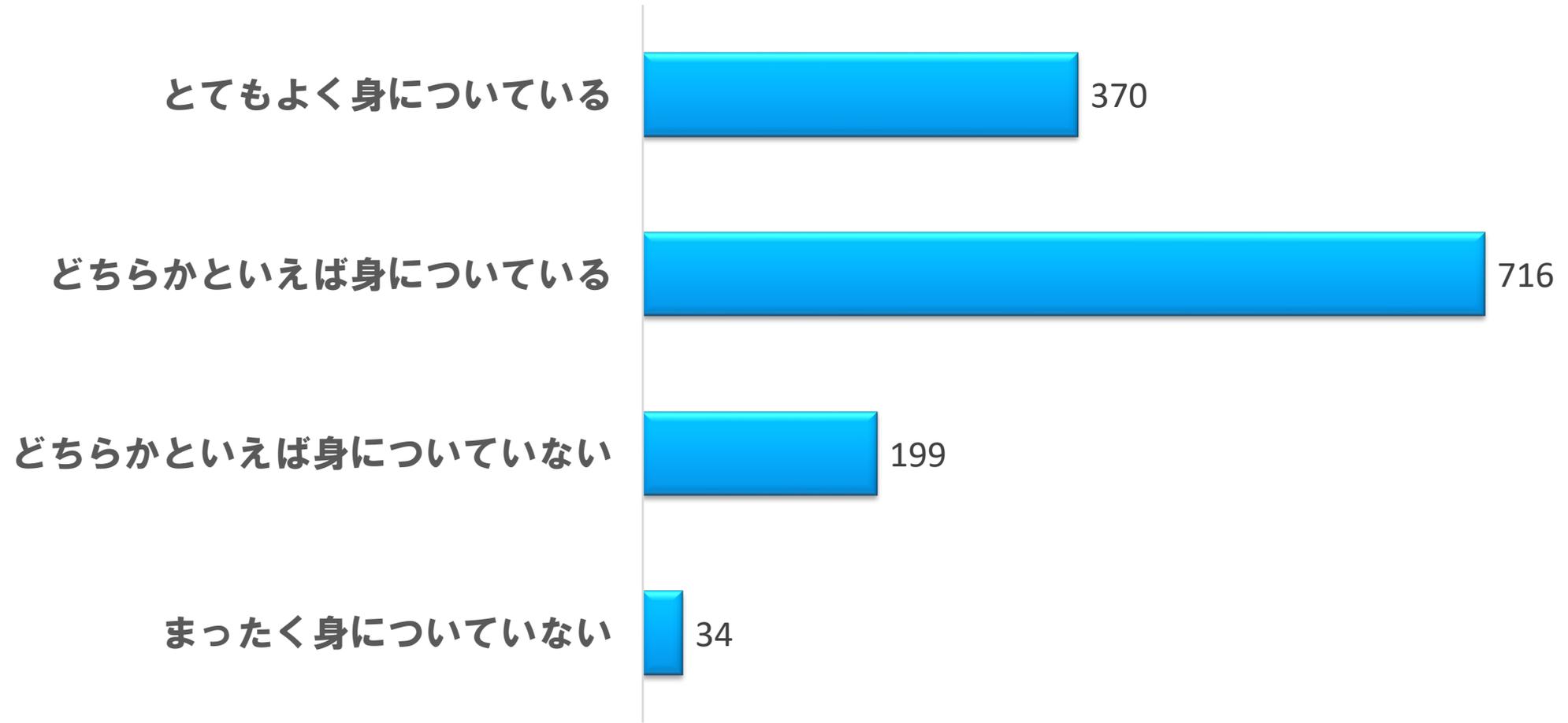
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

ストレスに対応する力  
(ストレスコントロール力)



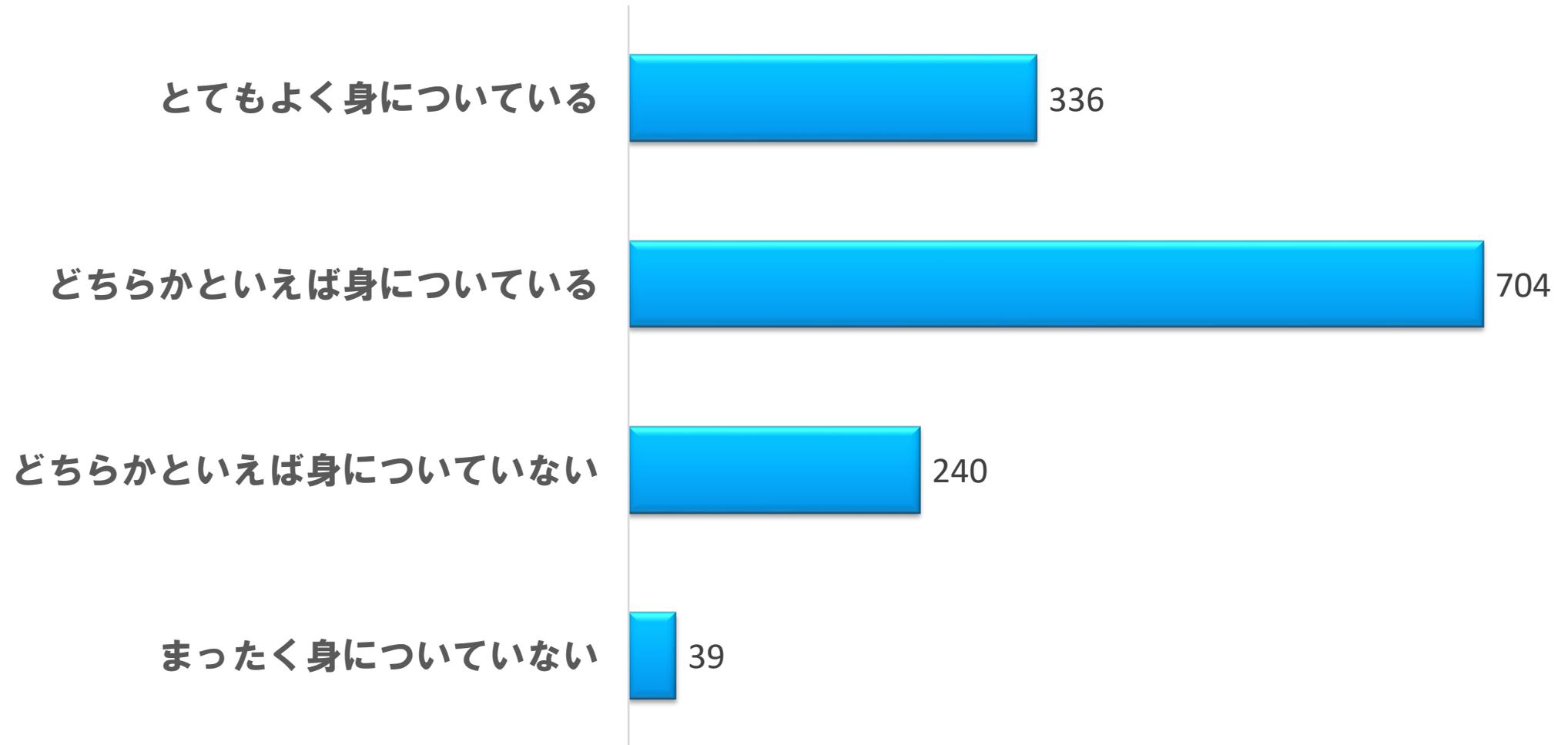
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

新しい価値を生み出す力（創造力）



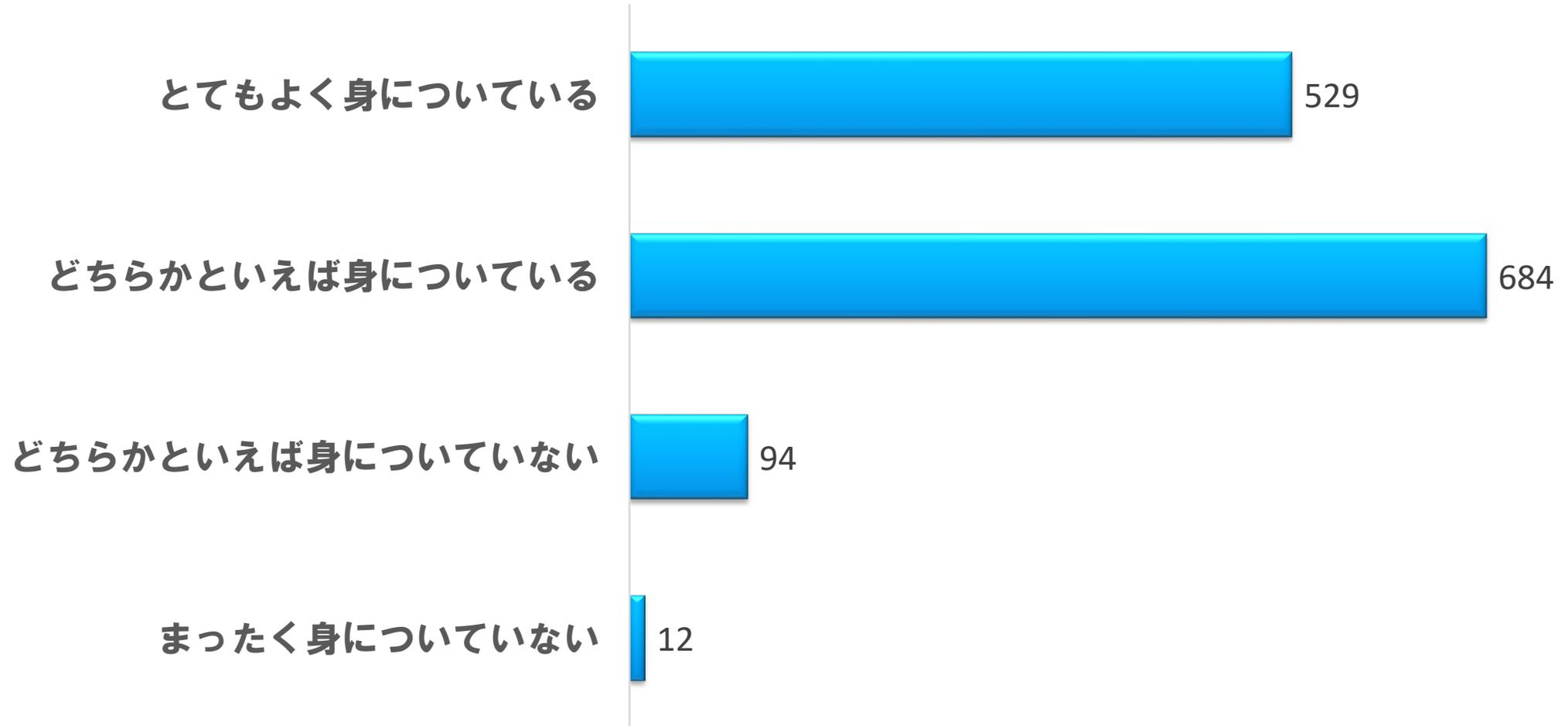
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）



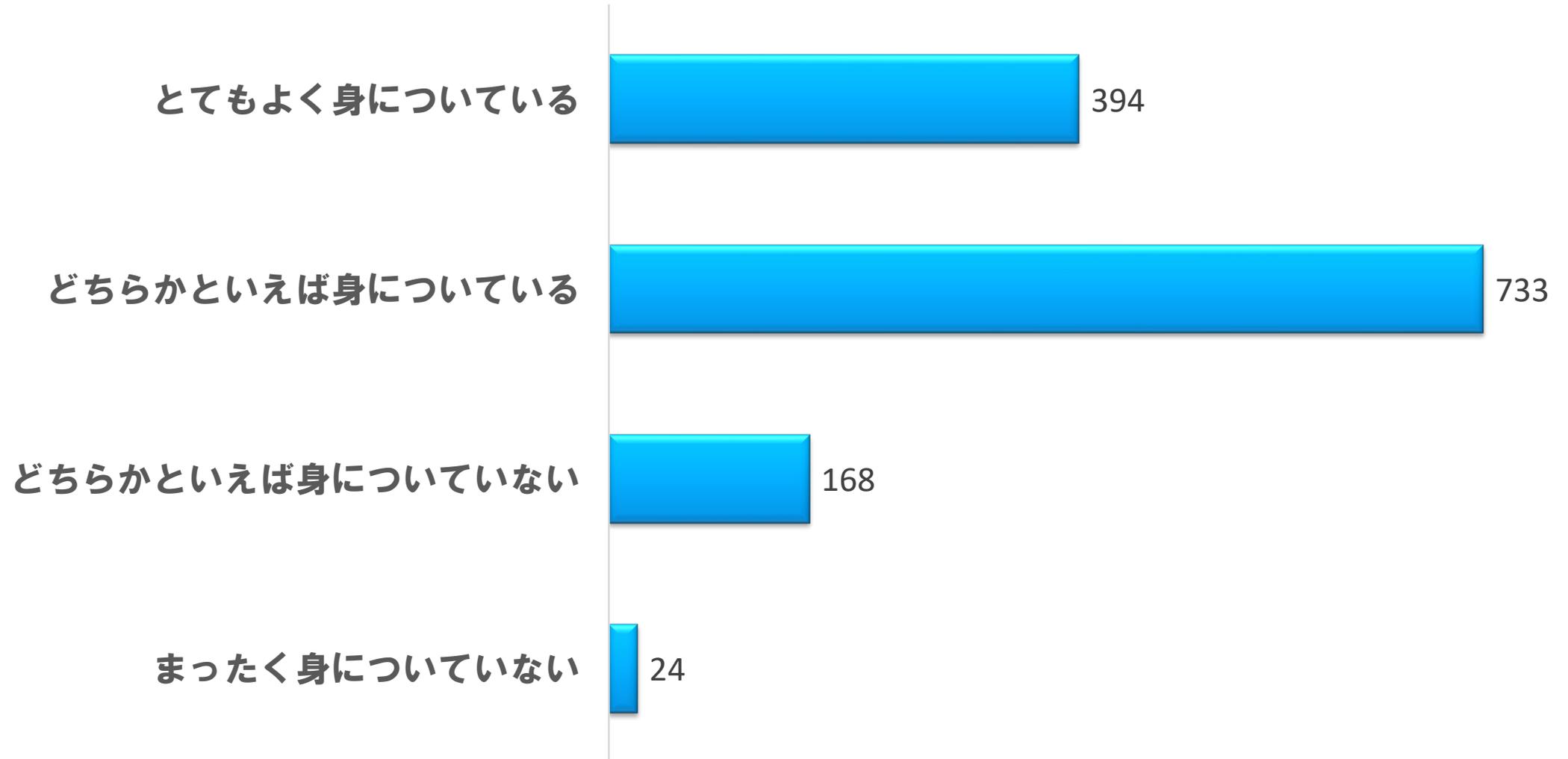
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）



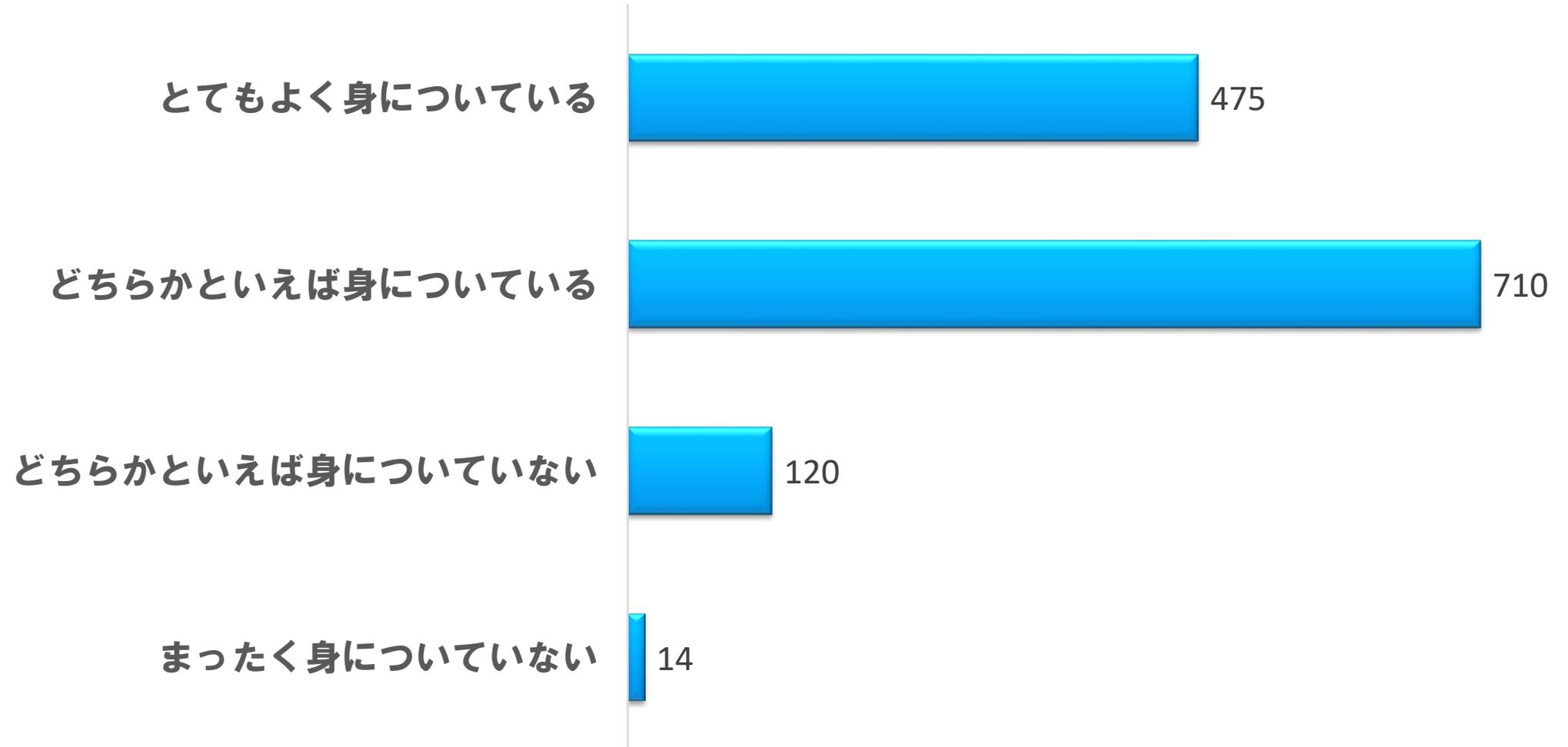
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

目標を設定し確実に行動する力（実行力）



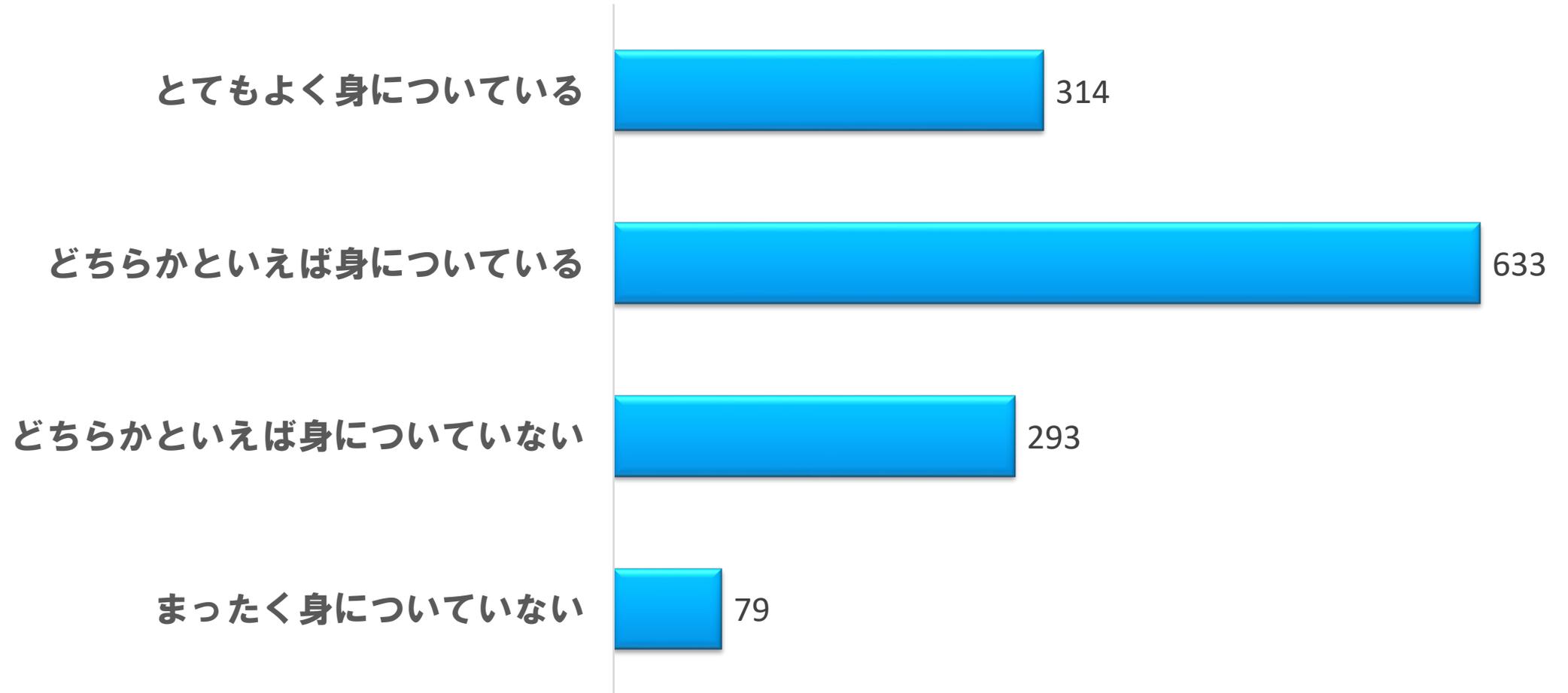
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

意見や立場の違いを理解する力（柔軟性）



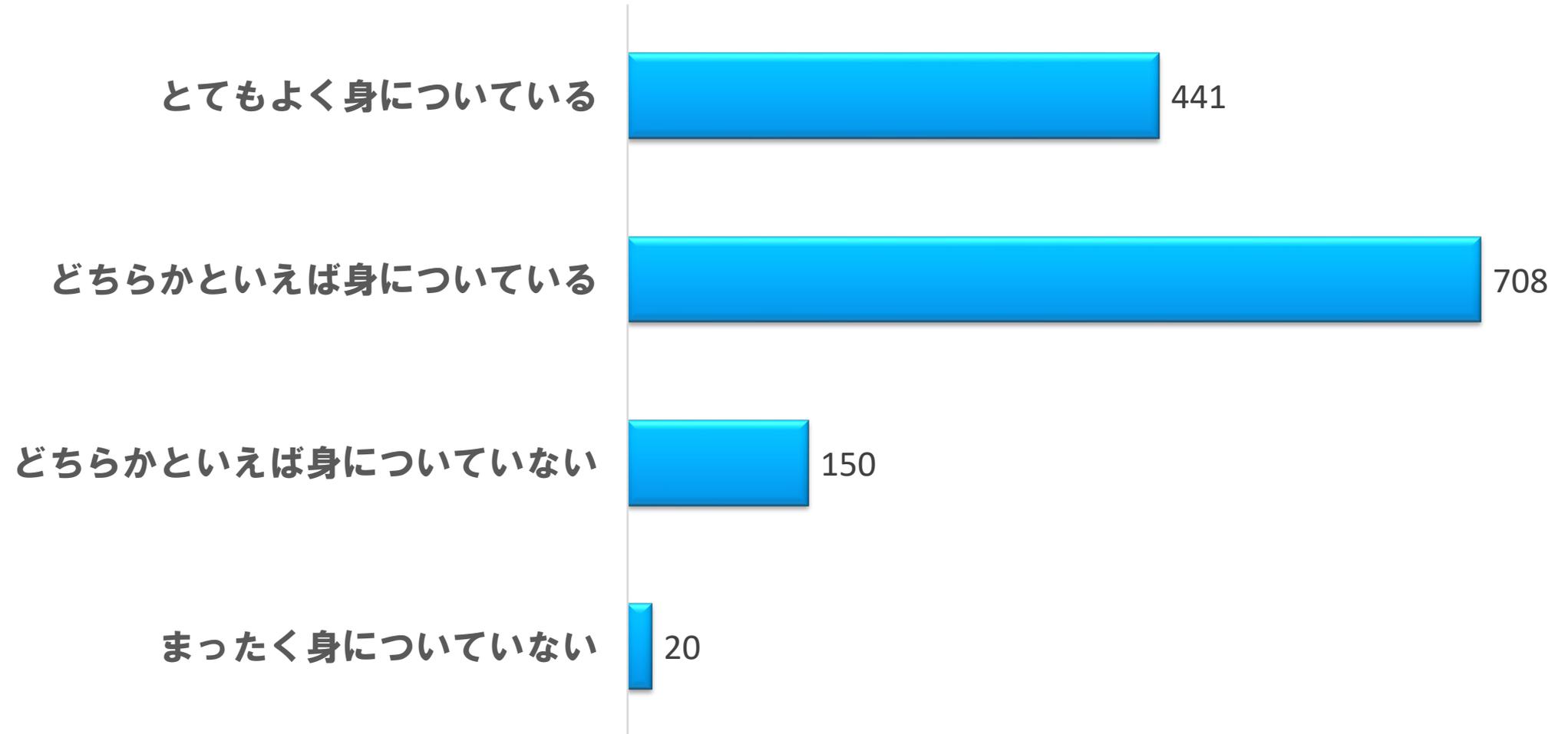
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）



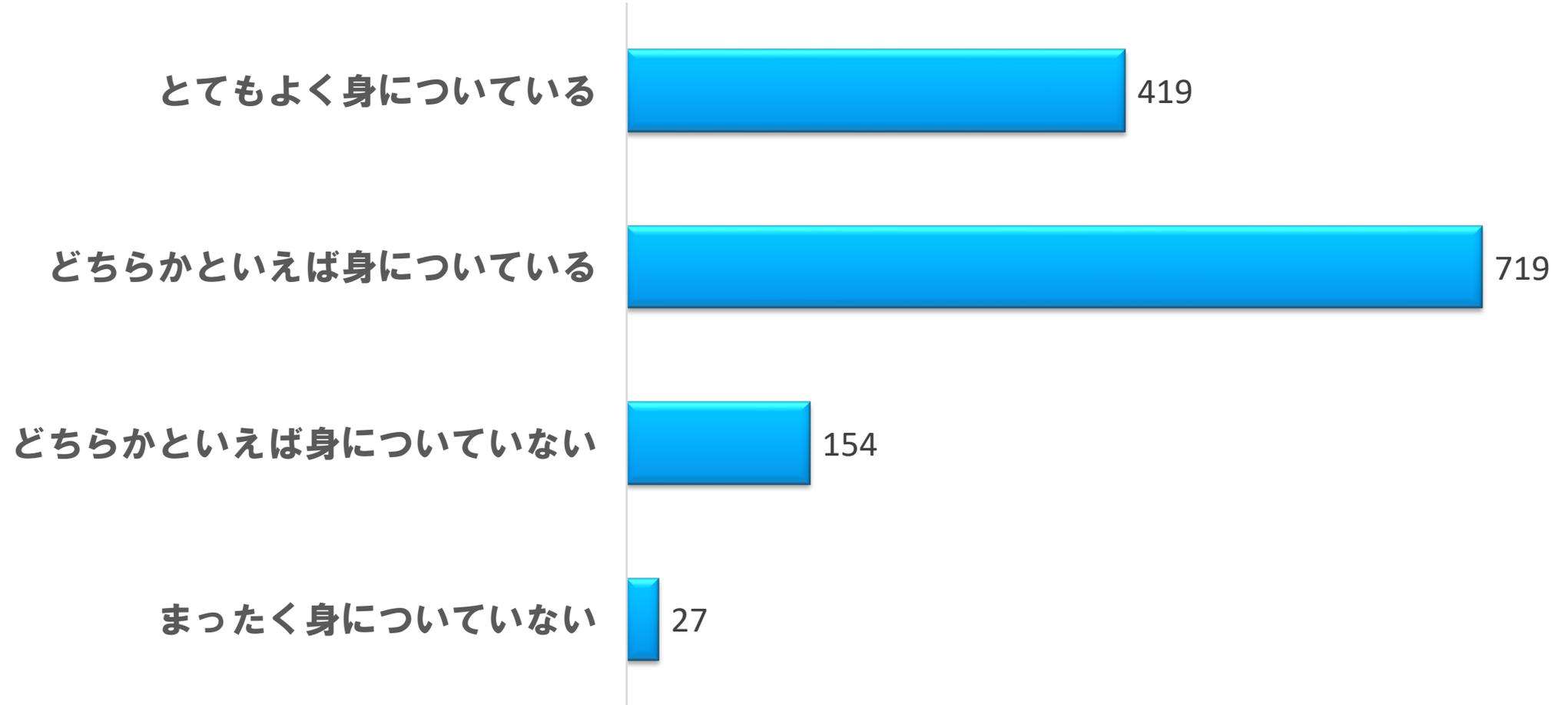
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

物事に進んで取り組む力（主体性）



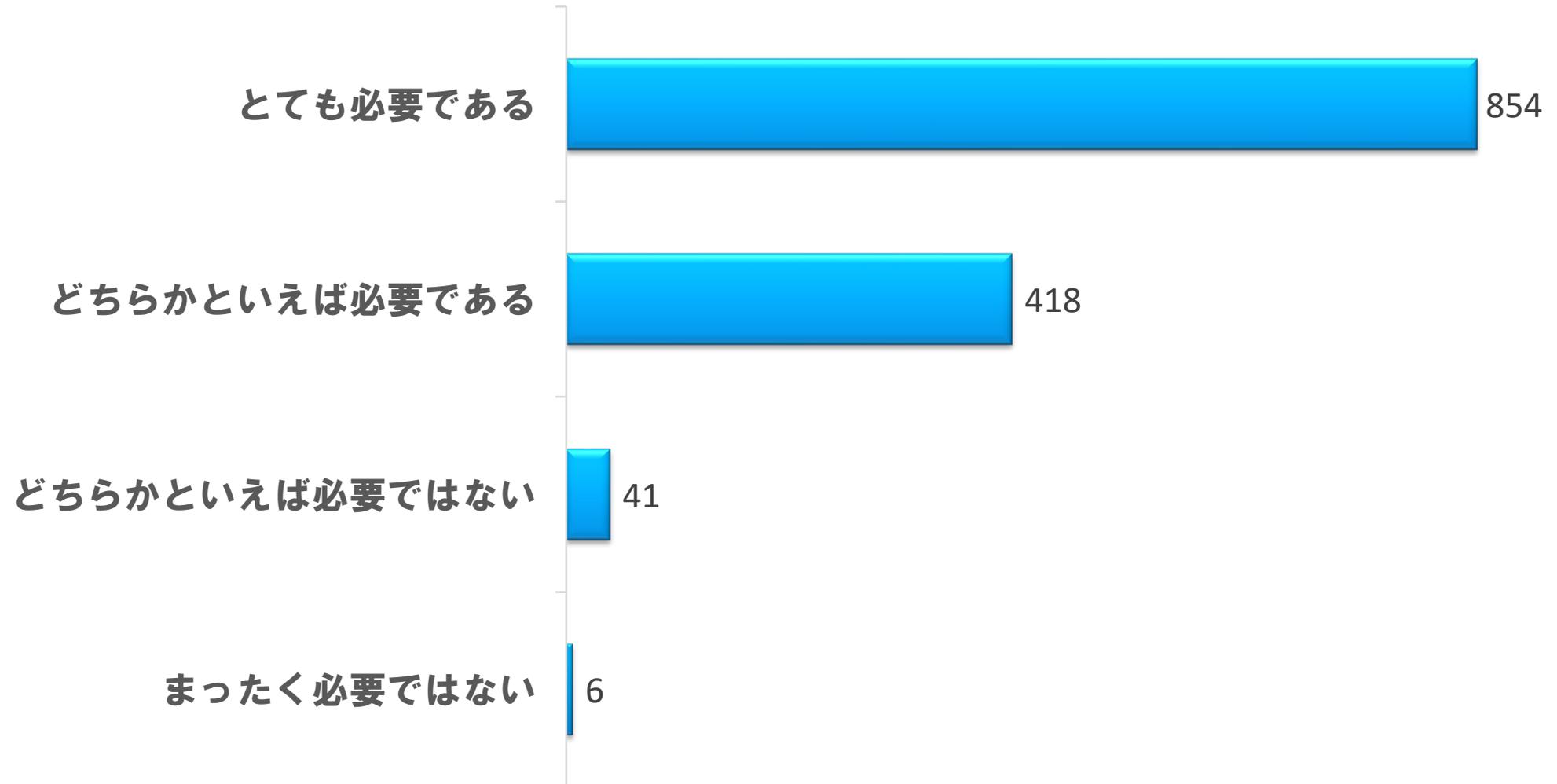
Q5 現時点で、履修した授業科目を通じて、以下の能力をどの程度身に付けることができましたか。

現状の課題を発見にする力（課題発見力）



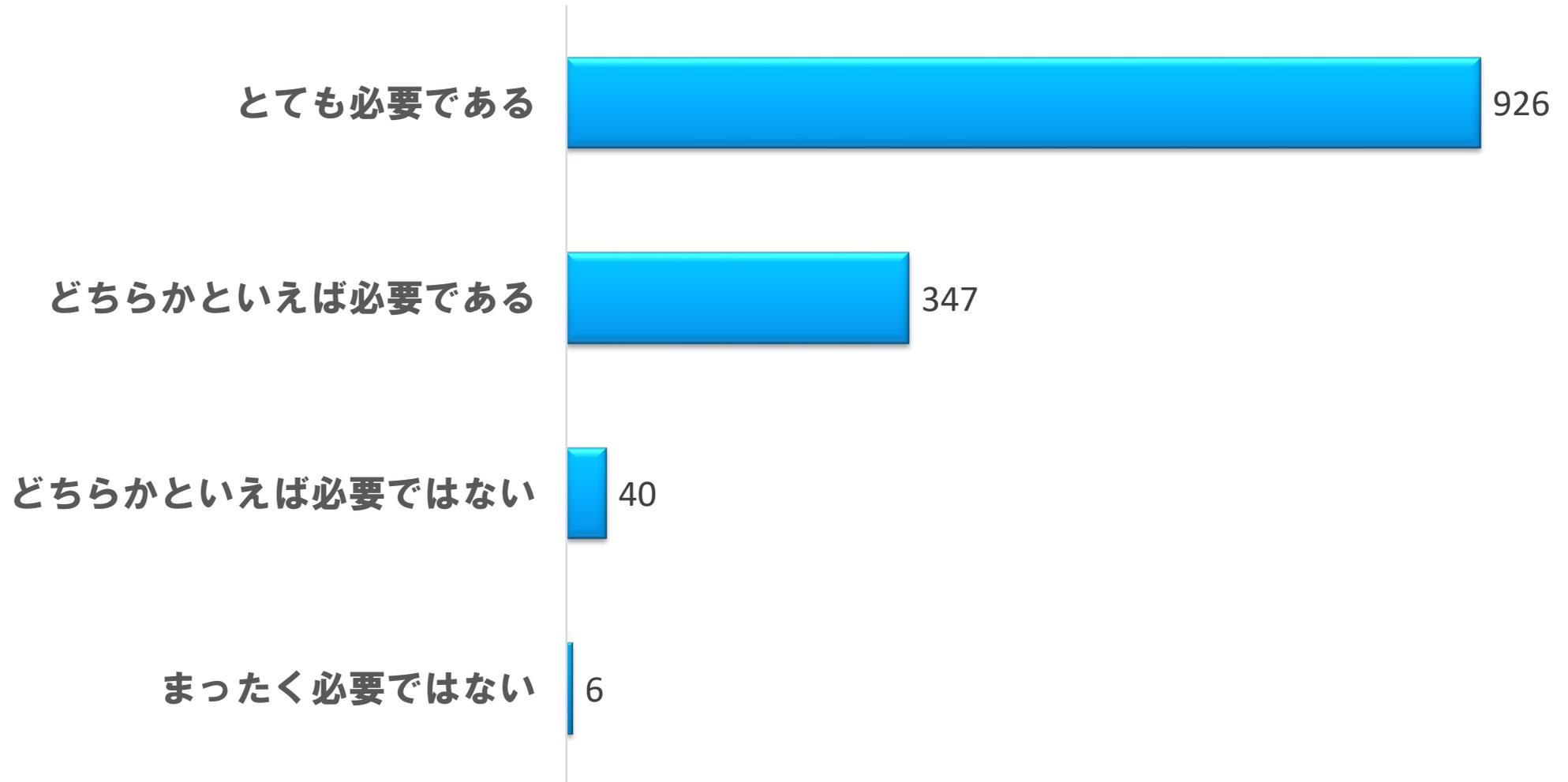
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

所属学科における専門知識・能力



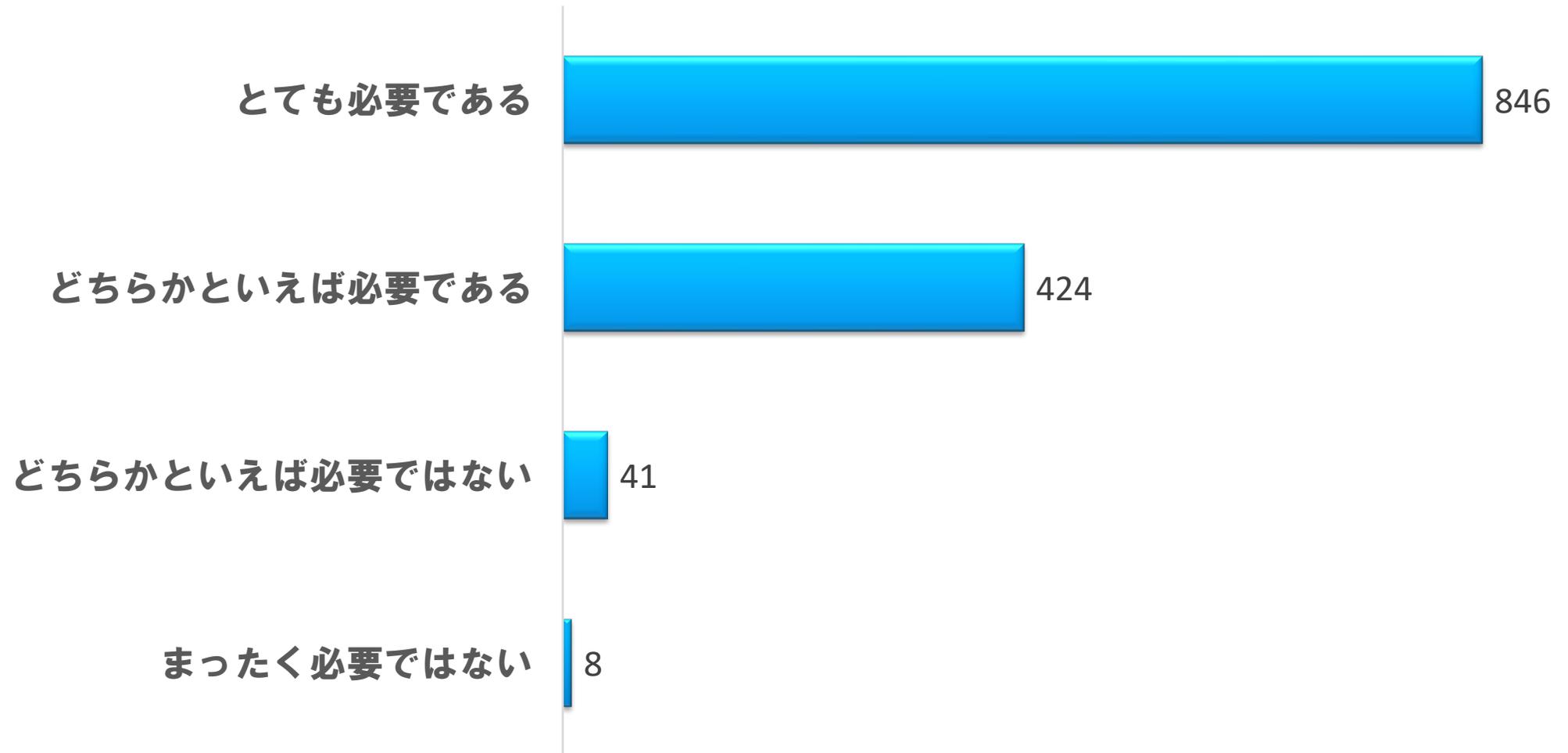
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

社会のルールや人との約束を守る力（規律性）



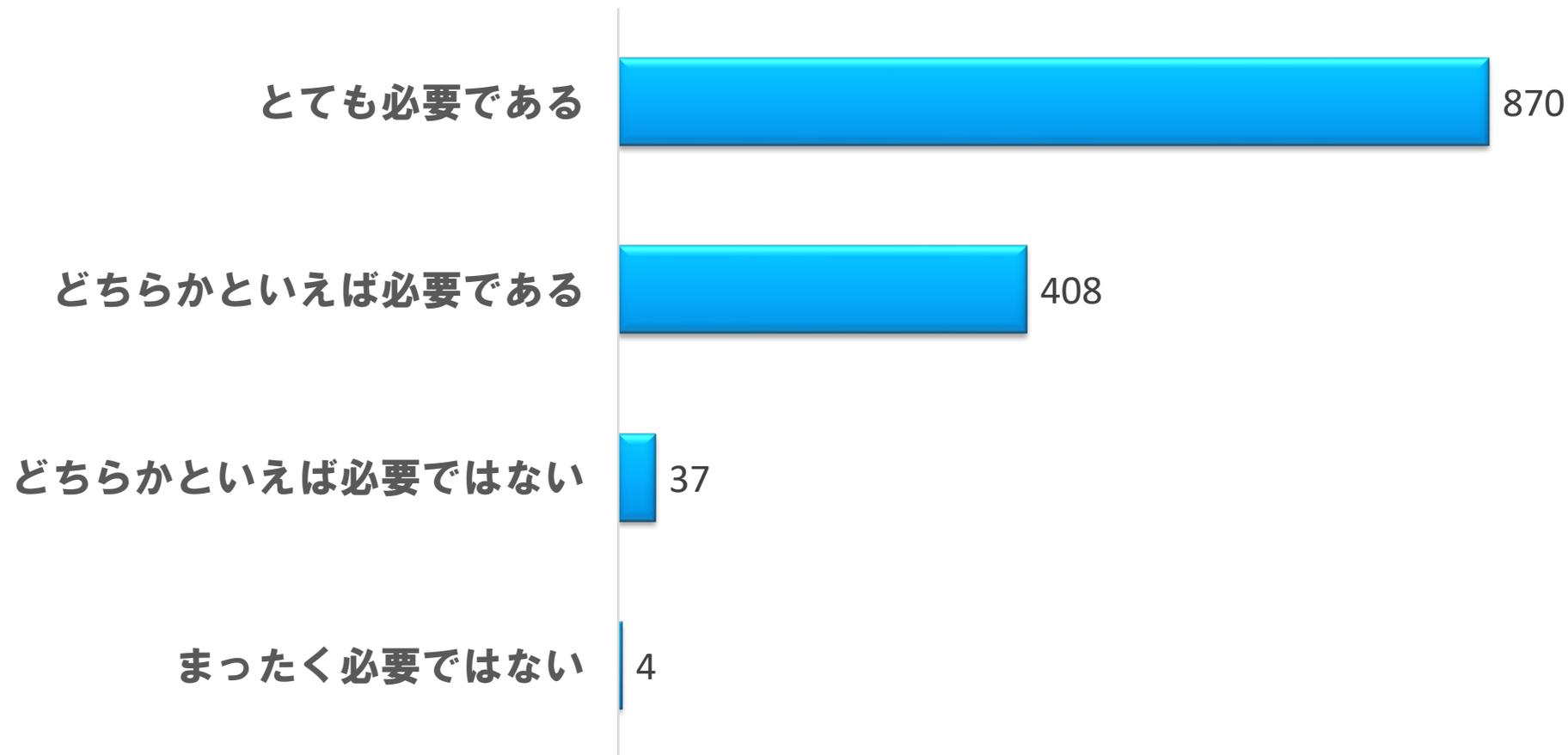
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

### 自分と周囲との関係性を理解する力（状況把握力）



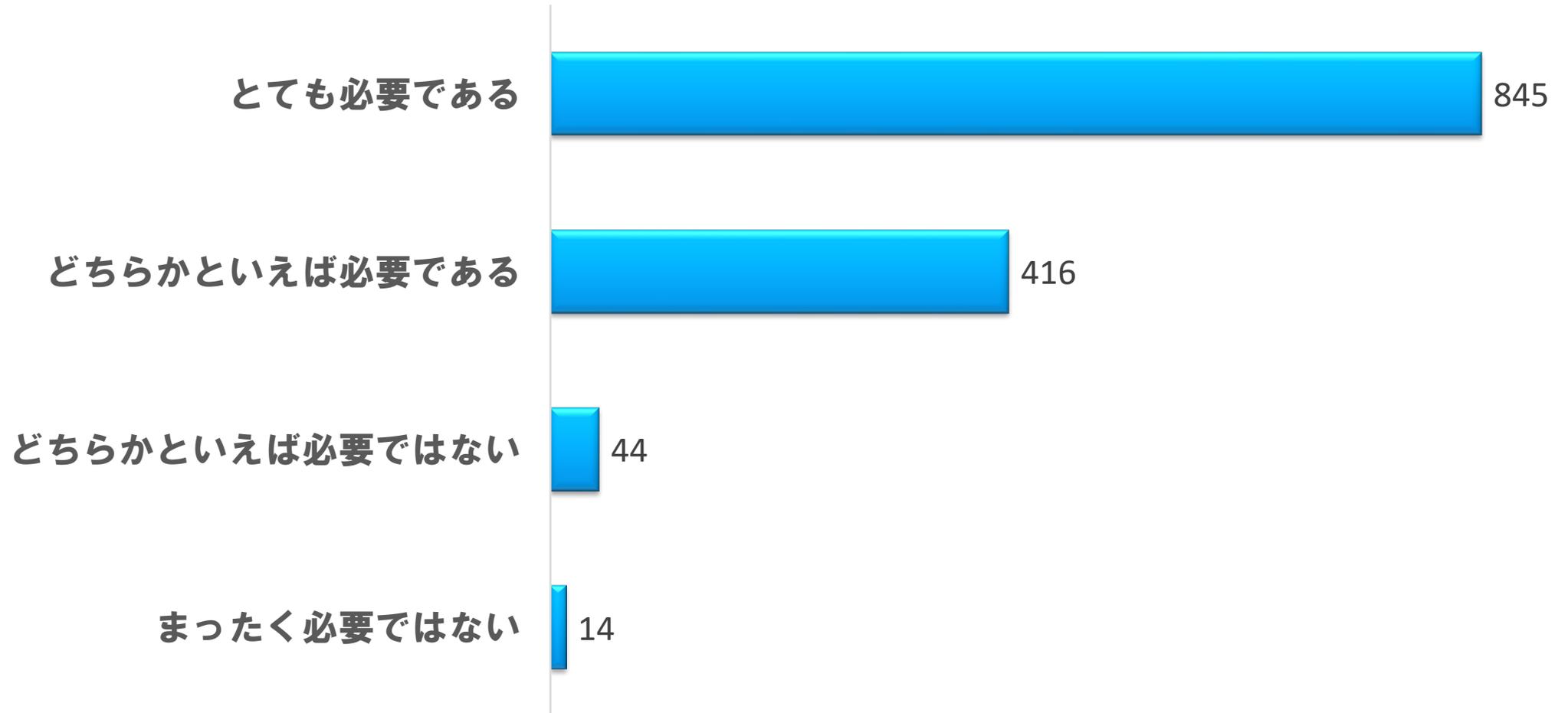
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

課題解決に向けて準備する力（計画力）



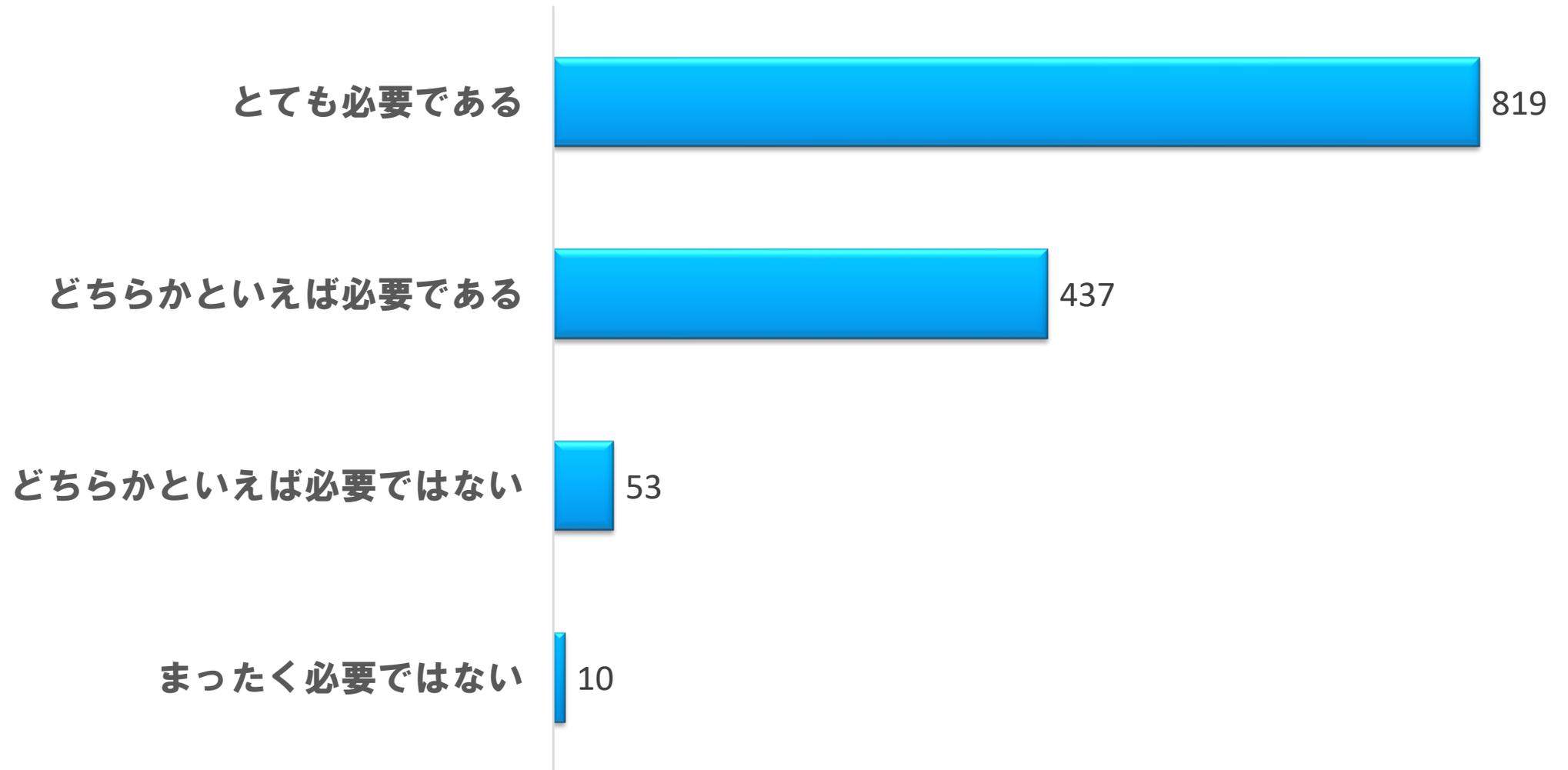
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

ストレスに対応する力  
(ストレスコントロール力)



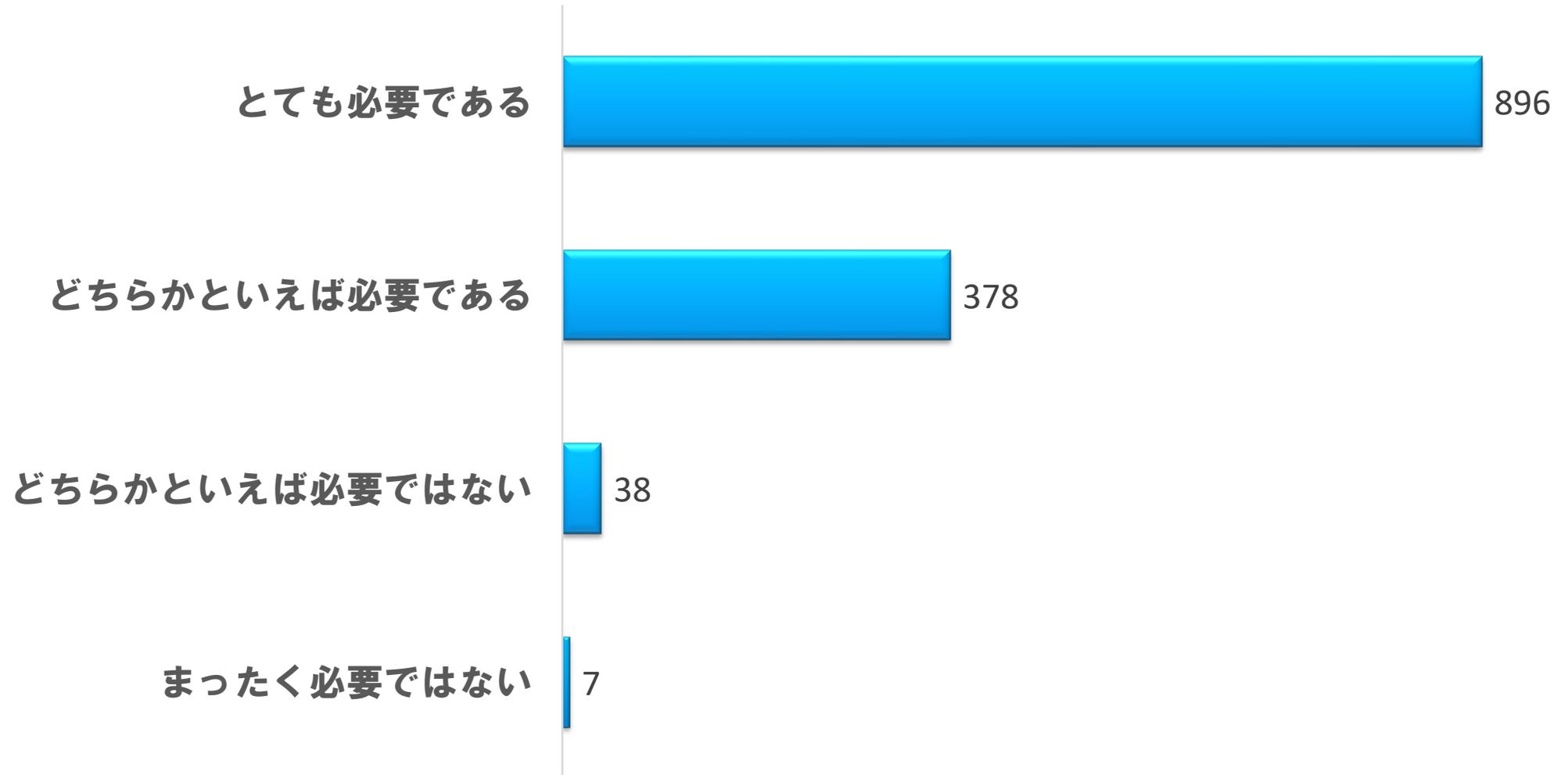
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

新しい価値を生み出す力（創造力）



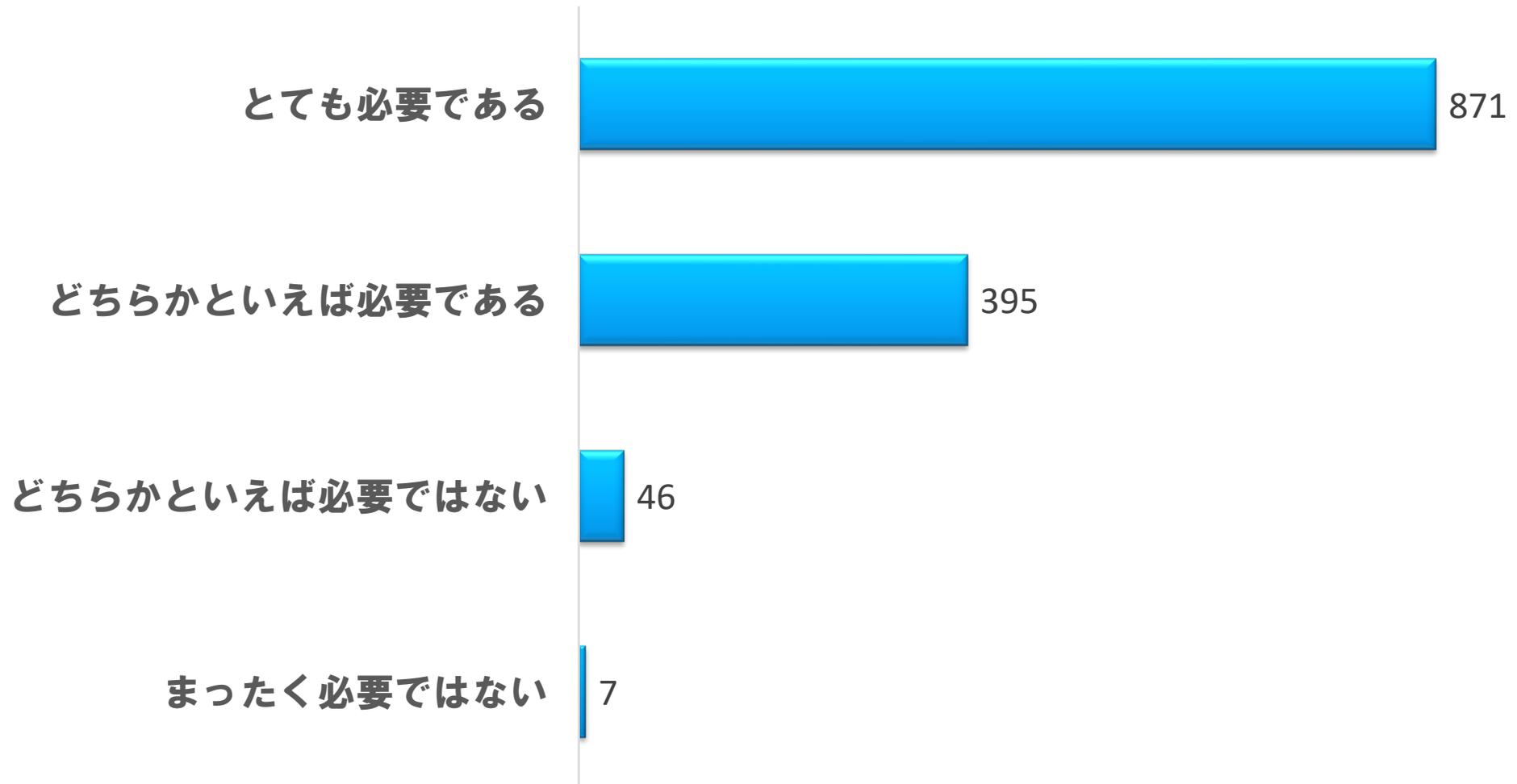
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）



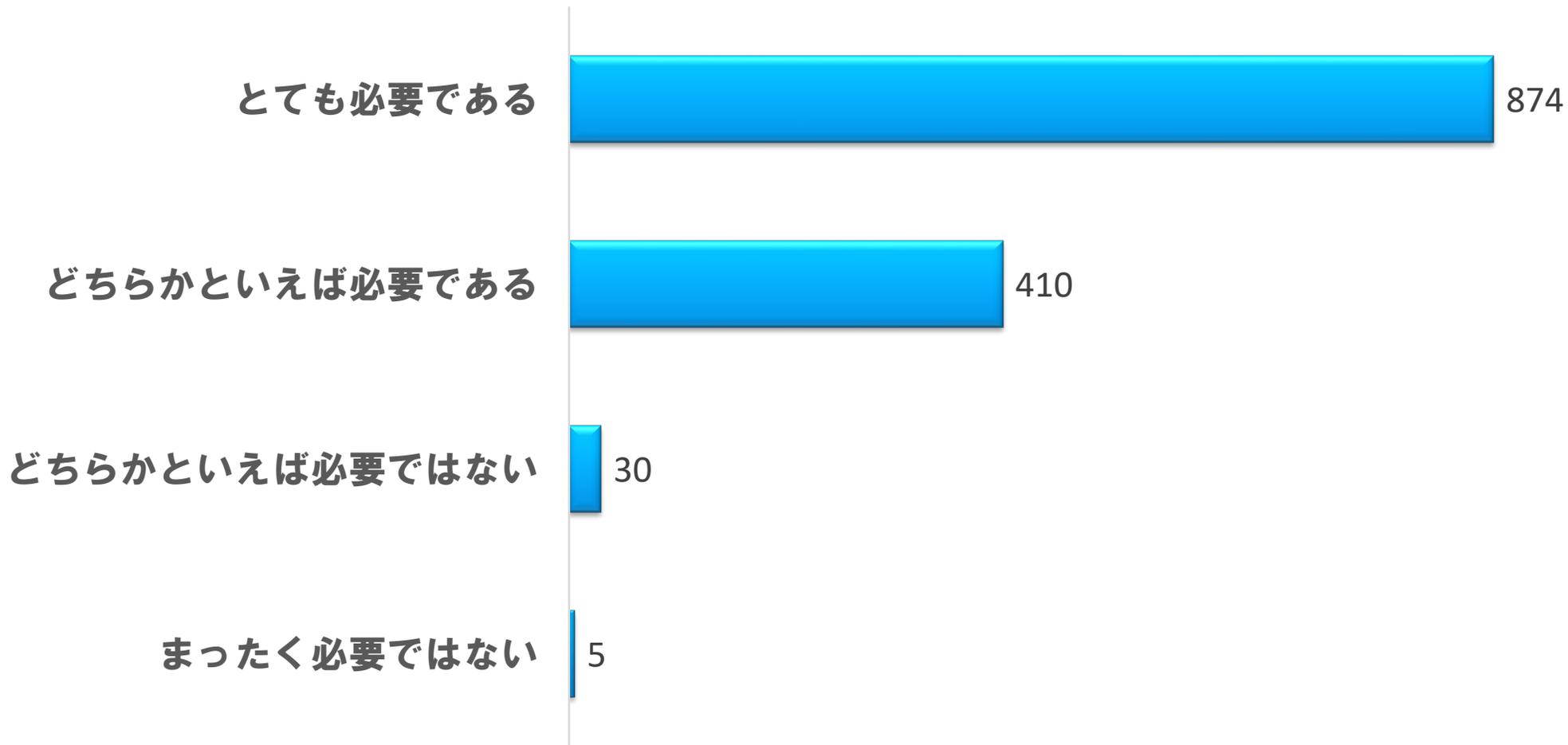
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）



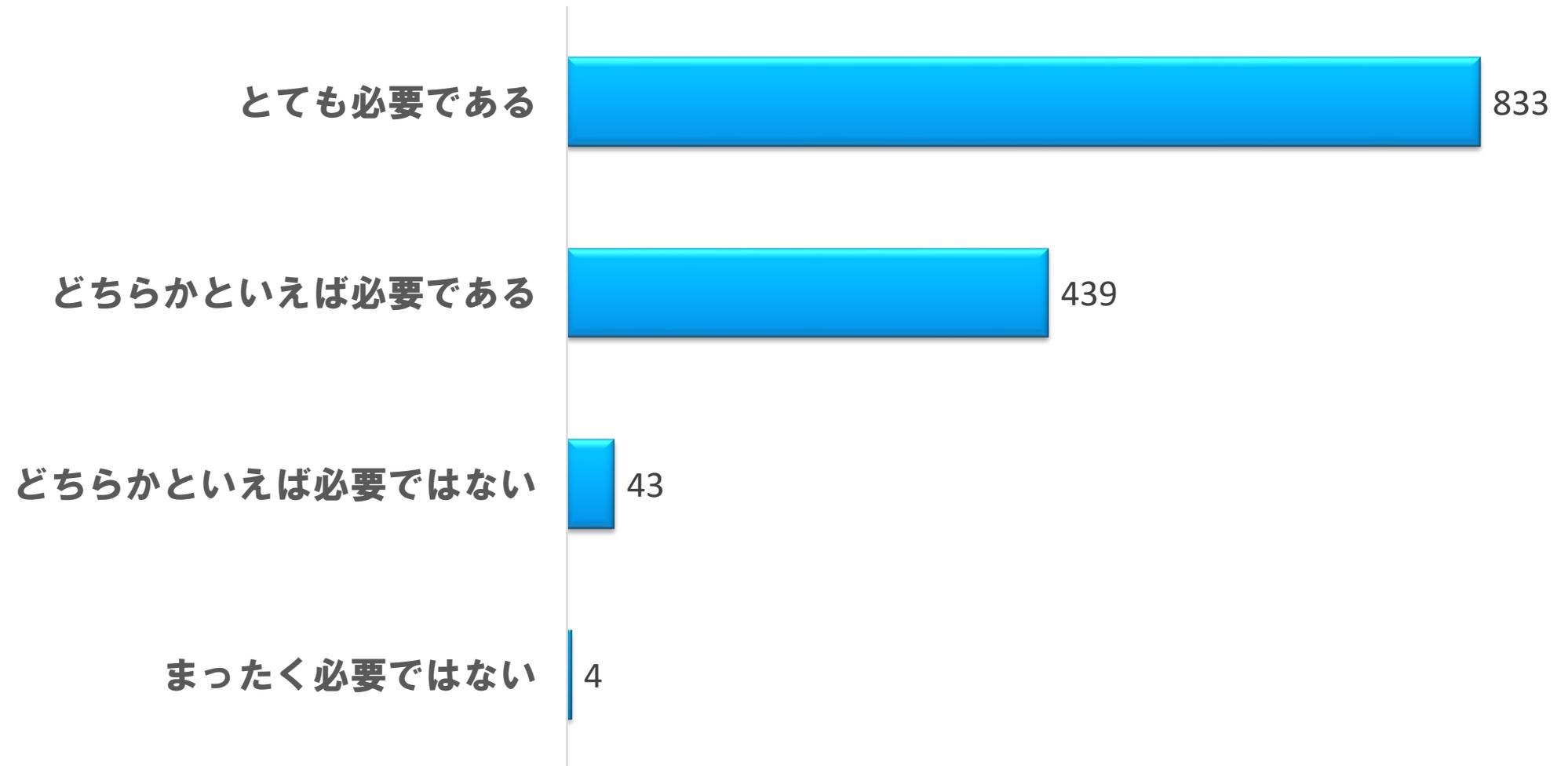
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

### 目標を設定し確実に行動する力（実行力）



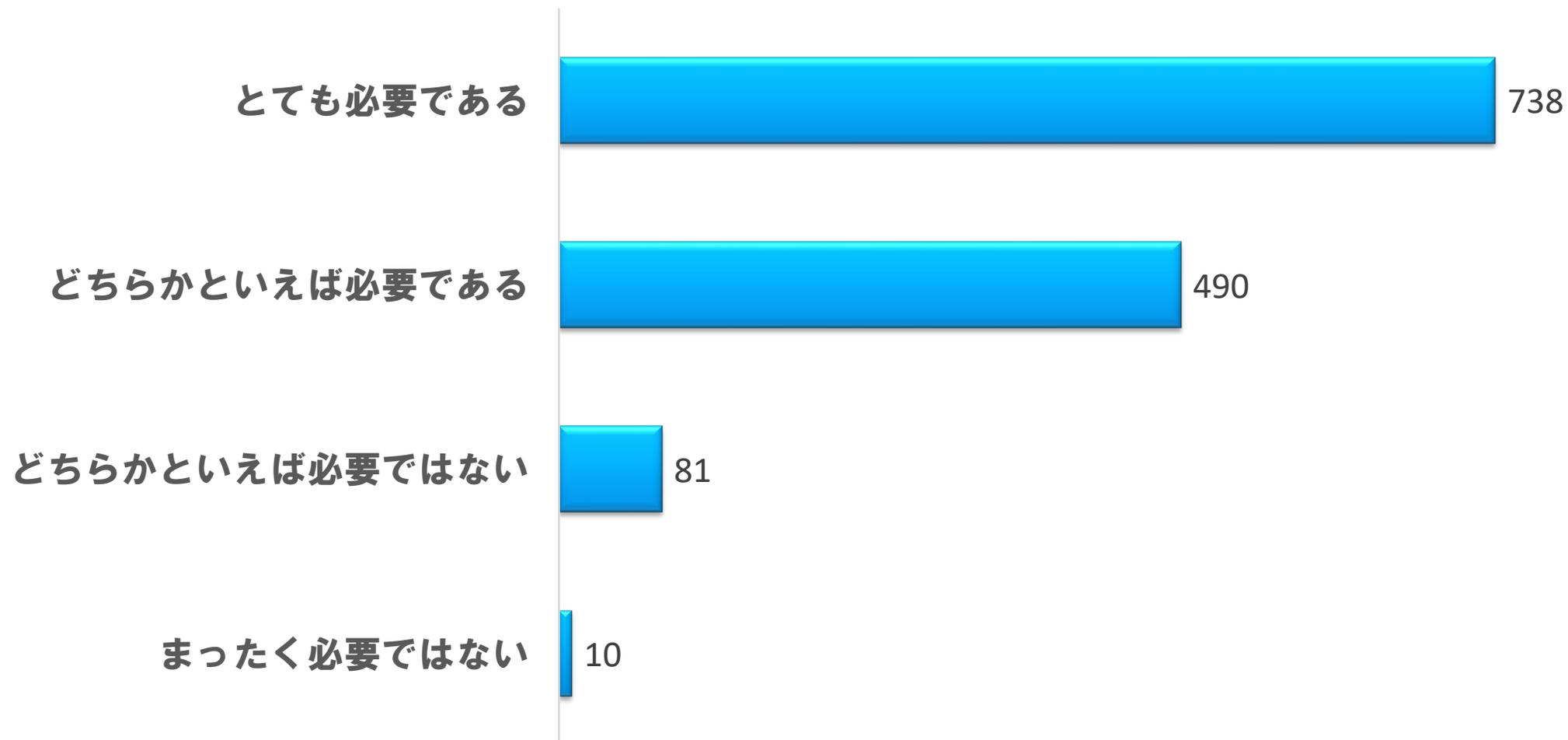
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

意見や立場の違いを理解する力（柔軟性）



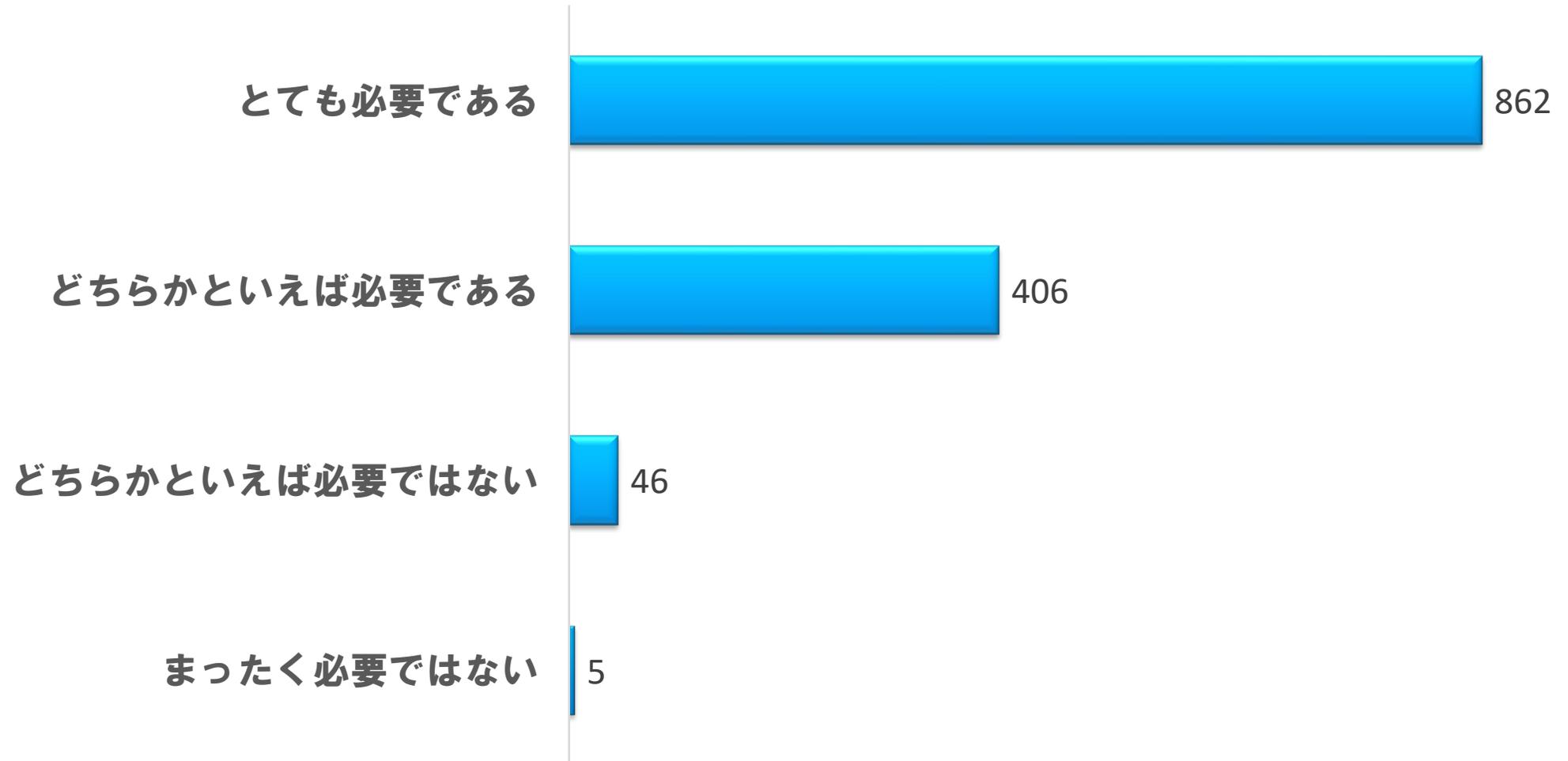
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）



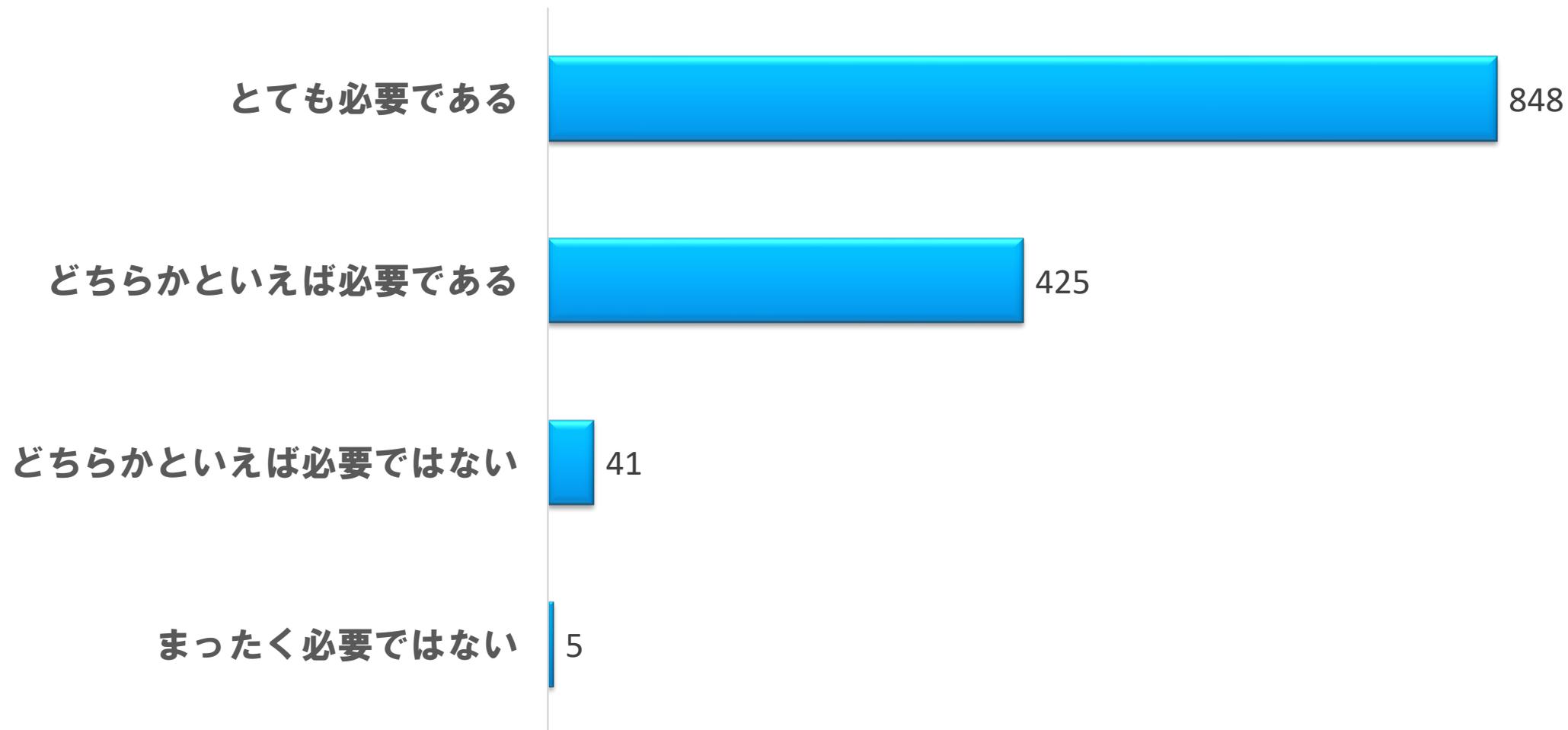
Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

### 物事に進んで取り組む力（主体性）

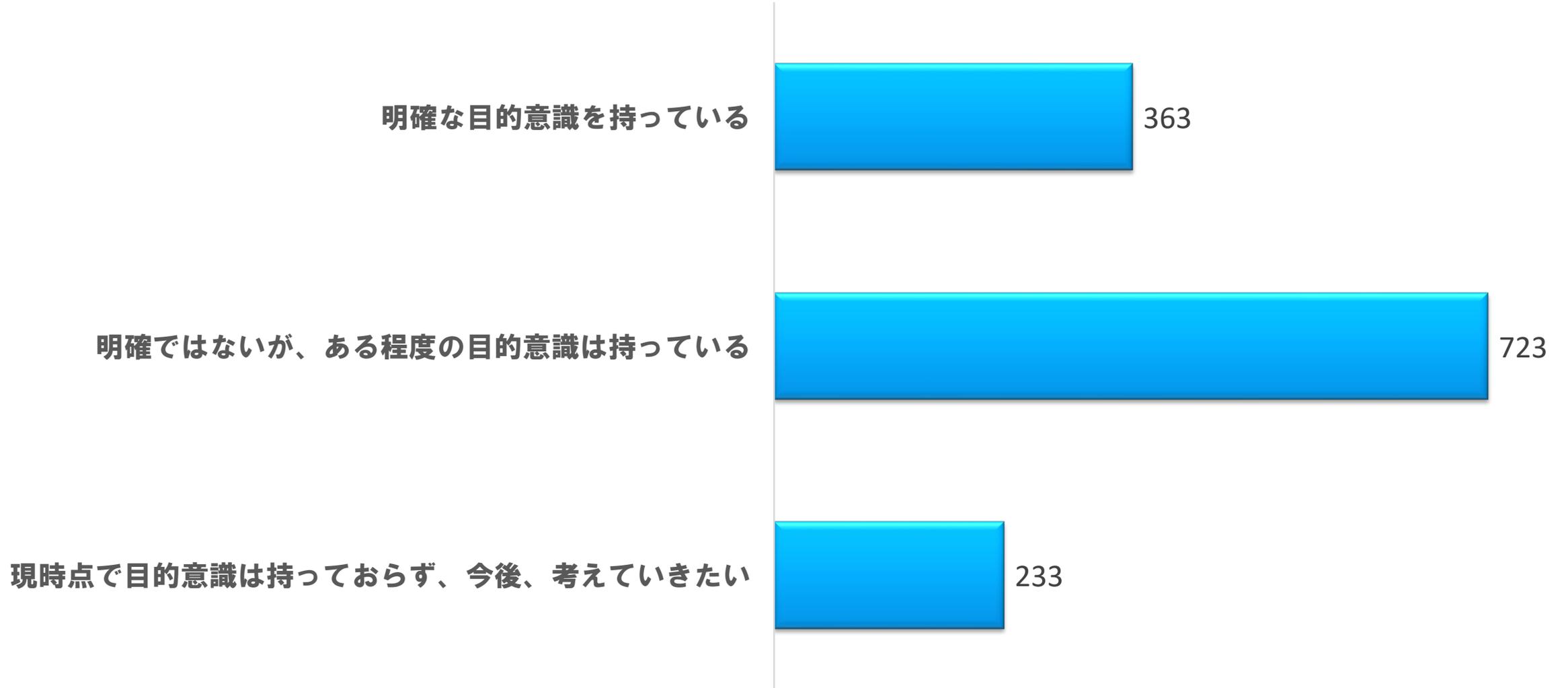


Q6 あなたが卒業するまでに、以下の能力を身につける必要性について、どのように考えますか。

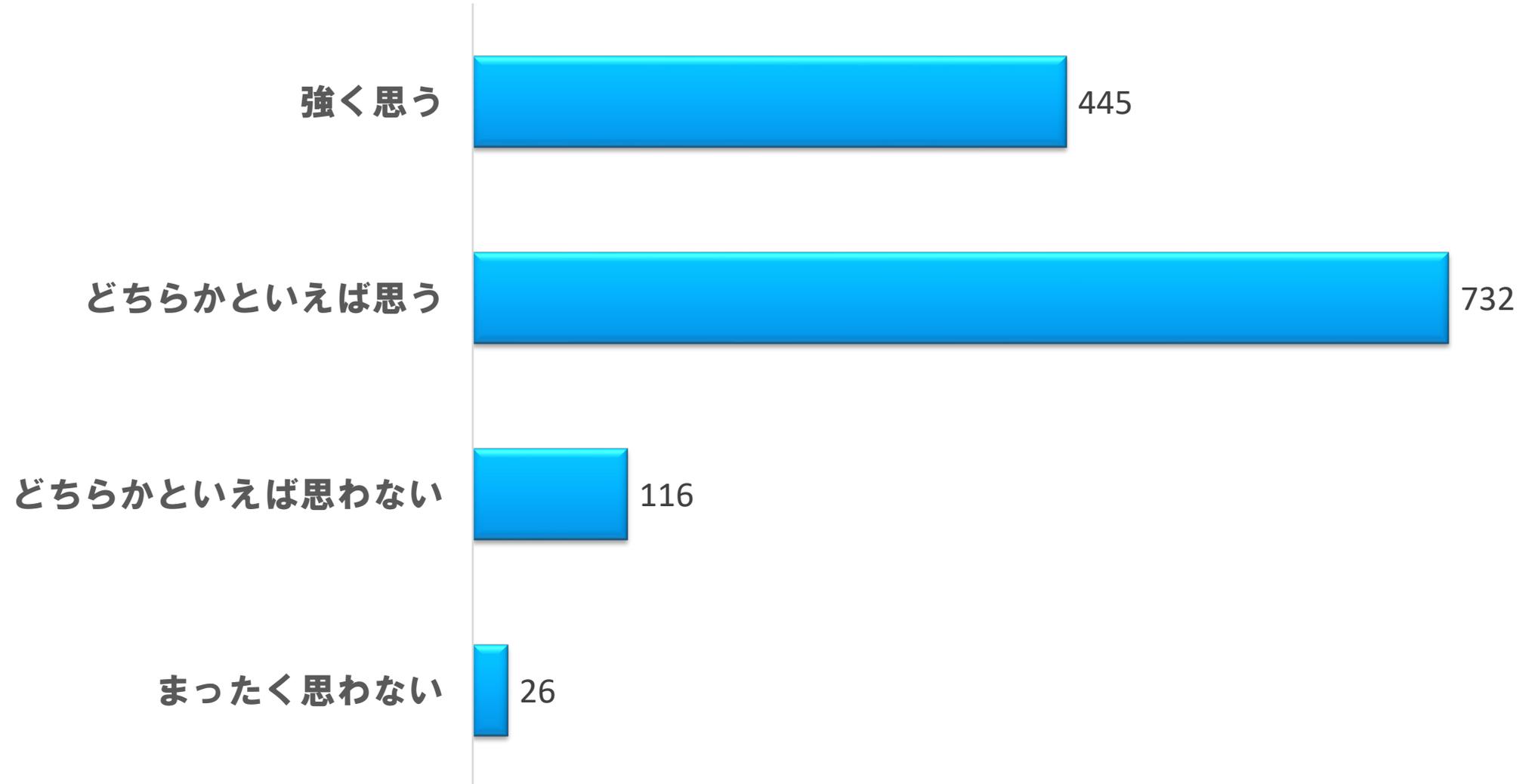
現状の課題を発見にする力（課題発見力）



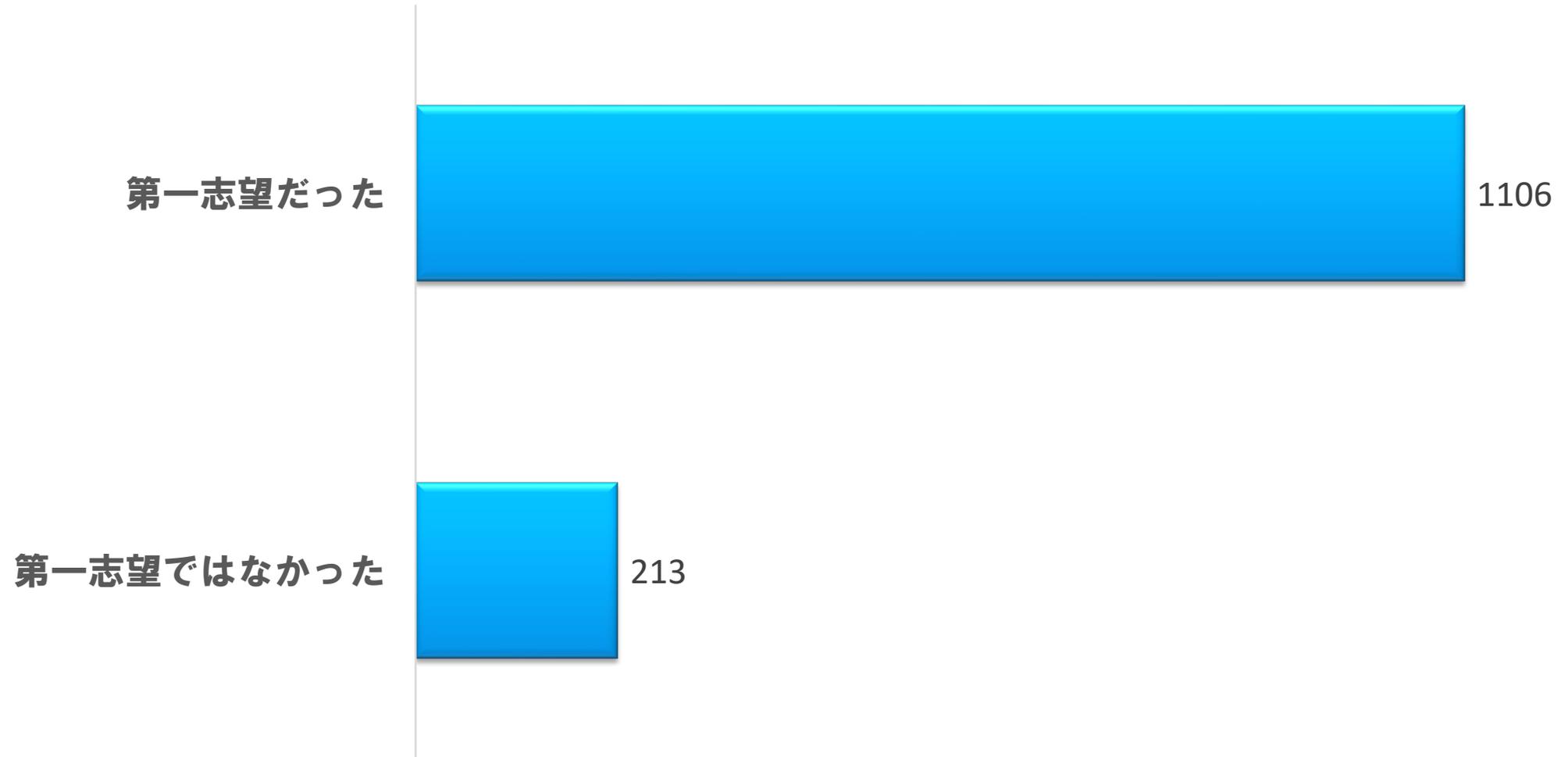
**Q7 現時点で、卒業後の進路についてどの程度考えていますか。**



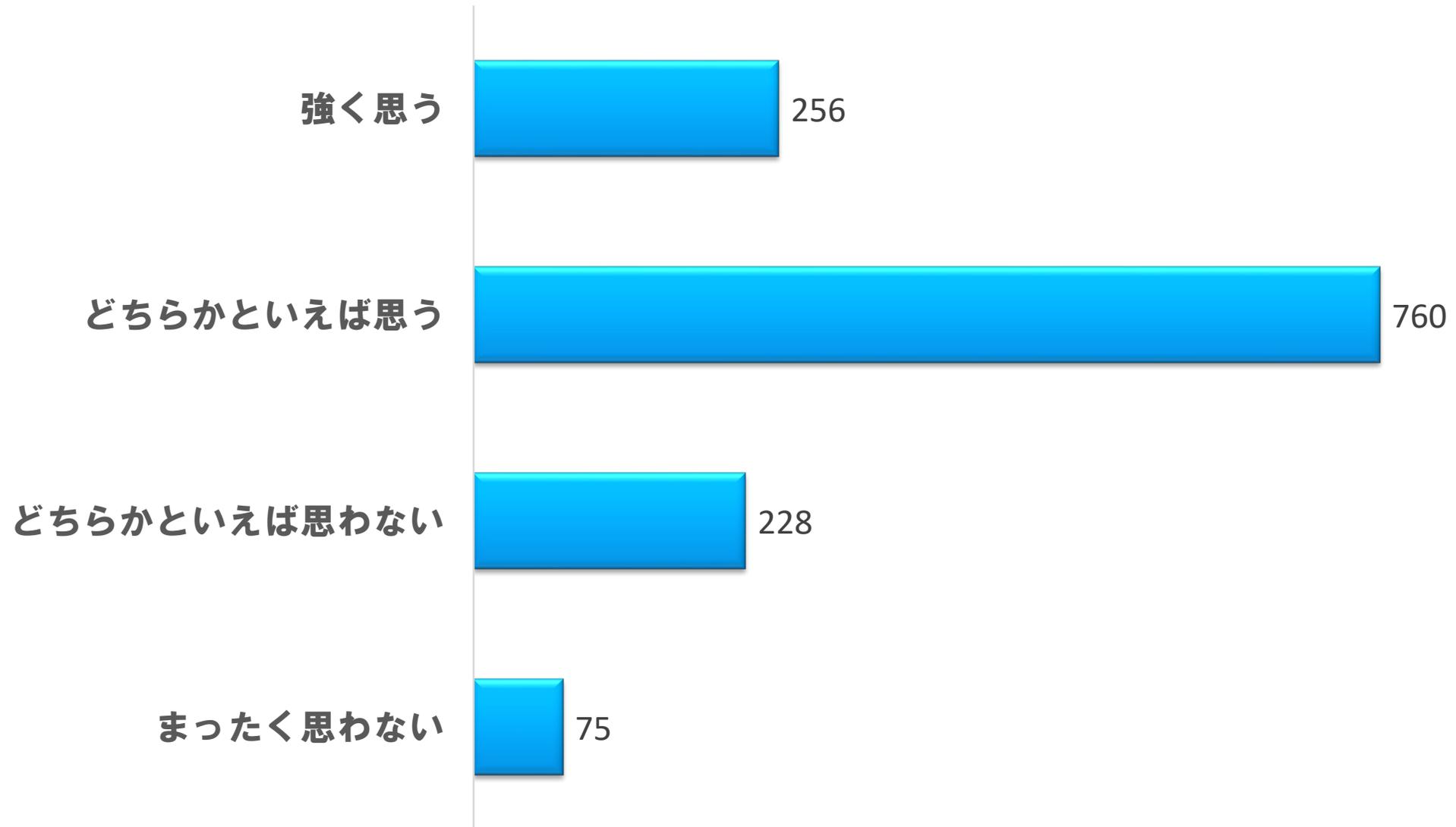
Q8 入学時と比べて、大学での授業や活動を通して自分自身が成長したと思いますか。



Q9 大学受験の際、本学は第一志望でしたか。

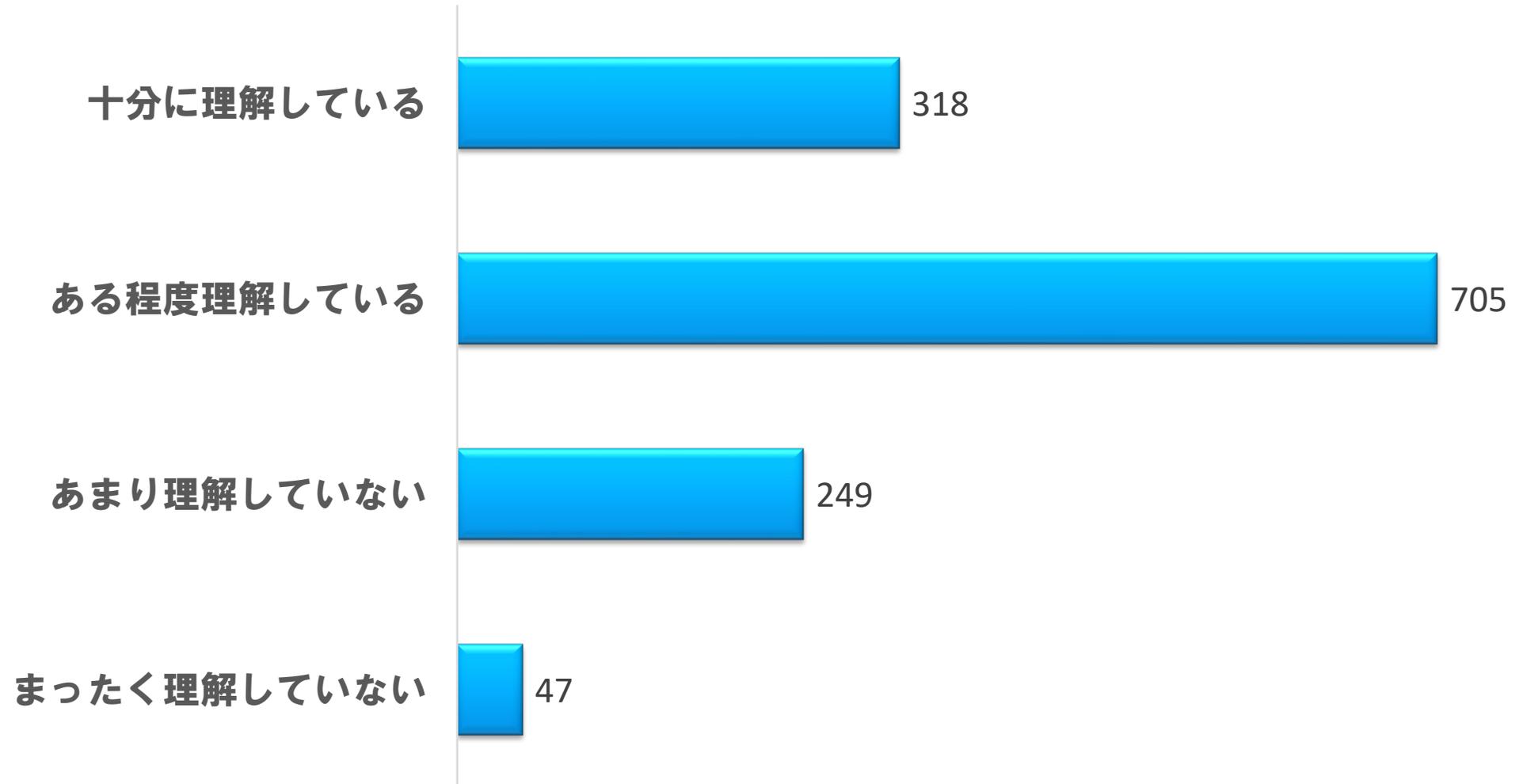


Q10 現時点で、本学への入学を後輩や知人等に勧めたいと思いますか。



**Q11 所属学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解していますか。**

※ ディプロマ・ポリシーとは、どのような力を身につけた者に対し、卒業を認定し、学位を授与するののかについて、本学が定めた方針のことです。



令和 6 年度  
尚美学園大学卒業生に関する  
就職先企業等へのアンケート  
集計結果と分析

令和 6 年 9 月  
尚美学園大学 大学戦略・IR 室

# 令和 6 年度尚美学園大学卒業生に関する就職先企業等へのアンケート 集計結果

## 1. アンケートの調査目的

本学卒業生が、教育活動や在学中の学びを通じて得た知識・能力が実社会で発揮できているか等について就職先企業からの客観的な意見を聴取するために実施している。

## 2. アンケート項目

○企業・団体ニーズへの対応状況（回答：4段階選択式）

○採用時の重視能力と本学卒業生に望む能力

項目：専門知識・能力/規律性/状況把握力/計画力/ストレスコントロール力/想像力/発信力/傾聴力/実行力/柔軟性/働きかけ力/主体性/課題発見力

（回答：自由（複数）選択方式）

○在学中に取得が望ましい資格（回答：自由（複数）選択方式）

## 3. 調査対象

令和 4 年 3 月～令和 6 年 3 月卒の卒業生が就職している企業等  
（アルバイト、公務員・教員を除く）

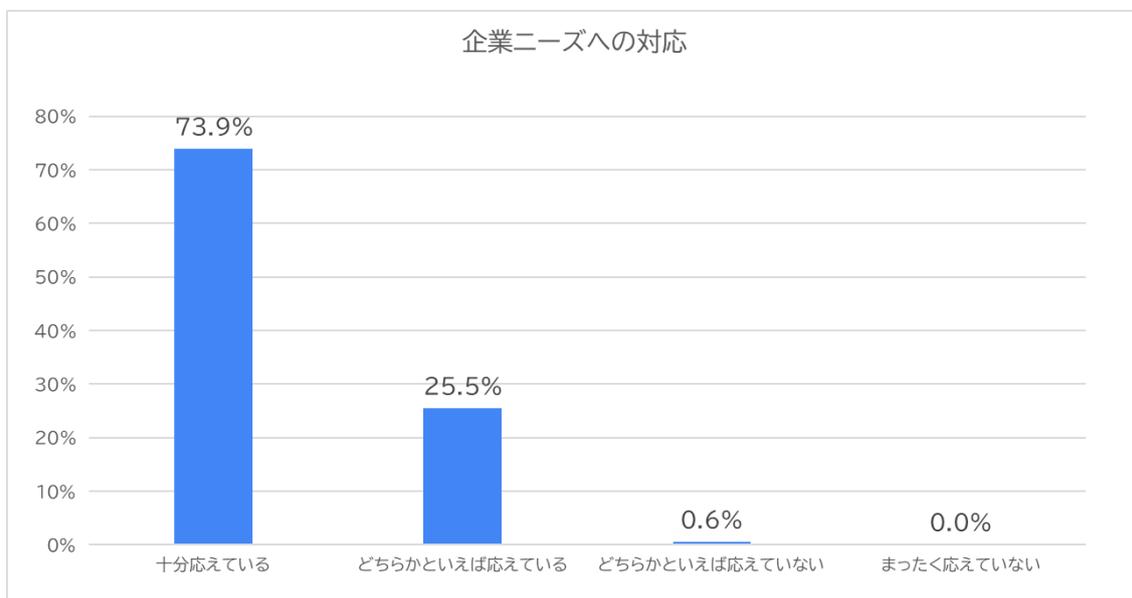
## 4. 実施方法・期間

方法：Googleフォームを用いた Web アンケート

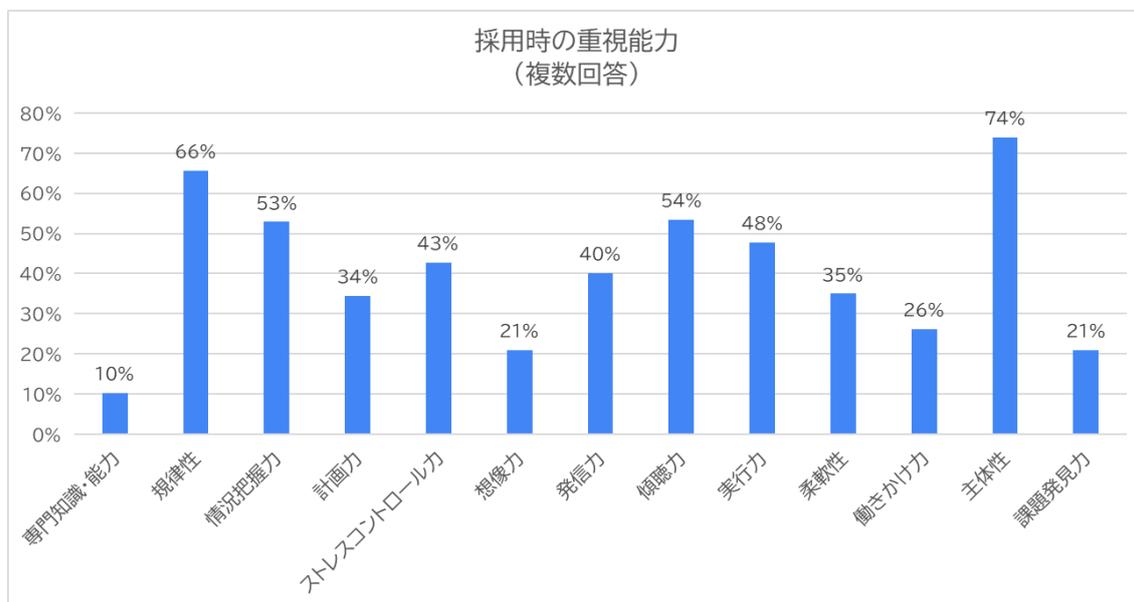
期間…令和 6 年 6 月 7 日～令和 6 年 7 月 31 日

## 5.集計結果

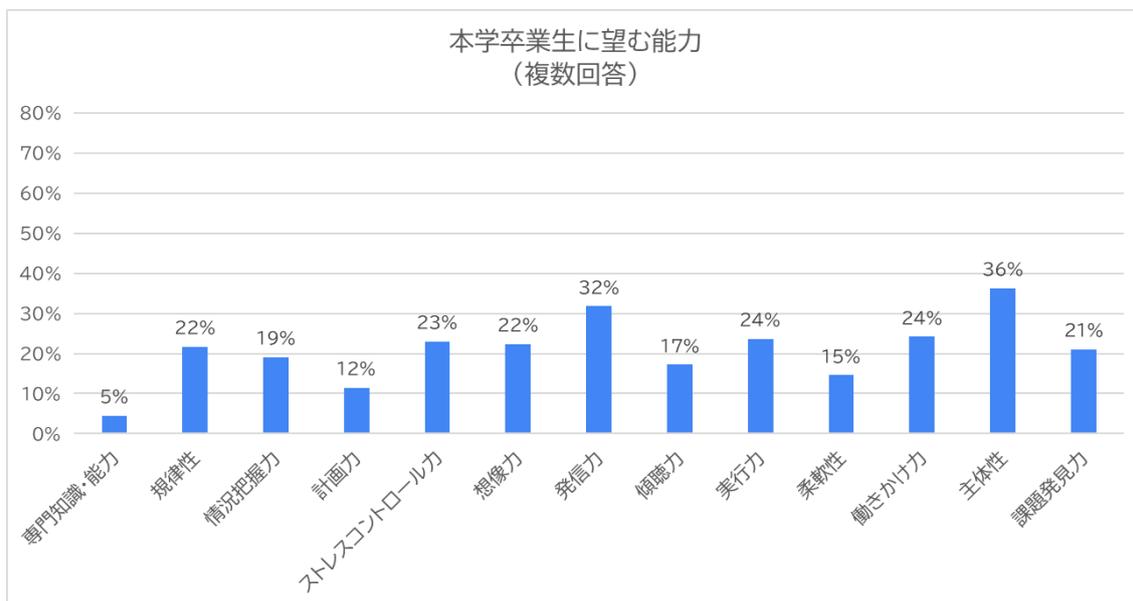
### 企業・団体ニーズへの対応状況



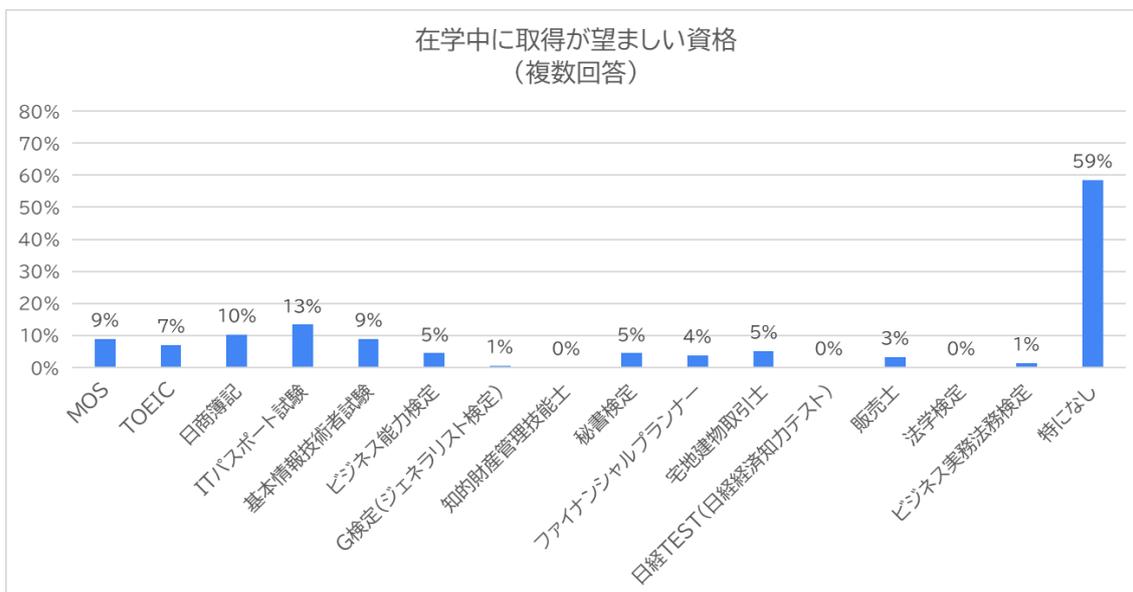
### 採用時の重視能力



## 本学卒業生に望む能力



## 在学中に取得が望ましい資格



回答率 33.4% (166件/497件)

\* 前年度：17.4% 16.2%増加

## 令和6年度尚美学園大学卒業生に関する就職先企業等へのアンケート 集計結果の分析

### ○企業・団体ニーズへの対応状況

「十分応えている」「どちらかといえば応えている」をあわせるとほぼ100%となっており、本学卒業生が就職した企業・団体のニーズに概ね応えていると考えられる。

### ○採用時の重視能力と本学卒業生に望む能力

採用時の重視能力としては「主体性」が74%ともっとも高く、次いで「規律性」が66%、「傾聴力」が54%となった。「専門知識・能力」については10%ともっとも低く、次いで「想像力」「課題発見力」がどちらも21%となった。

本学卒業生に望む能力としては主体性が36%ともっとも高く、次いで「発信力」が32%、「実行力」が24%となった。「専門知識・能力」については5%ともっとも低く、次いで「計画力」12%、「柔軟性」15%となった。

### ○在学中に取得が望ましい資格

もっとも高かったのは「特になし」で59%となった。次いでITパスポート試験が13%、日商簿記が10%となった。

以上

令和6年度  
卒業生に関するアンケート調査  
(卒業生アンケート)

令和6年9月  
尚美学園大学 大学戦略・IR室

## アンケート実施概要

### 1.調査目的

本学での学びを経て身につけた知識・能力が、実社会においてどのように役立っているのか把握し、本学の教育改善や質向上につなげることを目的とする。

### 2.対象

令和元年度～令和3年度における卒業生・修了生

### 3.実施方法

Webによる（グーグルフォーム使用）

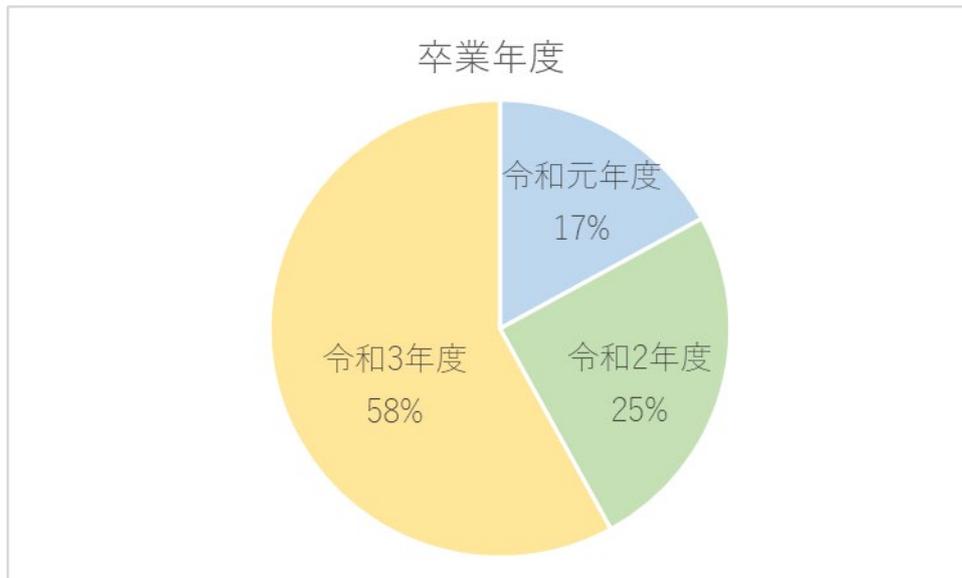
### 4.実施期間

令和6年6月1日～令和6年7月31日

### 5.回答者数

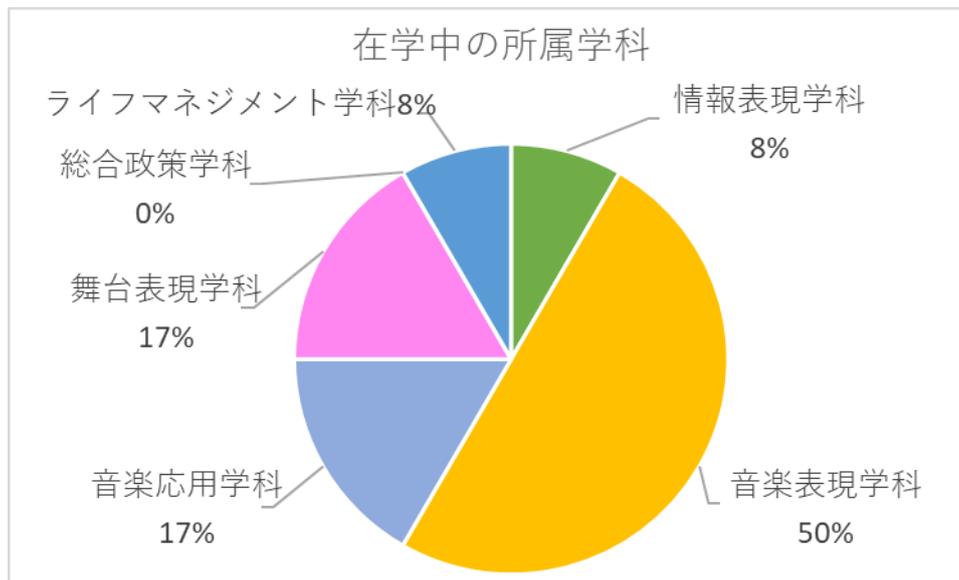
12名

【設問①】 卒業年度



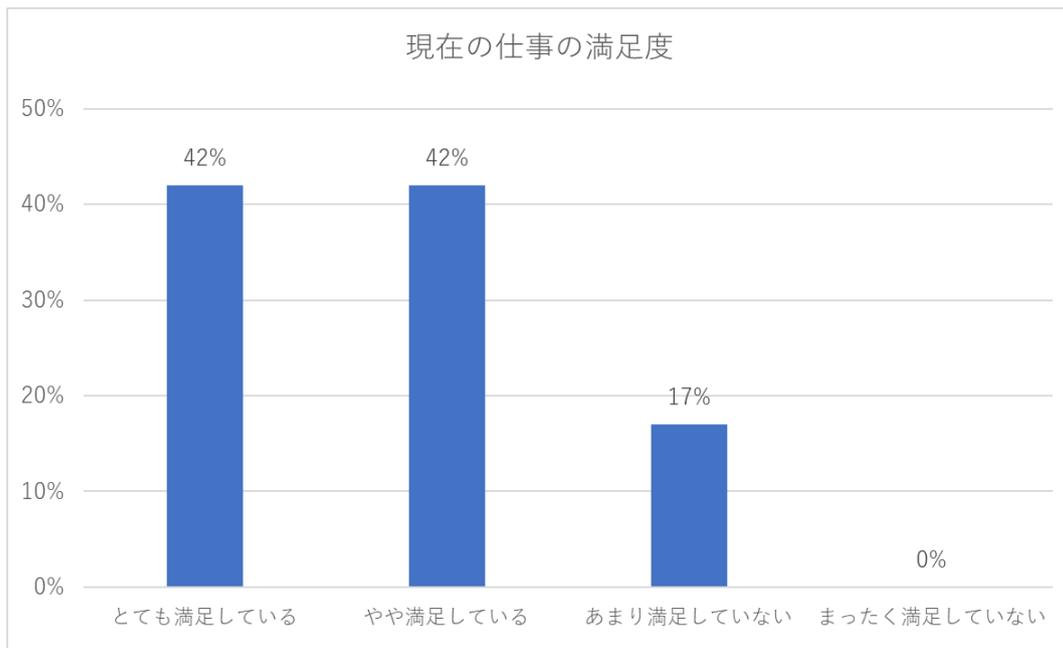
令和3年度卒業生からの回答がもっとも多く58%となりました。

【設問②】 在学中の所属学科



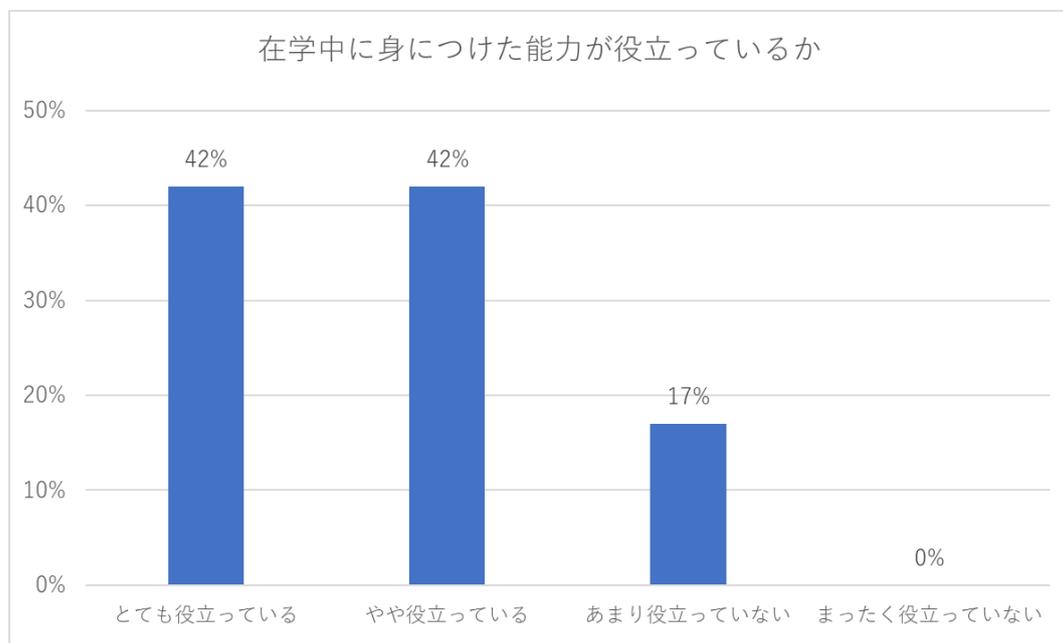
総合政策学科からの回答はありませんでした。

【設問③】 現在の仕事にどの程度満足していますか



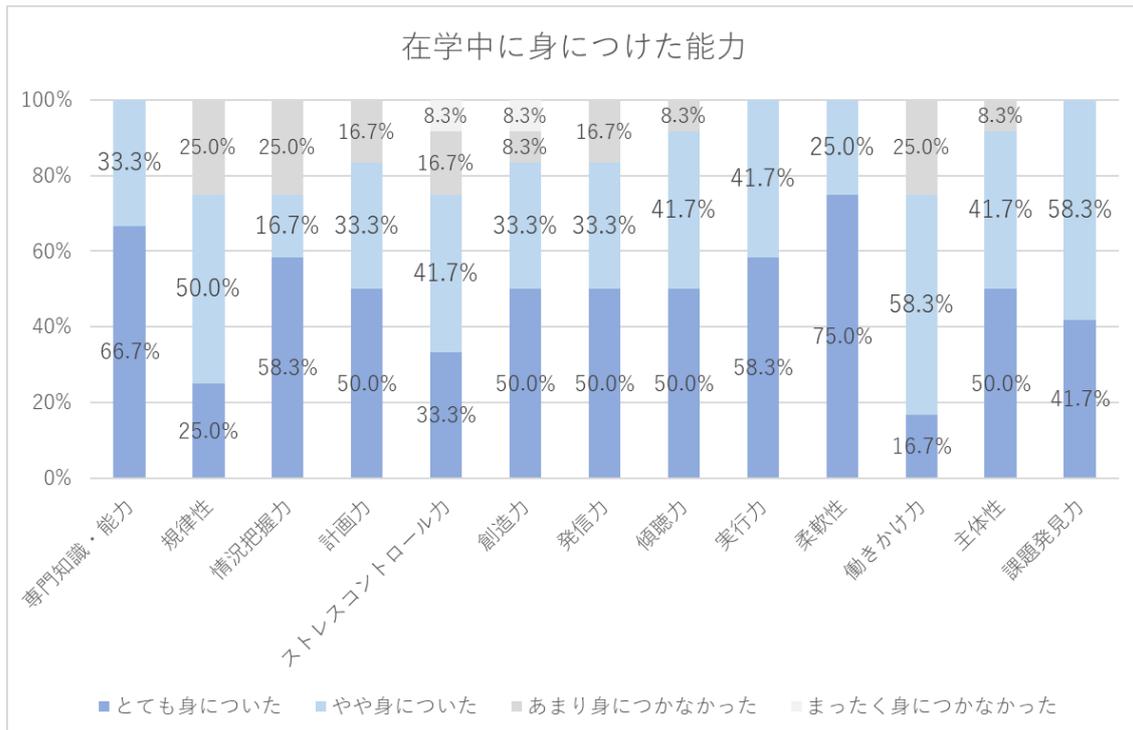
8割を超える卒業生が現在の仕事に「とても満足している」「やや満足している」と回答しています。

【設問④】 在学中に身につけた（伸ばすことができた）能力は現在の仕事において役立っていますか



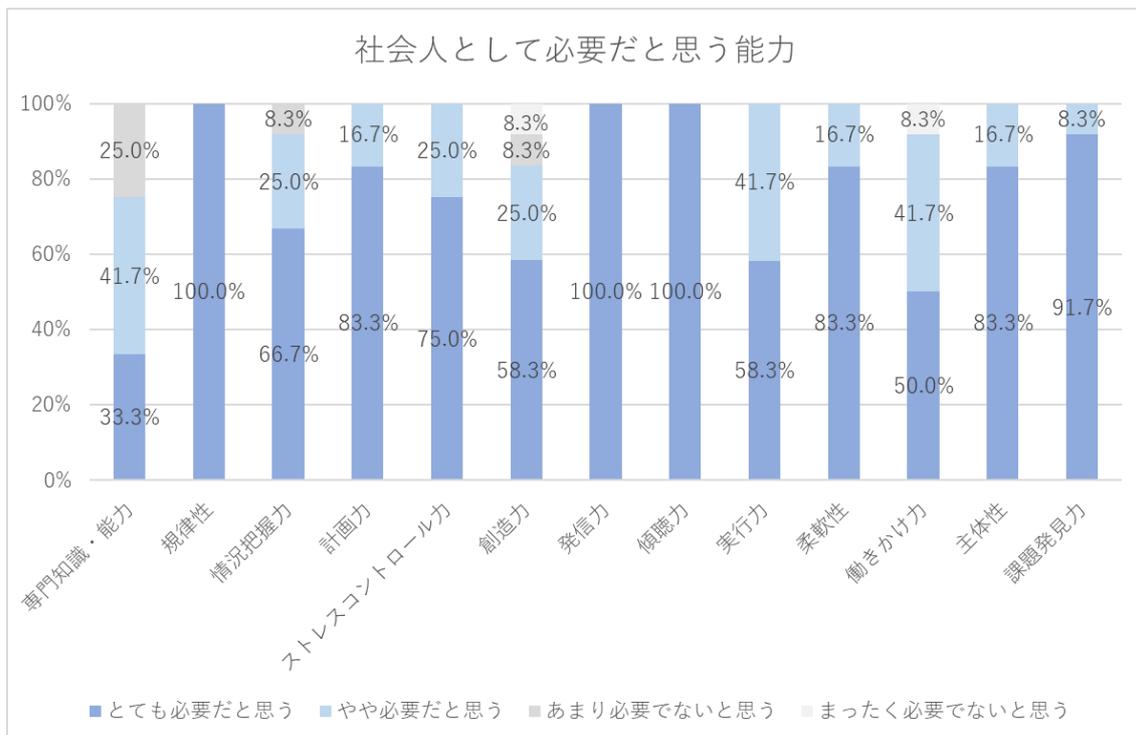
8割を超える卒業生が在学中に身につけた能力が現在の仕事に「とても役立っている」「やや役立っている」と回答しています。

【設問⑤】 次の能力について、在学中にどの程度、身につけることができた（伸ばすことができた）と思いますか



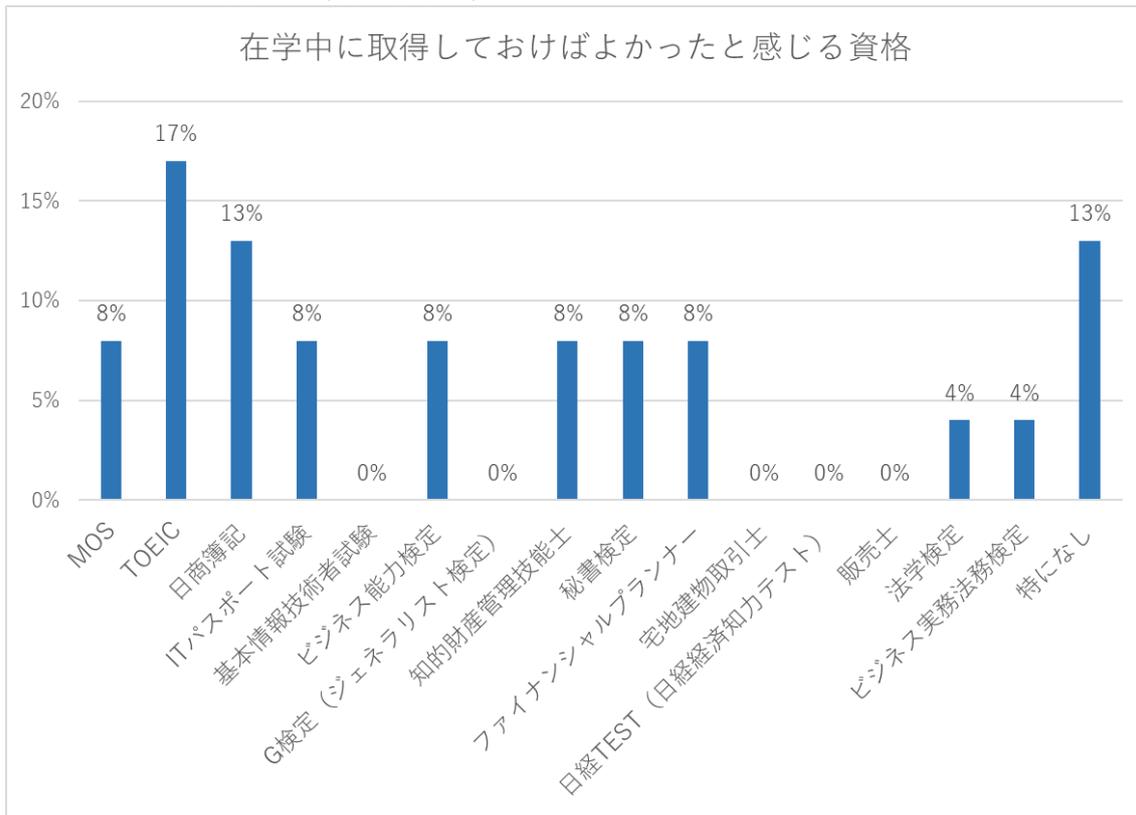
「専門知識・能力」「実行力」「柔軟性」「課題発見力」ではすべての卒業生が「とても身についた」「やや身についた」と回答しています。

【設問⑥】 社会人になったあなたにとって、次の能力は必要だと思いますか



「規律性」「発信力」「傾聴力」ではすべての卒業生が「とても必要だと思う」と回答しています。

【設問⑦】 在学中に取得（勉強）しておけばよかったと感じる資格等があれば、選んでください（複数回答可）



17%の卒業生がTOEICと回答。次いで「日商簿記」「特になし」が13%となりました。